

# 第114期寮生大会資料

2022年12月17日

前回ブロック会議からの変更点・議事録への返答.....	2
代議員会からの変更点.....	15
第114期総括案.....	17
常任委員会.....	17
広報局 .....	23
対処分戦略推進局 .....	25
国際交流局 .....	28
地域連帯局 .....	30
増築建設局 .....	32
備蓄局 .....	33
＜専門部＞.....	34
文化部.....	34
炊事部.....	38
庶務部.....	41
厚生部.....	44
人権擁護部.....	46
情報部.....	50
＜特別委員会＞.....	51
入退寮選考委員会.....	51
選挙管理委員会.....	54
監察委員会.....	56
資料委員会.....	57
居住理由判定委員会.....	58
熊野寮祭実行委員会総括案.....	58
寮祭企画総括.....	83
第115期方針案.....	170
常任委員会.....	170
広報局 .....	178
対処分戦略推進局 .....	183
国際交流局 .....	185
地域連帯局 .....	186
増築建設局 .....	188
備蓄局 .....	190
寮外連帯局 .....	191
＜専門部＞.....	194
文化部.....	194
炊事部.....	198
庶務部.....	200
厚生部.....	202
人権擁護部.....	204
情報部.....	211
＜特別委員会＞.....	212

入退寮選考委員会.....	212
選挙管理委員会.....	214
監察委員会.....	216
資料委員会.....	217
居住理由判定委員会.....	219
自治会会計.....	219
第114期自治会会計決算.....	219
第115期自治会会計予算.....	222
特別決議案.....	224
自治会憲章の改正（寮生大会9、常任委員会19、特別委員会26）.....	224
自治会憲章の改正（「居住理由判定委員会」の追加）.....	226
自治会憲章の改正（寮生の権利及び義務4、代議員会38・40、ブロック会議43、仕事1）	2
26	

## 前回ブロック会議からの変更点・議事録への返答

### 第114期総括案

#### 常任委員会

（ブロック会議議事録への返答）

##### A2の議事録

A205塩崎：決算の「寮生大会差し入れ」の項について、決算が予算を上回っているが、特に総括がなされていない。気付かなくてごめんなさい。

→担当者が誤って買いすぎました。申し訳ありません。

##### A3の議事録

A301向後：分子生物学会の広告費は広報局の予算ではないと記憶している。また、この件はカンパをつのり、その余剰分は自治会会計に返還すると採決にあった記憶にあるが、決算にその痕跡が一切見られない。そういった条件付きでブロック会議で承認を通したのにもかかわらず一切そういった様子が見られないのはいかなものか

##### B1, 2の議事録

B105片桐：学会広告について、採決議案では項目が「追加予算110,000円を請求する。但し、提起者らは積極的にカンパを集め、経費を差し引いた金額を寮自治会に返金する」となっているが、この請求先はSCなのか。ちなみに広報局の予算では「断じて」ない。広報局と広報局ゴリゴリ広報部隊なる組織は別である（一応動向を見るために私と114期局長がLINEグルに入っているだけである）

A3向後も指摘していたが、カンパはどうなった？積極的に集めるのであればと賛成したのに、残念である。

→決算表を修正しました。

##### C3, 4の議事録

C305筒井:ここ何回かのBL会議の日程が詰め詰めで提起者側に負担を強いている。寮祭前に1回、寮祭後に2回みたいな感じでBL会議を分散できないか(11/20のBL会議も前倒しするイメージ)

→今期の寮祭前は寮祭前でさまざまな企画会議などがあり難しかったですが、大会前の会議日程については来期への申し送り事項とします。

(ブロック会議からの変更点)

- ・「※学籍在選について」を追記
- ・決算表を変更

## 広報局

前回からの変更点なし

## 対処分戦略推進局

B407竹内:「ビラなど広報費」、予算より支出が多いが、なぜそうなったのかを書くべき。  
→決算表の備考欄に追記しました。集会1回分でも1万円には収まらないことがわかったので、第115期予算案では広報費を増額しています。

C305筒井:返答に対し、執筆者の考えにはおおむね賛同する。しかし、経済安保の中でも、例えば、サプライチェーンの自国回帰やエネルギー安保、食料安保の推進は、安全保障環境の変化をうけたものではあると思うが、それ自体が戦争や管理強化を推進するものとは思えないので、やはり文面に違和感はある。今後、声明文とかにも出しうる話だと思うのでロジックは固めておいた方がいい。

「湊総長体制下の京大は」以降の一文の後に、「経済安保の名のもとに軍事研究が行われる懸念や、競争力強化の意識性が強まり学生の管理強化や福祉削減が行われる懸念がある。」を追加した方が分かりやすく、自分もそれなら一致できる。

→挿入しました。ご確認ください。

C305筒井:代議員会について、マンパワーが足りないなら暇なのでやりたいかもしれない。  
→助かります!目下、一番不足しているのは学生を代議員に誘う人なので、ぜひ周囲の学生に声をかけるところから一緒に取り組んでいけたらと思います。

## 国際交流局

最後のブロック会議への意見・質問

### A2の議事録

A203藤吉:返答ありがとうございます。苦情電話の対応お疲れ様です。少なくとも苦情1件(私)がいたのを認識していただき今後活かしてもらえると嬉しいです。

→承知しました。ご指摘ありがとうございます。観客が食堂裏に出てしまうことについては、さらに対策を進めるために準備しているところです。よろしくお願いします。

### B4の議事録

B402福井：「10月14日のCLUB KUMANOについて、総括議案を出して欲しい。→作成します。」とあるが、今回のブロック会議に提出されていない。今期中に出さなくても良いのか。もし総括が出された場合には、以下のコメントを残します。

- ・いつもそうなのか分からないが、振動するタイプの音楽が流れていて朝5時頃もB棟4階でうるさかった。
- ・0時頃にB棟1階の西階段前で談笑している外国人が3名いたので、寝てる人もいるのでと言って注意して外に出させた。
- ・0時頃、食堂西側の屋外トイレ付近に20名程度の人間がたむろしていたので、近所の人はいらさうだろうなと思った。また、玄関前も、喫煙所を中心にかなり多くの人がいた。出来るだけ人間を地上に出さないように工夫が出来ないものか。
- ・1時～4時頃、食北にいたが、食堂に入ってくる人が結構いた。生活空間との境界をどこに設定するのか、またその周知が徹底されているか。（物理的に封鎖したり、英語のボテッカーを貼るなどの対策が出来ているか）
- ・B地下への階段は封鎖していることになっていたが、机が1台横たわっているだけで、またげば通れてしまうので、もう1台斜めに机を倒し、さらに椅子を置いて、英語で立ち入り禁止の旨を書いたボテッカーを作成しておきました。

ブロック会議で出しておかないと代議員会で扱ってもらえないので、コメントしています。→B棟4階にも振動が届いてしまう場合があることは分かりませんでした。低音回り込みの現象が思ったより遠くで起きているようなので、次回までに調査をして対策します。申し訳ありません。

→10月のCLUB KUMANOでは多くの人が地上に出ってしまったという認識があり、国際交流局でも問題視して対策を準備しています。具体的には鉄線を設置して動線を制限するなどです。喫煙所については、外部生というよりも寮生とその友人の日本人学生が集まっていることが多く、対策の方法についてはまだ明案を思いついていません。

→極力寮の建物内には入らないように口頭やビラを配るなどして周知していますが、寮生の留学生の友人グループなどもおり、明確な切り分けが難しい場合があります。また、食堂までなら公共スペースの範囲と考えており、現在では特に廊下や居室の方に行かないよう強調して注意しています。

→B地下階段の机での封鎖は第一段階の封鎖であり、その先に第二段階の封鎖があります。具体的には鉄製の巨大な棚、鉄の扉、ソファで物理的に通れないように封鎖しています。それでも通ろうとする寮外生はいません。状況を理解しない（おそらく酔っ払っている）寮生がごくたまに、それらの封鎖をどうにか退けて通ろうとすることはあります。

→以上の議論は今期の国際交流局の全体総括に記載するかたちで対応します。よろしく願います。

#### 最後のブロック会議からの変更点

以下の内容を追記、修正しました。

これまで、企画では苦情0件の達成を続けていたが、10月のCLUB KUMANOでは近隣からの苦情が発生してしまった。出入り口付近に鉄線や紐、ビニールシートを設置するなどして人間を誘導し、騒音を防止できるように来期に対策を進めたい。

↓

これまで、企画では苦情0件の達成を続けていたが、10月のCLUB KUMANOでは近隣からの苦情が発生してしまった。B4に低音が回り込んで音が漏れ聞こえていること、食堂裏や喫煙所に人が滞留してしまうことが問題として指摘されている。防音器具の設置、出入り口付近に鉄

線や紐、ビニールシートを設置するなどして人間を誘導し、騒音を防止できるように来期に対策を進めたい。また、企画中の食堂スペースの扱いなどについても議論をする必要がある。

## 地域連帯局

前回からの変更点なし

## 増築建設局

最後のブロック会議からの変更点  
→なし

第114期増築建設局総括案

最後のブロック会議への意見質問

A2の議事録

A203藤吉：修正されてません、、。予算段階での内訳もお願いします。

→備考欄に記載しました。

A3の議事録

A301向後：結果的に隔離キャパとして非常にコンテナが役立ったと思う。ありがとうございました。

→役に立って良かったです。ありがとうございます。

## 備蓄局

<返答>

B402福井：実際に114期中に事務室で一瞬販売したが、虫が湧いたのでやめた。総括に入れるべきだと思う。

→追記しました。

<変更点>

上記の意見に対する返答の内容を追記しました。

## <専門部>

## 文化部

【ブロック会議議事録の返答】

B405水林：今期ピザ窯コンパあった？

B406桑原：文化部企画として寮祭期間中に行った。

B105藤津：予算はどこから出ているの？

B406桑原：文化部から出ている。寮祭実からはお金もらっていない。

→すみません、寮祭当日の周知が足りていませんでした。

C401安波：「音楽室セクションについて」について。議事録への変更とその詳細を書き忘れました。

MUC総括の前の議事録で予算表などに関わる意見については訂正してあります。またC403小林さんの積立金に関する意見に関しては「3. 決算」に積立金について追記してあります。

→り

B106小出：ピザ窯コンパ総括への意見をつけた。それは文化部全体のスケジュールにも関わり得るものなので、総括や方針にも反映させてほしい。

↓

ピザ窯総括より

B106小出：ライブ同日開催の反省点について、セーフティネットがピザ窯である必要はない。セーフティネットはライブ主催側が用意すべきもの（ライブ主催者の落ち度）で、同日開催の正当化にはならない。MUCと連携するのはいいが、もともとピザ窯コンパは春秋新歓期に行われていた。コロナでつぶれたのを寮祭で復活させたのが今。個人的には寮祭でなくていいと思っている。大きなイベントどうして競合するだけ。

B105片桐：春新歓か寮祭かの2択ではなく、春秋新歓で年2回使うのがいいのでは。窯を活用しないともったいない。

B100矢島：水上？ライブでピザを出してくれたのはありがたかった。

B106小出：寮祭でやると寮外生が来すぎてしまう懸念がある（片桐：今回はいいバランスだったと思う）。寮祭以外の時期にやるメリットとして、寮生中心でできる。

→明るい場所で行うことができる、他の企画と被らない、そしてなんと言っても新入寮生とのコミュニケーションがとれるという理由で寮祭期間中より春新歓の時期にピザ窯コンパを行う方がより楽しめると思う。ピザ窯を年に2回活用したいのであれば、春新歓と水上ライブ(秋新歓ライブ?)で行うのが良いかもしれない。

C301長谷川：ライブにいたけど、ピザ食いたかった。中に回してほしかった。

→一応ピザは中に回しましたが、ピザの焼ける速度が遅いこと(今回は今までのピザ窯コンパの中でも速い方だった)と、中に回したピザはピザを作ってくれている人に食べてもらったためライブの出演者まで回らなかった。ピザ窯コンパがライブ出演者の為のピザを焼いている訳では無いことを考慮するとmucでピザの運搬担当を出すのが良かったと思う。

【前回からの変更点】

【恒例企画を振り返って】にピザ窯コンパについて追加しました。

## 炊事部

前回からの変更点なし

## 庶務部

【前回からの変更】

新歓費が4,580円から14,310円に変更。それに伴い繰り越し金が47,535円から37,805円に変更。

決算表の題を第114期庶務部決算表に訂正。

## 厚生部

【前回からの変更点】

5. 決算表を追加。

それに伴って新歓費が予算オーバーし、雑費がマイナス収支となった経緯について4で述べました。

## 人権擁護部

変更点：各議案の参照についての文言を変更し、女子寮生ハラスメント相談窓口総括を本文中に組み込んだ

## 情報部

前回からの変更点なし

## <特別委員会>

### 入退寮選考委員会

前回の議事録への返答

B406桑原：本議案と直接は関係ないが、仮入寮している人は維持費を払っていない。仕事もしなくても良いというのは少しおかしくないか。

B404四十坊：入選委員長レベルでは仮入寮となる人には事情聴取をしているはずで、維持費を払わなくても良いという相応の理由があってそう判断されたのではないかと推測している。熊野寮が京大・地域の最後のセーフティネットになっていることを考えると、福利厚生施設としての役割を熊野寮が果たす上で、維持費を払わずという対応になっていることは、意義がある部分もある。

B406桑原：滞納にして払わせるべきでは。

B404四十坊：ルール化されておらず「仮入寮」という制度はない。入寮していない人に金を払わせることは難しい。グレーゾーンになっていて、柔軟な運用ができるようになっている反面、今回のように維持費を払っていない人がいることに対して疑問に思う人がいることもまた事実。議論することは大事だし、入選会議で積極的に提起したら良いのではないか。

→現在、入選でない時期に入寮を希望する人から連絡が来るたびに、事情を聞いた上でその人を受け入れるかどうか、受け入れる場合どのような形態で受け入れるべきかを入選内で議論しています。この議論のたびに、その後の入選を受ける人や在寮生との公平性、途中入寮者の自治への獲得などが問題となっており、未だこれらの問題を解決するには至っていません。途中入寮希望者への対応にある程度一般的な方針を定めることは、今後入選で議論すべき重要な課題です。ぜひ入選会議に来て積極的に意見を出していただきたいです。

前回からの変更点：決算表を修正しました



## 選挙管理委員会

変更点

①

3-3-3 開票

選挙結果は開票後すぐボテッカーと周知さんで全寮に周知した。

↓

3-3-3 開票

選挙結果は開票後すぐボテッカーで全寮に周知した。

ボテッカーと周知さんで→ボテッカーで  
に変更

②4-2 今期寮生大会

また、今後の寮生大会の日程を土曜日昼開催にする特別決議案を出し、今期寮生大会で採決する予定である。

↓

4-2 今期寮生大会

また、来期以降で、今後の寮生大会の日程を土曜日昼開催にする特別決議案を出し、次回以降の寮生大会で採決する予定である。

上記全文を変更

## 監察委員会

前回からの変更点

会計監査が終了したため、「1. 通常業務」会計監査の項の「現在進行中」の文言を削除

## 資料委員会

前回からの変更点なし

## 居住理由判定委員会

前回からの変更点なし

## 熊野寮祭実行委員会総括案

0. 1. 前回の議事録より

A203藤吉：4. 広告責について。広告を出してくれている店の人に「寮祭が終わったがパンフをもらっていない」と言われた。⑨で店に届ける際、ちゃんと届けたかどうか確認してリマインドする必要があると思う。

→了解です。リマインドは行いましたが正確な確認はブロック代表に一任してしまいました。具体的にどこの店に届いてないという連絡がありましたか？

A206延山：グッズに関して、収入と支出がほぼ同じになっているが、これは作成したグッズを利益を出さずにほとんど売り切ったという理解で良いのか。  
→概ねその通りです。利益は赤字になる可能性を下げる程度に求めました。

B304 古勝 グッズ責 シール の売り上げを直してほしい。

むちゃくちゃになってしまった の詳細もできれば教えてほしい。  
→説明が足りなかった。無人販売でシール3種はそれぞれ、28、22、15個無くなった。お金は4300円回収できた。販売数と売上に一貫性が無く、むちゃくちゃと表現した。

B407竹内：金庫を2つにすることで会計を2人にするのは名案だと思う。会計が1人しかいないのは、お金のみならずレシートなどの金庫の中身全般を把握している人間が必要だからであり、金庫自体を増やせばその問題を解決できる。また、会計間の連携については、スプレッドシートなどの活用で実現可能だろう。金庫を導入するのに数千円の初期費用は掛かるだろうが、精算機会が増える、業務負担軽減によりミスの減少につながるなど、十分な便益を得られるのではないだろうか。

→ありがとうございます。引継ぎに含め、来年度の寮祭実に提案してみようと思います。

B402福井：寮祭の高校周知すごいですね。

→ありがとうございます。

#### 前回からの変更点

##### 企画責

タイテ作成に関連して、企画者オープンチャットに上げられたタイテが模造紙に全企画を書いたものを写真に撮ったものであり、画質の関係と文字の小ささのため大変見にくかった。日付もバラバラであったため、企画を多く出していた自分としては、確認が難しかった。  
→この件に関しては、企画責がタイテ作成後に発狂してしまうほど疲弊してしまったためスプレッドシート等に入力することができませんでした。申し訳ありませんでした。総括に書き加えました。

#### 13. コロナ対策責

エクストリーム帰寮では、参加受付に対するメールにQRコードのリンクを載せた上、受付時に全ての参加者に対してQRの読み込みを行ってフォームを回答したかを確認する作業を行いました。

→ご協力ありがとうございます。

フォームの回答を徹底していただき非常にありがたいです。次回以降その方式も検討するよう引き継ぎます。

#### 0.2. 前回からの変更点

→「3. 企画責」に追記(上記の通り)

## 第115期方針案

### 常任委員会

#### B3の議事録

B304 古勝 前回のブロック会議から新たに予算案をつけたなら、その旨を明記すべき  
→予算案について明記しました。

#### B4の議事録

B402福井：厨房問題の加筆ありがとうございます。基本的には良い方針案だと思います。全学自治会建設について。理念や全学自治会を建設すべきであるという点には同意。書かれていることに対してどうという意見ではないが、理念の部分と実際の全学自治会の間を埋めるものが具体的に提示されると、全学自治会というものがよりイメージしやすくなり、理念もより理解できる人が増え、結果実現しやすくなるのではないかと。

→今年の熊野寮祭で行われた「総長室突入」は、全学自治会の一つの形を提示するものであったと考えています。全学的な団結で国家権力と対決し、学生の利害に基づいた行動を行うということです。

より具体的な話をする、学部自治会の活性化、代議員会の周知・運営、サークルをはじめとした寮外コミュニティへの働きかけなどが、「理念の部分と実際の全学自治会の間を埋めるもの」にあたると考えています。

#### C3, 4の議事録

C305筒井：物品購入費は20万となっているが、何に使われるのでしょうか？ 少し多い気がします。

→紙やテープ、ペンなどの消耗品を購入するほか、工具や物品などが急に壊れた際に使用します。どうせ使う消耗品は一度にどっさりと買ってストックしておき、壊れたものは順次補充することで、自治寮防衛のための活動における物品まわりのストレスを解消したいと考えています。

C305筒井：PTの予算は新規開設されたものに使われるという話を聞きましたが今回の2万は何に使われるのでしょうか？また既存のPTはどのように予算を運用したらよいのでしょうか？議論改善PTもお菓子とか買いたいです！！PTはもっと草の根的に広げていくためにもみんなが気軽に使えるような枠のお金があったらいいと思います。

→PT予算は、新規立ち上げに1万円、議論改善PTに1万円という形で請求しています。お菓子もぜひ買ってください。

#### 前回からの変更点

予算案に各局の予算とブロック新歓補助費を追加

### 広報局

前回からの変更点なし

### 対処分戦略推進局

前回からの変更点なし

## 国際交流局

前回からの変更点なし

## 地域連帯局

前回からの変更点なし

## 増築建設局

最後のブロック会議への意見質問

### A2の議事録

A206延山：「自治会への施設投資というアイデア」というセクションについて。「バブル崩壊に向けて出口政策も全く進まない時代である」というのは日本語がおかしいのでは。今バブルを崩壊させようとしているわけではないと思う。  
→修正しました。

## 備蓄局

### 【返答】

B105藤津：コクゾウムシの対策はせめてすべき。

→唐辛子をたくさん入れて、二重にした布団袋で密閉し、光が当たらないようにして置いています。

C201眞榮田：ギリギリで議事録残して申し訳ないのですが、総括案には「厨房への販売ができないことを考慮すると、コンパで消費したり事務室で販売したりしたとしても、ローリングストックの限界は150kgだと判断し、150kgだけ購入。」とあり、方針案には「3. 玄米および缶詰食品の販売実績をもとに、ローリングストックとして消化できる範囲で、最終的な目標（玄米600kg以上、缶詰6,000缶程度）に近づくように食糧の備蓄量を増やす。」とある。具体的にどうやってストック量を増やしていくかが不透明なので説明してほしい、厨房と交渉するのか？

→厨房への販売ができない理由として、玄米を使用する際の工程の若干の違いが挙げられていますので、150kgを超える分は玄米ではなく白米を備蓄する可能性を含めて、厨房と交渉したいと考えています。ただし、玄米と白米では厨房が容認する保存期間が異なります。

（過去の意見に対する返答にも関連する情報があります）

### 【変更点】

セクション【食品の保存方法】を追加しました。

## 寮外連帯局

### 【前回の議事録コメントへの返答】

B402福井：局が増えるということはそれだけ寮生の活動が活発になっているということだと思ふし、この局の新設にも意義があると思うが、このままのペースで局が増えていくと最終的に自治会予算などが不足気味になったりすることもあり得、その対策なども考えていく必要があると思う。逆に無限に局があっても面白いとは思ふが…。備蓄局作った身でお前が言うなという批判はあると思いますが…

→局が増え続けることについては肯定的です。仕事が細分化できるし、コミュニティが増えるなどいいことが勝ると思つてます。

自治会予算が不足気味になる、住み分けが難しくなるなどのデメリットがあるのも承知していますが、この議案ではなくぜひ寮生大会の自由討論で話していただきたいです。

B405水林：1,000人目指して頑張ってください。

→ありがとうございます！

C302三上：備品代は金庫と記録媒体（外付けHDDなど）です。

→です。

## <専門部>

### 文化部

#### 【前回からの変更点】

- ・各項目見出しの変更(番振り廃止)
- ・音楽室利用者会議(MUC)方針の掲載
- ・音楽室利用者会議(MUC)方針の「3. 予算」に追記
- ・文化部予算の修正
- ・(円)の追加
- ・雑費の¥10,000を音楽祭に計上し、音楽祭の項目を細分化。

### 炊事部

#### 変更点

2.4の第三文に「ハエトリ紙は時期を考慮し、臨機応変に変えていく。」を追加

### 庶務部

#### 前回からの変更

決算で出た金額に変更があったので反映させました。

端数処理のため、支出金額の配分を調整しました。

### 厚生部

#### 【前回からの変更点】

3. 予算表を追加。

### 【前回の議事録への返答】

#### B4の議事録

B402福井：私が感染した時は、厚生部に問い合わせたところ、寮内に男子の陽性者が私だけだったので、シャワー室隔離は行わず、終わった後に消毒するように言われた。このような運用が可能であるならば、感染者が多くとも、シャワー室隔離を行わないことが可能なのではないか。

「シャワー室隔離について、問題は非対象者の利用時間が制限され、利用したいときに利用できないことと隔離時間前後に混雑することの2点だと捉えています。これを解消あるいは軽減する方策はおそらく3つ考えられます。一つめは消毒そのものを止めること、二つめは隔離時間を短縮すること、三つめは隔離時間を混雑しない時間帯に移動することです。」とあるが、そもそもシャワー室隔離を行わないことで、シャワー室隔離に伴い生じる問題は解決できるのではないか。

返答：隔離時間を設けず感染者自身による使用後の消毒に留めるためには、対象者一人一人に使用後の消毒を要請し、方法を伝達し、理解を得るというステップが必要です。感染者が一人二人ならこれを徹底することは簡単ですが、人数が増えれば全員に行き届かせるためには連絡者（主に各ブロックの保健係）の負担が大きくなります。連絡者の負担もなるべく小さいやり方でなければ継続は難しいものですから、感染者が多い時はシャワー隔離時間を設けるべきだと判断しています。

## 人権擁護部

前回からの変更点なし

## 情報部

議事録への返答：

A305近藤：返答に対して、<https://sankoufont.com/category/ud-font/>など

→ ありがとうございます。検討します。

C305筒井：自分のスマホの問題か、アンドロイドに共通した問題か分からないが、熊野寮アプリで議案を見た時に、一番最後の行がきれる

→ 調査して修正します。

前回からの変更点はありません。

## <特別委員会>

## 入退寮選考委員会

議事録への返答

B308世一 自治会会計から予算が出ない予定になっているのはどのような意図か

→ 来期必要な金額が114期からの繰越金でほぼ賄えるため、請求しません

前回からの変更点はありません

## 選挙管理委員会

### 【議案の返答】

A203藤吉：寮生大会の欠席・遅刻・早退理由書の承認条件で「課外活動（部活動やサークル、それに準じるイベント）」とあるが、緩すぎる。大会などどうしても本人が参加しないといけない場合、人生を左右するイベントである場合にのみ欠席・遅刻・早退が認められるのでは

返答：

実際の理由書の審査においては、課外活動を理由とする申請を無条件に承認するのではなく、ご指摘にあった通りその行事の重要性や当人の出席の必要性が認められた場合にのみ承認するようにしています。

B105片桐：第114期寮生大会の特別決議案←これは出ていましたっけ。そして3回議論されましたっけ。記憶があいまいで申し訳ありませんが、既に議論したことがあったとしても、寮生大会前のブロック会議に特別決議案は載せてほしいなと思った。

B202安東：114期の寮生大会の特別決議案は出ていません。

→そうだと、特別決議案→自由討論の誤字ということか。

→となれば、一元化の意思決定をどの会議体で行うかは気になった。

返答：

再度確認した結果、第114期寮生大会において寮生大会の日時に関する特別決議はございませんでした。また、寮生大会の日程一本化の議論は第114期寮生大会では一旦保留とし、どの会議体で意思決定を行うのかということも含めて、来期の選管で引き続き議論していきます。

## 監察委員会

前回からの変更点なし

## 資料委員会

B105片桐：紙をもっとたくさん購入してほしいと言うところの返答も、改善もない。改善してください。

→見落としていて大変申し訳ありません。B5、A4、A3の購入枚数を増やし、予算に反映させました。

0. 返答及び前回からの変更点

・予算のうち、「コピー用紙代」を増やした。それに伴って「自治会会計より」、「雑費」の項目を調整した。

## 居住理由判定委員会

前回からの変更点なし

## 代議員会からの変更点

前回からの変更点がない局・部会・委員会は省略

### 広報局総括案

決算表を修正

「自治会会計より（その他）」と「自治会会計へ返還」の額を変更

### 国際交流局総括案

決算表を修正

詳しくは議案を参照

### 備蓄局総括案

決算表を修正

詳しくは議案を参照。

### 厚生部

決算表を修正

「115期への繰越」の項を追加

### 情報部総括案

決算表を修正

「修理消耗品費」の予算 41,057→41,077

### 選挙管理委員会総括案

3-4そのほか

結果として、寮生のみ伝わる形でマニフェストを周知できたので、今後もこの方式を引き継いでいこうと思う。

↓



しかし、片付けについての周知不足から、manifestoがのちに散乱していたとの指摘を受けたため、manifestoの回収についても今後徹底していく。

## 常任委員会方針案

変更点

○対寮外

### 5. 寮外連携局の新設

熊野寮の寮自治防衛において、寮外生との連帯は必要不可欠である。熊野寮と寮外の学生の交流を促進するため、寮外連携局を立ち上げる。詳しくは別議案「寮外連携局（仮）を立ち上げたい」を参照。

↓

熊野寮の寮自治防衛において、寮外生との連帯は必要不可欠である。11/20に熊野寮食堂で行われた京大ダークのjazzライブによって、寮外生との連帯におけるイベント開催が有効であると示された。熊野寮と寮外の学生の交流を促進するため、寮外連携局を立ち上げる。詳しくは別議案寮外連携局方針案を参照。

## 選挙管理委員会方針案

最後のブロック会議の議事録B105片桐、B202安東の意見への返答を変更  
「前回のブロック会議からの変更点・議事録への返答」を参照

### 3. 寮生大会

・課外活動（部活動やサークル、それに準じるイベント）

→課外活動（部活の重要な大会など）

「その他選挙管理委員会の過半数がやむを得ないと判断したこと。」の後に「詳しくは欠席理由書の注意事項を参照。」を挿入。

## 自治会会計決算

表を修正

議案を参照

## 自治会会計予算

表を修正

議案を参照

# 第114期総括案

## 常任委員会

〈目次〉

### ○総論

### ○各論

1. 対当局闘争
  - a. 厨房問題
  - b. 道上氏が事情聴取の場に乱入
  - c. 無学籍者居住
  - d. 窓口交渉
2. 組織論
3. 反差別
4. 寮外へ
  - a. 学寮交流
  - b. KUMAN
  - c. くまのまつり
  - d. 熊野寮コンパ
5. 実力闘争

### ○決算

〈本文〉

### ○総論

114期は、「勝つ闘い」として全学自治会建設を方針に掲げ、全学自治会建設運動を常任委員会として先頭に立って行った。結果として、学内で熊野寮の存在感が高まっただけにとどまらず、全学の自治意識が耕された。114期で半年かけて寮内外に働きかけた結果が、寮祭企画「総長室突入」の大成功である。突入は熊野寮自治会が実行主体であったが、それは熊野寮だけでなく全学の運動として行われた。それだけの運動を自治会として行おうという一致が取れたこと、さらにそれを実際に全学のものとして貫徹できたこと、それが114期熊野寮の勝利を如実に示している。

しかし寮内に対しては、部会委員会やブロックなどの寮内コミュニティに対する働きかけ、各部局と団結して自治寮防衛していこうという姿勢が不十分であった。常任委員会は寮内の団結に責任を取る立場であり、働きかけが不十分であったことは否めない。

以下に具体的な論を述べる。

### ○各論

#### 1. 対当局闘争

当局からの攻撃は常にかけていた。それに対して、114期では寮として毅然と対応してきた。

##### a. 厨房問題

食堂運営会について、大学当局から議題の提起があった。それは「大学副学長と寮自治会の間に結ばれた確約に則り」という文言を消去する修正案であり、確約の無視を既成事実化する動きであった。常任委員会は即座に、この修正は自治会として認められるものではないという一致をとり、そこから議論を重ね、ブロック会議の場で改めて食堂運営会総会を行う旨を決定した。そこから委任状集め、総会の体制決めなどを炊事部が主導して行い、確約無視の既成事実化方針は粉碎された。

SCとして確約無視は断固反対という一致がすぐにとれたこと、それを全寮化して当局からの踏み込みを無効化したことは勝利的である。一方で、初動においては正副委員長陣が事情に詳しい炊事部に相談しないまま、拙速に寮生集会開催等の方針を検討していたことは大いに反省する必要がある。それぞれの寮生の力と経験を信頼し、全体の力を引き出していく姿勢が重要であるということを確認したい。

また、下岡氏のパワハラにより厨房員が辞職した。年末で厨房員が退職すること、その原因が下岡氏のパワハラであることがほかの厨房員から寮生へ伝えられ発覚したものである。これに対し、寮自治会としては寮生バイトを厨房に送り込み、寮生による監視体制を厨房内に築くこと、さらにパワハラを受けた当該の厨房員に聞き取りを行うことなどを決定した。下岡氏と厚生課＝大学当局が意思一致をしていることは明白であり、下岡氏とのコミュニケーションを寮自治会の一級課題として位置づけるべきであったにも関わらず、それができていなかったことが問題である。食堂防衛の思想をSCと炊事部の団結から全寮に広げていくことは来期以降の課題である。

厨房問題全般的に、炊事部との連携について課題が残る。栄養士の下岡氏や厨房員について、しっかりコミュニケーションをとって情報伝達していくこと、食堂防衛を全寮の団結で行うことをSCで責任をもって行うべきであった。

#### b. 道上氏が事情聴取の場に乱入

寮内に不審者が侵入した件について、警察に通報したところ、任意の事情聴取に応じて川端署に出向いた寮生の、事情聴取の場に厚生課長道上氏が立ち入った。寮自治会として川端署に対して、2つの点から抗議した。

①供述中の部屋に権力者である道上氏を入室させたことは、寮生のプライバシーにかかわる重大な問題であり、断じて容認できない。

②警察が厚生課長を呼び出したことは、寮内で起こった事件を自治会でなく大学当局に処理させ、自治会を解体する布石であり、断じて容認できない。

警察対応と抗議行動について、不審者から直接に被害を受けた人と団結しきれなかったこと、迅速な対応が求められたため拙速な意思一致で行動してしまったことが課題である。全寮規模の意思一致を迅速に行うやり方について、SCとして模索していく必要がある。

#### c. 無学籍者居住

第三小委員会から「熊野寮における無学籍者の居住について」という告示が出されたことや、大学公式HPでも関連した文書が出されたことを受けて、SCで議論をはじめ、113期で出した声明文を改変して提出する旨を決定した。この問題は今年の夏頃からずっと当局は言及しており(寮生全員の名簿を出して無学籍者が存在しないことを証明できなければ補修はないとの通告も出された)、寮内における学籍者と無学籍者を分断し、入退寮選考権を侵害する攻撃としてあったことは明白だっただろう。

これにSCとして、学籍在選反対、入退寮選考権の侵害は許さないという立場で声明文および第三小委への返答を検討し、一致を作れたことは圧倒的勝利である。現に声明文を10/11に発表して以来、当局は何もレスポンスできていない。当局からの分断は、寮全体の一致で跳ね返せる。このことがはっきりしたのが、無学籍者居住の問題を通じた議論だっただろう。

#### ※学籍在選の是非について

今回は当局からの踏み込みをきっかけにして無学籍者の居住が問題となったが、これまで熊野寮ではキャパシティが圧迫される度に学籍在選を導入すべきではないか、という議論が焦点になってきた。理由としては入寮基準に学籍を設けていて確約にもそう書いてあるのだから入寮希望者で落選者が出ている状況で退寮する基準にも学籍がないのは釣り合いが取れていないというのが主な理由である。現在の寮内についてもこの辺りについては色々意見はあると思うが、これは学籍在選をする理由にはならない。

誤解の無いように言えば、学籍在選はどんな理由があっても行うべきではないということでは無い。ここで言いたいのは在寮選考というのは誰かが住んでいるのを強制的に追い出すということであり、特に特定の属性を追い出す議論をする際には最大限慎重になるべきということである。

#### d. 窓口交渉

113期の「大窓口交渉」から引き続き、114期でも窓口交渉を大々的に行う方針を貫徹した。それにより、熊野寮が当局と闘いながら存在していること、ひいては自治と当局の非和解性が大々的に宣伝できた。そして、この「大窓口交渉」のやり方をより広く、より戦闘的に引き継いだのが総長室突入であり、113期からの窓口交渉の実践が総長室突入の基盤を形成したといえるだろう。

## 2. 組織論

114期では、SC内での団結を追及し、ミニSCコンパ等を通して議場以外でのコミュニケーションをとっていくことを目標としていたが、ミニSCコンパの開催頻度や、コンパに人を集める部分に難があり、思ったような成果を上げることはできなかった。結果として、会議に集まる人数、問題意識を能動的に反映させていく人数、実際の仕事を行う人数は増えなかった。SCメンバーが部会委員会、ブロック等のコミュニティにそれぞれ確たる根を張りながら、SCそれ自体をもコミュニティとして機能させ、会議やコンパを通じて全寮を活性化させていくことは来期以降も課題になるだろう。

部会や委員会と常任委員会の団結という視点からみても、今期はSCがSCとして担う業務があまりに多く、それを貫徹できたものの寮内の部局と連携して行えたわけではなかった。ひとつひとつの行動に対して、団結を拡大しながら貫徹していくという視点が重要である。部会委員会の業務をSCとして位置づけて構えていくことと、SCが行っている業務のうち部会委員会で責任をとれる分野に関して、部局を信頼して共働していくということを両輪で行うべきであった。

## 3. 反差別

114期では、ハラスメント対応に関して

①開始当初に人権擁護部の少数の寮生が多く、案件を請負い疲弊していた状況を問題視し、SC全体としてこれに連携して取り組むという方針を掲げた。

②また、いくつかのケースで加害をしてしまった寮生に人間関係のない複数名の”有識者”が”反省”を迫る形になってしまっており、加害者が真に問題を認識し、己のうちに内面化された差別意識に向き合うことが難しくなっていたという状況を鑑み、ハラスメント対策局外の個人的人間関係のある寮生を巻き込みチームとして対応するという方針を掲げたが、貫徹されなかった。

加えて重要な点として、起こってしまった加害の対応もさることながら、それ以上に加害を未然に防ぐこと、また普段から互いの差別意識について話し合う事のできる環境を整える取り組みが必要であると考え、113期新歓期に行ったハラスメント対策ワークショップ（新入生に対し、吉田寮とのストーム事件で起こった加害事件に関するケースワークを行った）のような学習会や、コンパ中の注意喚起等の取り組みが必要だっただろう。

#### 4. 寮外へ

全学自治会の形成、熊野寮が国家権力に「勝つ」闘いにむけて、寮の外への働きかけを積極的に行ってきた。

##### a. 学寮交流

他の学寮から学び熊野寮の運営に活かすと同時に、学生自治寮の連携を作り国家的な弾圧に対抗することを目的として学寮交流を位置づけた。具体的に今期行ったこととしては、東北大学日就寮で行われた学寮交流会への参加と学寮交流キャラバンの実施、今年度末に廃寮化を控えた金沢大学泉学寮の視察の3点である。

特に学寮交流キャラバンでは、今までなかなか交流を持つことができなかった寮との交流を持つことにより自治寮という枠組みについて考え直すことができ、今後は自治寮のみならず管理寮とも連帯し学生の福利厚生を輪を広げていくことを考えることが肝要であるという議論に発展した。

さらに寮祭企画として行われた学寮コンパでは寮祭期間中全日熊野に来てくれていた日就寮をはじめ、北は東北大学から南は高知大学まで全国の学寮が集まったほか、熊野寮F棟の方やシェアハウスを転々とする学生など幅広い参加者が集まり、より多面的に学生自治寮の意義について熱い議論が交わされた。このコンパで特筆すべき点として、吉田寮と女子寮からそれぞれ複数名参加者が集まり、京大五寮の交流の足がかりとなったことが挙げられる。来期以降、京大当局からの弾圧に対抗するため五寮交流会の活性化を考えていきたい。

##### b. KUMAN

114期では初めて常任委員会方針にKUMANを盛り込み、地域の方々との顔の見える関係作りの手段の一つとして位置づけ、活動した。新しい寮生を取り込んだり、KUMANとしてのくまのまつりへの出店や夏祭りなどの新規企画を実施したり、小学生の投稿時間にビラ撒きを行ったりしてKUMANの規模の拡大を図り一定の成果を見せた。来期以降も地域連帯の重要な形態の一つとして力を入れて取り組んでいく。

##### c. くまのまつり

今期は8月末の「くまの夏の夜まつり」に始まり、10月は文字通り毎週末外部のイベントに出店、出演、運営協力などで関わるなかでくまのまつりの輪を広げ、11月の「くまの秋まつり」までをやりきった。2019年以降の中止期間を乗り越えて、2022年は3回のまつりを全て復活させた。

自治発信は夏と秋のまつりで異なる形態をとった。夏まつりでは会場でのアジテーションを大々的に行い、署名と停学者学費カンパを来場者に印象付けた。会場全体に向けて自治発信を行うことで、出演者や出店者にも改めて自治への理解を深めてもらえるという利点があった。秋まつりでは過去に実績のあった寮内ツアー型の自治発信企画を行った。若手を含めて様々な寮生が自分の言葉で自治を語ることで、今の寮の在り方に獲得性があるという自信にも繋がっただろう。対外的に自治発信をするだけでなく、参加した寮生が寮自治の在り方を捉えなおし、よりよく高めていくきっかけとすることができた。これこそがくまのまつりの第一の役割である。

まつりの運営、特に外部出店・出演者らとの事前折衝など、個人の力量に頼っている部分はあるが、敢えて断言すればこれは些細な問題である。私たちはイベントサークルとして大成したいわけではない。寮自治存続に繋がる場としてのまつりを創りたいのだ。楽しさをのみ追求するイベントとしてのまつりを上手く運営することにばかり意識を向けて、上手く運営できたことに満足しているようでは、その隙に弾圧が激化し、熊野寮は「楽しい空間」として惜しまれつつも潰れていくだろう。それは2015年までのまつりの二の舞である。私たちは寮を「楽しい空間」として発信したいのではない。熊野寮が誇る自由な空気・楽しさは副産物であり、その根底には学生自治がある。学生自治が学生の生活と権利を守った結果としてこのような素晴らしい空間があることを理解し、この空間に生まれる共同性の賜物としてまつりを存分に楽しみ、この空間を守るために行動する、そういった人を私たちは増やさねばならない。

#### d. 熊野寮コンパ

114期では、全学自治会建設に向けた寮外/学内への積極的な取り組みとして、熊野寮コンパを行った。テスト終わりやハロウィンに合わせて、寮外生を呼び込み、自治への獲得を目指す取り組みである。熊野寮コンパでは、熊野寮に遊びに来た寮外生に対して自治への関わり方を提示し、すでに学部自治を積極的に行っている人との人脈をつないだ。寮外生を呼んで全学自治をアジるコンパは熊野寮でも初の試みであり、今後どんどんブラッシュアップし、全学自治会建設に向けた組織力の高いものにしていきたい。

#### 5. 実力闘争

総長室突入では、熊野寮の利害だけではなく全学的な要求項目を掲げて行われた。114期方針において全学自治会建設を大きな柱に掲げたが、総長室突入は全学的要求項目を基に京大生（他大生や地域住民なども含む）に参加を呼びかけ、共に行う実力闘争として行われた。これは、全学自治会建設後の一つのビジョンであり、集まった学生の数からもその展望が見えたのではないかと思う。

また今年の時計台占拠では警察導入によって企画が行えない事態が発生した。当時は熊野寮生中心に覆面など完全防備で行ったため、現場での学生の参加が事実上不可能であった。今回は完全防備などは行わず覆面などは各自で任せ、可能な限り現場での学生の飛び入り参加できるように意識した。声明文の朝ビラなど学内を中心に幅広く学生教職員に参加を呼びかけた。寮生とその周辺部だけでは当局や警察権力を前に弾圧に屈してしまうという現状があったが、今回その状況をより多くの団結を形成することで一時的ではあるものの警察の入

構阻止という形で突破することができた。今後は総長室突入を超えるような多くの学生を獲得し、共に大学や社会を作る立場で一致して行動していきたい。

一つ決定的に足りない点がある。それは熊野寮内だけの議論でこの内容を作り呼びかけたことだ。全学的な議論を経た上で多くの学生の問題意識を包摂し、京大生みんなの方針として総長室突入のような企画を行いたかった。それにはやはり全学自治会という具体的な組織の建設が必須である。ちなみにあまり知られていないが全学自治会同学会は総長団交権を持っている。

## ○決算

決算表は以下。

※1 備蓄局の予算は、局新設の承認が113期寮生大会後になされたため、当初予算に含まれていない。

※2 Diploma Kyotoへの協賛は、建築学科の寮生と連携によるものである。Diploma Kyotoと関係している建築学科の寮生が毎年いるとは限らないため、予算には組み込まず、追加予算として請求した。

※3 決算が予算を超過しているのは、買い出し担当者がうっかり予算額を越える額の差し入れを購入してしまったため。

※4 追加予算のうち、¥110,000は発電機の購入費用、¥70,000はSC室の棚の購入費用として。

項目	収入	予算	追加予算	決算	予算+追加予算-決算
自治会会計より (当初予算として請求)	¥2,245,000				
自治会会計より (棚購入のための追加予算請求)	¥70,000				
自治会会計より (発電機購入のための追加予算請求)	¥110,000				
自治会会計より (備蓄局新設に伴う予算請求)※1	¥850,000				
自治会会計より (Diploma Kyoto 協賛のための追加予算請求)※2	¥5,000				
SC新歓		¥80,000		¥72,287	¥7,713
寮生大会差し入れ ※3		¥10,000		¥10,701	¥-701
物品購入費※4		¥200,000	¥180,000	¥376,485	¥3,515
コロナ対応費		¥50,000		¥48,686	¥1,314
緊急事態対応費		¥80,000		¥3,939	¥76,061
学寮交流費		¥200,000		¥200,000	¥0

会議運営費		¥30,000		¥25,785	¥4,215
ミニSCコンパ		¥100,000		¥97,987	¥2,013
学習会		¥50,000		¥0	¥50,000
熊野寮コンパ運営費		¥320,000		¥200,673	¥119,327
PT予算		¥10,000		¥0	¥10,000
処分局		¥100,000		¥100,000	¥0
地域連携局		¥445,000		¥431,204	¥13,796
広報局		¥100,000		¥40,117	¥59,883
国際交流局		¥50,000		¥50,000	¥0
増築建設局		¥70,000		¥70,000	¥0
寮祭		¥350,000		¥350,000	¥0
備蓄局※1			¥850,000	¥65,016	¥784,984
Diploma Kyoto 協賛金※2			¥5,000	¥5,000	¥0
自治会会計へ返還				¥1,132,120	¥-1,132,120
合計	¥3,280,000	¥2,245,000	¥1,035,000	¥3,280,000	¥0

## 広報局

### 概要

広報局は109期に発足した局である。現在は水曜20時から食堂とZoom上において、会議を行っている。局の目的は「熊野寮の知名度とイメージの向上、寮外協力者の確保」である。

### 1、総論

114期では113期同様外部向けのイベントや熊野寮ラジオ、新グッズ制作など多種多様な企画が行われ、局員のモチベーションに従って企画を自由に打ち、寮の魅力を寮外へと広げていくという広報局の理念を実現することができた。また今期は広報局員の勧誘による1回生の参加も多々見られ、114期方針で掲げた「寮を広報することに興味を持つ寮生を増やす」という目的も達成することができたと言えるだろう。今後も様々な寮生を巻き込み、個々人の力が十分に発揮されるよう広報活動を発展させていきたい。

### 2、熊野あじり動画

114期はshort動画も含め25本の動画を投稿した。今期も引き続き1人の寮生に制作を頼りきってしまったが、今年度その寮生が退寮するにあたり、意欲ある一回生が後継を申し出てくれた。今期までのチャンネル総再生回数は32,653回であり、チャンネル登録者は327人となった。(12月6日現在)

あじりの在り方はまだまだ模索中であり、来年度以降新しい視点を取り入れつつ検討していく。



### 3、グッズ

10月に単食券Tシャツ、ステッカー、トートバックを制作した。Tシャツが7枚、ステッカーが2枚、トートバックが1枚売れた。今回はsuzuriを用いて制作・販売したが、在庫を抱える場合より販売が楽になる分、利益は減る。今後どのような方法を用いるかはグッズの性質に従い決定していきたい。

### 4、イベント

キャンパス情宣、熊野寮コンパ、NF、KYOTOGRAPHIE

#### ・キャンパス情宣

113期に広報局主体でキャンパス情宣を始めたが、多数の寮生にノウハウが浸透し、114期ではSCの提起により複数回情宣が行われた。

#### ・熊野寮コンパ (テストおつかれコンパ、ハロウィンコンパ)

前期テスト終わりにテストおつかれコンパを行った。主催・運営は主にSCであり、広報局には広報戦略が委託されるというような形になったが、宣伝のみを外部受注するというあり方には疑念が呈された。10月末に行ったハロウィンコンパではその反省を活かし、企画段階から広報局でも検討がなされた。今まで広報局はイベント企画から広報まですべてを担うことが多く、局員のやりたいことを実現する場としても、広報の仕事のみを請け負うのではないあり方を維持していきたい。

#### ・NF

広報局ではグラウンド企画「発信熊野寮」の統括を担当した。しかしながら人が少なかった、場所が悪い、NFが3年ぶりであったなどの理由から寮祭に向けた効果的な宣伝ができたとは言い難い。NFの雰囲気や厳格な制度から寮生のNFに対するモチベーションが低くなってしまうことは避けられないため、来年は北部祭の出店や一企画のみの出店を検討したい。

#### ・KYOTOGRAPHIE

京都国際写真祭2023に出展予定のアーティスト・ココカピタンによる撮影依頼があり、広報局で撮影モデル募集・立ち会いを行った。アーティストも寮生との交流を楽しんでいた様子であった。来年春の会期中には共同でイベントを打つ予定であり、広がりのある企画だったと思っている。

### 5、熊野寮通信

くまの夏まつりに合わせて第4号を発行した。中身がゴリゴリしていた一方デザインはポップだったため、多くの人が受け取ってくれた。11月はNFや寮祭とイベントが重なり、新規号が発行できず既刊号を頒布するだけになってしまった。また寮のイベントの広報物や入寮パンフはあるものの、寮外向けに「寮そのもの」をライトに紹介する広報物がないことが指摘された。115期ではこの点も検討していきたい。

### 6、SNS運営

今期も引き続き、Twitter、Instagramでの発信を行った。寮祭Twitterは完全に寮祭実運営が引き継がれ、前期から1,300人程度フォロワーを増やし、2,721人となった。(12月6日現在) またInstagramも一回生複数名に運営を引き継いだことで多数の投稿がなされ、寮の宣伝に貢献した。フォロワーは346人。(12月6日現在)

## 7、Wikipedia、寮HP

Wikipediaに関しては、恣意的に熊野寮を貶めるような編集をするユーザーが出てきたため、編集合戦で対抗していたが、埒が明かない為現在停止中である。Wikipediaを充実させる方向でのインターネット広報に変わって、ホームページ作成・改良にモチベーションのある局員が現れたため、ホームページの作成に力を入れ始めた。入寮希望者向けホームページを春入選での実装を目指し鋭意作成中である。

## 9、決算

表を参照。

項目	収入（円）	支出（円）
自治会会計より（熊野あじり）	45,000	
自治会会計より（新歓費）	5,000	
自治会会計より（その他）	50,000	
オープンドミトリー		8,817
新歓費		8,273
熊野寮祭広告費		7,000
吉田寮祭広告費		10,000
スクリーン材料費		6,027
自治会会計に返還		59,883
計	100,000	100,000

## 対処分戦略推進局

### 総論

処分撤回運動はその始まり以来、棘の道を進んできた。数十年ぶりとされる政治的な処分が下された2016年（バリスト処分）から2017年まで、（社会的には万単位の処分撤回署名が集まりつつも学内では）「処分は個人問題」と言われていた。2019年の処分を機に処分阻止・撤回PT（のちの対処分戦略推進局）と12月集会実行委員会が発足、処分をみんなの問題と捉えて全学自治会での反撃を目指す運動が始まった。しかし、その後もコロナ禍を口実にした課外活動規制などが焦点化する中で処分阻止・撤回運動が後景化したり、2021年の全学処分対策委員会発足後も処分撤回集会の路線（中核派活動家として狙い撃ちにされた被処分者の入構）をめぐって分岐が生じたりした。こうした困難を乗り越えるために処分局は討論に注力し、すべての攻撃は反対する学生を見せしめに処分することでまかり通っていること、ゆえに処分はされた学生が悪いのではないことを断固確認して絶対反対で闘うことで運動が前進すること、処分は大学改革という政策を背景に持つ全国的な問題であること、意識的な狙い撃ち処分には意識的な団結で反撃することなどでの一致を追求した。

こうした苦闘の甲斐あって、2022年は処分撤回・阻止闘争の決定的勝利の年となった。2016年から2021年までは毎年何かしらの不当処分が下されていたが、2022年は12月12日現在、1件の呼び出しも報告されていない。学生の側は萎縮しているばかりか、熊野寮を先頭にキャンパス展開を強化しているにもかかわらずである。特に、寮祭で権力や職員と衝突する戦

闘的な企画をやり切ったことは特筆すべきだろう。処分阻止・撤回運動は被処分者と徹底的に団結することを前提としつつ、救済運動ではなく後の世代が萎縮せずキャンパスで活動できるように闘うことを被処分者自身が決意したことで現在ここまでの勝利を実現した。もちろん、当局・権力の脅威は去ったわけではなく、むしろ緊張感が高まっている。ここまでの勝利を軸に、どんな踏み込みがあってもぶれない団結として全学自治会を建設することが求められている。

そして今、我々は「戦争問題を扱うべきかどうか」が議論できるところまで来た。114期はそれに取り組んだ半年間だったとっていいだろう。湊総長体制下の京大は、明確に「米中対立」を睨んで「経済安全保障」の旗振り役を担っている（最近告知されたシンポジウムもそのような趣旨である：<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/event/2022-11-07>）。それにより、経済安保の名のもとに軍事研究が行われる懸念や、競争力強化の意識性が強まり学生管理強化や福祉削減が行われる懸念がある。ただでさえ自治寮そのものが攻撃の対象となる（京大当局「『吉田寮自治会』を自称する団体」、東北大当局「（日就寮は）自治を強く標榜」など）この社会にあって、国が戦争に突入して統制を強めれば（自民党改憲草案はそのためにある）「自治＝非国民」になる。それでも自治の側についてくれるということこそが、「自治に獲得される」ということだ。その過程は、「うまくやったらめずに済む」というような甘いものではない。これまで処分阻止・撤回運動をめぐって繰り返し発生した分岐は、課題（各論に譲る）はありつつも一致のために必要な過渡だった。そして、情勢と路線をめぐる討論がまだ途上であることは言うまでもない。

## 各種活動

### <熊野寮内での活動>

#### ・寮内企画

新入寮生と団結するため、新歓と被処分者トークショーを開催した。各企画の総括はすでにブロック会議に提出している。また、くまのまつりや寮祭には処分局ブースを開設し、地域住民にも処分問題への取り組みを発信した。

以下、日程一覧

8月28日	くまの夏の夜まつり（ブース展開）
10月4日	処分局新歓
10月11日	処分問題学習会
11月12-13日	くまの秋まつり（ブース展開）
11月14日	法大闘争学習会
11月25日-12月4日	寮祭（ブース展開）

#### ・寮祭・情宣等での処分・弾圧対応

113期から114期にかけて、熊野寮は寮祭だけでなくキャンパス情宣や熊野寮コンパなどで積極的に本部キャンパスに展開してきた。このような活動の際には都度、弾圧に備えておく必要があるが、会議準備主体の多忙などにより処分局から各企画の担当者へのはたらきかけは不十分だった（初動が遅れた）。

とはいえ、全国のほとんどの大学で学生文化が壊滅し、京大でもコロナ禍を口実にしてNFなどが破壊されてきた中、キャンパス情宣や寮祭が貫徹されたこと自体が重要な勝利である。2018年には時計台占拠が寮生集会で中止、19年には企画すらされなかったところから、年々強化される警察導入にもかかわらず2020年から2022年にかけてD棟コンパや四条大運動会、総長室突入などの戦闘的な行動が企画され続け、しかも2021年の8学生処分を最後に1人の処分も逮捕も出さずにやり切っている（2022年12月12日現在）ことは、処分阻止・撤回闘争が切り開いた地平だと考えている。

## <全学自治>

### ・全学処分対策委員会（全処対）への参加

2021年2月以降、処分局は全学自治会同学会全学処分対策委員会の参加団体として活動してきた。学生処分は大学全体の管理・統治を徹底するための攻撃であり、個人や個別団体の枠を越えた団結によって阻止する／撤回させることができる。それはひとつひとつの問題に個別に対処する有志の集まりではなく、当局の支配全体に対抗する学生権力＝全学自治会を建設する必要があるということだ。

処分局は、集会の準備や後述する財政闘争などで全処対活動の中心を担ってきた。12月9日開催の処分撤回集会にあたっては、熊野寮自治会としての集会賛同を提起し、採択された。112期には激論となった、停学処分（構内立ち入り禁止）中の学生が総人広場で発言するという比較的高いリスクの高い計画は今や焦点にならなくなったが、採決にあたって「議論が不十分」などの問題意識が出された。新歓や学習会などの企画で認識の共有を図り続けたものの呼び込みに苦戦してきたこと、企画外での日常的な討論に手が回らなくなっていたことなどが総括点として挙げられるだろう。

### ・全学自治会建設（再建準備会）

全処対は、全学自治会同学会の最高議決機関である代議員会を7月3日に開催することを呼びかけた。当日は代議員数が定足数（88名）に届かなかったため再び「同学会再建準備会」の会議となったが、38名が参加して全学自治会再建に向け活発な討論が交わされた。その中心を担う執行部が、16名の立候補によって結成された。

## <国際連帯>

処分も一部の学生を孤立させる分断攻撃であるが、この社会は国境で人々を分断する。その最たるものは戦争であるが、平時から我々は国際競争というものに駆り立てられている。その中で、日本政府は近年だけでも、コロナ給付金をめぐる留学生差別（文部科学省は「日本に将来貢献するような有為の人材に限る」と公言！）や、東京五輪に向けての入国管理強化など、国籍による差別・分断を激化させている。ウクライナ侵攻が始まって以降は、ロシア国籍を持つ人々が冷遇・排斥される傾向が社会問題となっている。一方、世界各国では学生が戦争や圧政に反対して立ち上がっており、最近では中国のゼロコロナ政策による極限的な抑圧に対する「白紙革命」が起こっている（京大でもスタンディングが行われた）。

多くの留学生を擁する京大で全学自治会を建設するには、この問題は避けて通れない。分断を乗り越える回答は戦争反対である。取り組みとしては、113期から引き続き、国際交流局のCLUB KUMANOで被処分者へのカンパを集めた。7月3日代議員会を経て発足する新生同学会で10月にキャンパスで反戦集会を開くことなども提案されていたが、これは同学会再建準備会ではなく有志で開催された。

## <財政闘争>

無期停学中の学費徴収という攻撃には、街宣を中心とするカンパ集めによって反撃した。今期は主に口座への振り込みとくまのまつりでのカンパに支えられ、9月末に迫っていた2学生の除籍を回避できた。3月末には再び2学生の除籍が迫っており、財政闘争のさらなる強化が求められる（12月12日現在、全処対口座の残高は206,190円である）。

費目	予算 (円)	収入 (円)	支出小計 (円)	支出内訳 (円)	備考
自治会会計 より		100,000			

集会・交流会費用	60,000		68,141		
・処分局新歓				7,720	飲食物代
・処分問題学習会				3,899	飲食物代
・法大闘争学習会				7,890	飲食物代
・12月集会打ち上げ		3,741		31,822	収入はカンパで補填した額
・12月集会資材				16,810	マスク、笛、ポール、トラメガ用電池、マイク、ガスボンベ、のぼり生地
講師交通費	30,000		3,500		法大闘争学習会
ビラなど広報費	10,000		32,100		カラービラに加えA4モノクロでのビラ配布も行ったため例年に比べ支出が増えた
・12月集会ビラ印刷用紙				17,260	
・12月集会カラービラ				14,840	
計	100,000	103,741	103,741		

## 国際交流局

### 0. はじめに

国際交流局は、今期秋入寮の留学生を対象としてサポート体制を整備し、さらに寮生と寮内外の留学生との交流や、熊野寮という選択肢の寮外への発信を目的として活動した。秋入寮では英語の入寮資料を作成し、面接当日に配布した。

さらに、CLUB KUMANOで自治寮のおかれる状況について周知し、被処分者の学費支援カンパを集めた。集まった総額65,500円を対処分戦略推進局に提出した。

また、11月には同じ京大の自治寮である吉田寮の部局と連携し、吉田寮食堂にてCLUB YOSHIXKUMAを開催した。スタッフの多くをCLUB KUMANO運営陣で支え、参加客が400名を超える大規模企画が成功した。吉田寮との協力体制についても構築を進めたい。

### 1. 各種取り組みについて

#### [入寮面接のサポート]

留学生に対する英語面接や秋入寮募集期間から外れた期間における特別措置は実施されなかった。

#### [留学生の入寮手続きサポート]

英語の入寮資料を作成し、面接当日に配布した。CLUB KUMANO等の企画で入寮募集の宣伝を行なった。

[維持費支払いにおける留学生サポート]

維持費の支払いが滞り、長期滞納者としてリストアップされた留学生に連絡を取り、支払いを呼びかける体制はこれまで通り維持した。

2. 開催した交流イベントについて  
以下の日程で交流コンパを企画した。

- 7/2(土)国際料理×ミュージックPUB KUMANO
- 7/29(金)CLUB KUMANO
- 8/27(土)CLUB KUMANO
- 10/14(金)CLUB KUMANO
- 11/21(月)CLUB YOSHIxKUMA
- 11/26(土)寮祭企画 耐久CLUB KUMANO

4. 本局の目的と課題

最後に、改めて国際交流局の開催するコンパの意義、課題、具体策について議論した内容を以下に示す。

[国際交流]

これまで触れてこなかった文化や人間について理解する環境を整えることは、多種多様な人間で構成された集団を維持するための取り組みとして大切だ。日本人学生は文化的に馴染みがないために理解しづらい点があるかも知れないが、ナイトクラブイベントは海外においては学校が新生入生に対して公式に開催するほど一般的な役割を担っている。寮生からの国際交流コンパへの参加も20名～40名の参加が安定して実現しており、取り組みは少しずつ浸透していると言えそうだ。

[コンパの多様化]

普段の寮のコンパでは参加する人間がある程度固定されていたり、また既定のコンパの形式には参加しにくさを感じる寮生がいるために、コンパの形式を工夫にしようという議論が定期的に起きる。多様なコンパを起点にして、まだ表に出て来ていない寮生と合流し、寮自治を盛り上げることに国際交流局は取り組みたい。

[広報]

熊野寮を知る前にCLUB KUMANOを知ったという人がおり、国際交流局の活動はこれまで手の届かなかった層へのフックとして機能し始めている。さらに、ただ参加者を客と呼ぶのではなく、熊野寮への帰属意識を持ってもらえるよう工夫も進んでいる。薄く広い陣形ではなく、濃く強い陣形を作りつつ支援者の増加に取り組み、国際交流局の取り組みをきっかけに廃寮化攻撃などの諸問題に関心を持ってくれる人間を増やしていくことに挑戦したい。

[課題]

これまで、企画では苦情0件の達成を続けていたが、10月のCLUB KUMANOでは近隣からの苦情が発生してしまった。B4に低音が回り込みして音が漏れ聞こえていること、食堂裏や喫煙所に人が滞留してしまうことが問題として指摘されている。防音器具の設置、出入り口付近に鉄線や紐、ビニールシートを設置するなどして人間を誘導し、騒音を防止できるように来期に対策を進めたい。また、企画中の食堂スペースの扱いなどについても議論をする必要がある。

11月のCLUB KUMANOでは治安整備がある程度成功し、大きな問題は生じなかったと考えている。しかし、当日は同時に各種の寮祭企画が行われている日であり、数件の苦情電話受け、局員が口頭にて謝罪した。

また、コンパ企画以外の留学生サポートの構想も具体的に進めていきたい。

項目	収入 (円)	支出 (円)
自治会会計より	50,000	
カンパ	1,485	
食材、ドリンク		50,532
容器、プラスチックカップ等		953
合計	51,485	51,485

## 地域連帯局

### ・地域獲得の意識

97期からの渉外局と、それ以前のSCが取り組んでいた地域（町内会から左京区規模まで）との関係づくりを継承する局として今期も地域連帯に取り組んだ。

連帯の対象として、近場から言えば寮裏の聖護院幼稚園、川東学区の自治連合会（町内会）、2010年にくまのまつりの前身である「熊野聖護院まつり」を発起した地元の商店主の人達、さらには左京区内でイベントを催している数々の団体、などが挙げられる。

### ・左京区内のイベントとの絡み

今期は10月に集中する様々なイベントに参加し、新たな連帯の足がかりを掴んだ。

外部イベントへの参画はすべて「くまのまつり」に繋げる意識で進めた。イベント企画者、出店者、出演者など外部イベントでいろんな人と関わる中で人脈をつくり、この人脈がくまのまつりに参加してもらう、宣伝協力をしてもらう、機材協力をしてもらう、出店・出演に興味ありそうな人を紹介してもらう、など、くまのまつりの連帯の輪の拡大に繋がった。

参加したイベントの概要は以下。

#### ①10月9日（日）おむすび祭 omusubi sai @吉田神社 11:00-15:00

・会場設営（テント、テーブル、畳の貸し出し）、スーパーボールすくい店番、会場解体、打上げに参加

《イチ押しポイント》飲食店経営者を含む地元の幼馴染の人たちでつくる地域密着型イベントの立ち上げ。のちにくまの秋まつりに「おむすび祭」として出店してもらった。

#### ②10月15日（土）市民活動センターと町内会が主催の「かもがわデルタフェス」@出町柳 養正希望の広場 13:00-20:30

・KMN48、アコースティック1組出演。タテカンWSも参加。

・会場設営、本番中は秋まつり宣伝物販、会場解体

《イチ押しポイント》提灯や盆踊りの音頭取りの人たちはここからの伝手。既に大いにお世話になっているので義理を通しつつ、盆踊りを楽しみ、参考となるまつりのエッセンスを吸収した。

#### ③10月23日（日）田中神社で三十年ぶりだかの盆踊り大会

・タテカンWSでの参加。

《イチ押しポイント》熊野寮生まれの孔雀在住。

④10月30日（日） 左京ワンダーの「紵の森ワンダーマーケット」

左京区の一大イベントとのお付き合いとして参加。くまのまつり参加店も多いので、よい挨拶の機会でもあった。

・会場内のゴミ箱管理、物販・まつり宣伝ブースで出店

・くまのまつりの立ち上げ直し完了

春に続き、夏と秋のまつり復活を完了した。

夏は2回目の開催であり、第1回よりも出店、出演ともに充実した内容となった。3時間続く盆踊りは圧巻であったほか、3年前にはなかった寮生による子供向け企画も多く出揃い、家族連れ層と寮生とのよい交流が生まれただろう。夏休みで寮生が参加しにくいまつりでもあるので、これほど多くの寮生がまつりに位置づいてくれたことに感謝したい。来年は2日間の開催を目指したい。

秋はイベントの季節なのでそもそも集客が困難な時期ではあるが、それでも1日目だけで1000人を超える来場があったことは誇って良い成果である。2日目は雨の中で非常に厳しい状況であったが、出店側には開始時間帯を無理なく遅めるように意思一致をしつつ、なんとか開催にこじつけた。夕方には会場が一体となる盆踊りが無事開催され、関係者、来場者みんなが報われた思いであっただろう。

一方で、自治発信の体制強化、ポスティングなどを通じた近隣への苦情対応（顔の見える関係づくり）など10年来の課題がいまだに残されていることは肝に銘じたい。この課題を乗り越えずしてまつり、寮の発展はない。

・東竹屋町町内会との関係構築

2021年度より寮自治会として3人分の町内会費を払い、町内会に正式に加入している。

前期から継続して町内会新聞の配布手伝い、ゴミ回収の手伝い、川東自治連合会（川東学区の町内会連合体）の集会所を会場とする寺子屋企画「KUMAN」の共同開催を通して町内会との良好な関係が構築されてきた。

・収支内訳

局には会計が存在せず、経費はSC会計からの直接支出である。決算処理についてはSC総括決算表を確認するものとし、ここでは収支内訳を掲載する。

項目	収入	支出	内訳	金額	備考
自治会会計より	¥445,000				
夏まつりお店カンパ	¥18,000				
秋まつりお店カンパ	¥34,000				
夏秋まつり・ワークショップ		¥408,204	夏まつりチラシ印刷費	¥13,830	
			夏まつりポスター印刷費	¥9,480	
			夏まつりブロック企画補助	¥8,577	
			会場設備・装飾雑費	¥40,030	さらし布、針金、結束バン



					ド、蚊除けスプレー等
			夏まつり出演者謝金	¥40,000	
			夏まつりうちわ	¥25,800	
			工具類①	¥56,928	トリマー、サンダー、巻尺、パイプカッター、草刈機等
			やぐらステージ単管・クランプ	¥83,193	
			ハチジェット	¥5,214	
			秋まつりチラシ印刷費	12440	
			秋まつりポスター印刷費	9830	
			秋まつりブロック企画補助	4837	
			処分者スタンプラリー景品ステッカー	16470	
			夏まつり出演者謝金	20000	
			焚き火用薪	30149	
			イベント保険	4730	
			工具類②	24711	電動ドライバー、交換バッテリー
			雑費（物販用小物）	1985	
KUMAN（遊具、交流会費）		¥30,000			
書籍誤売却への補償金		¥45,000			
自治会会計へ返金		¥13,796			
合計	¥497,000	¥497,000			

## 増築建設局

### 1. はじめに

新設置コンテナはコロナ隔離スペースとして活用された。今期の間に17回程度使用され、日数にして約85日間、隔離スペースとしての使用があった。寮内で感染が広まった時には確実に使用できるようになっており、有効な寮のキャパシティとして機能している。さらに、エアコン、ベッド、ソファの設置など、使いやすいスペースとしての整備を進めた。本コンテナの管理については安定してきたため、来期では本局の新たな取り組みについて構想を進めたい。

### 2. 具体作業

エアコンからの水漏れがあったため、自力で修理した。現時点ではコンテナ内のバケツに排水する様になっているが、水漏れは直った。コンテナ内に窓から雨が吹き込む問題についても、整備して改善した。

また、SC室に安価に譲り受けてきたエアコンを設置した。夏場は寮生が涼むスペースとして重宝した。

さらに、単管とコンパネを組み合わせた倉庫を設置した。まだ使用には至っていないため、今後整備を進める。

### 3. コロナ隔離キャパとしての使用

今期はコロナの陽性者・濃厚接触者を隔離するためのキャパシティとしてコンテナが本格的に活用された。114期に行なった使用者アンケートでは課題点が多く指摘されたが、今期中に大きく整備を実施し改善した。今後も有効なスペースとして維持したい。

### 4. コンテナの活用について

今期はコロナ隔離キャパとしての運用が主であったが、コンテナにはまだまだ多様な活用方法を見出せると考えている。将来的に居住キャパにするのかなども含めて、コンテナの運用について議論を続けていきたい。

項目	収入（円）	支出（円）	備考
自治会会計より	70,000		予算内訳：エアコン40,000、内装5,000、倉庫25,000
エアコンx2台		23,000	コンテナハウス、SC室
内装		5,846	グラインダーディスク、塗料
倉庫建設		41,154	単管、コンパネ、ビス、木材
合計	70,000	70,000	

## 備蓄局

### <大綱>

備蓄局は、近いうちに日本国内でも食糧危機が起こる可能性が高まってきている今日において、寮として一定量の食料を備蓄する必要があると感じた有志が立ち上げた局です。

設立当初に想定していた危機は、多くの国民が食料を入手することが難しい期間が1ヶ月以上続くレベルでしたが、備蓄の上限量がローリングストックで寮内で消化できる量であることと、なるべく早く全寮のコンセンサスを取る必要があることを考え、10日程度（玄米600kg、缶詰6000缶）の食糧備蓄を目指しています。

しかし現状、厨房との話し合いがうまく行かず、夕食のご飯に備蓄米を使ってもらう約束を結ぶことができていません。なので、今期は備蓄量を減らして様子を見ることとし、玄米150kg、缶詰一箱を試験的に買い、12月中には玄米を事務室で販売し始めるつもりです。

### <今期の振り返り>

春に肥料代やガソリン代が上昇し、物価が一定上昇して以降は、更なる大幅な価格上昇は起きなかったけれど、依然として物価は高いままである。また、日本円の価値が低下している状況は深刻さを増してきている。

身近な生活レベルでは、食糧不足やエネルギー不足で困ることはなかったが、これからこれらの問題が起きる可能性は依然として高いままである。備蓄の必要性を徐々に肌感覚で感じ始めた人も増えてきたのではないかと思う。

#### <活動報告>

- ・最初に購入した玄米を事務室で販売しようとした。しかし、害虫が発生していたため、中止した。原因としては、古米であったことと、十分に密封して管理していなかったことが考えられる。

- ・新たに玄米150kgと缶詰一箱を購入した。また、玄米販売用の米びつも入手し、玄米を事務室で販売するための庶務部とのすり合わせも行った。12月中に販売を開始するつもりである。

- ・ローリングストック量を最大化するために、備蓄しはじめて一年程度経った玄米を、寮食に使ってもらおうと考え、厨房員さんと何度かお話しした。初めの頃は好意的な反応を返してくれ、玄米と白米を分けて保温してくれる方向で話が進んでいたが、結局、炊飯の手間が増えて全体の動きがスムーズに進まなくなることへの懸念から、この話は断られてしまった。

- ・厨房への販売ができないことを考慮すると、コンパで消費したり事務室で販売したりしたとしても、ローリングストックの限界は150kgだと判断し、150kgだけ購入。

- ・設立当初は、非常時には寮生が野菜を自給する必要があると考えて、寮生のために畑で野菜を作る人への支援として、畑支援の予算をつけていた。しかし局員自身が半年間野菜栽培をしてみて、400人分の野菜や芋を寮内で生産することの限界を感じたため、畑支援のための予算は来期からは設けないこととした。

#### <最後に三言>

150kgの玄米を400人で割ると、1人2合強です。気休めにもならないことは一目瞭然！

ローリングストックは損しない備蓄法ですから、皆さん始めてみてください！

生産者と繋がるか、自分も生産者になると安心！

	収入	支出
自治会会計から	880,000	
玄米150Kg		60,000
缶詰一箱		3,016
米びつ		2,000
自治会会計へ返還		814,984
合計	880,000	880,000

## <専門部>

### 文化部

#### 【今期の企画一覧】

恒例企画

- ・七夕コンパ

- ・ 津々浦々コンパ
- ・ 文化部秋新歓
- ・ なすさんまコンパ
- ・ 麻将皇帝戦
- ・ ピザ窯コンパ

持ち込み企画

- ・ NF企画出資
- ・ 寮祭前大掃除
- ・ 介抱学習会
- ・ 運動会
- ・ 民青池大掃除
- ・ 神棚再建

### 【恒例企画を振り返って】

・ 前期と比べ、幸いにも今期は新型コロナウイルスによるコンパの中止は無く、コンパにおいてクラスターが起きることもなかった。

・ 津々浦々コンパでは直前の日程変更や周知不足により参加人数が減ってしまったと思う。長期休暇を挟んでのコンパの準備はより早く始め、また、平日に行う際はその曜日に会議を行う部会に周知しておくことが必要であると感じた。これは来期以降にも引き継ぐ必要がある。

・ コンパの総括議案に書く内容が新入寮生にあまり引き継げなかった。初めて議案を書く人には上回生を1人つかせることを来期以降忘れないようにしたい。

・ ピザ窯コンパの開催時期について、文化部員内でも意見が分かれている為即決出来ないが、来期の新歓期間に行い、今の1回生世代、そして来年の新入寮生に春のピザ窯を体験してもらった上で開催時期の固定された恒例企画にしたいと思う。

### 【持ち込み企画を振り返って】

・ 持ち込み企画の存在や持ち込み方を知らない寮生が多いのか、今期持ち込まれた企画がそれ程多くなかった。

### 【財政について】

・ ピザ窯のように、恒例企画でも予算が過大だと感じた企画予算は来期以降見直していきたい。

### 【音楽室セクションについて】

・ 目次

1. 総論
2. 各論
  - 2-1. ライブについて
  - 2-2. 機材等について
  - 2-3. 新歓
  - 2-4. 機材貸し出し
3. 決算
  1. 総論

まず音楽室利用者会議（以下MUC）の存在意義について述べる。MUCの存在意義は表現活動の場を提供すること、音楽の力で団結を拡大することである。前者は寮の文化形成のために必要で、音楽室の管理やライブ運営によって達成される。特に重要なのは後者の団結の拡大

である。MUCに所属する人数を増やしその中で団結するだけでなく、ライブによって全寮生、さらには寮外とも繋がることができることがMUCの強みである。

さて、114期では方針として掲げたライブを寮外に開けたものにすることはできなかったといえるだろう。それはそもそもMUCの寮外連帯の基盤が薄いからである。しかし各ライブ、特に寮祭ライブの盛り上がり方はすさまじかった。さらにどのライブでも設営・撤収に下回生、特に一回生が多く来てくれ機材知識の引継ぎもできた。したがって114期はMUC内の力が強力になり、かつ寮内の団結にも113期以上に役に立てた期だったと総括できるだろう。

## 2. 各論

### 2-1. ライブについて

8月に夏フェスライブとくまの夏の夜祭りでのライブ、9月に水上ライブ、10月にハロウィンライブ、11月にくまの秋祭りでのライブ、また寮祭期間中に寮祭ライブを行った。詳しくは各総括を見てほしい。

また過去に行ったライブの映像が以下にまとめられているので、見て楽しそうだなと思ったらぜひライブにも足を運んでほしい。

<https://docs.google.com/spreadsheets/d/1-hU-bMhvgEb7SQdgMdRuc6p58H0lsmyaSFNS5xpzCa4/edit?usp=sharing> (※リンクの転載・寮外共有禁止)

今期のライブではMUC騒音対策の杜撰さが露呈した。夏フェスライブでは近隣住民に騒音周知のビラに意見集約のためのグーグルフォームを載せて配ったところ、かなり辛辣な意見が集まった。その総括をうまく引き継げずに水上ライブを行い、寮内からも騒音に対する意見が多く集まった。そこで寮祭ライブでは防音対策等をしっかりとやった結果、寮外からの苦情は一つもなかった。この経験を次回以降のライブにも引き継いでいきたい。

最後に。すべてのライブ、特に寮祭ライブでの盛り上がり方はすさまじかった。今期のライブで確認できた音楽による団結を来期以降はさらに拡大していきたい。

### 2-2. 機材等について

壊れていて動作が不安定だったベースアンプやマルチケーブルを買い換えた。なおベースアンプは高額であったため費用は音楽室機材故障等対応積立金から支出した。MUC構成員の私物であるMarshallのアンプは、今期の支出が多かったためまだ買い取れていない。分割払いで購入することを予定している。

また配線についてのマニュアルを作成し、これによってライブの設営・撤収が格段に早くなった。課題となっていた機材の知識の下回生への継承はある程度達成されたはずである。しかし今の状況に満足せず、来期入ってくる新入寮生に対しても知識を継承していく。

### 2-3. 新歓

当初は選挙管理委員会と合同で新歓をやる予定だったが、入寮オリエンテーション前に委員会の新歓をやるとその委員会に人が集まりすぎる恐れがあるためMUC単独で新歓として水上ライブを開催した。水上ライブの総括は過去議案を参照してほしい。

### 2-4. 機材貸し出し

寮祭企画のD棟コンパにマイク等の機材を貸し出した。このコンパ内でライブ自体は物品をとられることなく貫徹できた。

## 3. 決算

決算表については文化部のものを参照してください。また音楽室機材故障対応積立金に関しては114期までに159,174円積み立てられていたが、今期ベースアンプに65,870円支出したので来期に残額の93,304円を繰越します。

MUC機材積立金決算		
113期より繰越	¥139,174	
114期予算より(音楽室機材故障対応費)	¥20,000	

ベースアンプ		¥65,870
来期へ繰越		¥93,304
計	¥159,174	¥159,174

#### 【B地下セクションについて】

今期は以下の方針を立てた。

1. B地下について問題意識のある人がいれば話し合う。
2. 今期は、B201安田、A101中川によりB地下は管理される。
3. 硬鉄庵の使用目的に関しては、政治的及びプライバシーに関する項目が優先される。
4. 私物に関しては、話し合いながら残したり減らしたりしていく。退出時にガサ物は残留させない。
5. ドライエリアは必要に応じて掃除する。
6. 廊下の防火扉は、音楽室利用時には騒音防止のため閉めるよう徹底する

今期も人権擁護部が利用する際や、ライブやCLUB KUMANOや鉄扉コンパなどのイベントが開催される際には、硬鉄庵を開放した。

使いたい人はセクション長に連絡するとした。

また来期のB地下セクションの担当は、B201安田、A101中川となる。

#### 【終わりに】

・部長の仕事軽減、部員間の認知を目的として、部会の時に司会を毎週交代制にした。それにより、普段部会に来ない人が来たり、部員間での認識が増えたと思う。また、下回生が上回生に司会を振ることで年齢関係なく寮生は平等であることを確認できた。部会に出ていた部員にはおそらく平等に仕事を振ることが出来た。部長が色んな談話室に通っていたため、普段部会に出ない部員に仕事を振ることが出来たが、部会LINEグループにいる人数と比べると微小である。部会に出る文化部員が増えるようにしたい。

・去年までは寮にいながらもコンパには参加しなかった寮生が今期から参加し始めたという事例も多かったように思う。活発な1回生が談話室民や部屋の先輩を呼んできてくれたり、文化部員が近くの寮生を誘ってくれていたことによると思うが、嬉しいことである。

#### 【決算】



項目	収入	予算	支出	差額
第113期文化部より繰越	¥351,212			
自治会会計より	¥625,000			
七夕コンパ		¥80,000	¥84,909	¥-4,909
文化部秋新歓		¥25,000	¥18,646	¥6,354
ナス秋刀魚コンパ		¥140,000	¥140,000	¥0
麻将皇帝戦		¥20,000	¥20,000	¥0
スポーツ用費用		¥5,000	¥0	¥5,000
仕事問題検討費		¥6,000	¥5,510	¥490

ピザ窯コンパ		¥60,000	¥25,122	¥34,878
物品購入費		¥40,000	¥0	¥40,000
持ち込み企画		¥300,000	¥170,540	¥129,460
津々浦々コンパ		¥65,000	¥48,604	¥16,396
音楽室整備費		¥100,000	¥54,629	¥45,371
音楽室機材故障対応費		¥20,000	¥20,000	¥0
夏フェスライブ		¥30,000	¥30,000	¥0
秋新歓ライブ		¥30,000	¥30,000	¥0
寮祭ライブ		¥40,000	¥40,000	¥0
くまの夏の夜祭り		¥2,000	¥948	¥1,052
くまの秋祭り		¥2,000	¥0	¥2,000
MUC新歓費		¥10,000	¥10,000	¥0
雑費		¥1,212	¥0	¥1,212
NF出店出資(持ち込み企画)返還	¥60,000			
古本売却	¥12,746			
古本売却手伝いのお礼			¥1,048	
雀皇戦(第113期)清算			¥2,102	
カンパ	¥18,456			
来期へ繰越			¥365,356	
計	¥1,067,414	¥976,212	¥1,067,414	¥277,304

## 炊事部

### 目次

1. 総論
2. 各論
  - 2-1. 喫食数
  - 2-2. 食堂環境
  - 2-3. 会議運営・炊事当番制度の運用
  - 2-4. 寮祭企画
  - 2-5. 寮食人気投票
  - 2-6. 朝食ダービー
  - 2-7. 炊事場清掃
  - 2-8. 統計局
  - 2-9. コロナ対応
  - 2-10. 厨房問題
3. 決算表

## 1. 総論

“食堂は寮食を喫食する場所というだけでなく寮生の交流の場であり、寮自治を実行する上で重要なものである”という理念の下、乖離しがちな寮生と厨房員の間を取り持ち、双方が納得できる食堂運営ができるように努めた。以下、今期で久しぶりに行った施策と起こった諸問題、それに対する取り組みを今後の寮食堂運営のため総括する。

## 2. 各論

### 2-1. 喫食数

毎週の炊事部会ごとに食数を精査し、調整した。後述する寮食人気投票や朝食ダービーなどの企画を行い、食数向上を目指した。しかし、売れ行きが好調だった前期に比べて少し食数が落ちていた。11月末から少しずつ残置数が増えていき喫食数が上がったのは良かった。

### 2-2. 食堂環境

11月はじめごろにヒーターを出し、扇風機をしまった。また、給湯器やレンジの不調に対して新たなものを導入してもらった。椅子に関しても要求中である。

### 2-3. 会議運営・炊事当番制度の運用

毎週火曜日21:30から食堂及びZoom上で会議を行った。

また、各ブロックの炊事部員が炊事当番のシフトを決定し、炊事当番の最中に起きた問題に対しても対応した。

### 2-4. 寮祭企画

炊事部として次の企画を出し、それぞれ炊事部の一回生が主体となって運営した。詳細はそれぞれの企画総括に準ずる。

- ・全寮コンパ
- ・nグラムはかれ
- ・寮食クイズ
- ・ドレッシングまつり
- ・ケーキコンパ

### 2-5. 寮食人気投票

寮生が寮から離れどうしても食数が減ってしまう長期休み直前に、人気のメニューを出し食数の向上を図った。期間は第一投票期間：7/4(日)-7/10(土)、第二投票期間：7/11(日)-7/17(土)の2段階で設けた。新メニューの扱いなどでもたついたことがあったので来期は改善したい。

### 2-6. 朝食ダービー

今期が久しぶりの開催となった企画(3、4期ぶり?)だが、履修登録が確定し日々のルーティンが固まってきた寮生に対し、これを用いて朝寮食をそれに組み込み食数の向上を図った。期間中は朝寮食の食数をいつもより増やしたにも関わらず売り切れるなど中々の盛り上がりを見せた。しかし、朝食ダービー終了後特に食数があまり増えず企画の本旨に添えたとは言えない。また、上位4ブロックと下位5ブロックの喫食数の差が激しく全寮を巻き込めていないという懸念もある。

### 2-7. 炊事場清掃

これも今期が久しぶりの開催となった。111期以前は厨房員を交えて行っていたものであるが、本来の勤務場所以外で怪我をした場合などに困るため、厨房員は参加できないとのこ



とで開催できていなかった。このまま炊事場清掃が廃れることは衛生面などの観点で避けなければならないので、今回は清掃用具だけを厨房から借り、寮生のみで行った。

## 2-8. 統計局

寮食の売れ行きなどを記録し、そのデータをもとに夏休みに分析を行った。今期は主に2022年度前期の半年間のデータを用いた。分析した内容とその結果は以下の通りになった。

- ・月と売り切れ時間の相関関係

→4月は売り切れ時間が早い、他の月に関しては多少のばらつきは見られるがそれぞれのデータがかなり異なっていて月に相関関係があるかと言われると微妙である。

- ・曜日と喫食率の相関関係

→曜日によって喫食率に特に差が出ることはなかった。同じ曜日でもメニューによって喫食率に差が出る。

- ・曜日と売り切れ時間の相関関係

→特に大きな相関はなかった。売り切れ時間は抜けてるところが多かった。

- ・2食メニュー、どちらが結局売れ行きがいいのか

→ご飯の方が売れにくい。ただ、片方にまとめて書いてあることも想定され、本当にご飯が売れにくいのか確実にはわからない。前回と比べてフォーマットを変えて、ちゃんと書いてくれる人が増えた。

- ・廃棄の出る日の傾向、売れ行きがいい日の傾向

→昼・夜共に、4月・5月の売れ行きはよく、6月から悪化していく。廃棄が出た日は6月が一番多かったが、これは売れ行きの落ち込みに対して食数をあまり減らさなかったからだと思われる。

炊事部員のスプレッドシートへの記入漏れがかなり多く、標本数が足りていない項目が多数見られた。毎週の部会でリマインドするなどして、今後も継続してデータを収集していきたい、より正確に調べていきたい。

## 2-9. コロナ対応

今期も前期の基本方針は継続し、コロナウイルス感染症罹患者および体調不良者に対してのみ炊事部員が運搬を行った。炊事部長が感染者及び隔離者の把握ができておらず運搬が円滑に行えなかった期間があった。厚生部やコロナ対策グループとの連携を大事にし、寮食にアクセスしやすい環境を作っていくべきであった。

## 2-10. 厨房問題

今期大きく3つ大きな問題があった。それぞれについて総括していく。

### 2-10-1. 食堂運営会総会への当局の踏み込み

まず食堂運営会と、その発足の経緯についての詳細は20220705BLKでの“食堂運営会について【周知・議論】”を参考にしてほしい。

長らく食堂運営会に関して当局側からの踏み込みが無かった。前期も通常通り6月18日(土)、寮生大会採決終了後に食堂運営会の総会を行った。しかし、その際に提示した資料に誤り(議決内容に直接の関係はない)があったことと、当時副学長かつ食堂運営会会長であった村中孝史氏より議題の提起があったことにより、7月20日(水)22:00から再度総会を開く運びとなった。これに対して、メールの確認を怠り初動が遅れたことと、長らく形骸化していた食堂運営会総会についての引き継ぎが炊事部内でうまく取れていなかったことなどもあり対応が後手に回ってしまった。だが、この件で食堂運営会についての認識が炊事部内及び全寮規模で改められたこともあり、良い機会であったとも言える。

### 2-10-2. 厨房員の退職と後任の補充

厨房員のSさんが8月いっぱいで退職された。その後任としてS'さんが9月から勤務されることになり、炊事部員とSC合わせて3名で面談を行い、熊野寮がどういうところであるか、や厨房と寮生とのこれまでの関係などを説明した。

またその後、Fさんが12月いっぱいで退職されるということで前回から募集していた枠と含めて厚生課の方に求人募集を要求した。来期の1月から後任の補充が来るまで厨房バイトを運用して恒久的に寮食提供ができる環境を維持していきたい。

### 3. 決算表。単位は円。

	予算	収入	支出
第113期から繰越		112,763	
自治会会計より		120,000	
部会新歓	15,000		14,965
朝食ダービー	15,000		14,805
全寮コンパ	150,000		142,055
ケーキコンパ	30,000		29,779
ドレッシングまつり	10,000		3,885
ngはかれ	1,500		2,570
寮食クイズ	1,500		1,260
雑費（ネズミ・虫対策）	9,763		0
第115期への繰越			23,444
合計	232,763	232,763	232,763

## 庶務部

### 1. 全体としての活動

- ・在寮証明書の発行

在寮証明書が必要な寮生に対して在寮証明書を発行した。

- ・事務室備品管理

事務室の備品の補充を行なった。

- ・事務室に置く雑誌の購入

今期では毎月一冊雑誌を購入した。

- ・事務当番マニュアルの改訂

主に荷物アプリ関連の事について、事務当番マニュアルの内容を一部改めた。

- ・荷物アプリの運用

寮生情報の編集（退寮、部屋移動など）を行った。また、監察・開発者と今後の運用について詰めていった。荷物アプリの安定した継続運用が可能になるように、来期以降も運用システムの確立に努める。

また、荷物アプリPOKKEのタブレットの充電コネクタ部分が接触不良となってしまう運用ができなくなってしまった。そのため二台目として購入したワイヤレス充電可能なfireHD 10 Plusの追加予算請求をした。追加予算請求は情報部と連名で行い、会計は情報部会計で扱った。

#### ・放置自転車の撤去

今期も放置自転車の撤去を行った。以下撤去の流れ。

4月下旬 ビニール紐を自転車に付ける。

5月上旬 ビニール紐がついたままの自転車（放置自転車）をC北に移動する。

6月上旬 C北に移動した自転車をトラロープでくくり明確に隔離する。

7月上旬 大学の施設部を介して放置自転車の盗難照会を始める。

8月上旬 盗難照会が完了する。盗難自転車を警察署に持っていく、その他の放置自転車を撤去する。

放置自転車：78台

うち盗難自転車：1台

放置自転車撤去を実行するにはトラロープで括って一か月程隔離する必要があるが、トラロープで括るのが遅れ、くまのまつりで移動した自転車と放置自転車が混ざる、7月の除草作業で放置自転車のあるが所が除草出来ない等の弊害が生じた。C北に移動したらすぐにトラロープで明確に隔離すべきだった。

また今回78台もの放置自転車があった。放置自転車は駐輪場のキャパを圧迫するうえ、盗難照会に時間と労力を割かれる。不要になった自転車は売るなり、寮内有志によるリユースに協力するなりして各自で処分するように周知する。

#### ・除草作業

今期より業者による除草作業への対応を庶務部が行なった。

7月と10月に業者による除草作業が行われた。

7月は外部の人間が行った。初日に庶務部員が立合い、耕作地の範囲を伝えた。

10月は寮の清掃員である北川さんが行っていた。北川さんは耕作範囲を知っているとのことだった。問題点として、厚生課からの事前通知よりも一日早く作業を始めていた。「日程は変更の可能性がある」との事ではあったが、周知日程が事実と異なる事態になってしまった。

今後の除草作業については、まず北川さんに確認を取り、

北川さんが行う場合は北川さんと日程を確認して周知し、

外部の人が行う場合は事前に耕作地の範囲を確認し、周知、立合いを行うようにする。

## 2. 恒常業務

#### ・自転車整備

毎週の部会前に、白線からはみ出している自転車の位置を直すなどして駐輪場の整備を行った。これは車両などが寮の玄関前を安全に通行できるようにするためのものである。

最近では白線からはみ出す自転車やポールにチェーンを括り付けて停めている自転車（はみ出している自転車がが多い）もあるため対策が必要である。

また、柱等に括り着けられ移動、整備の妨げになっているロードバイクが多いので喫煙所横にロードバイク用スタンドを設置した。その後屋根付きであれば使いたいとの声が数件寄せられたので屋根付き駐輪場内に移動した。

まだ試用段階だが需要があれば増設等を行う予定である。

- ・荷物確認及び転記作業

自転車整備後に、事務室の荷物や荷物アプリへの登録が正しく合致するかをブロックごとに確認した。

- ・各種用紙の補充

今期から各月初めの部会終了後に事務当日誌や短期駐車登録用紙などの用紙の補充を行った。

用紙が不足することが従来より少なくなったので来期以降も継続していきたい。

- ・荷物管理アプリのデータのバックアップ

毎週の部会後に庶務部長に荷物管理アプリのデータをSlackで送信しバックアップを行った。

### 3. 新歓について

今年の秋の新歓は入選と合同で行った。以下「庶務部・入選合同新歓」より抜粋

日時：11/2(土) 22時～

場所：食堂

参加人数：約30人

- ・準備

11/1(火)に主な食材の買い出し、11/2(水)に寿司や追加の皿の買い出しを行った。

20時ごろからA1炊事場で餃子の餡を作り始めた。

入選会議後に飲み物を準備した。

- ・当日の様子

庶務部会を21時半から行い、22時から新歓を始められるよう準備した。しかし、寮食が売れ残っていたため、10分ほど開始が遅れた。

22時10分ごろから餃子を作り始めた。

22時40分ごろから自己紹介。

24時ごろには人がまばらになっていたため、片付けを開始した。

24時30分ごろにはあらかた片付けを終えた。

- ・提供した料理

餃子（庶務部）、チーズタッカルビ（B3）、西紅柿炒鶏蛋（向後さん）、その他寿司など

- ・反省点

用意した料理の量が多く、余り気味だった。

### 4. 決算表

下の表を参照。

	収入	支出	第114期予算
113期からの繰り越し	¥45,180		
自治会会計より	¥15,000		
短期駐車料金	¥7,000		
短期駐車料金（自治会会計への返還）		¥7,000	

事務室用品費		¥2,365	¥25,180
駐輪場整備費		¥2,966	¥10,000
書籍費		¥2,734	¥15,000
新歓費		¥14,310	¥10,000
115期へ繰り越し		¥37,805	
合計	¥67,180	¥67,180	¥60,180

## 厚生部

### 【本文】

#### 1. 全体総括

前期に引き続き、恒常業務および新型コロナウイルス感染症対策を行った。

#### 2. コロナ対策総括

##### 2.1. 概観

依然として新型コロナウイルス感染症は蔓延し、我々の日常生活にも影響を及ぼし続けている。しかしワクチンの普及、支援体制の構築、病原体の弱毒化などの要因から社会的に対コロナ戦線が穏やかになっていることは間違いない。今期は従来の方策を踏襲していたが、来期以降は京都市の基準にあわせて対策レベルを引き下げること視野に入れていくべきであろう。

##### 2.2. 具体的な今期での変更点・総括点

- ・政府の基準変更にとり濃厚接触者の隔離期間を最終接触から5日間とし、2,3日目に抗原検査を受け陰性反応が出た場合は3日目に隔離措置を終了するようにした。
- ・京都市の保健所の事業所検査の対象が老人ホームなどに縮小され大学寮は対象から外されたため、濃厚接触者のPCR検査は終了しSCが費用を負担する抗原検査主体に切り替えた。
- ・隔離場所としてSC室、本どころを使用することがあったが、厨房員さんからやめるように要求されたため、使用を停止した。

#### 3. 各部門総括

##### 3.1. 物品補充部門

- ・期初に二種類のゴミ袋を購入した。前期の反省をいかし多めにゴミ袋購入用予算をとった。
- ・部会後に事務室の医薬品の補充を行った。
- ・自主清掃費として各階5,000円（B1は10,000円）を配布した。
- ・前期までの努力の結果、設備修繕・物品補充は正常に実施された。部長が自治会による厚生課への依頼＋守衛による現認→厚生課による業者への依頼、という流れを把握できておらず、こちら側の連絡ミスで滞ることもあったのは反省すべき点である。

##### 3.2. 衛生部門

今秋は時期遅れの台風もなかったため、屋上清掃は行わなかった。

### 3.3. シャワー部門

- ・シャワーカードチャージを原則毎週月・水・金の21:45-22:15に各ブロック厚生部員持ち回りで行った。
- ・新規シャワーカードにシャワー番号を記載したラベルを印刷し添付した。
- ・12/10にシャワー室清掃を行った。今期のシャワー室清掃は1度のみであった。
- ・新規シャワーカードを100枚購入した。購入費としてシャワー局の預金から176,000円を拠出した。

### 4. 新歓

秋入寮者の歓迎を目的とし、情報部と合同で10/13（木）情報部終了後に新歓を食堂で行った。買い出しは13日の午後に行った。お菓子とソフトドリンクと酒を提供した。なお、買い出し担当者の計算が間違っており、足が出た分を雑費から計上したため雑費が予算額以上に支出されてしまった。来期以降は計算間違いに十分注意すべきである。

### 5. 決算

※雑費には113期に使用した5,945円が含まれる

	収入	予算	支出	残額
自治会費	670,000			
113期繰越金	173,826			
A1自主清掃		5,000	4,789	211
A2自主清掃		5,000	4,676	324
A3自主清掃		5,000	3,602	1,398
A4自主清掃		5,000	2,310	2,690
B12自主清掃		15,000	15,000	0
B3自主清掃		5,000	4,991	9
B4自主清掃		5,000	4,963	37
C12自主清掃		10,000	9,994	6
C34自主清掃		10,000	9,796	204
粗大ごみ回収		300,000	172,689	127,311
ゴミ袋購入		400,000	252,500	147,500
シャワー室備品購入費		30,000	13,223	16,777
医薬品等購入費		20,000	8,355	11,645
吐瀉物処理備品購入費		5,000	0	5,000
新歓費		15,000	15,000	0
雑費		8,826	11,144	-2,318

115期へ繰越		0	310,794	-310,794
計	843,826	843,826	843,826	0

以下粗大ごみ回収帳簿		
	収入	支出
粗大ごみ回収費	300,000	
ごみ処理参加者作業費		16,000
ドライバー作業費		28,000
クリーンセンター処分費		25,500
車利用		9,000
道具購入		434
材木処分作業費		10,000
金属ゴミ等処分作業費		60,000
家電リサイクル券		10,796
補助作業費		1,000
資材購入費		3,359
タイヤ・モニター処分作業費		8,600
計		172,689

## 人権擁護部

### 1. はじめに

人権擁護部は、警察や大学当局といった外部権力からの暴力に始まり、災害や寮内事故、さらには寮での共同生活におけるハラスメントに至るまで幅広い問題に対処し、特に弱い立場にある人に寄り添うことで「すべての寮生が不快な思いをせずに生活できるように」という理念を実現するために活動している専門部である。

以上の理念のもと、人権擁護部は、新入寮生オリエンテーションを出発点に継続的な学習会で活発な議論を促すこと、相談受付や防犯・防災態勢の整備によって寮自治会の福利厚生機能を維持・向上させること、家宅搜索や逮捕・勾留による人権侵害に対応すること、などの業務を精力的に行った。

### 2. 部会の運営について

前期に引き続き、「弾圧対策局」「防犯防災局」「ハラスメント対策局」の3つの局及び各々の局長・副局長を設置した。部員を各局に振り分けるという形ではなく、各局の業務領域に関わる学習会の企画・開催を局長中心に進めるなどして、多岐にわたる人権擁護部の業務を分担した。また、月例点検などの恒常業務を各棟持ち回りで行っていくなどして多くの部員に実働を担ってもらい、業務の継承を進めた。上記のような月一程度で定期的に行われる業務の継承を行うことができた一方で、期に1回行われるかどうかといったペースの点検

などの業務は普段からよく仕事を引き受けてくれる前期以前から代り映えしない部員に頼ることになってしまった。この問題の根幹にあるのは、そのような部員以外が部会に参加していない問題があると考え。今期、人権擁護部が恒常的に何らかの業務を抱えている部会というよりは寧ろ有事の行動ができる部会であるという性質を考え、平常業務が少ない7,8月期に部会を隔週開催にしてその分普段あまり部会に顔を見せない部員の定着を図ったが、結果としてこれはその週に部会があるのかどうかということを分かりにくくさせ、失敗に終わった。今後は部会の進行自体の改善を通して顔の分かる部員を増やし、部として有事の対応に当たることができるようにしていきたい。

相談受付については、これまで同様相談アドレス(kumano.jinken@gmail.com)を管理し寮生からの相談や意見を受け付けた。プライバシー保護の観点から、期の初めにパスワードを変更し、113期以前に対応済みの事案に関わるメールは削除した。プライバシーの観点から、投稿された内容は担当者のみが閲覧できるようにし、担当者が誰であるかについては定期的にブロック会議議案等で周知を行った。

### 3. 弾圧対策

#### (1) 家宅捜索への対応

114期中、家宅捜索は行われなかった。家宅捜索への普段からの備えとして、食道北部にサングラスを設置し、定期的に数を確認するなどの管理を行いつつ、キャンパス情宣や各種集会などへの貸し出しなども行った。後述の「ガサ確約学習会」を行うとともに寮祭企画として「ガサ対訓練」を行い、有事の対応について実際の手順を踏みながら確認した。

#### (2) 逮捕弾圧への対応

今期、寮生及び寮関係者が逮捕されることはなかった。今期の方針として、これまでの逮捕弾圧に対する寮内での取り組みをデータベース化し、今後の弾圧に備えるというものを掲げていたが、これは行われなかった。先述の通り7,8月部会の業務がさほど忙しくない時期に部会を隔週開催にしてしまったこともあり、この業務に対して時間を割くことができなかったのが問題であった。

#### (3) 大学当局への対応

近年当局側の強行的な姿勢が際立っている。このような現状に大きく関わっている団交確約引き継ぎ拒否の問題について寮生の理解を深めることを目的として2週連続で「ガサ確約学習会」を行った。

#### (4) 6月22日に発生した不審者来寮事件への対応

次項で述べるように不審者が確認され、当該を警察に引き渡した関係で寮生が川端警察において取り調べを受けたが、ここに厚生課長である道上が入室してくるという事案が発生した。このことについて、人権擁護部がSCと協力して川端警察と厚生課に対して抗議文の提出を行った。

### 4. 防犯・仲裁

#### (1) 不審者・特別来寮者対応

6月22日にA4廊下を徘徊していた不審な人物が確認され、警察を呼び身柄を引き渡す事案が発生した。詳しくは2022年7月20日ブロック会議議案『20220622不審者侵入事件総括』を参照されたい。この議案では触れられていないが、本人が10日ほど前から寮内フリースペースで寝泊りしていたと証言しており、かつ第113期寮生大会中に中庭で睡眠している当該ら



しき人物が確認されている。現状の寮は400人という寮生数と自由に出入りできる構造から、不審人物がいても認識することが困難であるが、特に寮生大会等の機密性の高い会議時には注意してそのような人物の確認をする必要があると考える。

## (2) 各種防犯

寮の防犯のために、居室の合鍵の把握や事務室にある原キーの管理、防犯器具の管理、防犯ブザーの貸し出し、合鍵作成費補助及びその周知を行った。113期に発生した盗難事件を受け、各棟東側の非常口の施錠を徹底する議論を行いダイヤル式のキーボックスを設置する決定をしたが、導入には至らなかった。部会運営の改善を通してスピード感のある問題解決を目指す必要がある。また、学習会等を通じて防犯意識の向上に努め、適切な防犯マニュアルの頒布を目指すという方針を掲げていたが、これも達成されず、部会運営の改善が要求される。

## (3) トラブル仲裁

寮生間でトラブルに対して当事者間や所属ブロック内での解決を促し、当事者同士の話し合いが難しい場合には人権擁護部が代理で話し合いに出向いた。また、当事者のプライバシーに配慮しながら以後同様の事例が生じたときのため、総括・議論した。

# 5. 防災・救護

## (1) 避難訓練・消防訓練

今期は行わなかった。前期113期も行われていないので、有事の対応に困らないよう来期以降体制を検討したい。

## (2) 日常点検

月1回をめぐりに部会で寮内の防災点検を行い、各ブロック単位で避難経路の確保や消防設備のスムーズな使用ができるようにした。点検結果の確認は十分に行われなかったため、今後点検で見つかった問題点を放置しない体制づくりについて検討する必要がある。慣習的に人権擁護部が担当してきた消火器ポンプ・関西電気保安協会点検の立ち合いを今期も行った。

## (3) マニュアル整備・データベース化

今期方針の中でも主に重点を置いていた人権擁護部が受け持ってきたガサ入れやハラスメント、防災防犯などの有事の対応についてのデータベース化であるが、事案の収集の段階で頓挫してしまった。引き続き次期に持ち越す。

## (4) 救護活動

体調不良者や酒類の飲みすぎによる卒倒等の救護活動を行った。介抱学習会を主催し、権擁護部員に限らず寮生全体の意識向上・知識獲得ができた。

## (5) お掃除デー開催

今期は開催しなかった。来期は特に春入寮を控えるため必ず開催したい。

# 6. ハラスメント対策

## (1) 啓発活動及び事後対応

入寮オリエンテーションや学習会を通して、新入寮生・在寮生双方にハラスメント防止や飲酒に関する注意喚起を行った。実際に使用するには至らなかったが、ハラスメントによっ

て寮生活を続けることが困難になった寮生が出る場合や、法的措置が必要となる場合に備え、ハラスメント対応費を設けた。

## (2) 新歓期における相談受付およびハラスメント対策

寮内で起こったトラブル、その他自治会への改善要求をする場として引き続き相談メール(kumano.jinken@gmail.com)を管理し、目安箱を設置した。相談メールの運用については「部会の運営について」に述べた通りである。また新歓期には人権擁護部員を中心に、有志によるハラスメント対策グループを組織し、腕章を付けるなどして誰に相談すればよいのか分かりやすく示した上で、迅速な対応ができるようにし、相談受付やハラスメントに対する事後対応を行った。

## (3) 女子寮生向けハラスメント相談窓口の設置

前期に引き続き、人権擁護部の下部組織として女子寮生向けハラスメント相談窓口を設置した。

詳細は下に示す『第114期女子寮生向けハラスメント相談窓口総括』を参照されたい。

### ・相談への対応

今期、相談窓口経由での相談はなかった。

### ・構成員の拡大、学習

ブロック会議や寮生大会のアピール時間に構成員の募集を行い、今期から一回生が1名が加わった。相談を受ける際の注意点を確認し、構成員間で意見交換を行った。

### ・女子寮生新歓の企画運営

女子寮生新歓の開催目的の継承を円滑にすべく、今期から本セクションの主催とした。これまで予算は文化部持ち込み企画費から出されていたが、今期からは人権擁護部予算より出された。

### ・反省

特に以下の4点について一層の改善をしたい。

#### ① セクション構成員同士のコミュニケーション

構成員同士のお互いの状況の把握が難しかった。精神的に負担がかかることも多いが、守秘義務のため孤独になりやすい。今後は定例会議やカジュアルな集まりを定期的に行い、少しでも精神的な負担がないよう活動していきたい。

#### ② 人権擁護部との連携

人権擁護部との連絡・連携が個人的な繋がりに依存していた。部会時の報告など、組織的かつ確実な連携体制を作っていく必要がある。

#### ③ 外部機関に関する知識

相談者が法的な手段を検討したい場合、法テラスなどの外部機関の情報をある程度持ち、提供できれば、相談者の負担が減らせる。専門家による外部機関に関する情報収集も行っていきたい。

#### ④ 女子寮生新歓

開催目的の説明やハラスメント窓口の周知などが、設立時メンバーの不在のため十分には行われなかった。構成員全員が説明をできるような地盤づくりと、当日の段取り及び役割分担を入念に行っていく必要がある。

## 7. 喫煙所

CLUB KUMANOやくまのまつり開催時には臨時喫煙所の増設を行った。喫煙者会議を開いて、喫煙所が老朽化している問題に対して現状の喫煙所を改修する方向を決定し、来期12月末に実際に作業を行うことを決定した。

## 8. 新歓

新入部員を募集し、部員の親睦を深める新歓コンパを開催する。人権擁護部が組織として存続していくためにも、新入寮生をはじめ若手部員の獲得に力を入れていきたい。

また、女子寮生向けハラスメント相談窓口が女子寮生新歓を主催した。詳細については『女子寮生新歓総括』を参照されたい。

## 9 . 決算

以下の表を参照。

名目	予算（参考）	収入	支出
113期より繰り越し		381,046	
自治会会計より		60,000	
合鍵作成補助費	10,000		0
後期新歓費	25,000		24,733
（うちJK炊事部合同新歓費）	10,000		9,733
（うち女子寮生新歓費）	15,000		15,000
学習会費	25,000		0
耐震対策費	15,000		0
お掃除デー昼食代	10,000		0
弾圧対策費	10,000		1,090
喫煙所整備費	225,000		1,799
ハラスメント対策費	100,000		0
雑費	1,046		0
115期へ繰り越し			413,424
		441,046	441,046

## 情報部

### 部長から

今期は恒常業務外の特別な仕事をする事はなかったが予算の見積もりに失敗し、急な物品の欠損に対応できない事態となった。

### 発信セクション

今期は以下のような活動をした。

1. 熊野寮として出した声明文を熊野寮ホームページに載せた。

2. 熊野寮ホームページに入寮案内や寮内紹介動画コンテンツを追加した。
3. コロナ関連の寮内事情の発信を熊野寮ホームページ上で行った。

#### 監督セクション

以下の業務を実行した。

①情報機器の管理 SCPCや食堂PC、プロジェクターとスクリーンの管理を行った。

②寮生大会の準備

寮生大会の実施にあたり、各種準備

- ・各ブロックからの書記の募集
- ・議事録の画面を食堂に写すための情報機器の設置を行った。

#### 技術セクション

技術セクションは114期に以下の業務を行なった。

##### アプリケーションの保守管理

情報部で作成したアプリケーション（資料システムなど）の不具合等に対処し、保守・管理作業を行なった。

##### 人材の確保

現行の資料システムの引き継ぎを見据えて、技術セクションで資料システムの学習会や技術談話会などを開催した。これは毎週の部会後に行っているもので、来期も継続していく。

名目	収入	予算	決算
113期より繰り越し	20,577		
当初予算	35,000		
修理消耗品費追加予算	35,500		
POKKE追加予算	24,960		
さくらインターネット仮想サーバ代		44,000	43,560
公式メアド代		1,000	1048
新歓費		5,000	3174
POKKEタブレット		24,960	24,960
修理消耗品費		41,077	30,599
115期へ繰り越し		0	12,696
合計	116,037	116,037	116,037

## <特別委員会>

### 入退寮選考委員会

#### 1. 入寮選考総括

##### 1-1. 概括

##### 1-1-1. 実施日時

面接官講習会 9/7(水) 21時半～  
面接 9/9(金)、10(土)、11(日) 10時～12時、13時～17時  
部屋決め会議 9/12(月) 22時～

#### 1-1-2. 結果 表を参照。

### 1-2. 各種総括

#### 1-2-1. 空きキャパシティ調査

7月～8月に2回にわたって空きキャパシティ調査を行った。部屋決め会議の際に、事前の空きキャパシティ調査が不正確であったことが判明した。

これは、調査を2回行うことの意義が入選内で共有されていなかったこと、居住状況をよく把握している人が入選に所属していないブロックがあったこと、調査担当者と入選副委員長との間の連絡に齟齬が生じたことなどが原因と思われる。

今後キャパシティ調査を正確に行っていくために、各ブロックの有識者（キャパシティの状況をよくわかってそうな人）に入選会議に出席してもらう、各ブロックの調査担当者から提出された名簿を副委員長他数名でチェックして申告された空きの数があるかどうか確かめるなどの対策をしていく。

#### 1-2-2. 面接

9/9(金)、10(土)、11(日)に入寮面接を行った。またこの日程で面接を受けることができないために、事前に面接をした人が4人いた。2日目、3日目は面接官の数が足りず、入寮希望者の知り合いや同ブロックの2人による面接を行わざるを得ないことがあった。

1回生の多くが免許合宿で寮にいなかったことや、面接希望者が1日目に集中して2日目以降寮生の意欲が下がってしまったことが原因であると考えられる。

寮生のモチベーションを維持するため、また今回のような例外的な日程での面接を減らすために、入寮面接の日程を現在のように3日連続にするのではなく、バラバラにする（例えば8月末、9月上旬、9月中旬に1日ずつ面接する）ことが提案された。これについては、今後入選内で議論していく。

#### 1-2-3. 部屋決め会議

9/12(月)の22時から男子は食堂、女子は事務室で部屋決め会議を行った。男子の部屋決め会議の途中で事前の空きキャパシティ調査が不正確であることが判明したが、なんとか入寮希望者を全員受け入れることができた。今後このようなことがないよう、空きキャパシティ調査を正確に行っていく。具体的な対策については1-2-1. 空きキャパシティ調査を参照のこと。

#### 1-2-4. 入選用アプリ

面接の受付、当落連絡、及び荷物アプリへの新入寮生の登録を円滑にするため、入寮希望者の情報を管理するアプリを導入した。情報を入力する際に他の人の情報も見ることができてしまうなどの問題点も見つかった。アプリ自体の改善に加えて、運用方法や入力事項なども春入選に向けて議論していく。

#### 1-2-5. 途中入寮希望者

秋入選終了後、途中入寮の申し込みが2名からあった。2人とも受け入れたが、うち1人は諸事情により入寮手続きができなかったため、入寮キャンセルとなった。

### 2. 在寮選考総括

今期は監察委員会から在寮選考被適用者の報告を受けなかった。

### 3. その他

11月中旬に、寮祭実からの要請により寮祭パンフレットを綴じるためのステイプラーを購入した。このステイプラーは入選で管理し、入寮パンフレットや来年度以降の寮祭パンフレットの作成に使用する予定である。

本来、今回のような予め定められていない支出をする場合には、追加予算請求をすべきである。ただ、この時期に追加予算請求議案をブロック会議に出すと、採決が寮生大会の直前になり、ブロック会議で決算や予算を検討することができなくなってしまう可能性がある。そのような場合であっても追加予算請求をするべきものもあるが、ステイプラーは毎年入選で購入しており、当初の方針から大きく外れた予算の使い方とは言えず、総括によって全寮の賛成を得る方が良いという結論に至った。

今回の措置は例外的であり、本来であれば追加予算請求をすべきであることを改めて強調しておく。

### 4. 決算

表を参照。

第114期入寮選考結果			
	男性	女性	合計
空き数	28	17	45
希望者数	28	11	39
キャンセル者数	4	3	7
入寮者数			
	男性	女性	合計
A1	4	0	4
A2	1	0	1
A3	2	0	2
A4	2	3	5
B12	2	2	4
B3	6	3	9
B4	1	0	1
C12	5	0	5
C34	1	0	1
合計	24	8	32

第114期入退寮選考委員会決算表		
項目	収入	支出

自治会会計から	¥40,000	
113期より	¥129,564	
ホッチキス代(寮祭実の請求により追加購入)		¥25,440
ホッチキス代		¥14,584
面接官差し入れ		¥2,343
新歓費		¥11,374
文房具		¥1,279
繰越		¥114,544
計	¥169,564	¥169,564

## 選挙管理委員会

### 目次

1. はじめに
2. 委員会運営
3. 正副常任委員長選挙
4. 寮生大会
5. 物品購入
6. 選管マニュアル
7. 決算

### 本文

#### 1. はじめに

選挙管理委員会は、正副常任委員長選挙と寮生大会の運営を担う委員会である。常任委員長選挙および寮生大会の健全な運営は、全寮生の寮自治への参画を促すものとなる。

第114期では前期で残された問題について、解決案を出し、実践する期であったと言える。前期のノウハウをこのまま引き継ぎ、さらに来期にむけてブラッシュアップしていけるよう、委員長のみならず、選挙管理委員会一丸となって取り組んでいきたい。

今期も円滑な選挙運営、及び問題解決を手伝っていただいている寮生の皆さん本当にありがとうございます。

#### 2. 委員会運営

##### 2-1 恒常会議

月曜21時から食堂で委員会会議を開催した。寮生大会終了後に寮生大会の総括をおこない、以降7月まで規則の見直しや反省について議論した。その後しばしの夏休みをとり、夏休み明けから再び会議を開き、正副常任委員長選挙や寮生大会に関わる業務を進めていった。

##### 2-2 新歓

選管と同じく月曜日に会議を開催している文化部と合同で新歓を行った。今期は新歓用の予算をとった。新入寮生の希望を聞いて提供する料理を決めた。周知不足が目に見える結果となった点は反省したい。詳しくは、「選管文化部合同新歓総括」を参照してほしい。

### 3. 正副常任委員長選挙

#### 3-1 候補者団募集

10月17日の委員会で立候補者団募集の議案の承認を得て、10月20日のブロック会議に議案を投稿した。また、同内容のポテッカーで周知をした。期限までに2組の候補者団から立候補があった。公示日にその時点で立候補のあった候補者団を周知した。

今期は立候補受付の後に、候補者団内の人員追加を受け付ける期間を設けた。この間、両候補者団から人員の追加があったが、募集期間が短かったこともあり、期限を過ぎての追加があり、少し余裕のない運営になってしまった。以後気を付けたい。

#### 3-2 立会演説会

11月9日の21時から食堂とズーム上で立会演説会を行った。開催の周知は周知さんを用いた。司会と書記は選挙管理委員が担当した。はじめに各候補者団構成員の自己紹介をしてもらい、そのあと方針の説明、質疑応答と続いた。特に問題なく、24時頃には終わったが、書記は2人で、休憩時間も少なく、担当した寮生に対して負担を強いてしまった。来期以降は各候補者団と相談の上、厳密にタイムテーブルを作成する。さらに当日、全体に共有し、参加者にとって負担の少ない会の運営を目指していく。

#### 3-3 投票

##### 3-3-1 投票準備

投票準備には前期のやり方を踏襲した。監察委員会から寮生名簿を借り、最新の寮生の総数・休寮者数を数え、定足数を計算した。選択肢にそれぞれの候補者団を信任する、どちらも信任しないと書いた投票用紙をつくり印刷した。投票用紙には庶務部長から借りた自治会印を捺した。自治会印の電子印章をつくり、投票用紙の捺印業務を簡易化しようとしたが、選挙に間に合わせることができなかった。電子印章の作成業務については来期に引き継ぐ。また、投票用紙の候補者の配置を変えるなど、不規則にするべきという案も出たので、これも来期に引き継ぐ。

##### 3-3-2 投票受付

11月15日から11月19日まで、12:15～13:00、18:30～22:00の時間帯で食堂にて投票受付を行った。11月19日は本来予備日であったが、前日18日の時点で定足数に不安があったため投票期間を延期することとした。投票所のそばに正しい投票用紙の書き方を記した紙をおき、無効票の数が減るよう努力した。また、選管を介した代理投票を受け付けた。

部屋周りについては委員長として主導が出来ず、各ブロックや個人に委ねる形となってしまった。委員会として分担した部屋周りができるよう、来期は取り組んでいく。

##### 3-3-3 開票

開票は11月21日の選挙管理委員会会議後に行われた。無効票も少なく余裕を持って定足数を満たすことができた。選挙結果は開票後すぐポテッカーで全寮に周知した。余った投票用紙や寮生名簿は焼却処分した。

#### 3-4 そのほか

候補者団のマニフェスト共有に関して、全寮ラインを用いることなく、談話室と周知さん、資料システムのみでの周知とした。しかし、片付けについての周知不足から、マニフェストがのちに散乱していたとの指摘を受けたため、マニフェストの回収についても今後徹底していく。また、選挙に関する資料は資料システムで閲覧できるようにした。

### 4. 寮生大会



#### 4-1 前期寮生大会

2022年6月18日に行われた寮生大会について今期の初めに総括案をブロック会議に提出した。選管では6月20日の会議にて寮生大会を振り返る会を行い、寮生の記憶の新しいうちにブロック会議にも議案を提出して意見を集めた。

#### 4-2 今期寮生大会

2022年12月17日に食堂で原則対面開催の予定である。また、今期は原則オンラインは認めず、事情がある場合のみ寮内でのオンライン参加のみ認める予定である。これは、コロナも収束しつつあり、セキュリティの安全面からも、オンラインを継続する必要性がないという考えからの方針である。大会当日の業務については115期で総括をする予定である。また、来期以降で、今後の寮生大会の日程を土曜日昼開催にする特別決議案を出し、次回以降の寮生大会で採決する予定である。

#### 4-3欠席理由書およびオンライン参加申請書

今期は、前期に引き続き、明文化した判断基準に従い、申請の受理棄却を行った。

#### 5. 物品購入

今期は特に物品を購入しなかった。

#### 6. 選管マニュアル

前期に選管の恒常的な業務について、引継ぎを確実にを行うためマニュアルを作成した。今期も追加事項を記入し、今後も選管内で扱い精査、改編していくものである。

#### 7. 決算

決算は下表。

	収入（円）	支出（円）
自治会会計より	10,000	
新歓費		9,957
自治会会計に返還		43
合計	10,000	10,000

## 監察委員会

#### 114期監察委員会の行った業務

##### 1. 通常業務

- ・毎月の維持費支払いチェック
- ・各部会委員会、自治会予算、食堂関係費の寮生大会前の会計監査
- ・維持費滞納者に対する督促、橙食券販売の制限
- ・高額維持費滞納者に対する在寮選考の告知、橙食券販売の制限
- ・休寮申請の審査および結果の通知

##### 2. 維持費在選システムの運営

- ・維持費在選システムを運用した。

### 3. 維持費在選システムの周知

- ・入退寮選考委員会への維持費滞納者情報提供等の業務提携
- ・寮生に対する維持費在選システム、維持費免除規定の周知、新入寮生に配布された「生活マニュアル」への、維持費支払いと維持費在選システムに係る項の掲載

### 4. 休寮申請制度について

- ・委員会内で休寮の基準を今までの事例に基づいて再確認している。なお、この確認作業は現行の休寮制度を変更するものではない。
- ・113期に行われた休寮制度に関する議論を精査した結果、上記の作業を行うことにした。

### 5. 振り込みシステム

- ・113期に引き続き、維持費の振り込み支払いシステムを運用

### 6. 全寮寮生名簿の管理

- ・事務室の在寮生名簿の更新
- ・2022年度秋入寮に向けてのキャパシティ調査にあたって、入寮選考委員会へ全寮寮生名簿を提供
- ・115期正副常任委員長選挙にあたって、選挙管理委員会へ全寮寮生名簿を提供

### 7. 自治会財政状況報告 財政状況報告を10月に行った。

### 8. その他 ・予算請求していないので、決算表は存在しない。

## 資料委員会

### 1. 恒常業務について

資料委員会の構成員により、以下の業務を行った。

- ・ブロック会議資料のチェック、編集、印刷
- ・ブロック会議議事録の校正、保存 ・自治会業務に用いるための印刷用紙やインクの補充、並びに印刷機(オルフィス)、シュレッターの管理
- ・ブロック会議資料システム関連のバグやトラブルがあったときの情報部への対応の依頼
- ・資料委員会が補充、管理する物品を自治会用途以外で使用しない旨の注意喚起
- ・ブロック会議の議案投稿についての注意喚起

### 2. 特筆すべきこと

- ・オルフィスが故障したためメーカーに依頼して修理した。

### 3. 決算表

以下の決算表の通り。

※1 インク代の支出が予算を大幅に上回ってしまった。本来であれば追加予算請求をすべきところだが、会計監査後に発覚したため印刷機積立金から一時的に補填した(※2)。補填分は来期の印刷機積立金に上乗せして請求する。今後このようなことが無いよう、支出する際は必ず予算を確認し、上回る場合は追加予算請求を徹底する。

第114期決算				
	収入(円)	支出(円)	114期予算(円)	

第113期から繰越	140,473			
銀行預金利息	5			
自治会会計より	250,000			
コピー用紙代		14,646	34,449	
インク代		294,800	147,400	※1
雑費			8,624	
印刷費積立金		80,000	200,000	※2
振込手数料		660		
第115期への繰越		372		
合計	390,478	390,478	390,473	

印刷費積立金		
	収入(円)	支出(円)
第113期から繰越	900,000	
第114期の積立	80,000	
第115期への繰越		980,000
合計	980,000	980,000

## 居住理由判定委員会

第114期居住理由判定委員会は、制度に則り、以下の業務を行った。

- ・前期の学籍証明書提出期間に書類を提出していなかった寮生から、引き続き学籍確認書類を回収した。
- ・学籍喪失推定者を確定させ、当該寮生の居住理由を判定するための各棟委員会開催の準備を行なった。今後、今年度中に各棟委員会を開催し、判定を終了する。

なお、前期からの進捗報告として、現在の各ブロックのa)居住理由喪失推定者数（つまり学籍確認書類をまだ出していない人）、及び、b)居住理由喪失推定者の内、おそらく学籍を保有しているが、未だ学籍確認書類等を提出していない人の数を下記の表に示す。

以上

## 熊野寮祭実行委員会総括案

責ごとに文責が異なります。その都合上、総括形式・文体等も責ごとに異なりますがご了承ください。

## 1. 全体総括

前年度寮祭実行委員会の主催によって7月9日に行われた寮祭説明会兼寮祭実立ち上げ会において、寮祭と各責の仕事内容についての説明を受けた後、実行委員長1名、副実行委員長4名、会計責1名、企画責3名、広告責3名、パンフ責3名、記録責3名、広報責3名、グッズ責2名、タテカン責2名を選任し、また前年度の寮祭実新たに新設された渉外責に1名、デザイン責に1名、人権擁護責に4名、クラファン責に2名を選任(責を掛け持ちする者もいて重複あり)。その他16名を平実行委員として、新入寮生総勢39名による2022年度熊野寮祭実行委員会(以下、寮祭実と示す)が発足した。会議を経るごとに新たな実行委員も増え、web責に1名、コロナ対策責に1名、デザイン責に新たに2名が追加選任された。

### 1.1 全体会議

例年と同様、夏休み前、夏休み中は不定期に、夏休み後は週1回のペースで、寮祭後にも1回、計12回の全体会議(以下、会議と示す)を行い、毎回20～30人ほどの実行委員が参加してくれた。会議内では、各責が進捗報告を行った後、取り上げたい議題を話し合った。初期の段階で、会議は毎週土曜開催を基本方針としたが、全寮規模のイベントが重なることが多く、日曜開催のほうが多かった。お祭り感を演出するために司会を務めた実行委員長は前年度委員長から引き継いだ法被を着用し、会議は一本締めで締めた。11月に入ってからには司会を副実行委員長にも回したり、委員の発言のしやすさを担保するために書記を上回生に頼んだりもした。「誰も置いておかない寮祭実、会議にたくさん人が来る寮祭実」を正副実行委員長が方針としたことから、会議は毎回1時間～1時間半程度と長引かないようにし、委員に来てもらうために会議中にお菓子等を提供し、会議後にGoogleフォームを使った会議のアンケートに回答してもらうことで、よりよい会議運営を目指した。しかし、会議を構成する委員間の会議に対する意欲の乖離があり、議題についてじっくりと話し合う場としては機能せず、最終的には報告会のような雰囲気となった。寮祭・寮祭実についてじっくりと議論する場としては下記の通り、正副実行委員長会議が機能した。

### 1.2 正副実行委員長会議

よりよい会議運営のため、会議内容を打ち合わせたり、長引きそうな議題について事前に検討するための場として、正副実行委員長の都合のつく日時に、週1回のペースで正副実行委員長会議(以下、正副会議と示す)を行った。当初は正副実行委員長の参加のみで開催していたが、「正副会議、正副実行委員長に閉ざされたイメージがある」「正副実行委員長だけで全てが決められてしまっている感がある」という指摘が寮祭実内から挙がったため、有志は参加できる形態にしたり、議事録も下記の寮祭実LINEグループに共有したりと、開かれたものにした。寮祭・寮祭実についてじっくりと話し合う場として機能したが、会議内容の打合せ等の当初の目的は薄れてしまった。

### 1.3 平実行委員

上記の通り、責に所属してはいないが会議には参加してくれる人を平実行委員(以下、平寮祭実と示す)に任命し、各責(企画責や広告責など)の手伝いに充たってもらった。

### 1.4 コンパ

先ほど述べた「誰も置いておかない寮祭実、会議にたくさん人が来る寮祭実」の方針の下、委員間の仲を深めることを目的に、会議後、積極的にコンパを開催した。毎回多くの委員が参加してくれ、目的は大いに達成できたように思う。また、10月末には前年度実行委員会が1,2回生コンパを開催してくれ、これを機に1,2回生のつながりも深めることができた。

### 1.5 LINEグループ

例年と同様、寮祭実全員が参加するLINEグループを開設し、業務連絡等に活用した。50名が参加した。前年度の寮祭実が活用したSlackは、使える人が少なかったために今年度では使用しなかった。

### 1.6 LINEオープンチャット

前年と同様、寮祭、寮祭実、またたわいもないことについて匿名で気軽に発言できる場を設けるため、寮祭実規模、そして全寮規模の2つのオープンチャットを開設した。多くの人が参加してくれ、有意義なものとなったが、オープンチャット内で出た建設的な意見に対する対応が、匿名だからということで優先度が低くなってしまった。

### 1.7 ビラ、ポスター、パンフ配布

パンフ責が制作したビラやポスターは広告を提供してくれた店に配布した。また、SC主催のキャンパス情宣や3年ぶりに開催されたNFに乗じて、構内に多くのビラやパンフを配布することができた。

### 1.8 寮祭の高校周知について

寮祭を通じて高校生にも熊野寮について知ってもらおうという狙いから周辺高校にチラシ配布を行った。22校に対して電話で打診を行い、18校からチラシ送付の許可を頂いた。動き出しが遅く、チラシの寮到着のタイミングが遅かったこともあって、寮祭開始に送付を間に合わせるためにも、速達にて送付を行った。各高校とは電話でのやり取りのみであり、直接現地に出向くことはしていないため、掲示されていたかどうかは不明。

### 1.9 実力闘争について

今年度の寮祭では総長室突入が行われたが、上記の「誰も置いていかない寮祭実」という方針に照らし合わせた上で、今年度の寮祭実には総長室突入について日程調整でしか関与しないというスタンスをとった。しかし、実力闘争に関心を向ける寮祭実構成員は多く、会議後に寮祭実有志だけで実力闘争について話し合うという場を設けたりしたこともあった。寮祭実としては寮祭初日に前年の「シン・時計台コンパ」の系譜を継ぐ企画として「熊野寮D棟コンパ」を開催した。

### 1.10 謝辞

寮祭実として至らない点は多々あったかと思いますが、今年度の寮祭実の様々な活動に対してご理解とご協力をいただきましてありがとうございました。そして、私たちと一緒に寮祭を最高に盛り上げ、最高に楽しんでくださってありがとうございました。無事に寮祭を貫徹でき、我々寮祭実一同、嬉しい限りでございます。

## 2. 会計責

### I 仕事内容

- ・金庫の管理
- ・予算の振り分け(企画責と共に)
- ・広告費、自治会費等の収入の管理
- ・レシート回収に関するこまめな周知
- ・レシート回収とそれに基づく寮祭関係支出の計算
- ・決算表の作成

### II 仕事の流れ

#### 【寮祭前】

- ・収入を概算し、企画、タテカン、グッズ、パンフのおおまかな予算の枠組みを決めた。
- ・各ブロックの広告担当者にお店に渡す領収書をまとめて渡した。
- ・各人に振り分けられたお店の広告費を回収した。
- ・企画費と共に企画一つ一つに仮予算として振り分けた。
- ・仮予算をグーグルスプレッドシートにまとめたものを各企画者に周知し、変更希望を募った。
- ・変更希望をもとに予算の最終決定を行い、確定版として周知した。
- ・レシートの回収方法及び注意点についてブロック会議やオープンチャットにて周知した。

#### 【寮祭期間中】

- ・回収する時間帯をオープンチャットにて周知して各企画の予算を集めた。

#### 【寮祭後】

- ・回収する時間帯をオープンチャットにて周知して各企画の予算を集めた。
- ・予算の余剰金を計算し、補正予算とし新たにふり分けた。
- ・決算表を作成した。

### Ⅲ反省

#### 【広告費回収について】

- ・各人がお店からもらってきたお金はトラブルの原因になり得るためブロックの広告担当が集めるのではなく、直接自分が受け取ることにした。しかしこれは自分が暇だからできたことであり、忙しい場合は普通にブロックで集めて回収してもいいと思った。
- ・大半は定めた期限内に回収できたのでよかった。

#### 【レシート回収について】

- ・寮祭期間中から回収を行った。オープンチャットにてレシート回収を行う日時を実際に行う1日前に周知した場合と直前に周知した場合とで大きく提出されたレシート数が異なった。寮祭期間中で予定が組みにくいとはいえ早めの周知を徹底するべきだった。
- ・会計自身の体調不良の影響で回収期間を変更せざるを得なかった。

#### 【補正予算について】

- ・予算が当初の予定より多く余ったため補正予算を組んだ。各企画のカンパ額を聞くのを失念しており、補正予算を出す直前になってしまったのはとてもよくなかった。

#### 【その他】

- ・グッズ代は68万円にのぼり個人での建て替えが不可能だったため一時的に金庫のお金を貸し出し、グッズが売れ次第回収した。この行動が企画予算の配布に被らなかったため金庫内のお金が危うくなることはなかった。
- ・2800円の損金を出してしまった。理由として、企画者に予算を渡す際に1000円多く渡してしまったり、途中500円玉が切れて100円玉を多く扱っていた際に多く渡してしまったことが考えられる。これらは全て不注意から生じるものであり、会計としても確認の徹底がなされていなかったと感じる。
- ・例年会計の負担の増大から会計担当者を増やすことが必要なのではないか、との指摘を受けるが、金庫の管理が難しい、との理由から行われなかった。なので、金庫を二つにして会計担当者を二人にすることでそれぞれの担当するお金も明確になり、会計の負担を削減できるのではないか、と思う。

### Ⅳ決算表

監査の承認を得て以下に表を掲載する。

[https://1drv.ms/x/s!AiaJufmI\\_uZ6iCoWh6y2fpqXU7D5](https://1drv.ms/x/s!AiaJufmI_uZ6iCoWh6y2fpqXU7D5)

収入

項目	収入	金額(円)
総収入		1,847,941
昨年度繰越金		158,641
自治会費		350,000
クラウドファンディング		0
寮祭実カンパ		10,000
グッズ収入(合計)		896,300
内訳	項目	
	パーカー	720,000
	ステッカー	4,300
	ジッポ	172,000
広告費(合計)		433,000
内訳	店舗名	
	倫理学研究室	3,000
	シンゴリラ	9,000
	高塚早瀬	9,000
	熊野寮 f 棟	12,000
	aminif	8,000
	シネマ研	3,000
	民青池を見る会	3,000
	全学連	9,000
	安保友里加	3,000
	西村結生	12,000
	野宿野郎	3,000
	レコンキスタ	12,000
	オーガニックゆうき	12,000
	哲学研究会	6,000
	京都を歩く会	9,000
	アラシのキッチン	5,000
	泉輪	3,000
	蛸安	3,000
	或いは『』	13,000
	里の家	3,000
	天寅	3,000

	國田屋酒屋	5,000
	奥村岡田総合法律事務所	7,000
	セブンイレブン京大神宮丸太町店	5,000
	つくねや	5,000
	居酒屋 なみなみ	3,000
	barbar owl	3,000
	中華そば たく味	3,000
	art smith	3,000
	天下一品 銀閣寺店	3,000
	吉田チキン京大前店	3,000
	京大生協 中央食堂	3,000
	ちえるきお	3,000
	平安湯	7,000
	タコとケンタロー	7,000
	セブンイレブン京大吉田近衛店	3,000
	お狩場	3,000
	聖護院 早起き亭うどん	3,000
	ブラウニーブレッド&ベーグルズ	3,000
	チャンダー 丸太町店	10,000
	エル ラティーノ	5,000
	からこ	3,000
	ファミマ 聖護院店	3,000
	栗原接骨院	3,000
	ビッグテン	3,000
	キャトルセゾン	3,000
	リンクス	3,000
	堀場酒店	3,000
	mArk	1,000
	きっちんくじら	3,000
	熊野ワインハウス	5,000
	第一旭 熊野店	3,000
	月と猫	3,000
	日本バプテスト京都協会	1,000
	竹内自動車商会	3,000



	マルフク	3, 000
	わたつね	7, 000
	安本バイクプール	3, 000
	誠光社	3, 000
	ビンタン食堂	5, 000
	ロブスター	4, 000
	屯風	5, 000
	moonstar	5, 000
	ハイライト	3, 000
	隠家	3, 000
	満寿形屋	9, 000
	井上青果店	5, 000
	雀荘zoo	11, 000
	しょうじ	3, 000
	鑫源	5, 000
	長江辺	10, 000
	イーパンツツァイタナカ	1, 000
	しんしんしん	3, 000
	てらこや	3, 000
	雀荘ポッチ	9, 000
	ATN 3	5, 000
	棒野	3, 000
	焼肉 こうの	7, 000
	feel physics	3, 000
	KU1025&京大wiki	12, 000
	宅配クック123	5, 000
	熊野寮広報局	7, 000
	国元商会	9, 000
	ハバットハウス京都	10, 000
	志な乃 本店	0
	POLA 二条店	2, 000

支出

項目		
総支出		1,721,563
ポスター・ビラ代(合計)		63,564
	パンフ表紙代	16,550
	パンフ紙代	32,934
	ポスター、ビラ代	14,080
グッズ調達(合計)		862,422
内訳	用途	
	パーカー	677,534
	ステッカー	9,548
	ジッポ	175,340
会計雑費		394
寮祭実活性化一回生コンパ		32,647
その他(合計)		13,524
内訳	用途	
	情宣にて使用予定、ガムテープ	550
	高校にビラを送る、郵送費	7,500
	高校にビラを送る、雑費	594
	パンフ郵送費	2,080
	損金	2,800
企画(合計)		749,012
内訳	企画名	
	桜Trickオールナイト上映会	1,000
	おそうじ	1,120
	1日1回大文字火床	3,000
	編み込みしよ！	2,000
	数独	731
	クマノヅカ歌劇団	990
	喫茶・軽食クマノ	5,000
	宇宙よりも遠い場所	4,500
	脳みそケーキを食べよう	4,000
	磁器フリスビー	1,100
	スーパー蕪	324
	さいだのサイダー	4,000

	動物園と連帯	1,000
	百万遍牛井RTA	2,000
	理農学部コンパ	12,500
	目覚まし亭	6,000
	たま上映会	2,000
	B地下グラフィティー	10,000
	音楽室ペイント	10,000
	熊野寮D棟コンパ	156,500
	飯テロ耐久	2,400
	無色透明	4,500
	エクストリーム帰寮	62,000
	ビワマスにとって食べる	3,500
	AB棟間綱引き	2,160
	宝塚メイク	6,000
	耐久宝塚上映会	2,000
	熊野人 格付けチェック	2,000
	耳寂しくないか??	3,500
	髪寂しくないか??	3,000
	京都駅大階段グリコ	3,000
	平安湯と連帯	11,210
	第六夜	1,500
	ダサイ食事会	1,000
	学寮コンパ	28,888
	ハマグリのガソリン焼き	21,100
	マッドハニー	10,100
	ドキュメント72時間	7,900
	三遠南信コンパ	5,338
	レビュースタアライト上映会	1,500
	14キロの砂糖水	576
	外山合宿同窓会	4,305
	ポストモダン焼	5,787
	ターザンロープ	12,000
	利き口噛み酒	2,500
	全寮にらめっこトーナメント	1,000

	爪の垢を煎じて飲む	2,000
	民青池ティーパーティー事件	9,982
	バークマ	20,000
	ジブリ野外上映会	4,500
	放課後ファンタジー	2,000
	熊辞雲	1,000
	総長室にピザ10枚送る	1,500
	人間チョコフォンデュ	8,000
	ガサ対訓練	490
	四色問題色塗り	1,000
	部屋番号トランプ	4,497
	北野高校の悪しき伝統	1,298
	大阪市民スタンプラリー	1,000
	三回生新歓	5,500
	中古ポケモン即興バトル	5,000
	リアルスプラトゥーン	418
	本気のドッジボール	980
	京大構内でケイドロ	596
	ハンディキャップ卓球大会	855
	言語再履の人だけで日本語禁止 コンパ	2,586
	ゲテモノコンパ	2,470
	自転車塗装の会	662
	手作り入浴剤で寮祭の疲れを癒 す	2,975
	焼き〇〇	110
	二十日大根、本気を出せば10日 で育つ説	3,210
	エクストリーム献血	13,500
	闇のワカワさん	6,438
	闇鍋VS光鍋	1,688
	ゼロの使い魔上映会	2,500
	鴨川イカダレース2022	11,062
	お茶会	2,181
	ファイヤーストーム	24,715

	シャンパンタワー	27,000
	広告責お礼参り	3,500
	モンエナ作る	2,000
	光のワクワクさん	3,700
	偽物コンパ	8,000
	まえだりょう祭	5,500
	無印の不揃いバウム全部食う	4,000
	復刻にぼ次郎	2,000
	藍染め	19,610
	利き茶、利き水、利きジュース	3,000
	猫になりたい	2,000
	虹になろう！	9,000
	マジカルミライ上映会	1,000
	クッキー☆コンパ	7,000
	ボヘミアン公演	5,000
	吉熊ライブ	2,881
	二回生コンパ	8,500
	この一吸いに命をかけろ！きき タバコ！	1,200
	ワインオセロ	3,888
	ショット麻雀	938
	熊野寮Splatoon3大会	2,838
	鉄扉コンパ	8,500
	コンビニ24時間営業強制	5,900
	四条大運動会	4,000
	京都芸術大学「不和、軋轢」展 示会	5,000
	オフチョベットしたテフをマブ ガットしてリットする	11,000
	焼き畑	7,834
	テラフォーミングマーズ最強決 定戦	2,500
	あたたまり屋	481
収支		126,378

### 3. 企画責

時系列順に仕事別にしたことと反省を書いた。

- ・企画一次募集

7月中に企画一次募集を始めた。7月の寮祭実会議後に企画募集BOXを作り、各談話室・食堂に設置し、企画募集用紙を作成して集めた。さらに、google formを利用してオンラインでの提出も可能にした。募集しているという旨をブロック会議の議案で周知した。また、寮外用募集フォームを作り、寮外生から「企画の運営もやる」、「企画案のみ」の2通りの方法で募集した。締め切りは10月10日に設定した。例年より動き出しが早かった。寮祭実会議の後に箱を作ったり、ポテッカーをつくったのは良かったと思う。企画募集BOXをつくり、企画募集用紙を半分に切るという作業をした後に企画を出していたのは盛り上がっていた。

- ・スローガン集め、決定

寮祭スローガンをあつめました。集めた方法は企画一次募集と同じです。10月10日に締め切って寮祭実内で投票した。「一生心に残る汚点を」になりました。

- ・恒例企画催促

企画一次募集中に行った。毎年一回生が企画者をおこなうものについては寮祭実の会議で募集し、そうでないものは去年の企画者に打診した。去年の企画者に打診するのが遅かった。8月中に終わらせるべきだった。

以下企画一次募集終了後

- ・企画者会議

10月12日と17日に企画一次募集を出した人に対して企画者会議をおこない、企画二次募集のフォームを配り、企画者オープンチャットに入ってもらった。企画者オープンチャットとは企画者への連絡に使うオープンチャットで名前を部屋番号+本名で入ってもらった。また、この会議については、出席しなければ企画二次募集を出せなくて企画を出せなくなるため、周知を徹底した。会議日程をJKと確認しなければならなかったことから思っていたより日程の調整が遅れ、日程が確定したのが遅くなってしまったので全力で周知をしなければならず、大変だった。何事も早く日程を確定させることが大切である。

- ・企画二次募集

一次募集よりも詳しい情報を二次募集として集めた。こちらは、google formのみでの提出にした。この旨もブロック会議で周知した。同時に企画広告画像も集めた。締め切りは10月23日とした。

- ・JKチェック

JKに企画二次募集で集まった企画二次募集の内容を渡し、チェックしてもらった。

- ・タイテ作成

寮祭実の有志で徹夜をして模造紙を用いてタイムテーブルを決めた。みんなで作業をしたので楽しかった。大勢でできる作業は大勢でわいわいすべきである。しかし、この期間に企画責に仕事が集中してしまったため、スプレッドシート等書き起こすことができず、模造紙を写真に撮ってタイテの周知、確認をおこなってしまった。大変見づらいという意見が多く寄せられた。このような手間は惜しまないようにするとともに、役割分担をおこなって疲弊しすぎないようにするべきであった。

以下企画二次募集終了後

- ・予算決め

会計責とともに各企画の予算を決めた。

以下寮祭中から寮祭後

- ・企画総括集め

google formを用いて各企画総括を集めた。寮祭期間中に企画総括を書きたいという意見があったため寮祭期間中にgoogle formを作った。12月9日のブロック会議に間に合わせるために12月7日締め切りにした。

#### 4. 広告責

##### 【活動内容】

- ①ブロックに委託する広告主リストを作成した。(主に飲食店)
- ②twitterで広告を募集した。(主にサークル)
- ③各ブロック代表をきめ、代表の監督の下、ブロックに割り振った分の広告を取りに行ってもらった。
- ④寮生等に広告を出してくれそうなコネを募集した。
- ⑤吉田寮祭のパンフレットの広告主や今出川通や丸太町通の店に広告を出していただけないか打診した。
- ⑥広告が確定したら必要な分の広告を制作を行った。
- ⑦web責と広報責にそれぞれweb広告とtwitter広告の制作を依頼した。
- ⑧仮パンフが完成したあと、各ブロックに仮パンフ確認を委託した。
- ⑨最終パンフが完成したあと、各ブロックに最終パンフを店に届けてもらう作業を委託した。

- ・ 広告の総額は432000円で前年より133000円多かった。

##### 【良かった点】

- ・ 夏休み前から準備をしていたため、ある程度余裕を持って仕事を行うことができた。
- ・ 吉田寮祭のパンフレットの広告主になってくれた店に逐一電話をかけていった。
- ・ 今出川通や丸太町通の店を手当たり次第回った。

##### 【反省点】

- ・ 新規の店が多すぎたせいで広告をつくるのが大変だった。
- ・ 広告確認のぬけもれが2件あった。2件とも印刷が粗く事前に確認する必要があるあった。
- ・ ブロック代表と折衝がうまく行かず締切が守られないことがたびたびあった。
- ・ 領収書や最終パンフ確認など事前につめておくべきだった。
- ・ 広報責やweb責ともっとこまめに連絡を取るべきだった。

#### 5. パンフ責

(文字数多いです。)

2022年度の熊野寮祭実行委員会パンフ責（3名）が担った主な業務は、パンフ製作、ビラ製作、ポスター製作の3点である。本総括ではこれら3つの業務の項目に、その他を加えた以下の4項目に分けて総括する。

##### 目次

1. パンフ製作
  - a. パンフ全体について
  - b. 発行部数について
  - c. 締め切りの設定について
  - d. パンフのコンセプトについて
  - e. フッターネタについて

- f. 印刷について
- g. 寄稿文について
- h. 仮パンフについて
- i. 綴込みについて
- j. 印刷に使用した紙について
- k. 電子パンフレットについて
- 1. 企画画像・広告画像のサイズについて
- 2. ビラ製作
  - a. ビラAについて
  - b. ビラBについて
- 3. ポスター製作
- 4. その他

#### 1. パンフ製作

各作業についての細かい内容は引継ぎとして今年のパンフ責が来年度以降に責任をもって継承することとし、寮祭実全体や全寮関わった業務を中心に総括する。

##### 1-a. パンフ全体について

編集には無料デザインツールCanvaを利用した。Canvaを選択した理由は3人で同時編集ができる点である。Canvaは問題なく利用できた。パンフはおよそ2000部ほど製本し、NFやD棟コンパを初めとする諸企画で頒布し、すべて撒くことができた。今年の寮祭パンフはカラー部分を除き200ページに上る分厚いものとなった。ページ数が多く分厚いパンフは、編集しているときや製本しているときには大変で、ネガティブな印象を持っていたが、パンフを受け取ってくれた人たちが、厚さに驚いたり喜んでくれたりしたことは、大変良かった。

##### 1-b. 発行部数について

NFを考慮して、昨年よりも大幅に発行部数を増やしたが、すべて撒くことができ、特にパンフ不足が問題となることはなかった。NF全学実文責者は出席し、情報収集はできていたものの、NFの規模が想像よりも小さかったため、NFの規模を見誤ったものの、パンフの部数がちょうどよかったという結果になった。また、寮祭企画がSNSでバズるなどして大量の人が寮祭に来ることは、発行部数を決める段階で予想できないので発行部数を事前に決めるよりも、追加で増刷する体制を整えることも重要であった。NFの開催形態が大きく初版発行部数に結びつくので、本物のNFを知っている上回生に聞くことも含め、情報収集は必須である。

##### 1-c. 締め切りの設定について

締め切りは関係する責と直接話し、BL会議の日程等を考慮し、最終的に11/19日より開催されるNFでパンフを配布できるように設定した。夏休みに入る前にすべての締め切りを確定してスケジュールを組んだ。しかし、企画責および広告責の負担を鑑み、8月末に締め切りを延長する方針で再設定した。これによって広告回りの仕事の期間と、印刷・綴込みの期間が短縮されてしまったが、余裕をもってスケジュールを組んでいたため、影響は少なかった。結果的には各責に負担が集中するスケジュールから、寮祭実や寮生に負担が分散するスケジュールに転換できた。それだけでなく、今年は集まった企画数、広告数ともに例年を大きく凌駕しているが、これは各責のパフォーマンスを発揮できるスケジュールに、話し合っ設定できたともいえる（なによりも企画を出してくれた企画者や広告を出してくれた広告主の方々のおかげであることは間違いない）。これらの結果は、締め切りの設定時期が早かったことが功を奏したと考える。また、今年の寮祭実では、パンフ関連で設定した締め切りはすべて守られた。協力してくれた各位にはこの場を借りて感謝したい。



#### 1-d. パンプのコンセプトについて

今年のパンフのコンセプトは「絵日記」であった。理由は面白そうだからである。ページ端の索引を鉛筆と消しゴムにし、企画画像のフォーマットは罫線を入れた。また、企画紹介で手書きの文字の掲載を可能にし、入力の手間の削減と絵日記感の演出をした。フォーマットを無視した提出も含め、おもしろいパンフができたと思う。

#### 1-e. フッターネタについて

フッターネタは、内輪ネタなどの多くの人にとってどうでもいい内容を書く、パンフを読む際の息抜きのものと位置付けて作成に取り組んだ。企画ページのすべてに掲載することを計画し、7/20のBL会議で募集議案を出した。募集は匿名でグーグルフォームで行った。しかしグーグルフォームでの集まりが悪かったため、BL会議の募集は数回で打ち止めにし、企画者会議において企画者に対し、企画に関するフッターネタを集めるなど、フッターネタを出しやすいような募集方法の工夫を行った。フッターネタが集まらなかった原因の一つには、フッターネタ掲載のモチベーションを、募集の際に伝えきれなかったことが挙げられる。最終的には、昨年のパンフのフッターネタも利用し、計画通りに企画ページのすべてにフッターネタを掲載することができた。投稿してくれた方々に感謝したい。

#### 1-f. 印刷について

パンフ印刷は寮の印刷機で行った。印刷予定の紙の枚数は2500部×200ページ÷4で125,000枚であった。パンフのページ数が確定する前に厚生課に紙を80,000枚発注していたが、パンフのページ数が膨らみ、追加で紙を発注したが、結果として寮祭実予算を圧迫してしまった。またインクカートリッジも追加で8個購入したがこちらは資料委員会に購入してもらった。寮祭パンフの印刷が原因で今期の資料委員会の予算のインク代を大きく上回ってしまった点は反省点である。寮祭がある期（偶数期）の資料委員会のインク代については気を配り、資料委員会にも周知していくべきである。

#### 1-g. 寄稿文について

今年の寮祭パンフの寄稿文はくまのまつりに出演してくださっているシンガーソングライターの川口真由美さんに依頼した。くまの夏の夜まつりに出演してくれた際に声をかけ、二つ返事で快諾していただいた。特に問題なく進行し、素敵な寄稿文がパンフに掲載された。

#### 1-h. 仮パンフについて

仮パンフは、企画タイムテーブルの確定とBL会議の日程の都合上、開始時間順に企画を並べることができず、レイアウトの変更を前提としたものになってしまった。拙い仮パンフであったが、多くの助言を各談話室からいただくことができ、本パンフの作成に大いに役立った。協力してくれた寮生各位には感謝したい。

#### 1-i. 綴込みにについて

綴込みは全寮に周知し、2回に分けて開催した。多くの寮生の協力により大量のパンフの綴込みを終えることができた。綴込みに使用したステープラーについて、今年のパンフは50枚であったため、例年使用している入選のステープラーが使えず、新しく入選での議論の上、購入してもらった。パンフのページ数が読めなかったことに起因する問題ではあるが、今回購入したステープラーは壊れやすいものであるため、入選でステープラー用に多めに予算を確保してもらうなどの対策が今後は必要である。また、今年は全部で何部製本したかを管理していなかったが、発行部数は印刷した枚数から算出することが可能であり、あまり必要がないと感じた。それよりも製本したパンフの大量紛失を防ぐことの方が重要である。段ボールに詰めて食堂に積んでいたため、1箱くらい紛失しても分からないが、大量の紛失は確認されなかった。

#### 1-j. 印刷に使用した紙について

厚生課からもらえる紙は白色度が低いので、厚生課の紙は、資料委員会が購入した紙と交換していたという引継ぎを受け、資料委員会に確認したところ、去年は交換していないとのことだったが、実は交換していたことが後ほど分かった。資料委員会とうまく連携が出来なかったことは反省すべきである。しかし、追加購入したしっかりした紙は綴込みの負担が大きかったため、質の低い厚生課の紙を使用することになったことは結果的には良かったといえる。また、厚生課の紙でも特に問題はなかったため、必ずしも資料委員会と交換する必要はない。

#### 1-k. 電子パンフについて

今年はパンフレットのPDFファイルを、電子パンフレットとして利用した。PDFファイルのQRコードをビラとポスターに掲載することで、パンフレットの参照性の拡充に貢献した。電子パンフレットをSNS上に公開することの是非について寮祭実内で議論があったが、パンフがクラウドファンディングの返礼品であったり、パンフ広告とTwitter広告を別で集めていた関係で、クラウドファンディングの支援者や広告主に対する公平性の観点から、電子パンフレットのQRコードは、SNSには掲載しなかった。

#### 1-l. 企画画像・広告画像のサイズについて

企画画像は基本はページの1/4で掲載し、目玉企画や恒例企画を中心に、パンフ責・企画責の独断と偏見を織り交ぜ、パンフ全体のレイアウトも考慮しながら、1/2サイズと1/1サイズも掲載した。1/2サイズは、横長のため別のフォーマットに記入してもらった。広告画像は広告料金にあわせて、1/8、1/4、1/2、1/1サイズを掲載した。ただしレイアウトの関係上、広告料金に対応するサイズよりも大きいサイズで掲載する場合があったが、その際は広告主に確認をとった。

### 2. ビラ製作

今年はビラを2種類作成した。2種類作成した理由は、ビラに載せて広報したい内容が時期により異なっていたためである。以下では白黒のビラとカラーのビラをそれぞれビラA、ビラBとする。

#### 2-a. ビラAについて

こちら無料デザインツールCanvaで編集し、B5の片面白黒で寮の印刷機で印刷した。パンフの製作が本格的に始まる前の余裕がある9～10月に製作した。この時期に製作した目的としては、10/8に予定されていた熊野寮コンパで寮祭の周知をするため、また、製作者がCanvaの操作に慣れるためであった。ビラAでは、幅広い層に寮祭を認知してもらうことを目的として、日程の他に、通常の祭りとは違う寮祭の軽い説明と、集客力のある目玉企画（鴨川いかだレース、エクストリーム帰寮など）の紹介を掲載した。実際に熊野寮コンパに間に合うようにビラAは完成し、予定通り撒くことができた。また製作者がCanvaに慣れることもできた。さらに、このビラの完成度は高かったため、キャンパス情宣などの寮外向けイベントの度に寮祭の周知方法として利用した。

#### 2-b. ビラBについて

B5で表面をカラー印刷、裏面を白黒で作成した。Canvaで編集し、カラー印刷の関係上、印刷は外注した。計画当初は目玉企画の日程やパンフの手引きのような、ビラAよりも詳細な情報を掲載し、カラー印刷を生かしたデザイン重視のビラを想定していたが、詳細な情報はパンフに掲載すればよいと判断し、デザイン性のみでビラAとの差別化を図った。ビラBの作成時期はパンフ責の各々が忙しい時期と重なったため、カラーの表面はポスターと共通のも

のにして省力化した。また、完成度の高かったビラAを少し改良し、ビラBの裏面とした。さらに、電子パンフや寮祭HP、SNSのQRコードを掲載し、得られる情報量をカバーした。予算の関係上、大量には印刷出来なかったため、当初予定していたNFでの配布は諦め、広告を出してくれたお店の店頭に置いてもらうことにした。ポスターの掲示が難しい場合や、今年の厚いパンフを大量に置くことが難しい場合の補完をしてくれた。

### 3. ポスター製作

夏休み明けの寮祭実会議で一昨年はポスターを製作したとの話を聞き、広告を出してくれたお店の店頭に掲示してもらうことによる周知効果を期待して製作を決定した。Canvaで編集し、B3カラーで印刷は外注した。寮祭パーカーの背中のデザインを使わせてもらう予定だったが、パーカーのデザインの完成が遅れたため、ポスターの到着が寮祭開始5日前になってしまった。ポスターの製作が、広告回りの仕事が寮祭直前にずれこんだ一因となってしまった点は反省すべきである。

### 4. その他

ビラとポスターに共通して言えることとして、何を、誰に伝えたいかについて熟考する前に製作することを決定していたため、製作段階で苦労することになった。ビラとポスターの内容は広報戦略の一つとして、寮祭実会議で話し合い、より効果的な広報をする余地があった。

パンフ印刷は寮祭実内でシフトを組んだが、寮祭実のライングループに投下した調整さんへの入力は少なく、インクが足りなくなったことが原因で印刷作業が止まり、シフトはほとんど回らなかった。今年のパンフの印刷予定枚数は125,000枚に上ったが、くまのまつりの時期が重なり、少数の人員に大量の印刷業務が集中してしまった。パンフ責が印刷マニュアルを作成し、分担できる作業にしたはずが、分担できなかった。インクが足りなかった点については大量の印刷の経験がなかったことと、インクカートリッジの残機の確認不足が原因であり、来年以降このような事態が発生しないように引き継いでいく。シフトの提出が少なかった点について、周知は寮祭実会議および寮祭実ラインで繰り返し行い、周知不足の面は少ないと感じている。原因としては各人の忙しさによるものもあるが、積極性の差にもあると思う。寮祭実内の積極性の差と、それによる少数への負担集中、さらにそれが原因となる積極的な寮生とその他の寮生の意識の乖離は、寮祭実にとどまらない寮内の組織運営に関わる課題であり、また実際にパンフ責内でも各個人の都合により仕事量に差が生じ、同様の問題が発生していた。この問題についての認識は来年の寮祭実にも引継ぐ。

最後に、今年のパンフがあらゆる締め切りを超過せず、期限までの完成に漕ぎ付けることができたのは、1. パنف製作でも述べたように、協力してくれた人たちのおかげである。この総括を締めるにあたって、改めて感謝の意を表したい。ありがとうございました。

### 6. 広報責

今回広報責が行った仕事は以下の通りである。

寮祭公式Twitter、寮祭公式インスタグラムでの

- 寮祭企画の事前紹介
- 企画が実際に行われている様子の投稿
- DMの返信
- Twitter広告の投稿
- プレスリリースの送付
- その他

〈寮祭企画の事前紹介〉

事前に企画者のオープンチャットにGoogleフォームのリンクを貼り、企画紹介をする際に気をつけてほしいことなどを書いてもらった。

投稿する際は、投稿用に書いたもののスクリーンショットを広報責のグループLINEに送り、メンバー間で内容を確認しあった。

#### ●改善点

企画紹介の投稿頻度が少なかった。一日に紹介する企画数の目安を決めていなかったことや、InstagramやTwitterで企画紹介をする人間が実質それぞれ一人づつになってしまったことなどが原因かと思われる。

#### 〈企画が実際に行われている様子の投稿〉

企画の様子をTwitterなどのSNSで宣伝した。モザイクをかける、うつる人の許可をとるなど、個人情報に配慮して投稿することができた。

現地の写真を一緒に載せることでより注意を引く投稿ができたと思う。

#### ●改善点

投稿者が参加した企画以外のツイートがあまりできず、ツイート数が伸びなかった。記録責と連携してSNSに載せてもいい写真を募り、投稿者が参加していない企画の投稿もできるようにすればよかった。

#### 〈DMの返信〉

熊野寮祭アカウントのDMにきた問い合わせへの対応を行った。

#### ●改善点

返信が遅くなってしまったことがあった。広報責間で情報を共有しておき、誰でも質問に答えられるようにしておくとうよかったと思う。

#### 〈Twitter広告の投稿〉

広告プランの一つとして設定していた「Twitter広告」の作成・広告打ちを行った。今年の熊野寮祭アカウントの伸びが著しかったこともあり、十分な広告効果はあったのではないかとと思われる。

#### ●改善点

広告責との連携がやや杜撰であった。また、この広告の文面作成・予約投稿も一人で行っていたため負担が集中していたように感じる

#### 〈プレスリリースの送付〉

今年から、新たな試みとしてメディアにプレスリリースとして寮祭の開催概要をまとめた資料を送付した。目的としては、寮祭の存在が普通だったらリークしないような層にリークさせる広報を行うことである。送付したメディアは「朝日新聞」「読売新聞」「京都新聞」「産経新聞」「日経新聞」「京大新聞」である。リアクションは、朝日新聞・京大新聞からきた。

#### ●改善点

そもそもプレスリリースは提案者のキャパシティ的に厳しそうであるという事も合って途中までは実行しない方向で考えていた。その影響もあって、いざ実行しようという段になった際に日程に全く余裕がなくなってしまった。加えて、送付するメディアも上記の7社だけであり非常に少なかった。また、プレスリリースを送った後の先方からのリアクションに対応するシステムが杜撰なものとなっており対応が遅れた。

#### 〈その他〉

寮祭が始まる前に「ハラスメント加害者にならないために」と寮祭ハラ対についてをツイートした。

寮祭期間中も積極的にこれらのツイートをリツイートしたり、余裕があれば新たなツイートをしたりしてハラスメントの防止を徹底すればよりよかったと思う。

京大職員同好会さん（京職同さん）の「反ワクチンvs京大生」についてのツイートがバズったが、連携が取れずこちらからは何もできなかった。また、寮祭webページが開かれていたことが京職同さんに伝わらず、宣伝が遅れてしまった。

熊野寮が学会に広告を出したことについてツイートした。熊野寮祭に興味を持ち熊野寮祭アカウントをフォローした、熊野寮のことをまだあまりよく知らない層に、熊野寮は学会にも広告を出せる寮だということをアピールできた。

## 7. デザイン責

### 仕事内容

寮祭パンフの表紙と、寮祭で出すグッズのデザインを行った。今年デザインしたのはパーカー（またはプルオーバー）とシール、ジッポライター。10月下旬頃には、広告責に頼まれて熊野寮祭のTwitterアカウントのヘッダー部分のロゴをデザインした。デザインの相談については特に行わず、個人製作で進めてもらった。

### 総論

締切（寮祭会議での進捗報告）が近いのにデザイン作成途中の人がいたり、グッズ責とデザイン責のメンバーをまとめたアカウントの運用が遅かったり（思いつかなかった）したが、それ以外は概ね滞りなく進んだ。よかったよかった。

## 8. グッズ責

### ・主な仕事

作るグッズのアンケート調査及び決定  
グッズのデザインをデザインに依頼  
イメージ案と予約フォームの製作  
発注、販売  
クラファンの返礼の製作

### パーカー

今年は普通にパーカーを作ることになった。個人的に厚手のものが良かったので、多少値段が上がるがそうした。そちらの方がサイズの種類が多かった。初めに担当者からデザインをもらいシンプルな仮案を会議に出したがもっと絵がほしいと言われ、結果的に別のデザイン責の絵を追加した。色を最大12色から選べたが、12色を採用したので負担が増えた。予約を取っている途中でプルオーバーがいいという意見が出たが、検討すると可能なので採用した。

### Zippo

パーカーとシールのみでは去年と同じなので、いつもと違うものをグッズにしようと思い、結果人気の高かったZippoにした。気持ちが萎えてあまり周知をせずに予約数が伸びないようにした割には多くの予約があった。担当者の怠慢、多忙により発注が遅れ、受け渡しが遅くなった。周知は周知さんを2回打つのみでだった。予約終了後にzippoを買えないかと打診されたことが2件あった。心苦しいが、未知の需要のためにリソースを振りまくるのも大変だというパーカーの件からの反省で、予約期間の延長はしなかった。

予約自体は大きな負担ではないが、予約数が伸びると受け渡しに積極的に来ない人も増える。お金と予約した商品をその場で交換する方式をとったので、グッズ責側が不利になった。最終的にはこちらから連絡をすることになった。部分的、または全体として前払いにしたり、元から、一定の期間中に取りに来なかったら、別の人に売るとするのも検討してよいと思った。

#### シール

あまり売れなかった。寮祭期間中は主にあたたまりや辺りで無人販売を行ったが、在庫と売れ上げが無茶苦茶だった。大きな損失があったわけではない。3種1枚ずつ、合計3枚で200円だったが無人販売の在庫が種類によってバラバラだった。何かを勘違いして購入した人や、ロビーのどこかに消えた在庫があると考えられる。デザインの的に他の機会でも売れると考えられる。

#### 良かった点

- ・サイズが様々な種類のパーカーを選んだこと。
- ・サイズなどによって値段が異なるがすべて同じ価格で売ったこと。
- ・さまざまな選択肢を提供できた。
- ・直前に生まれた意見を反映させることができた。
- ・販売方法があやふやな割には帳尻があった。

#### 反省点

1. 準備段階で、夏休み前に予定を練らず、夏休み後に始めたので、スケジュールに余裕がなかった。

- ・平行に進む仕事が少なく、グッズ責内で仕事を割り振るのが難しかった。
- ・初期段階から販売のことまでの流れを考えなかった。
- ・グッズの種類、数を増やしすぎて、收拾がつかなくなりかけた。
- ・パーカーの種類が多くなり、1種ごとの発注数が減り、採算が取れない可能性があった。

予約期間の延長と実長副実長の助けによって何とかあった。

- ・販売、配布方法を決定する前に最後の寮祭実会議が終わってしまった。
- ・寮祭期間中にあまり販売しなかった。計画を立てていなかった。
- ・仮案に対する意見をとることを時間的にできないときが多かった。
- ・夏休みが終わってからデザイン責に仕事を投げるが多かった。
- ・パーカーのデザインを最終修正案ではなくその一個前の案で発注してしまった。デザイン責の人と認識の不一致、発注のギリギリまでデザインの期限を延ばしたこと、最終確認をデザイン責の人と一緒に行わなかったこと、などが要因だと考えられる
- ・デザインへの指示、説明が不十分な時が多かった。
- ・計画性がなく利益がほぼ出なかった。
- ・クラファン責の言うことを聞きすぎて負担がかなり増えた。クラファン責に限らず、なるべく意見を取り込もうとして、後の負担が増大した。

2. 販売、配布段階で、準備段階のときに販売、配布までよく考えていなかったのも業務を増やしすぎて販売の途中で想像以上の負担で潰れた。結局、仕事を放棄し、大抵のことは実長副実長あたりがやってくれた。計画的に負担を分散すべきだった。

- ・寮祭実の会議に毎回出ている人には販売を肩代わりできるように説明、指示をすればよかった。
- ・予約されたパーカーの受け渡しをしようとしても寮生は積極的に来てくれるものではないので、途方に暮れて潰れた。食堂でキレて愚痴ってた副実長の人たちが肩代わりしてくれた。予約した人本人や同ブロックの人に直接連絡をすることでなんとかしてくれた。

- ・シールが一部紛失した。
- ・寮外生に売るときに利益を上乗せするのを忘れ、結局予約販売と同じ値段で最後まで販売していた。寮祭の最終日夕方時点では赤字だった。

## 9. 記録責

### 業務内容

- ①寮祭期間前 会議の様子を主に撮影した。
- ②寮祭期間中 各企画の動画撮影や、記録責以外のひとが撮ったものを集めるための記録用のgoogledriveの運営をした。
- ③寮祭期間後 撮った動画を編集して、寮内でのオリエンテーション用とクラウドファンディングの返礼品用の寮祭まとめ動画を作る予定。

### 総論

寮祭前はほかの責の手伝いをしていた。寮祭期間中の動画は情報部とJKのカメラで撮っていたが、ひとつは水没、もうひとつは原因不明の故障により、寮祭後半はスマホで動画を撮ることになった。申し訳ありません。肖像権についても途中で議論が行われた。寮祭後の編集作業はこれから行う予定である。撮った動画・集まった動画は合わせて30時間くらいの量になった。ご協力ありがとうございました。

## 10. web責

### はじめに

まず、僕はWIXというウェブ制作サービスを用いたのですが、それは失敗でした。寮祭サイトでは大量の企画の情報を乗せることにはなりますが、そのような処理を行うにはどうしてもコードを用いた方法が必要になります。そのため、手作業でウェブサイトを作成することしかならないそのようなサービスは寮祭サイトの制作には不向きであります。

ですから、次年度のWeb責担当者の方が取れる選択肢としては「2021年度のように一から勉強してウェブサイトを作成する」ということになると思います。

この方法をとったとしても、企画一覧ページを作成するに当たり、コーディングに必要な企画情報の成形が必要です。そこでちゃんと企画責、パンフ責の方と連携が取れていないと、大量の情報を手作業でエクセルにまとめることになります。

### 月ごとの進捗

7月、8月、9月 多忙につき作業進まず

10月前半 Wixにて作業を始め、作成するページを前年度を参考にして決定、レイアウトを完成させる。

10月後半 企画一覧以外のページが大体完成するも、企画一覧ページの作成方法に悩む。

11月前半 結果として、自分の整理したデータを基に企画一覧を生成するhtmlを先輩に作っていただき、それをそのままWix経由で貼り付けるという方法で制作。

### 各ページの総括

#### ホーム

前年度を参考に、実施日時を掲載した。

#### 熊野寮祭とは

熊野寮祭に関する概要を掲載した。

## 注意事項

パンフのハラスメント対策のページを抜粋して掲載した。

## 企画タイムテーブル

パンフから抜粋して掲載した。

## 企画詳細

前述のように作成した。

主にパンフ責の方からいただいたエクセルファイルと企画広告画像を用いてデータを作成した。この際、企画広告画像のファイルネームをエクセルに写し取る作業に時間がかかった。

## 最後に

最後に強調しておきたいのは、やはり企画責、パンフ責との連携が非常に大切だということです。ここで作業プロセスに関するすれ違いや必要な情報などに関する抜けがあると、大量の情報を手作業で修正する必要に駆られます。最初期の段階でどのように企画一覧ページを作るか、その場合どういう情報がどういう形で必要で、その情報を最も簡単な形で（責全体としての負担を減らす形で）入手する方法は何か、ということを考えたほうがいいと思います。

## 11. クラファン責

### 1 業務内容

昨年度に引き続きクラウドファンディングサイト「CAMPFIRE」にて、クラウドファンディング関連の業務を行った。具体的には、クラウドファンディングサイトの作成、返礼品の選定、活動報告の投稿、返礼品の発送を行った。

#### 1.1 クラウドファンディングサイトの作成

本年度はクラファン責を二名設定したため、画像と文章で分担して作成した。

#### 1.2 返礼品の選定

グッズ責、パンフ責、記録責と折衝をして返礼品の選定を行った。今年は新たに3千円、3万円、10万円プランの設置を行った。

#### 1.3 活動報告の投稿

クラファンページで文章担当であった人間が引き続き投稿した。

#### 1.4 返礼品の発送

返礼品を順次発送していく。本総括が議案としてブロック会議に提出されている地点ではまだ発送は行っていない。

#### 1.5 クラウドファンディングの広報

本年度はTwitter上の広報と同釜会へのメール送信を行った。

## 2 活動結果



2022年11月10日～2022年12月5日までの25日間を通して、91人の支援者から合計534,500円の支援をいただいた。これらの支援から手数料を差し引いた440,428円を来年度の寮祭実の活動資金として繰越す予定である。

### 3 反省

- ・クラファンサイトを作成し始めるのは早かったが、グッズの完成が遅れたり、紆余曲折あって難航したため、公開がかなり遅れた。
- ・同釜会へクラウドファンディング支援の依頼メールを送る際に、我々在寮生とOPの間に寮祭に関する認識に大きな差がある事を指摘された。引継ぎ資料に明記することとする。
- ・本年度のクラファン責は2人とも副実長であり、当初の想定よりも多忙であったため、余裕をもってクラファンを運営出来なかった。

### 12. タテカン責

#### 【制作したタテカン】

- ・D棟コンパ用巨大タテカン（16枚看）
- ・BC棟間宣伝タテカン（9枚看）
- ・クラウドファンディング返礼用タテカン（2枚看）

寮祭実タテカン責として以上のタテカンを制作した。

#### 【各タテカンの概要・制作経緯】

- ・D棟コンパ用巨大タテカン

寮祭初日の11/25に開催されたD棟コンパの会場（楠前）の背景となる巨大タテカンを制作した。デザインは、タテカンの後ろに位置することになる本物の楠とタテカンの楠のデザインが前から見て重なるように設計した。10月末に正副から要請を受けて構想したため残り時間を鑑みて枚数は4×4の16枚とした。16枚のベニヤ板を西院のコーナンPROまで買い出しに行くなどの初動が遅れたのとタテカン責内の連携が上手く取れなかったことで、実際に描き始めたのはD棟コンパの1週間前となってしまった。16枚ものベニヤ板の白塗りは寮祭実会議後のコンパと並行して行い、多くの寮祭実が手伝ってくれた。楠の葉もいろいろな人に思い思いの色でカラフルに塗ってもらおうという構想のデザインだったので、寮祭開始直前で多忙を極める中でも12名の寮祭実が色塗りを手伝ってくれ、大いに助かった。

16枚看の防衛の経緯についてはD棟コンパの集約・総括を参照してもらいたい。11/24の24時頃から寮を出発して楠木前でタテカンの設置を始めた。寮で2枚一組にビス止めした2m×2mの正方形ブロック8枚を軽トラに積んで運んだ。1ブロックにつき2人として16人以上の人手が集まったので円滑にタテカンを移動させることができた。ベテラン寮生の骨組み設計の技術により、ビス止めだけによって速やかに組み立て・立ち上げができた。立ち上げる際は、骨組みやタテカン为数人で支えながらタテカンの裏側に固定した数本のロープを時計台側に一気に引っ張ることで立ち上げた。立ち上げ後はロープを楠木周辺のベンチに掛け付けタテカンが南側に倒れないように固定し、タテカン前（南側）に畳を敷き防衛を開始した。

D棟コンパ終了後は速やかにタテカン前の畳やこたつ、荷物類を移動させるとともにロープをベンチから解き、タテカン前に十分なスペース（4m×8m以上）を確保した上でそこに人を入れないように周知した状態で、骨組みやタテカンを支えながら一気に南側に倒して解体を始めた。

- ・BC棟間宣伝タテカン

寮祭二日目にBC棟間の渡り廊下に立て看を立てた。サイズは540\*270の9枚看で、設営はその時お手隙の寮生に手伝ってもらった。予算をあらかじめ一部お借りして、コーナンまで車を出してペンキやハケを買いに行った。37000円ほどの前借りをしたが迷惑だったかもしれない。また、食北を10日ほど占有して絵を描いたが、下書きをかつちり終わらせなかった

こと、（個人的な問題だが）ブランクを考慮して予定を立てなかったことにより、締切三日前に全てやり直すことになり、京大ダークの食北ライブと重なったことで民生池の前で描くことになった。ペンキを使い過ぎたことなど、立て看責内でコミュニケーションが存在しなかったことによる問題があった可能性があり、そこは反省である。まとめると、立て看制作がかなり個人の裁量によって進むことが、特に複数人での作業に悪影響を及ぼす可能性がある。密にコミュニケーションをとることと、下書きとその共有、合意を取るようなルールがあってもいいかもしれない。今回の私の立て看板はかなり間に合わせで、あんまり寮祭っぽくないものに仕上がってしまった。自分で言うのもおかしい話だが、個人の裁量にゆだねすぎると一定の質を保つという観点から再現性が低くなってしまっているので、だるくない程度の共有やルール付けがあってもいいかもしれない。なくてもいいかもしれない。下書きの共有をやるとしたら遅くとも10月中かと思われる。

#### ・クラファン返礼用タテカン

今年の寮祭ではクラウドファンディングを立ち上げ、その返礼の中にタテカンに希望者の名前を書いて百万遍に掲示するという事も追加した。余っていた畳を白塗りし、上から黒字で出資者の名前を列挙しただけの無味乾燥なタテカンとなったが、新しい試みではあった。寮祭最終日の深夜に百万遍交差点に立てに行行った。タテカンの運搬や固定のためにベテランを含む3人の寮生に協力してもらった。百万遍交差点の第三象限の公衆電話の横の石垣に立てかけ、ビニルロープでタテカンの上辺を石垣の上の植垣に固定した。

#### 【全体の総括】

今回制作したタテカンの他にも自分がデザインし描く予定だった6枚看が結局描けず仕舞いになってしまった。ひとえにタテカン責である自分の計画性と責任感の無さによるものである。また、D棟コンパの一つの目玉であった16枚看に関しても完成がギリギリになってしまい、各仕事はまだ残っている多忙な寮祭実にも手伝わってもらうことになってしまったことも大きな反省点である。月や週ごとに進捗のペースを決めて計画的に取り組むべきだったのと、精神的にダウンしていた10月は16枚看提起者であるもう一人のタテカン責と現状を共有して適度に頼るべきだったが、そのタテカン責が自由奔放過ぎたためなかなかそれも厳しかったと思われる。10月末頃から一昨年のタテカン責の先輩も加わり16枚看の他に9枚看が制作されたことで、自分の中で最悪6枚看は描けなくても良いかという意識が芽生えたのも良くなかった。やはりD棟コンパの16枚看とは別で、もう一つくらい寮祭宣伝用のタテカンを描きたかったし、描くべきだった。6枚看のデザインは気に入っているのも、もし機会があれば次回の寮祭用に来年のタテカン責の邪魔にならない範囲で描けたらと思う。

資材の購入などについては、今年のD棟コンパの予算が14万円あったこともあり、あまり気兼ねなく行うことができたが、NF前のタイミングで安くベニヤを購入できたらしいので、そうした資材調達関連の情報を早い段階でシンゴリラの人などから仕入れておくと思わないと思った。

16枚看に関しては、直前に手伝わせてしまったという反省の一方で多くの1回生と協力して完成させられた点は非常に良かった。特に色とりどりの楠の葉っぱはデザインのコンセプト的にもいろいろな寮祭実の人に描いてもらう意味が非常に大きかったし、通りかかった寮生からもカラフルな葉のデザインは好評だった。物騒でodorodorしくない、キャッチーでかわいく馴染みやすいタテカンデザインをこれまで意識してきたので、その方向性が評価された気がして嬉しかった。

#### 13. コロナ対策責

今年度主に実施したこと  
感染経路追跡QRコード

クラスターの発生を防止するため、企画参加者一人一人にQRコードへの回答を呼びかけた。最終的には216件の回答が集まったものの、実際に回答された企画は11件のみであり、課題の残る結果となった。エクストリーム帰寮、反ワクチン、などの企画に対し寮外生と思われる回答が多く寄せられた。

寮祭期間中に新型コロナウイルスにかかった人に対して、ヒアリングを行い、京都市の基準で濃厚接触者となっている可能性がある人にはメールを送ろうと思ったが、そもそも企画に対する回答がなかったため、実行することができなかった。多く人が集まるが、寮祭パンフを配らない企画（総長室突入）などは、看板など作ったほうがよかったかもしれない。

結果として、実効性にかける対策にはなってしまったが、とにかく寮祭期間中に大きなクラスターも発生せず、無事乗り切れたことはよかった。

#### 引継ぎ事項

来年度コロナ対策責を作るかどうかは来年度の情勢により臨機応変に決めればよいと思う。

- ・今年度の実施事項

感染対策用のQR作成

参考までに今年度のQRコードを掲載する。

[連絡先情報 \(google.com\)](https://www.google.com)

- ・消毒液の買い出し

次年度、もし感染対策の追跡が必要になる場合は、ボッテカーや巨大タテカンがあるとより良い。

消毒液の買い出しがぎりぎりかつ、数が少なすぎたので、余裕をもって買いに行くのがよい。

#### 14. 渉外責

##### 【意義と方策】

渉外責は、2021年度寮祭実において新設された責である。渉外責の役割は、寮祭実と寮祭実「外」の寮内の他の組織との折衝を担うことである。2021年度寮祭実において渉外責が設立された経緯を踏まえると、その内実は実質的に、寮祭実と、寮祭における実力闘争を提起する有志やSC(常任委員会)などの部局との間の折衝ということになるであろう。ここに、寮祭における実力闘争とは、顕著には「時計台占拠」「総長室突入」などの企画、広くは多種多様な企画において警察や大学当局との対峙が迫られるという事態に対するマインドにまで拡張される。雑観だが、1回生中心の寮祭実と上回生とでは、上回生側が寮祭における、そして寮祭を通じた実力闘争の意義を説き、1回生はそれに対して前提が不足している場合が多いこともあり多様な反応を示すという傾向になりやすい。このような認識を踏まえると、1回生中心の寮祭実と上回生中心の集団（有志や部局）との間を折衝する渉外責には、「寮祭における実力闘争」というテーマに関して、上回生中心の集団の主張・意見に耳を傾けてその発する所を理解し、それを1回生に説明することを通じて理解・反応を促進し、という繰り返しの中で、議論と相互理解を深めることが求められる。

そのための具体的な方策として、SC会議や実力闘争の検討会などに出席することを通じて、実力闘争の意義を説く上回生とその主張・意見の骨子を理解すると共に、寮祭実会議や正副会議などに出席することを通じて、1回生の実力闘争に対する理解・反応を促進し、それを上回生に... ということを繰り返し続けることが求められる。

##### 【総括】

渉外責の当人が議論改善PTに属していたため、議論改善PTとしての実力闘争検討会の開催・議長としての司会進行を通じて、寮祭実の1回生のみならず幅広い寮生と、実力闘争の提起者との間の、全寮的な議論を喚起した。実力闘争に関する広範な対話の機会を設けたことは、寮祭実1回生の実力闘争に対する理解を深めただけでなく、結果として寮祭実1回生の意見を実力闘争の内容に反映させることにも繋がった。この点は総括として評価すべき事項であると考えられる。

出来なかったこと。検討会の開催・提起者との打ち合わせは綿密に行えたが、主に渉外責の時間的余裕の無さから、寮祭実会議・正副会議へ出席しての説明・反応の収集等を行えたとは言いがたい。また、検討会が軌道に乗るまでの寮祭実会議においては、実力闘争に関する話題を提起することが難しい状態にあり、実力闘争に関する話題について提起しようとした寮祭実の1回生がいたが、これに対しても十分な措置を講じることができなかった。

前年においては、実力闘争の提起者が寮祭実から有志に変更となり、最終的に採決は寮生集会で行われた。このような流動的な状況を予期しそれに対応するため、渉外責は設置されたものと推測するが、本年においては、実力闘争の議論は4回の検討会と4回のブロック会議で、採決もブロック会議上で行われたため、議論の過度な紛糾は抑えられた。また、その議論も、個々の寮祭実員は参加するが、形式としては寮祭実とは無関係であるという立て付けで行われた。そのため、前年と比較して、渉外責の業務内容は大幅に変化している。次年度においても、渉外責が本年と同様に議論改善PTを兼務しているとは限らない。よって、本年とその活動内容が大きく異なってくる場合もあるだろうが、渉外責となった人物が自分の強みを生かせる方法として、寮祭実に貢献するように努めて欲しいと思う。

本責は、調整や議論を対象として活動を行うため、他の責とやや性格を異にする部分がある。強い1回生か、そうでなければ上回生の新入寮生を寮祭実に獲得した上で、その人を渉外責にするのが望ましいと考える。

## 15. 人権擁護責

主な仕事：コンパの主催・寮祭のハラ対グルへの参加

総括：コンパを寮祭実連帯のために開催していたが、故副実長のYSDが人権擁護責を兼任していたことからコンパの運営が人権擁護責ではなく正副実長に集中した。またハラ対グルに参加していたものの実働はなかった。

## 寮祭企画総括

企画者名 北村

企画名 鉄扉コンパ

日時 11月30日20時

参加人数 50人

当日の様子・反省 鉄扉に畳を敷いて、日本や世界の政治情勢・三里塚闘争・総長室突入・処分撤回などについて参加者と熱い議論を交わした。例年朝までコンパが続いていたが、今年は12時くらいにはほぼ終了していた。企画広告に鉄扉コンパという表記をしていなかったため、ただのよく分からない絵と何の企画か全然説明してない文章を載せてしまった

ことは反省したい。寮外からの参加者が例年に比べかなり少なくなってしまったのは、その辺りが原因だった可能性がある。

企画者名 北村  
企画名 狩猟コンパ  
日時 11月30日20時

参加人数 50人

当日の様子・反省 企画者のキャパがなく鉄扉コンパと同時開催となった。狩猟したものをコンパに出すという企画だったが、企画者が狩猟に出かける余裕がなくどうしようとなっていた。そこに狩猟免許を持っている寮生(救世主!)がたまたま現れ、その寮生が最近手に入れた京大敷地内で取れたという鹿肉を提供してくれた。参加者からは鹿肉美味しいということ でかなり好評であった。

企画者名 池田周作  
企画名 エクストリーム帰寮ダービー  
日時 11/25

参加人数 24人

当日の様子・反省 馬をもっと事前に集めるべきだった。思ったよりみんな食いついてくれた

企画者名 福井開 企画名 ABクラスター間綱引き 日時 11/27、10:00～ 参加人数 0人  
当日の様子・反省 企画者がコロナで隔離されていたため、実施できなかった。購入したロープに関しては、別企画「北野高校の悪しき伝統」の縄跳びとして使用した。

企画者名 池田周作 企画名 昭和喫茶 日時 11/30 参加人数 20人程度  
当日の様子・反省 レコードも流せたりコーヒーも振る舞えたので個人的に満足。お金の請求を忘れたのが心残り

企画者名 福井開 企画名 部屋番号トランプ 日時 11/26、12:00～ 参加人数 0人  
当日の様子・反省 企画者がコロナで隔離されていたため、実施を取りやめた。購入した無地のトランプ600枚については、現時点で未記入のまま保有しており、今後の利用法について検討している。(お正月にカルタにして使うなど)

企画者名 福井開  
企画名 吉田山かくれんぼ  
日時 11/26、19:00～

参加人数 10人ほど

当日の様子・反省 企画者がコロナで隔離されていたため、急遽昨年の企画者(寮外)に実施を依頼した。詳細な参加人数の確認が取れていないため不明だが、オープンチャットの様子を見る限り、参加人数は10人以下であったと推測される。1ゲームのみを行った。予算を取っていたが、企画者が寮祭期間の直前まで多忙であったこと、寮祭期間の突入と同時にコロナを発症したことなどから、例年のように景品を用意することができなかった。

企画者名 福井開  
企画名 北野高校の悪しき伝統  
日時 12/3、13:00～

参加人数 7人ほど

当日の様子・反省 企画者がコロナで隔離されていたので、当初の予定から一週間後に行った。別の寮祭企画「宇都宮高校の素晴らしき伝統」の企画者と歩調を合わせ、日時・開催場所を設定した。開催場所については、当初中庭を予定していたが、「宇都宮高校の素晴らしき伝統」の主要な参加者の1人が同時間に行われる「鴨川イカダレース」に参加すること

になっていたため、鴨川で行う旨を全寮LINEにて周知し、結果として四条大橋の下で13時ごろより行った。「鴨川イカダレース」の終了後に行った。当初予定していた日時に集まってくれた参加者がいたとの情報があり、その方には大変申し訳なく思っている。当日は、実際に北野高校で使用されている本物の縄と同じタイプの縄をコーナンで購入して、適当な長さに切断したものを用意した。北野高校では男子(女子)前二重飛び50回(20回)、後ろ二重飛び20回(10回)を飛ぶことができないと、3年生の11月になるまで昼休み呼び出され続けるという悪しき伝統がある。これを模して、本物の縄を使用した二重飛び体験を行った。参加者の中には20回近く前二重飛びを飛ぶものがおり、もし彼が北野高校に入学してもさしたる苦しみなく卒業出来そうに思われた。実際には、入学時に一度も二重飛びが飛べなくても、多くの生徒が2年生の終わりまでには上記の回数飛ぶことができるようになる。後ろ二重飛びに挑戦するものはいなかったため、企画者がデモンストレーションしたが、3回しか飛べなかった。最後に、もう一つの悪しき伝統である「ナチス式敬礼」を行い、本企画は終了した。反省としては、企画広告提出段階で、「ナチス式敬礼」という表記に問題があるという指摘を人権擁護部により受けたことが挙げられる。北野高校には他にも悪しき伝統がたくさんある。今後も、人権意識に配慮して企画を行いたい。

企画者名 福井開

企画名 夏の間に使わなかった蚊取り線香を全部燃やす

日時 12/4、夜

参加人数 ファイヤーストームを囲んでいた人のうち5人ほど 当日の様子・反省 企画者がコロナ隔離されていたため、当初の予定から一週間後に行った。私物の蚊取り線香を、ファイヤーストームに全て投げ込んだ。塊ごと全て投げ込むという珍しい演出をおこなったため、ファイヤーストームを囲んでいた数人が同調して参加した。食堂入口に放置されていたC34小林さんの蚊取り線香の缶の中身を、私物と勘違いして全て燃やしてしまった。弁償等が必要かどうか、今後話し合う予定です。また、本企画に連動して、同日行われていた「寮葬」に対して、Aさんの祭壇に供える線香として、蚊取り線香を1枚供出し、演出を行った。

企画者名 福井開

企画名 あくた川から寺さんに手を振る

日時 11/30、10:00～

参加人数 0人

当日の様子・反省 企画者がコロナで隔離されていたため、行わなかった。

企画者名 福井開

企画名 お風呂以外全部入る人コンパ

日時 11/30、19:00～

参加人数 0人 当日の様子・反省 企画者がコロナで隔離されていたため、行わなかった。

企画者名 福井開 企画名 成績証明書から誰か当てるやつ 日時 11/30、22:00～

参加人数 0人 当日の様子・反省 企画者がコロナで隔離されていたため、行わなかった。

企画者名 福井開

企画名 ファミマ以外全部と連帯

日時 12/2、22:30～

参加人数 ファミマと連帯に参加した人数 当日の様子・反省 「ファミマ以外全部と連帯」とは何か。それは寮祭企画「ファミマと連帯」に乗じて、「ファミマ以外全部」

と連帯することで、全宇宙存在との連帯を成し遂げようとする企画である。では、「ファミマ以外全部」との連帯は、いかにして可能となるのか。それは、他ならない「ファミマ」と連帯することによってである。全宇宙にあるのは、ファミマかファミマ以外全部のいずれかであり、すなわちファミマと連帯することは、ファミマ以外全部と連帯することを意味し、逆もまた然りである。故に、ファミマ以外全部との連帯は達成されたと言える。

企画者名 福井開  
企画名 大阪市民スタンプラリー  
日時 常設企画  
参加人数 0人

当日の様子・反省 常設企画として開催する予定でしたが、寮祭初日に企画者がコロナになり隔離されたため、貫徹に至りませんでした。購入した紙は、SC室に移動させ、寮自治会に寄付します。

企画者名 福井開  
企画名 自転車防衛  
日時 常設

参加人数 0人 当日の様子・反省 企画者がコロナで隔離されていたことに加え、街宣車の所有者が、12月の街宣許可を得ていなかったため、行うことができませんでした。なお、B12片桐くんが、本企画と全く同趣旨の企画を出していることに企画提出後に気付いたため、本企画と同時にってもらうように依頼していましたが、上述の通りの結果となりました。ガソリン代として申請していた予算も使用いたしませんでした。

企画者名 福井開、人権擁護部

企画名 ガサ対訓練

日時 12/4、8:30～

参加人数 総勢約30名 当日の様子・反省 本企画の総括はブロック会議議案として提出いたします。

企画者名 福井開

企画名 平安湯RTA

日時 常設

参加人数 不明

当日の様子・反省 本企画は常設企画として開催いたしました。寮祭期間中に平安湯に行った人すべてが参加者です。しかしながら、企画者がコロナで隔離されており、寮祭企画への意思が失われたため、Googleフォームを作成して調査するなどの行為は行うことが出来ませんでした。予算も使用できませんでした。

企画者名 大塚健一

企画名 復刻にぼ次郎

日時 12/1 20:00-

参加人数 14人

当日の様子・反省 20:30ごろに集合してにぼ次郎南草津店に行った。平日だったので寮食があり、残置していく人もいた。休日にやった方がよかったかも。思ったより人が来てくれて嬉しかった。

企画者名 福井開

企画名 小林スマホ買う

日時 常設

参加人数 0人

当日の様子・反省 寮祭期間中に小林さんを楽天ショップにでも連れて行って、スマホを契約させようと思いましたが、企画者がコロナで隔離され、実質的に最後の3日間しか寮祭を楽しめなかったため、自分が寮祭を楽しむことを優先して、また小林さんとの日程調整も行わなかったため、買いに行けませんでした。ですが、来年の寮祭までに必ず買わせます。

企画者名 福井開

企画名 小林スマホ買わせない

日時 常設

参加人数 0人

当日の様子・反省 本企画は寮祭企画「小林スマホ買う」との連動企画です。「小林スマホ買う」の総括に述べた理由で、企画を行えなかったのも、本企画もまた行うことができませんでした。

企画者名 福井開

企画名 小林スマホ以外全部買う

日時 常設

参加人数 数人

当日の様子・反省 本企画は寮祭企画「小林スマホ買う」との連動企画です。「小林スマホ買う」の総括に述べた理由で、企画を行えなかったのも、本企画もまた行うことができませんでした。と言いたいところですが、「お風呂入らない人コンパ」のキャンパで小林さんを含む6人で銀座湯に行った時に、飲み物を買わせることに成功したので、見方によっては本企画は貫徹できたと言えると思います。

企画者名 村上彩乃

企画名 喫茶軽食クマノ

日時 12/3 8:00~12:00

参加人数 30人ほど 当日の様子・反省 ”【当日の様子】

コーヒー・紅茶・ホットミルクに、トースト・ヨーグルト・豆菓子添えた、モーニングセットを提供した。当日は、予告通り8時から軟鉄庵にて営業を開始した。ぼつりぼつり人が訪れはじめ、9時台10時台は席が埋まる場面も見られた。多くはないものの人が途切れることはなく、ゆるゆるとモーニングを提供しつつ、食パンが尽きた12時過ぎに閉店した。

### 【反省】

注文が重なると提供忘れが発生してしまったので、その点は反省すべきである。お待たせした方には申し訳なかった。

また、テンションが上がってコメダの豆菓子キングサイズ(100個入り)を購入してしまった。半分ぐらいでよかった。

それ以外はつつがなく実施できたと思う。3人で回すにはちょうどいい客数・時間帯で、無理なく営業を貫徹できた。有難いことに、想像以上にキャンパが集まったため、それを元手に寮祭後に何らかの形で喫茶企画を実施して還元したいと考えている。”

企画者名 北村

企画名 三里塚野菜無人販売

日時 常設

参加人数 20人くらい

当日の様子・反省 ”11月29日から無人販売を設置する予定だったが企画者が忙しくて設置が12月1日になってしまった。その結果葉物野菜の傷みが早く売れ行きが悪くなってしまったようだ。三里塚は現在強制執行の通告が来ており、明日には農地強奪が行われ三里塚闘争そのものが消滅してしまう危機的情勢である。この情勢だからこそ例年以上に力を入れて



野菜販売や三里塚の宣伝をしていきたかった。葉物野菜が傷む前に鍋にして急遽あたたまり屋として1杯50円で販売した。

来年は最初からあたたまり屋として出すか無人ではなく有人販売などを検討していきたい。”

企画者名 村上彩乃

企画名 だしシャンパンタワー

日時 12/4 21:30～23:30ぐらい（ゲリラ）

参加人数 20人ほど

当日の様子・反省 “当日20時過ぎから利尻昆布と削り節で出汁を取り始めた。21時過ぎに6Lほどの出汁が完成し、21時半頃から駐輪場にて、ファイアーストームの隣でプラカップでタワーを組み始めた。カップにはうどんやたこ焼きを入れたが軽いため安定せず、一度目にタワーへ出汁を注いだ時は崩壊してしまった。そのため、下段は予め半分ほど出汁を入れておくことで安定化を図った結果、無事いいかんじに出汁を注ぐことができ、シャンパンタワーの出汁版が見られた。出汁で満たされたカップは参加者に振る舞った。再度だしシャンパンタワーを実施して企画者が満足したため、余った出汁は手持ちの日本酒とともに出汁割りとして振る舞った。リピーターおよびヘビーユーザーが多く、温かいお出汁を延々と飲みながら駄弁る光景が見られた。23時半頃に出汁が尽きたため終了した。

当日夜から出汁を取り始めたため、時間に余裕がなく、かなり雑に出汁を取ってしまった。

前日から仕込んでおけば、もっと丁寧にできたと思う。しかし、昆布の質がよかったためか、削り節の味をベースに昆布の上品な風味が感じられ、雑に取っても美味しかった。

もしまた同様の企画を実施する機会があれば、余裕を持って仕込み、練り物を入れたり、出汁で茶碗蒸しを作ったりして、より満足度の高いだしパ(出汁パーティー)を提供したい。”

企画者名 竹内優太

企画名 姫路城を通して京都駅に行こう

日時 未開催

参加人数 未開催

当日の様子・反省 主催者の体調不良のため開催出来なかった。

企画者名 竹内

企画名 勝手に京都市交通審議会

日時 未開催

参加人数 未開催

当日の様子・反省 主催者の体調不良のため開催出来なかった。

企画者名 藤津

企画名 ダサイ食事会

日時 12/1/15:00

参加人数 11

当日の様子・反省 “# 概要

最強にダサイファッションをキメて\*\*[アマーク・ド・パラディ 寒梅館](<https://www.hama-c-de-paradis-kanbaikan.jp/>)\*\*でパフェを食べる。

ついでに↑京大生の風格↑でオシャレな同志社生を威圧しよう。

# 予算

優勝賞金1000円

## # 確認事項

寒梅館は営業しているか  
天気はどうか

## # 今回の工程

開催日時は12/1(木)15時からである.

	時間		事柄	
	15:00		食堂にて集合開始	
	15:15		ロビーから出発	
			熊野神社前からバス(201甲)に乗り同志社前へ	
			寒梅館到着	
			パフェを食う	
			徒歩などで帰る	
	17:10		食堂にて最ダサ選手権開催	
			優勝者へ商品贈呈(今回は食事代1000円)	
			解散	

## # 詳細

今回集まった人数は11人. 取り回しのきく程よい人数だった. 公共交通機関を利用できないほど多くはなく, 寂しいほど少なくもなくちょうどよい.

多くの参加者は行きはバス, 帰りは歩行を選択した.

同志社大学に侵入し, 同志社生に対する小規模な威圧行為を行った(構内を練り歩いた).

おかしい集団の来訪を\*\*[アマーク・ド・パラディ 寒梅館](<https://www.hamac-de-paradis-kanbaikan.jp/>)\*\*の店長は訝しがっていたが, 企画の説明をするととても好意的に接してくれた(店長と一緒に写真を取りました!きれいに写っています). 来年の寮祭では広告の交渉をしてみると良いかもしれない.

最ダサ選手権は参加者以外のあつまりが悪かったものの, 楽しく終われたように思う.

## ## 最ダサ選手権

「ダサイ食事会」参加者は食堂に集合し整列する. 食堂利用者へ「ダサイ食事会」の企画概要を説明し, 参加者のうち一番ダサイ服装のものに拍手投票するようお願いする. 参加者は一人ひとり, 自分の服装をアピールする. その後投票, 優勝者インタビュー, 表彰を行う.

## # 写真

略

## # 反省点・注意点

当初は13時に開始しようとしていたが, とても集まりが悪かった. 15時から開始すると人が次々と来た. 来年は必ずおやつの時間に開催すること.

食べるの遅い人に合わせて班を2つに分けて帰寮した. この際, 最ダサ選手権の開催時間に合わせて食堂で再集合することを確認した.

商品の贈呈時に, 優勝者には領収書を書いて頂いたが, これは適切な会計処理の妨げになる. 優勝者に奢るタイプの企画の会計処理はどうすればいいんだろう?要確認.

領収書用紙が見当たらなかったのので, 手帳に書いてもらった. これはひどい.

レシートを忘れた. 次年度は必ずレシートをもらうようにしよう.

最ダサ選手権は多少の段取りの悪さがあったものの, これを解決する労力を払うのは全く億劫である."

企画者名 青木遥菜

企画名 シューロン・マスク

日時 ゲリラ

参加人数 0

当日の様子・反省 なんでもありのシューロンXを作り上げるどころか、自分の修論執筆もろくに進められなかった。最悪。寮祭楽しかったです。

企画者名 板原舜也

企画名 ダーツの旅

時 常設企画

参加人数 わかんない

当日の様子・反省 日本地図が穴だらけになっていてよかった

企画者名 鏡圭悟

企画名 NFLで正しいタックルを学ぼう

日時 11/28(月)10:20~13:00

参加人数 4 当日の様子・反省 パッカーズが負けたのでくそつまんなかった

企画者名 北村凌雅

企画名 脳みそケーキを食べよう

日時 12/25 15:00

参加人数 40人

当日の様子・反省 “パティスリーミャーゴラの脳みそケーキを食べた。脳の形をしたケーキをスプーンで掬い取って食べる行為によって、参加者は大いに盛り上がった。以下に決算を示す。

<支出>

脳みそケーキ5500円

<収入>

寮祭実行委員会会計より2000円

カンパ2567円

企画者より933円”

企画者名 北村凌雅

企画名 北村凌雅

日時 12/1 00:00

参加人数 20人

当日の様子・反省 企画者はこの企画のためにわざわざスーツを着用したが、度胸が不足しており、企画者でなく参加者が仕切ることになった。

企画者名 北村凌雅

企画名 甘茶を飲もう

日時 ゲリラ

参加人数 40人

当日の様子・反省 脳みそケーキを食べようと同時開催した。甘茶を飲んだことのない人に甘茶独特の味わいを体験してもらうことができた。ケーキに合わせる飲み物として甘茶は不適當だった。

企画者名 本田晴彦

企画名 お前の髪寂しくないか？

日時 不定期

参加人数 8名ほど

当日の様子・反省 ブリーチ液を7個購入し、ブリーチ希望者をブリーチした。別企画「反ワクチンvs京大生」の傍でブリーチを行ったこともあり、カオスな食堂を醸成できた。

企画者名 本田晴彦

企画名 お前の耳寂しくないか??

日時 不定期

参加人数 10名ほど

当日の様子・反省 ピアッサーを3個購入し、ピアス開けたい人を開けてあげた。1人の両耳に、1人の片耳に施行したが、両耳に開けた人のピアスは、翌日片方がとれてしまい、片耳開けようとした人に対しては、ピアッサーがうまく動かず、開けることができなかった。結局、うまく機能したピアッサーは1つだけだった。もう少し自分の腕を上げたい。また、ある他の寮生に対して、数人で取り囲んで、ピアス開けろハラスメント的なことをしてしまった。

企画者名 本田晴彦

企画名 りあむと国際video通話

日時 12/1 0:00~

参加人数 20名ほど

当日の様子・反省 LINEビデオ通話にてりあむと繋がった。途中からは食堂中央のスクリーンを使用した。B3の人を中心にたくさんの人が来てくれ、最後はエモーショナルなムードで終わった。

企画者名 本田晴彦

企画名 寮生アルバム2022

日時 開催せず

参加人数 0人

当日の様子・反省 チェキのようなものをイメージして、写ルンですを3個購入したが、その場で現存できないことが判明したために企画倒れした。

企画者名 本田晴彦

企画名 駅伝

日時 開催せず

参加人数 0名

当日の様子・反省 企画者怠惰のため、開催しなかった。

企画者名 本田晴彦

企画名 鴨川水球

日時 開催せず

参加人数 0人

当日の様子・反省 企画者怠惰のため、開催しなかった。

企画者名 横田蛍佑

企画名 みかん祭り

日時 11/30 15:00~16:00

参加人数 約30人

当日の様子・反省 ”＜準備＞

昨年の企画担当者からの引継ぎで毎年みかんを送ってくれるOP藤井氏の連絡先を入手し、企画の開催日を伝え、それに合わせてみかんを送ってもらった。みかんは220キロ分あり、およそ20箱で、各談話室に配っても事務室およびSC室を圧迫していた。また藤井氏からレインコートもいただいたが、企画で使用することはなかった。窓ガラスの防衛策としてブルーシートをAB棟間廊下の屋上から垂らし、ブルーシートでカバーできる範囲にみかんを投げるように指導した。また投げるみかんの皮をむくことを徹底させた。開始時間について、寮生が多数出演、観劇する劇団未必の故意の公演と時間が一部重複したため、1時間遅らせて参加者を確保した。

#### <企画の様子>

足場が平らだが動ける範囲がせまい西側陣営と、足場が植物で覆われ不安定だが広範囲を動ける東側陣営の2陣営に民青池を挟んで分かれ、全員でみかんに感謝をしてから開戦した。開戦直後は各陣営の人数は約7人ずつであったが、中庭への出入り口が民青池の西側にしかない関係で開戦後に参加した者のほとんどは西側陣営として参戦することとなった。

初めはお互いに陸から投柑\*1しあっていたが、みかんの皮をむく煩わしさとなかなか命中しない焦燥感から東側陣営の1回生MURが民青池に侵入し接近戦を仕掛ける。その後は民青池入水に抵抗感の薄い1回生が多く所属する東側陣営が続々と接近戦に参戦。西側陣営の1回生数名も接近戦に応じ、慣れによるみかんの皮をむく速度の上昇と、接近戦に伴う命中率の飛躍的な向上により、みかん祭りは本格的な闘いに突入していく。人数の多さを生かして前衛と後衛に分かれる西側陣営と、不安定な陸の足場を捨て民青池を陣取ろうとする東側陣営であったが、B棟屋上という安全地帯からみかんを放ったり、ホースによる放水をするなどの卑怯な戦術を用いた4回生NSMには、東西で団結して制裁を下した。

戦況は混戦を極め、両陣営のみかんがなくなり、中庭に禍根と大量のみかんの皮を残して、みかん祭りは終焉を迎えた。しかしながら、1回生の戦闘性がみかんの総量を上回り、とても冷たい民青池の水の掛け合いという東西冷戦が突如幕を開けた。中庭に散乱していたバケツや植木鉢などの武器を用いた水の掛け合いや、肉弾戦も繰り広げられた。

そんな中、闇の武器商人TKMっちがSC室にあったみかんを見つけ戦場に輸送。東西冷戦冷めやらぬ中、第二次みかん祭りが開幕。投柑、水掛け、投げ技等々なんでもありの戦況の中、両陣営ともにみかん不足に陥り、西側陣営の後衛は戦線を離脱し、戦場は民青池のみになったが、民青池を主戦場としていた戦士たちの寒さによる憔悴を認めた企画者の合図でやむなく終戦を迎えた。勝者はいなかった。

#### <反省>

もはや毎年恒例となりつつある窓ガラスの破壊を今年は免れることができたことは良かった。しかし、企画開催の翌日に旧印刷室文責の、窓ガラス損傷の責任は企画者にとってもらいます、という旨のボテッカーを企画者が発見したが企画者はこのボテッカーを企画中、認知していなかった。企画者がこのことを認知できていなかったのは、窓ガラス損傷の可能性のある部屋の住民に対して、十分な対策と周知ができていなかったためであると考え。ルール上みかんの射線に入らない部分の窓ガラスに対しても気を配るべきであった。また、開戦時にみかんへ感謝を捧げたが、終戦時にみかんへの感謝をしなかったため、途中参加者はみかんに感謝をしないままみかんを投げていた可能性があることは否めない。さらに、民青池を戦場に認定し、実際に民青池が戦略上重要な戦地となってしまったことにより、民青池入水に抵抗感を持つ参加者の参戦を妨げてしまった。今回のルールの欠点の一つであると捉えている。

(参考) 今年のルール

- ・みかんの皮は必ずむくこと
- ・西側陣営はブルーシートの幅、東側陣営は民青池の幅の中で投げ合うこと

- ・東西方向の移動の限界は西はブルーシート、東は植物の壁とする
- ・人の頭より上にみかんを投げないこと
- ・みかんへの感謝を忘れないこと

\*1：みかんを投げること”

企画者名 本田晴彦  
 企画名 京都駅大階段グリコ  
 日時 12/2 20:30~  
 参加人数 30名ほど

当日の様子・反省 ”【当日の様子】

寮祭ライブの終了時刻が20:00であったことから、当初の開始時刻20:00を20:30にずらした。ルール説明と諸注意を行った後、盛大に開催された。最後まで到達したのは7割くらい。登り切る者が落ちてきた時点で、企画は切り上げとし、最上階の広場で表彰式を行った。景品として、1着の者にグリコ商品詰め合わせ、2~11着の者にポッキーかプリッツを1箱、それ以降の者、また最後まで到達できなかった者には参加賞として明治のミルクチョコレートを授与した。企画中、2名ほどの警備員の巡回があり、うるさくしたことをやや注意されたが、弾圧は全く無いに等しかった。

#### 【反省】

- ・先述の通り、参加者と一般人とのじゃんけんが白熱した際に警備員の注意が入った。
- ・最後まで登り切り、時間を持て余した参加者が、一般人に不用意に声をかける行為が生じた。この様子を見て、企画に参加していない一般人もこの行為を便乗して行ったとの目撃もあった。
- ・事前の諸注意において、公共のスペースを利用している分、一般の人々に対して最低限の配慮はすべきとの発言もあったが、十分な徹底はされなかった。上記2点はこの徹底によって未然に防げたものであり、できなかったことを反省せねばならない。”

企画者名 世一嘉偉 企画名 断食 日時 常時開催 参加人数 不明 当日の様子・反省 企画者が企画を期限までに練り上げられなかったために、常時開催という形になった。次回は断食というテーマでみんなが楽しめる企画にしたい。コンパ形式のものを考えている。

企画者名 世一嘉偉 企画名 100m走る 日時 11月26日午前6時ごろ 参加人数 2人 当日の様子・反省 企画者が企画日時を変更し忘れたために早朝の開催となり、人が集まらなかった。早朝のため水泳施設を利用する車は来ないと考えていたが、数台の送迎車が来ていた。当日は準備体操、一本流しをした後に本番だった。怪我人が出なかったのが良かった。

企画者名 竹本 企画名 AB棟間綱引き 日時 12/2 14-15:00 参加人数 40-50人程度 当日の様子・反省 ”11/29に縄を車で借りに行った。運転手と企画者の2人で行ったが、人手不足だったのでもう1人くらい連れて行けばよかった。12/2当日、A3の有志、居合わせた寮外の来訪者に手伝ってもらって縄を上げ綱引きを行った。総長室突入の総括を中断し多くの人が訪れた。B棟優勢だったが徐々にA棟が盛り返してきて最終的には拮抗していた。12/6 縄を運転手と企画者に加え協力者1人の3人で返却した。

#### 反省

門戸を広げ人数が溢れてしまった。参加できない一回生も見受けられた。屋上を広げたい。もう少しレスバを活発にさせたかった。口下手な企画者には技巧が足りなかったと感じる。”

企画者名 上柿大

企画名 すき家VS松屋VS吉野家VSなか卯

日時 常設企画

参加人数 不明

当日の様子・反省 ”◇企画沿革

かつて、“なか卯ガール”として熊野寮祭史において語り継がれていた伝説の高校生がいた。

その人は6年前に何の面白みも無かったこの企画に、突如大量のなか卯のレシートを入れたと言う。これにより、当時の企画名「すき家 VS 松屋 VS 吉野家」に新たに「VS なか卯」

が刻まれ、その人の功績が今なお称えられている。

“なか卯ガール”は4年前を最後に、姿を消してしまった。3年前のこの企画の総括には、“なか卯ガール”はある時期から井ものが受け付けられなくなり、JK(ジェイムスキッチン)に

足を運ぶようになってしまった、と書いてある。

こうして、“なか卯ガール”は消え、この企画も一昨年は正式な寮祭企画ではなくなった…。しかし、それでも有志により投票箱が2つ作られるなど、その人気は根強いことが再認

識された。そして、去年にこの企画は再び正式な熊野寮祭企画として復活を遂げた。その年には、すき家の20万円以上のレシートが投票され、一時話題となった。

そして2022年の熊野寮祭でも企画の一つとして行われた。今年は寮祭実の推しもあり、半ページ広告をもらった。企画者はここで調子に乗って投票箱購入費用として予算1000円を求めたが、やはり通らなかった。

◇企画概要・準備

ルールは簡単。一つ、寮祭期間中に投票箱にレシート(主に牛丼屋)を入れること。二つ、レシートはプラス、クーポンはマイナスになること。以上。

準備は投票箱を用意したこと。箱は企画者が購入したメガディスカウンドランド LAMU の烏龍茶の箱を使用することにした。理由は部屋にその箱しかなかったから。また、去年と同じく、別の寮祭企画「百万遍牛丼 RTA」と抱き合わせでツイッターアカウントを作り、ここで広報活動も行った。

◇企画の流れ

ここからは寮祭最終日までの主な流れをまとめる。

・寮祭1日目(11/26)

投票箱を設置。

・寮祭最終日(12/5)

集計作業。

◇集計結果

集計は最終日の夜に行い、同日中に結果が判明した。順位は以下の通り。

1位

58diner : 34,379 円

2位

ポケモンセンターキョウト : 6,578 円

3位

京阪電鉄 : 5,000 円

4位

ハニーズディーストア : 4,392 円

5位

生協食堂(カフェテリアルネ) : 2,994 円

6 位

すき家：2,530 円

7 位

やよい軒：1,920 円

8 位

松屋：1,120 円

9 位

志和勢：680 円

10 位

吉野家・なか卯：0 円

今年の優勝は 58diner の 34,379 円である。熊野寮に 7 か月住むことができる。東山二条にあるハンバーガーショップのこの店に勤めていた人がいたのであろう、従業員割で 30% 割引がなされてはいたが、2 位と 5 倍以上の差をつけ、見事 1 位となった。

2 位はポケセン、パルデア地方に行くついでに投票してくれたと思われる。3 位は京阪電鉄での IC チャージである。5000 円あれば出町柳と淀屋橋を京阪本線で 5 往復することができる。4 位はハニーズディーストア、服屋である。5 位にルネが位置する。投票者の巣ごもり玉子への愛を感じられた。6 位によく牛井屋であるすき家がランクインした。

7 位にはやよい軒、8 位には松屋が食い込んだが、9 位には志和勢という小規模ではあるがチェーン展開をしている肉料理店が入った。

今回はあまり牛井チェーン店があまり猛威を振るわず、代わりに新興勢力が中レベルな戦いを繰り広げていた、といえる様相になった。

◇反省

・今年は全体としてレシートがそこまでたくさんは入らなかった。風邪の企画者にとっては集計が楽で良かった。

・広報は去年の結果をツイートし、寮祭公式アカウントや京大職員同好会のリツイート・言及もあり、一応はうまくいった。なんだろう、なんで来なかったんですかね〜。

・来年以降は飲食店部門とその他部門でランキングを分けてみてほしいかなと思った。でも総合の方が面白そうなんだよな〜。

◇最後に

きっと来年もやります。是非レシートかクーポンを貯めて来てください”

企画者名 上柿大 企画名 百万遍牛井RTA日時 12/2(金)00:00-30 参加人数 1名

当日の様子・反省 ”◇企画概要

百万遍交差点―そこは牛井大手 3 チェーン(すき家、松屋、吉野家)が全国で 2 番目に最も接近している場所。その牛井 3 チェーンを一足早く食べる競争がかつて百万遍で行われたらしい……。去年にこの競争を復活させ、熊野寮祭という大舞台で RTA 大会を行った。その結果 8 名が参加し、17 秒未満で食い終えた人が優勝した。

今年はそこまでやる気はなかったが、とある人から DM で「今年、牛井早食いやりませんか？」と来たため、急遽やることを決意した。

◇準備

手始めに、この企画はとあるツイートから生まれ、それを実現させようとしたものである。この企画のアイデアの基となったツイートをした人に(誰だか忘れたけど)心から感謝する。さて、この企画を行うにあたり、別企画と抱き合わせてツイッターアカウントを設立し、そこで周知を行った。また、寮祭が始まる前に楽天において賞品である冷凍食品である牛井の具を注文しておいた。

◇当日の様子

23 時 55 分頃に百万遍第四象限(南東)へ企画者が到着し、0 時 15 分まで同地で参加者を待った。その結果来た参加者は 1 名だけだったため、今回は一人で行うタイムアタック形式で早食い競争を行った。結果は「21 秒 43」であった。



今回はレースではないため、参加者には牛丼の具(2048 円、送料込み)をプレゼントした。また、参加者には 18 分以内に帰ってこれた場合には牛丼代を支払うとしたが、達成できなかったため、残念ながらお預けとなった。

#### ◇反省

- ・参加者が少なかった。あんまやる気がなかったからかな
- ・牛丼並盛 3 杯はやはり量が多い。体調不良者が発生した場合の事をもう少し考えておくべきであった。
- ・来年はやる気はないが、もし引き継ぎたい人がいれば勝手にやってください”

企画者名 片桐 企画名 マッドハニー 日時 11/26 22:00- 参加人数 20人ほど  
当日の様子・反省 思った以上に人が沢山来た。マッドハニーをちゃんとキマる量摂取すると、1人か2人で舐めきってしまうため、みんなで少しずつ舐めることにした。ただ、これだけではみんながトリップできないと考え、様々な人からCBDを供出してもらい、みんなで追加摂取した。結果、企画者を含めた複数名がCBDで完全にリラックス出来た。1人あたり10,000円ほどあればマッドハニーのみでキマるとのことなので、来年は予算増額&カンパで本当のトリップをしたい。

企画者名 片桐  
企画名 ハマグリのガソリン焼き  
日時 11/27 22:00-  
参加人数 50-60人ほど  
当日の様子・反省 3年目ということもあり、スムーズに進んだ。具体的な準備の仕方はTwitter (@Kuma\_hamaguri) を参照。ハマグリのサイズが大きすぎたことが反省点。来年もやります。一緒に企画したい人求む。

企画者名 片桐  
企画名 レヴュースタァライト上映会  
日時 11/28 19:00-  
加人数 のべ10人ほど  
当日の様子・反省 “ロンド・ロンド・ロンドと劇場版を見た。合間に3回生新歓のパイ投げをくらったせいで劇場版のスタートが遅れ、また演劇企画との兼ね合いでオケコン円盤の再生が出来なかったのは残念である。またの機会を見つけて視聴したい。  
なんだか強いお酒(ストロングゼロ)を置いておいたら、もっと強いお酒(スピリタス)を持ってきてくれた参加者・トマトをかじるシーンで予算で買ってきたトマトをかじってくれた参加者のオタク魂に感謝申し上げる。全体的にオタクの質が高く、非常に心地よく上映会を行うことが出来た。”

企画者名 片桐  
企画名 三遠南信コンパ  
日時 11/30 15:00-  
参加人数 15人ほど  
当日の様子・反省 “三河弁文法演習と同時開催になったが、これが結果的に大成功を招いたと言える。ありがとうございます。五平餅と豊橋カレーうどんを提供した。料理も好評だった。  
新歓期や来年の寮祭では満を持して三河人を組織して三河企画を行いたい。”

企画者名 片桐  
企画名 がくえんゆーとぴあ まなびストレート上映会  
日時 12/1 13:00-

参加人数 述べ10名ほど

当日の様子・反省 “鉄扉が芸大生の展示企画、食北が演劇企画で使用されてしまったため、元から申請していたこの企画が割を食って食堂に開拓されていた上映スペースを使用することになったのは遺憾であるので、来年以降は上手く調整したい。

アニメの内容はやはり素晴らしかった。制作陣の自治への解像度が大変高いので、寮生諸君は1度見るべきだと思う。企画者と元寮生Iさんが円盤を持っているので声をかけて欲しい。企画として特筆すべきは、かつて共にタテカン運動をしていたが訳あって別々の場所でタテカンを描いている人が参加者として来てくれ、共にアニメを見て気合いを入れ直すことができたことであろう。活動家的な物言いをするとう空気入るのでみんなみてください。”

企画者名 片桐

企画名 アニメサウナ

日時 12/1 20:00-

参加人数 10名ほど

当日の様子・反省 “バズってしまったので、人が沢山来るのではと心配だったがそうでもなかった。時間を当初から変更したのも人数がいい感じになった要因であろう。

この企画と22:00からの別企画のために大阪から来た人もいた。

見たアニメとしては、1周目が水星の魔女プロローグ→ゆるキャン△、2周目が結城友奈は勇者である勇者の章→ARIAだった。本当は結城友奈は勇者である鷲尾須美の章5話を見たかったが、ネタバレを気にする参加者に配慮した。その人は勇者の章を見ているとの事だったので勇者御記をみんなで読む名シーンを見た。

反省点として、ヒーリングアニメの力が強く、その日9時間ほどアニメを見続けていた企画者はウトウトでできてしまったこと(アニメサウナをする体調ではなかった)、外気が寒すぎて外気浴の時間が短かったことが挙げられる。来年は鬱アニメとヒーリングアニメを1作品ずつ用意し、12周鬱アニメ→ヒーリングアニメ→外気浴のサイクルを行いたい。”

企画者名 塩崎翔大

企画名 白髭参拝

日時 開催されず

参加人数 0

当日の様子・反省 “企画としては琵琶湖の中にある大鳥居をくぐるところから白髭神社への参拝を貫徹するというものであったが、企画当日を含め寮祭期間中全日体調を崩していたため、12月の琵琶湖に入ることは更なる体調不良を招くと考え中止とした。来年の開催を目指したい。”

企画者名 片桐

企画名 学寮コンパ

日時 12/3 20:00-

参加人数 30人ほど

当日の様子・反省 企画が被りすぎてははじめ人があまりいなかった。キムチ鍋が辛すぎたのは反省。メのキムチチーズうどんリゾットは好評だった。北は東北、南は高知までたくさんの人が来てくれてよかった。女子寮吉田寮熊野寮の三寮で交流出来たのは大変良かった。学寮をめぐる情勢は厳しいものになっているが、こういった集まりにはそれを跳ね返す力があることを確信した。春休みの学寮交流会・日就寮パンフ撒きに皆さん集まろう！団結して闘おう！

企画者名 片桐  
企画名 時計台編入 日時 やってない  
参加人数 0  
当日の様子・反省 忙しくてできなかった。アイデアは天才的だと思う

企画者名 片桐  
企画名 14キロの砂糖水  
日時 12/7時点未実施  
参加人数 当日の様子・反省 現在未実施。砂糖はあるので今期中に行います  
(12/7執筆)

企画者名 片桐  
企画名 ドキュメント72時間  
日時 参加人数  
当日の様子・反省 “まだやっていない。場所がどこも微妙で、当初の趣旨で企画貫徹が行えないと感じたため。  
12/12の週に食北かどこかに定点カメラを設置し、適宜取材をするので許してください。その際周知はします。”

企画者名 片桐  
企画名 安倍晋三追悼記念 新興宗教ラリー  
日時 常設  
参加人数 当日の様子・反省 まだやってない。すいません。フォーム投げるだけなのでやります。なんか楽しみにしている人もいるみたいなので。

企画者名 片桐  
企画名 街宣車で自転車窃盗団に〇〇〇〇〇  
日時  
参加人数  
当日の様子・反省 忙しかったのと12月の道路使用許可を取り忘れたため実施せず。

企画者名 滝 敬登  
企画名 シャンパンタワー  
日時 12/1 21:30~  
参加人数 90人  
当日の様子・反省 シャンパンタワーは数年前からの恒例企画で、今年から野坂さんから滝が引き継ぎました。予算は25000円いただきましたが、5000円ほど赤字でした。全寮コンパが落ち着き、お酒も少なくなってきたタイミングで自分と有志数人で食堂の真ん中に机を移動してひっそりと準備を始めた。今年は去年から1段増やして6段のシャンパンタワーを建てたが、有志諸君が優秀であったため滞りなく準備できた。タワーが完成したタイミングで電気を消して、シャンパンタワーをスマホのライトで照らして、人を呼び込みつつシャンパンを注ぎ始めた。シャンパンは12本用意したが、結構うまいこと注がないと下の方のグラスにあんまり入らなかった。量的には12本で十分そうだから上のほうのなみなみのカップから移したらいいかも。コールもっと勉強します。音楽流す準備しとけばよかった。乾杯を終えて、グラス飲み干した後は受け皿に残った大量のシャンパンをみんなで回し始めた。正副実長、女子寮の子、2回生ズ、野坂さんで飲み干した。楽しかった！いい感じに酔ったところで、ファミマと連帯に続く。。。受け皿スマホじゃなくて専用のやつで光らしたい。段数来年も増やしたい。ので来年も予算よろしくお願いします！

企画者名 滝 敬登

企画名 モンエナ作る

日時 11/30 23:00~

参加人数 3人

当日の様子・反省 当日、中間レポートがヤバすぎてそれどころではなかったが、やりた  
いという人がいたので、レポート書きつつ始めた。鍋に高麗人参を入れて煎じ始めた。その  
後、気づけば数日経っていて、高麗人参を煎じた鍋からはものすごい酸っぱい匂いがし  
て、明らかにやばい状態だったので、飲むことを断念した。無念です。多分もうやらないで  
す。

企画者名 滝 敬登

企画名 A4、B4、C4つなげる

日時 常設

参加人数 全4階の民

当日の様子・反省 滝がA4, B4, C4と繋がることに終わってしまった。残念無念また来週

企画者名 世一嘉偉

企画名 全寮コンパ

日時 12/2 18:00-

参加人数 寮生128名 寮外生50名 (いずれも受付の名簿に書かれた数)

当日の様子・反省 ”

・当日

当日は17時時点で鍋、揚げ物が厨房によって用意されて、その後会場設営を行った。開始  
時間には配膳担当も集まり、滞りなく配膳できた。配膳担当の交代もなんやかんやでき、当  
日来た配膳担当の中では特別に仕事量が偏ることはなかった。9時過ぎには鍋等がほとんど  
履けていた。その後、シャンパンタワー、ファミマと連帯に移っていった。

・特に引き継ぎたいこと

揚げ物を一部の人がたくさん取らないように周知する。(特に配膳担当に対して)

寮外生も多いので、導線を確保する

配膳の仕方やおかわりは同じ皿などの形式をホワイトボードに書いても良いと思う。

・反省

飲み物のお金がアルコールばかりに使われている。良いお酒はあるが、良いジュース(果  
汁100%など)はほとんどなかった。企画者も買い出しに行っていたが、良いジュースを一瓶  
入れただけだった。熊野寮におけるコンパでお酒ばかりに予算が行くという悪しき習慣にも  
っと意識的に、批判的に向き合うべきだった。

片付けを各自が自主的に行う風潮を作るべきだった。これも熊野寮全体の問題である。

ハラスメント対策の周知を熊野寮コンパ並みにすべきであり、jkなどにアナウンスを手伝  
ってもらべきだった。当日どこまで目が行き届いていたのか不明だったので、炊事部とし  
ても積極的に行いたい。

・その他

その後のファミマと連帯では、過度のカンパ集め、集団での一気飲み、大声で叫ぶなど、  
一部の人たちが高揚していた。また、それを積極的に止める人が少なかった。このようなノ  
リは全寮規模の行事にふさわしいかを考え、行動すべきである。企画前に有志で話し合っ  
ても良いかもしれない”

企画者名 高村匡弘

企画名 熊野寮ビジネスバイク部

日時 11/29 19:00~

参加人数 5

当日の様子・反省 “スーパーカブを食堂に運び入れたところ4人くらいが関心を持って集まってきてくれた。急拵えのビジネスバイク車種当てクイズを行った（参加者2人）。食堂にバイクを持ってくると結構邪魔だったというのが反省点である。”

企画者名 高村匡弘

企画名 スーパー蕪

日時 12月4日

参加人数 8

当日の様子・反省 “食堂で行うつもりだったが寒くてこたつから出られなかったのでA2談話室で行った。意外とたくさんの人が参加してくれて、6台のカブと1台のメイトが作成された。加工で出た蕪の端材（大きい鍋にいっぱい）はロビーでご飯を提供していた伊藤さんに処理を依頼したところ、お味噌汁を生成してくださいました。ありがとうございました。叶屋でとても大きい聖護院蕪を2本買ったのだが、1本150円だったため1000円もらっていた予算を余らせてしまったのと、食堂で行わなかったため参加できなかった人が発生してしまったのが反省点である。”

企画者名 高村匡弘

企画名 松屋立命館大前店で食い逃げ

日時 11/28 21:00~

参加人数 4

当日の様子・反省 寮生3人、寮外生1人の4人で自動車を用いて松屋立命館大前店へ行き、食い逃げをせず普通にご飯を食べて帰ってきた。移動中と食事中にネットミームに詳しい寮外生からバイデン松屋の縁起について教授を受けた。どうやら去年か一昨年の寮祭の共産圏コンパに来ていた別の寮外生が、立命館から大統領を輩出するという広告と、松屋で食い逃げするというネットミームを悪魔合体させてネタにしたのが発祥らしい(?)。詳しくは良くわからなかったです。

企画者名 尾方 司貴

企画名 リアルタイムバトル麻雀

日時 11/25(金)

参加人数 10人ちょい

当日の様子・反省 “準備などが遅れて22時スタートになってしまったが、1卓がちょうど埋まるくらいの感じでちょうど良い集まり具合だった。

細かいルール

- ・一発はリーチ者がツモ番を行うor誰かが鳴くまで継続
- ・千日手あり(誰もツモ番を行わない状態が1分続くと流局)
- ・河底/海底は最後に切られた牌に適用される。微妙な判定は主審によるジャッジに従う。
- ・公式大会決勝卓ではそれぞれのプレイヤーの後ろに副審が付く。
- ・溜めツモあり(上がり牌をツモったあとツモ上がりを宣言するタイミングは自由)
- ・鳴きたいor上がりたい相手がすでにツモっていても切る前なら鳴くor上がる事が出来る(同時の場合は判定)
- ・配牌までは自分の牌を見ることが出来ず、合図がされたら一斉にスタート。
- ・カンによるドラめくり時間の公平性のため、王牌のうちドラ表示に関わりうる部分は主審が管理する。
- ・流し満貫あり(ただし0枚は不成立。)
- ・山を崩してしまった場合は崩した枚数×1000点を供託して続行(主審が判断)

- ・千日手の際に手牌が14枚の(ツモった牌を切っていない)プレイヤーはチョンボになる
- ・流し満貫の必要枚数をつけたり枚数によって点数変えたり千日手の時に河の枚数が他の人より少ないと罰則をつけたりするかも(流し満貫の強さ次第)

流し満貫成立時、河1段(6枚)ごとに点数が一段階増える。

子の場合

1~6枚→2000点  
7~12枚→4000点  
13~18枚→8000点  
19枚以上→12000点

もう少し傾斜がきつい方が良いような気もするけど(3枚ごととか)まあとりあえずこれで。

感想

これらのルールを説明すると意外とちゃんと考えられてる！と言われてうれしかった。実際にやってみると千日手や流し満貫は出なかった。千日手を防ぐためにリーチ者がツモり始めるのはあった。また、デバッグの観点で、すでに大差をつけたプレイヤーが手牌もツモ牌も見ずに全ての牌を捨て続ける行為が強い上に他の人が出来ることがなくなるのでルールでなるべく防ぐ必要があるなと思った。やるとしたら流局時のシャンテン数に応じた罰符かなと思っている。(実際の局では聴牌までたどり着くことはなんとか出来た。)ただし、これだとベタ降りが弱くなってしまう。

ハイライト

- ・ダブルリーチが出た。他の人は振り込みを防ぐために切るのが遅くなったためリーチ者は大量にツモ番を行った(30枚)が、上がることは出来なかった。
- ・四暗刻や国士などのように思考量を減らせる役が強いのでは？と考えた人もいたが、役満はその程度で上がりやすくなるものではなかった(早くはなっていたが。)
- ・理牌が早い人が強かった。
- ・だんだんアドレナリンが出てきてすばやい行動が出来るようになる代わりに細かい作業が出来なくなり、理牌が遅くなった。
- ・とても疲れるので2半荘が限界だった。”

企画者名 高村匡弘 企画名 強い証明写真 日時 11/30 22:00~(当初の予定では) 参加人数 3 当日の様子・反省 企画者の”強い”証明写真は人々の助力を得て事前に撮影してあったものの、強い証明写真選手権は企画者のやる気のなさにより不開催でした。企画者の証明写真を見たい方はその旨伝えてくれたらお見せします。写真はとりあえず近々提出が必要な大学院の学生証用として使う予定です。

企画者名 橋本竣史

企画名 エクストリーム帰寮

日時 11/25 22:00-

参加人数 約160人

当日の様子・反省 ”事前にチーム作成と参加申し込みのGoogleフォームを用意して、参加者に入力してもらった。このフォームについて、あまりにinvalidな入力をする人が多かったのが、より平易な形式を考えなければならない。入力内容をもとにGASを用いて出発時刻等の案内メールを送ったが、GASのメール送信APIには1日に送信できる件数に制限があるので注意が必要。今回は参加者に加入してもらったオープンチャットで連絡を流すことで代替した。

当日は21:40ごろから受付を開始して順次送り始めた。朝4時ごろからドライバーが不足する事態が発生していたので、来年度以降やるとしたら、朝に起きるドライバーを用意しておくべきかもしれない。今回は参加者にしばらく待ってもらい、企画者自ら運転することでドライバー不足に対応した。

今回は運営への過剰な負担が問題となった。実力に見合わない長距離を希望してリタイアする参加者が多かったため、来年度以降やるとしたらその点は注意喚起をするべきである。これ以上救援要請に対応してられないので、リタイアするのであれば自費で帰還することを原則とし、そのための現金の所持を推奨する必要を感じた。

全員無事に帰還できたのでとりあえずは良かったが、フリーライダー対策と運営の負担軽減の具体的方策は今後更に練っていかなければならない。そもそも企画内容に無理があるという話もあるので、人数制限などを考えても良いと思う。わたしはもう来年以降やりたくないで誰か引き継いでくれる人を探しています。”

企画者名 塩崎翔大

企画名 宇宙よりも遠い場所

日時 12月1日20時～28時

参加人数 5名

当日の様子・反省 “寮から最寄り店までの移動距離が宇宙よりも遠いラーメン屋である山岡家に行った。企画には、興味を持った北大生がわざわざ札幌から参加してくれた。札幌からの距離を考えると宇宙(毛利衛氏の発言のオマージュであることから上空400kmにあるISSを想定)よりもはるか遠い1000km以上の距離を移動してラーメン屋に行ったこととなる。京都からの時間をとっても、毛利衛が山岡家を訪れたときに発言したように、正に「宇宙には数分で行くが山岡家には何時間もかかる。宇宙よりも遠い場所」であった。

しかしながら我々は常日頃からその宇宙よりも遠いラーメン屋に通っているので、集めたサービス券を使い、参加者に辛味噌ラーメンと餃子を振舞うことができた。よって、併せて一人当たり1150円するところであったが参加者が、負担した金額はサービス券ラーメンの辛味噌変更に係った120円のみである。

今回使用したサービス券は70枚であり、これは単純に我々がこの1年間で山岡家のラーメンを70杯食べたことは意味しないが、それでも24時間営業の山岡家に対する寮生の需要は十分にあることが分かった。

今回、我々の企画の裏で、滋賀県南草津にあるにぼ二郎に向かう企画があったため、ラーメンを食べる寮生が分断されてしまい、想定されていた参加者が集まらなかったのは非常に残念な点である。にぼ二郎企画には15名程度の参加者が集まっていたと認識しているが、この結果から京都都市圏に山岡家が再進出した場合に山岡家に向かうであろう寮生の数を試算した。

寮生がラーメン屋に向かうのべ人数は、そのラーメン屋のポテンシャルと寮からの距離の2つのパラメータに依存すると考えられる。距離に関しては、体感から距離の二乗に反比例すると考えて妥当であろう。にぼ二郎は寮から20km、山岡家は寮から100kmであるから、山岡家とにぼ二郎のラーメン屋としてのポテンシャルが同等であるとき、山岡家に行く寮生の数はにぼ二郎のその1/25になる。ところが、今回の企画において、集まった寮生数はにぼ二郎の1/3程度であった。これはすなわち山岡家のラーメン屋としてのポテンシャルがにぼ二郎の25/3であることを意味する。

つまり、山岡家の最寄り店が南草津にできた場合には今回の企画に125人が結集し、山岡家に充満することが想定されるということである。山岡家が南草津にできた場合には寮祭企画「山岡家と連帯」を行うことも夢ではない。

さらには、この計算から今年一年で寮生から集まった山岡家のサービス券が70枚程度であることから全寮生が1年間に食する山岡家のラーメンが現状70杯であると仮定すると、南草津

今回の企画で参加者が十分に集まらなかった点は残念であったが、定量的に山岡家の需要を把握することができ、企画者が1年前から主張している山岡家の京都都市圏再進出の必要性が確認されたという点で今回の企画は成功を取めたと総括することができる。



企画者名 長江  
企画名 コンビニオーナー講演会  
日時 12/1 19:00~21:00  
参加人数 30人程度 当日の様子・反省 “コンビニの24時間営業強制に反対してストライキに立ち上がったコンビニオーナーの松本さんは、個人的な利害ではなくて、社会全体のことを考えていたからこそ、資本による屈服攻撃にも負けずに闘い続けることができたとわかった。これは、京大の処分問題でも全く同じだ。  
寮外生も多数参加し、講演会後の議論や交流会也大いに盛り上がった。  
松本さんは、翌日の総長室突入にも参加し、めっちゃくちゃ空気入って帰っていった。”

企画者名 藤巻  
企画名 入寮式  
日時 11/26 0時から参加人数 0人 当日の様子・反省 企画者が体調不良になってしまったため実施しなかった。

企画者名 横田蛍佑  
企画名 殴る、蹴る。  
日時 11/26 22:00~  
参加人数 10人くらい  
当日の様子・反省 予定通りの時刻に開始しようとしたが、人が集まりにくそうだったので、無期限延期にした。しかし、同日の夜の同釜会の最中にD2KBYからの強い要望を受け、同釜会の裏でAB棟間の廊下で開催した。廊下を通る人も一緒になって、怨みつらみを叫びながら企画者所有のミットに対して、殴る、蹴るなどの暴行を行った。反省としては廊下という場所がよくなかった点が挙げられる。また、企画参加者が想定外に感情を拳にのせてきたため、企画者が若干引いてしまい、効果的な殴り方、蹴り方を教えることができなかった。さらに、企画者の殴る、蹴るなどの暴行により、ミットを持っていたD2KBYの胸部に寮祭終了後にも残る後遺症が遺ってしまった。大事には至っていないようだが、今後の容体には注意が必要である。

企画者名 藤巻  
企画名 保健所感謝の日  
日時 12/3  
参加人数 0人  
当日の様子・反省 大階段グリコへの移動途中で保健所前に行く予定だったが、企画者がピザがまコンパの主催者を兼ねており片付けをしていたこと、ライブが長引き思ったより暗くなってしまったことにより実施できなかった。

企画者名 藤巻  
企画名 深夜アニメのCMやる  
日時 実施せず  
参加人数 実施せず  
当日の様子・反省 企画者が思ったより忙しく実施できなかった。  
企画者名 藤巻  
企画名 タバコポイフル  
日時 実施せず  
参加人数 実施せず  
当日の様子・反省 思ったより企画者が忙しく実施できなかった。

企画者名 藤巻  
企画名 えさがち家焼き2周年記念  
日時 実施せず  
参加人数 実施せず  
当日の様子・反省 企画者が思ったより忙しく企画に使用する物品を購入できなかったため行わなかった。

企画者名 横田蛍佑  
企画名 大声選手権  
日時 ゲリラ  
参加人数 -  
当日の様子・反省 AB棟間綱引きと同時開催を画策していたが、企画者の疲労により、企画者が優勝できない可能性があったため、この企画は開催しなかった。

企画者名 横田蛍佑  
企画名 マ○キに賭ける  
日時 ゲリラ  
参加人数 -  
当日の様子・反省 マ○キ君が忙しそうだったので、この企画は実施しなかった。

企画者名 藤巻  
企画名 オタク早歩き大会  
日時 11/27 四条大運動会  
参加人数 20人ほど  
当日の様子・反省 四条大運動会の体操終了後、河原から三条商店街のアーケードまでの間で早歩きで移動し、最速のオタクを決定した。事前に構想をあまり練れていなかったのどこでやるかを決定するのに大運動会側と少しグダってしまったが、実施できてよかった。

企画者名 藤巻  
企画名 唯物論の神様  
日時 ゲリラ  
参加人数 全人民  
当日の様子・反省 唯物論とは科学的に最も正しい社会思想であるので、全人民は潜在的に寮祭期間中ずっと唯物論の神に祈りを捧げていたといえるのではないだろうか。

企画者名 藤巻  
企画名 学部選択ミスった人座談会  
日時 実施せず  
参加人数 実施せず  
当日の様子・反省 企画者が思ったより忙しく実施時間が取れなかった。後日入寮パンフへの掲載を目指して行うかもしれない。

企画者名 河合(クローン)  
企画名 「偽物コンパ」改め「コンピュータ様を讃える完璧で幸福なコンパ」  
日時 (変更前)12/1 18:00~ →(変更後)12/3 13:00~15:00  
参加人数 10人ぐらい  
当日の様子・反省 ” このコンパは、食料を得るのが困難になったこの世界で飢えた市民を見かねたコンピュータ様が開いてくださった完璧なコンパである。

なお、このような素晴らしいコンパを「偽物コンパ」などという冒涇的な名前で届け出を出した河合は始末された。そのため、河合のクローンがこの総括を書いている。

当日は、パスタ、パン、米などの主食や、カレー、パスタソース、スクランブルエッグ、チーズ、マヨネーズ、カニなどを用意した。想定よりも準備に時間がかかったが、善良な市民が手を貸してくれたため、13時にコンパを開始できた。

コンパが始まると、市民は用意された食べ物を好きなように組み合わせて食べていた。特に、パン+チーズ+卵+マヨネーズの組み合わせは好評であった。

当初の予算は5000円であったが、コンピュータ様は飢えた市民を見かね、予算を大幅にオーバーしてまで食べ物を用意してくださった。そのため、総費用は11032円となった。また、この日に訪れた市民はコンピュータ様のお慈悲に深く感謝し、合計1505円のカンパが捧げられた。

”

企画者名 藤巻

企画名 後の祭り祭り

日時 実施せず

参加人数 実施せず

当日の様子・反省 全寮コンパ中に参加者に後の祭りになってしまったことを絶叫してもらおうという企画内容だったが、企画者がこの企画の存在をすっかり忘れてしまっていたため不実施。とても後悔しているが、まさにこれが後の祭りなのである。

企画者名 藤巻

企画名 シガーキスリレー

日時 ゲリラ

参加人数 不明

当日の様子・反省 もとより企画者が喫煙者ではないためこの企画の実行可能性はそもそもほぼなかった。もしかすると喫煙所で誰かが実施してくれてたかもしれないが、企画者は知らない。

企画者名 藤巻

企画名 コロナ追いコン（仮）

日時 実施せず

参加人数 実施せず

当日の様子・反省 元々全寮コンパ中にこれまでの熊野寮のコロナ対策の取り組みをスライド発表し、折り紙で作った勲章を歴代厚生部長やおつかいに行ってくれた人に授与する予定だったが、企画者が忙しくスライドを用意できなかったり、功労ある歴代厚生部長の数名が全寮コンパに参加できなかったりしたため不実施。来年はやりたい。

企画者名 藤巻

企画名 ポストモダン焼

日時 11/28, 12/2

参加人数 10人（シンポジウム）、50人ほど（実食）

当日の様子・反省 “シンポジウムにはあまりポストモダニズムに関する知識のないものも参加しており、また司会の権限を明確に設定していなかったため、企画者の想定したような学術的な議論にはなかなかならず、勝手な発言の飛び交うグダグダの議論になってしまった。こういう時はレジュメを用意し、議論の裁定権力者を設定した方がいい。一方で、ポストモダン焼の構想自体はうまくいった。

全寮コンパ中にはスライド発表と実際に制作したポストモダン焼の配布（デリダ的に言えば散種）を行った。スライド発表はTwitterでも約2000いいねを獲得するなど好評だった。ポストモダン焼自体もなかなか味のクオリティが高く、全寮コンパの参加者は喜んで食べていた。”

企画者名 藤巻

企画名 食べるの遅い人コンパ

日時 12/1~2

参加人数 1人？ 当日の様子・反省 企画者は思ったより忙しかったためこの企画の開催を断念したが、C34小林が自主的に行った模様。全寮LINEなどを見る限り、小林は企画広告どおり夜寮食を朝8時まで食べ続けたようである。

企画者名 藤巻

企画名 食べるの早い人コンパ

日時 実施せず

参加人数 実施せず

当日の様子・反省 食べるの遅い人コンパ共々、企画者が思ったより忙しかったため開催を断念した。食べるの遅い人コンパは自主的に実施するものが現れたが、こちらは実施されたかは不明。

企画者名 藤巻

企画名 ボツ寮祭企画供養

日時 実施せず

参加人数 実施せず

当日の様子・反省 企画者が思ったより忙しく不実施。この企画もボツになってしまった。供養。

企画者名 藤巻

企画名 逆再生飲み会

日時 実施せず

参加人数 実施せず

当日の様子・反省 企画者が思ったより忙しく不実施。気に入っているアイデアではあるので来年こそ実施したい。

企画者名 藤巻

企画名 入れ替わっちゃった！？

日時 実施せず

参加人数 実施せず

当日の様子・反省 企画者が思ったより忙しかったため不実施。

企画者名 藤巻

企画名 闇堕ち

日時 12/4

参加人数 5人ほど

当日の様子・反省 しんみりとした雰囲気ファイヤーストームの横でひっそりとやろうと思っていたが、雰囲気が例年より明るかったため一時断念。食堂で談笑しているうちに「寮生の疲労」的な話題になったので自然発生的に開催された。そこでは、文化部の原動力が1回生の属人的なパトスに依存しており、そのために慢性的な人員不足に陥っているこ

と、一方でシステム的な解決を図ることは文化部のコンパ（ひいては寮の団結）を無味乾燥で官僚主義的・サービスのなものにしてしまうことが指摘された。重要なテーマであると考えするため、企画者は今後もこの問題に関し考察を続けていきたい。

企画者名 藤巻

企画名 外山合宿同窓会

日時 12/3

参加人数 10人ほど

当日の様子・反省 学寮コンパの横でひっそりと開催した。あまり人は来ないものだと思っていたが、「サークルクラッシャー同好会」のホリエンさんなど参加し、コンビニで購入した酒とつまみを消費しながら外山恒一の思想・数日前に起こった宮台真司襲撃事件などについて話し合い、それなりに盛り上がった。また、合宿に興味を持つ寮生なども参加し、相互に交流を深めることができたのはよかった。

企画者名 本村 剛基

企画名 理農学部コンパ

日時 11月26日

参加人数 20人ほど

当日の様子・反省 同釜会の終盤に食堂の隅で、「ワインオセロ」とともに開催していた。水を2.2Lほど用意しており、参加者の介抱などもしっかり行った。午前1時前には、撤収作業が完了していた。

企画者名 本村 剛基

企画名 目覚まし亭

日時 11月4日未明

参加人数 30人ほど

当日の様子・反省 多くの好評をいただきました！ありがとうございます！企画者は大満足です！なお、大赤字の模様…。仕入れを見直す必要あり。

企画者名 嶋村悠利

企画名 まえだりょう祭

日時 12/3

参加人数 15人

当日の様子・反省 眞栄田亮（敬称略）の希望により度数の低く甘い酒を用意したが、本人は終始ジュースしか飲んでいなかったのでショット麻雀を企画。途中で安波が乱入、眞栄田を殺しにきたと叫んでいたためショット麻雀で闘わせた。1半荘目は眞栄田、安波、嶋村、山本、2半荘目は眞栄田、嶋村、大塚、西山のメンバーで行った。2半荘とも下戸の嶋村が運と雀力に助けられ5～6万点のトップを取り、大きな振込みもなく1.5ショットオール、1ショットオールがそれぞれ2回ずつほど出て終わった。山本と大塚が死にかけていたが、眞栄田安波の対決はドローのまま安波退散。主役の眞栄田は久しぶりに盟友と闘牌できたことに満足気であった。その後は他愛もない雑談を続けつつ夜を更かし、4時頃に眞栄田が部屋に戻り就寝したところでまえだりょう祭終了とした。途中三上、後の祭りで齋田、飯田も顔を出してくれ、眞栄田亮の人望の深さが伺える良い企画となった。

企画者名 嶋村悠利

企画名 鷺巣献血麻雀

日時 11/28

参加人数 6人

当日の様子・反省 “開始時間が朝7時からと早く人の集まりが心配されたが無事に4人以上人が集まり企画を実施することができた。  
時間がかかることが予測されたため東風戦とした。起家水林、南家嶋村、西家向後、北家滝の席順。  
東1局、好配牌をもらった企画者嶋村が5巡目に立直するも流局しまさかのノー聴であったことが発覚、4000オール。  
その後は軽い手の応酬が続き、親を落とされた嶋村が東風で16000点差を捲ることは難しかった。途中、水林に代わり桑原、滝に代わり日就寮生が卓に入ったが順位は変わらず、嶋村が18700点のラスに沈み献血が決まった。  
まだ献血行けてません、すみません。必ず行きます。”

企画者名 磯川大知

企画名 レシート回収

日時 寮祭3, 5, 6日目

参加人数 8

当日の様子・反省 寮祭3、5、6日目に行った。まだ予算を執行していない企画も多くあることもあり、回収ははかどらなかった。来た人に対してはあらかじめ作成しておいたスプレッドシートのおかげで迅速に対応できた。事前に周知していなかった回としていなかった回で来た人数が如実に異なったので、毎回の前日でもいいので周知をしておくべきだった。

企画者名 田村恵吾

企画名 熊野寮放送部特別編

日時 12月1日 8:00~

参加人数 0人

当日の様子・反省 頓挫。ごめんなさい。

企画者名 南沢

企画名 櫓を建てよう

日時 ゲリラ

参加人数 0

当日の様子・反省 体調不良のため企画ができなかった。大変申し訳ない。

企画者名 南沢

企画名 熊野寮考現学

日時 ゲリラ

参加人数 1

当日の様子・反省 体調不良のためベッドの中でパンフの手書き字を採集した。そのうち寮生の手書き文字で作ったフォントを作りたい。

企画者名 持留光

企画名 みささぎスタンプラリー

日時 常設

参加人数 0

当日の様子・反省 公式LINEを作成しチラシをロビーに貼ったが、それ以上の宣伝をほぼしていなかったためか参加者が出なかった。

企画者名 南沢

企画名 熊野寮考古学

日時 ゲリラ

参加人数 0

当日の様子・反省 体調不良のためなし

企画者名 南沢

企画名 ドライブ・マイ・カー

日時 ゲリラ

参加人数 0

当日の様子・反省 無免許者が運転してもよい車を手配できなかったため開催しなかった

企画者名 炊事部

画名 寮食クイズ

日時 11/28および12/2

参加人数 26

当日の様子・反省

”概要：

- ・11/24に栄養士の下岡さんに依頼し、11/28の夜の寮食の献立を非公開とした。
- ・解答用のGoogleフォームを作成し、食堂に掲示したQRコードと周知さんを活用してフォームを公開した。
- ・解答項目は、11/28の夜の寮食について、汁物、主菜、角型小鉢、丸型小鉢の献立名、食材、調味料の計12項目とした。
- ・解答締め切りを11/29の正午とし、26人の解答を得た。
- ・採点を12/1の夜に3人で行った。
- ・12/2の全寮コンパ中に、上位5名の名前と点数を発表した。
- ・上位3名に夜の単食券を1枚贈呈した。

模範解答：

- ・汁物——献立名：すまし汁
- ・汁物——食材：かぶ、カットわかめ
- ・汁物——調味料：うすくちしょうゆ、食塩、かつおだし
- ・主菜——献立名：回鍋肉
- ・主菜——食材：豚もも、キャベツ、にんじん、むきたまねぎ、青ピーマン
- ・主菜——調味料：にんにく、しょうが、トウバンジャン、清酒（普通酒）、赤みそ、上白糖、こいくちしょうゆ、オイスターソース、食塩、こしょう、ごま油、片栗粉
- ・角型小鉢——献立名：ごぼうの金平
- ・角型小鉢——食材：焼き竹輪、ごぼう、根深ねぎ（葉、軟白、生）
- ・角型小鉢——調味料：こいくちしょうゆ、本みりん、三温糖、かつおだし、白ごま
- ・丸型小鉢——献立名：すのもの
- ・丸型小鉢——食材：にしん、ほうれん草、にんじん
- ・丸型小鉢——調味料：うすくちしょうゆ、酢、上白糖、白ごま、食塩

採点基準：

- ・献立名は1つ15点。
- ・食材は過不足なく正解して10点、間違い・不足1つにつき2点減点、最低0点。ただし、使用された調味料が食材の解答欄に書かれていた場合、間違いに含めなかった。
- ・細かい正誤判定は基準を緩めにした。
- ・献立名と食材の満点の合計が100点。原則としてこの点数で順位を決定した。
- ・調味料の解答は成績優秀者で同点だった場合の順位決定のみに使用した。正解1つにつき1点、間違い1つにつき-1点とした。

採点結果：

- 1位 (75点) A411松岡
- 2位 (69点) A402小西遥翔
- 3位 (66点) B210福本夏生
- 4位 (66点) C201森下
- 5位 (66点) A410芦田晴菜

※敬称略

反省点：

- ・下岡さんへの依頼が直前になってしまったため、解答しやすい献立を調整することができず、全体として問題が難化してしまった。
- ・直前までGoogleフォームが完成せず、使用できないリンクを公開するなど混乱を生じてしまった。
- ・寮祭期間中のため人手が確保できず、3人という少人数での採点となったが、それを見越して、調味料の採点を成績優秀者のみに限定していたため、採点の負担が過剰にはならなかった。”

企画者名 中川雄太

企画名 永久機関製作を手伝おう

日時 11/27 13:00-14:00

参加人数 15人くらい

当日の様子・反省 ” 企画者及びA2延山はエムパワーという会社からとある永久機関の部分的改良を頼まれており、今回の寮祭企画を開催するに至った。この永久機関の仕組みは、電気を入力、水を電気分解して発生した水素を燃焼して発電するというものであり、「電気発電」とでもよぶべき代物である。この電気発電によりエネルギーが8倍になるという。

本来は11/26の10時開催だったが誰も来ず、翌日にやった。OP三宅や新谷を中心に、科学的好奇心を持った人たちが集まった。ひとまず装置自体はこの前社長が持ってきてくれたので試しに動かしてみようということになった。電気を入力するためにコンセントを差さないといけないのだが、そのコンセントが中国でしか使えない形状であったため、何も出来ないまま企画は終了となった。ウケは良かった。

反省点：装置を社長から貰ったあと完全に放置していたためコンセントの問題に気づけなかった。”

企画者名 麻生

企画名 たま上映会

日時 12/3(土)23時～25時

参加人数 7名前後

当日の様子・反省 ” 【当日の様子】当初の予定では11/29(火)に行う予定であったが、企画者の都合により何度か延期し、また12/2当日は食堂で上映会を行った。バンド「たま」のライブDVD『野球』全編および『たまの最期!!』の一部(「星を食べる」)を上映した。たまの楽曲や出演番組などにちなんだ飲食物(オリオンビール、柿の種、キャベツ、イカ天、牛乳、コーラ、オイルサーディン、しみコーンなど)を提供した。他の寮祭企画に参加していた人々が何人か立ち寄ってくれた。

【反省】延期先の日時を十分に周知することができず、たま好きの寮生・寮外生たちに参加してもらえなかった。”



企画者名 持留光

企画名 飯テロ耐久

日時 11月25日 17時～

参加人数 6

当日の様子・反省

“参加者の意見から「30分間飯テロ動画を見た人が焼き肉に参加できる」というルールができた。

肉がおいしかった。”

企画者名 持留光

企画名 イグ・ノーベル賞をよむ

日時 11月29日 18時～

参加人数 0

当日の様子・反省 “企画者がよくま合同ライブに行っていた。

すっかり忘れていた。申し訳ありません”

企画者名 持留光

企画名 サメウォッチング

日時 12月3日 2時～

参加人数 13

当日の様子・反省 “食堂モニターで「シャーケンシュタイン」「ウィジャ・シャーク」を上映した。酔った人に囲まれ、介護したり急かされたりしながら鑑賞した。

ずっと哀哭している人もいて、おもしろかった。”

企画者名 中川

企画名 中核派と見る天元突破グレンラガン上映会

日時 11/29 14:30-18:50

参加人数 10人くらい

当日の様子・反省 “ 寮外中核派の吉田悠さんと劇場版「天元突破グレンラガン」を見るという企画。日就寮生達を中心に寮外の人がたくさん来た。

元々食堂北部でやる予定だったが演劇のリハーサルがあるとのことだったので鉄扉でやった。しかし17:00から鉄扉で芸大展示企画の準備が始まったので食堂北部へ避難。グレンラガン冒頭さながらに地下から地上へ出てきたわけである。その後18:30から食堂北部で演劇のリハーサルが始まったので食堂に移動。ここまでの視聴で螺旋エネルギーが覚醒した参加者たち。全員がコアドリルと化し、食堂中心にスピンオンすることで熊野寮を天元突破クマノリョウに変形させることができた。弾圧も処分も突破して、掴んでみせるぜ!己の自治を!俺たちを誰だと思ってやがる!

食堂テレビでの上映が終わり拍手が沸き起こった。”

企画者名 持留光

企画名 無色透明

日時 12月3日 17時～

参加人数 11

当日の様子・反省 “ピザ窯コンパの机の端を借りて開催した。

ライブと同時だったため薄暗く、あまり無色透明感がなかった。飲料はおいしかった。もっと種類を揃えておけばよかったかもしれない。”

企画者名 小林  
企画名 1日感謝の1役満  
日時 常設  
参加人数 150人くらい？  
当日の様子・反省 “本企画は寮祭期間中に寮内リア麻で10回の役満和了を目指すという企画である。  
役満を和了った人（同卓した寮生）に全寮discordで報告してもらい、ツイッターで現況を公開していた。

寮祭期間中に寮内で和了された役満は以下の通りである。

11月26日 大三元

11月26日 四暗刻

11月29日 四暗刻単騎

12月02日 大三元

ダブル役満は2回和了扱いなので計5回役満を達成した。

反省点

寮祭初日の麻将皇帝戦にて役満が和了されることはなかった。寮祭期間中の麻雀試行数の8割程度を占めると言われている麻将皇帝戦で役満を和了れなかったことを全ての参加者は反省して欲しい。また、四暗刻単騎を和了ったC304井上海舟氏の栄誉を讃えよう。ちなみに、5役満中3役満に企画者は同卓した。”

企画者名 寺田稔彦

企画名 “健康麻雀”

日時 12/2 3:00

参加人数 4人

当日の様子・反省

“当日の様子

当日2時半頃、企画者が共にB4談話室にいたT岡氏とK原氏を誘い食堂へ向かう。K原氏が通りすがりの某寮生(企画者の知り合いではなく名前が分からないので以下便宜上A氏とする)を引きずり込み面子が揃ったのでルール説明の後に闘牌開始。当初は走行距離を25000点からの得失点で計算する予定だったが、K原氏の提案により30000点からの得失点に変更され場に緊張感が走る。大きく場が動いたのは東4局、南家T岡氏のドラポンに対し北家の企画者と親のA氏がガリーチをかけるとT岡氏がA氏の当り牌を掴み12000点(12km)の方銃となる。結果的にこの方銃が致命傷となりT岡氏は1600点持ちの4着に終わる。

対局後規定通りT岡氏を寮から約28kmの地点にまで送り届け企画終了(この時の運転はK原氏に担当していただいた、感謝)。

反省

東3局、親番の企画者はダブ東をポンして手牌には暗刻が一つ(役牌ではない)と5mのトイツがあるテンパイ。ここで対面から切られた赤5mを企画者は鳴き忘れてしまう。最終的に2900点であることはできたが、赤5mをポンしていれば5800点になっていたはずであり猛省が必要である。高レートに惑わされないメンタルを身に付けねばならない。”

企画者名 寺田稔彦

企画名 尾行

日時 ゲリラ

参加人数 2人

当日の様子・反省 参加者間の日程調整が上手くいかなかったため実施せず。

企画者名 小林

企画名 デカメロン

日時 常設

参加人数 10人

当日の様子・反省

”寮祭期間中1日1話人から話を聞き、それを後日文字起こしし公開するという企画である。

寮祭期間中にはたくさんの人と話をしたが、アドベントカレンダーで公開する予定である。

”

企画者名 寺田稔彦

企画名 詰め将棋

日時 11/27 5:00

参加人数 0人

当日の様子・反省 企画者のやる気スイッチが見つからなかったため実施せず。

企画者名 長江

企画名 四条大運動会

日時 11/27 14:00～

参加人数 のべ40人程度？

当日の様子・反省 ”四条大運動会総括

## 1. 総論

年々、四条大運動会に対する警察の弾圧は激しくなっており、企画を貫徹することは一筋縄ではいかなくなっている。四条大橋で綱引きをすることの何がそんなに問題なのか。市民や観光客にまったく迷惑が掛からないとまでは言わないが、毎年それ以上に多くの飛び入り参加があり、人々を楽しませてきた企画だと言える。むしろ、機動隊を動員した警察の規制によって、道幅が制限され通行の妨害になっていることが、最大の迷惑になっているのがここ数年の実態である。こんな本末転倒な結果を招いてまで、なぜ警察は四条大運動会を規制したがるのか？

それは、寮生のパトスが爆発し、市中では大人しくしなければならないという「常識」が破壊され、四条大運動会で得たような経験が、寮を支配する社会構造を転覆するような実力行動に結び付いては困るからだ。警察は、悪人を成敗したり、市民の平和を守ったりすることが任務であるかのような顔をして、市民の味方を演じているが、その実態は、国家権力の支配を維持するための特別に武装した暴力装置であり、そのための「秩序」を守ることが任務である。彼らが言う「迷惑」や「常識」とは、市民の声を代弁しているかのような建前をしているが、その実態は寮を含めたこの社会を支配する人間たちの利害に則ったものでしかないのだ。

熊野寮および京大の学生運動は、大学当局による年々高まる弾圧から、彼らとの非和解性を掴み、実力を伴う行動で力関係を築き対抗してきた。寮を秩序の枠内におしとどめたい国家権力と大学当局の同盟は、寮のあらゆる実力行動を弾圧の対象とし、叛乱の芽を摘み取ろうとしてきた。2017年の時計台占拠では、当時政治的獲得目標を掲げていなかったにもかかわらず、警察を入構させてこれを妨害した。2019年は、クスノキ前に畳を出すことすらも弾圧対象となり、実力で空間を占拠すること自体を許さない当局の姿勢が明らかになった。今年は、D棟コンパに機動隊車両が7台動員されるなど、寮祭は警察が特段に注目する「治安対象」となっている。寮祭で自らの力・可能性に目覚めた若き寮生たちが、今度は自らを支配する構造を揺るがすような闘いに決起していく、こうしたことを国家権力・大学当局は何より恐れているからこそ、政治的なスローガンを特に掲げていない四条大運動会のような企画

すらも弾圧対象になっていくのだ。しかし、こうした不条理な弾圧は、国家権力の隠然たる支配を崩壊させ、寮を支配する構造を白日の下にさらすことになるし、寮生の怒りを掻き立てずにはおかないだろう。

今年の四条大運動会も、以下各論で述べるような激しい弾圧があった。しかし、目を見張ったのは、それに対して1回生が怯まず抗議し、警察の側が弱音を吐いてくるほどに寮生側のパトスが爆発したことだ。こうした権力への怒りは、総長室突入にも引き継がれ、発揮された。国家権力がどうしても防ぎたい、実力闘争への目覚めが始まっている。しかし、こうした寮生の怒りを、個々バラバラに発露している段階で満足するわけにはいかない。個人の怒りを、集団の団結にまとめ上げ、企画を貫徹する力や弾圧に対抗できる力に変えなければならない。これまで、1回生のころから6年間四条大運動会を主催してきた企画者の経験や個人的手腕に基づいた運営がされてきたが、それだけでは頭打ちになってしまっている。寮生の団結で困難を突破するために、来年度以降は綿密な意思一致と団結形成を前提にした企画進行を心掛けなければならないだろう。

## 2. 各論

### 2-1準備段階

- ・最大の失態は、AB棟間綱引き企画者との連携不足で、当日までに綱を用意することができなかったことである。綱を借りるにあたっては、両企画者および寮祭実で連携して綱を借りるのが本来のあり方だが、ここ数年はAB棟間綱引き企画者が率先して綱を借りてくれた。今年、AB棟間綱引きの方の企画者の世代交代に伴って、改めて連携を試みたが、いつまでに必要かという情報を十分に伝えきれていなかった。

企画の前日夜になって綱を借りられていないことが明らかとなり、翌朝京都市内のロープ専門店を4件はしごしたが、日曜日でいずれも休業しており、仕方なくコーナンで購入できる綱引き用にしては細いロープを一応購入する形となった。結果的に、綱引きとしての綱引きはできず、綱引きをするそぶりを見せるには細いロープで事足りたが、本格的な綱引きができないと思うだけで参加者の士気を下げてしまう結果になってしまっただろう。

来年度以降は、もはや近隣の学校から綱を借りるというあり方をやめて、自治会として綱を購入してしまうという方法を検討してもいいかもしれない。このあたりについては、来期中に検討をして、必要なら来々期には予算請求できるように努める。

- ・今回新たな取り組みとして、100均で買える布切れで幟を作ったことが挙げられる。もともと、10月21日に有志学生が主催した反戦集会で手製の幟を使用していたことにインスパイアされ、さらに手軽な形で作成することができた。これがあることで、視覚情報として熊野寮祭のを知ることができるようになり、寮祭の周知に一役買ったと言えるだろう。片方は四条大運動会の開催中で飛び入り歓迎であることを示し、もう片方は寮祭そのものの存在を周知するものであり他の企画でも使えるようにしていた。同釜会直前に独力で作ってしまった（企画者である私がよく陥る課題）ので、製作段階から、みんなでワイワイできたならなおよかった。

### 2-2各種目の総括

#### ①開会式

例年通り、三条の河川敷にて執り行った。選手宣誓と校長先生のお話、準備体操の3本立て。

#### ②ゲバ戦

例年とは場所を変更して、三条河原町の西側角、三条名店街の入り口にて行うという攻めた方針を採用した。この時点で公安が監視に来ており、寮生参加者に声をかけてきたのは、例

年以上の踏み込みである。それでも企画が盛り上がり、勝敗結果から白ヘルの優位が証明された。

### ③二人三脚

例年通り、新京極通で行った。開始地点でかなりの飛び入りがあった。ひもはやっぱりそろそろちゃんとしたやつを買った方がいい。はさみを忘れてしまったことで、準備に時間がかかってしまった。

### ④借りもの競争

例年通り、四条通り周辺を会場にして行った。これも例年通り警察の警備がきつくなっている中での開催だった。3チームに分かれての対抗戦。お題となったのは、変換プラグ、ちいかわグッズ、一級建築士。3つ目は少し難しいが、1, 2つ目は誰かが持っているであろう初級レベルだなと思ったのだが、なんとどのチームも制限時間までにお題を持ってくるのができなかった。こんな事態に遭遇するのは企画者は初めてである。今年の参加者はコミュ力足りなかったのだろうか。ちいかわグッズチーム曰く「持っている人は見つかるんだけど、持ち主の民度が…」おっと、これ以上はやめておこう。

### ⑤パン食い競走

警察が最も規制したがる規制のひとつ。今年も四条河原町の各象限には景観が配置され、いずれの横断歩道でも競争させないぞという意思を感じた。2年前まではここでの開催を諦めてしまっていたが、去年隠密行動をして1回きりだが貫徹できたことを受け、今年も挑戦した。すると、警察は注意や警告はするものの、妨害しきれず、2回もできてしまった。やってみるものである。

### ⑥四条大橋綱引き

警察との最大の攻防点。昨年警察がしつこく追い回し圧殺されながらもなんとか一回やった。今年は、綱（という名のロープだが）をもって橋の上に行かせない規制線がはられた。綱を服の中に隠して上にもっていったが、それを展開させない規制線がはられ、寮生と押し合いになった。一部の寮生が警察に引っ張られ孤立したタイミングがあったため、来年以降はスクラムの組み方を練習して臨みたい。綱を縦にもって警察とぶつかると、寮生部隊の先頭部分しか警察と直接対峙できなくて不利である（日露戦争の日本海海戦みたいな図式）。単純な戦術で突破するというレベルでは太刀打ちできないが、寮生側で作戦に基づいた行動をし、現場で陣形の指示ができるといった団結を形成するために、来年度以降は戦術会議を設けたい。

小一時間ほど抗議行動を継続し、1回生や寮外生も警察に対する怒りを発露した。その後閉会式に移行するために三条に移動しようとしたが、三条大橋で綱引きすると思ったのか、警察もついてきた。これに寮生の怒りが爆発し、警察を追いかけ弾劾し、警察の責任者が弱音を吐いてくるほどに寮生の力を見せつけた。

### ⑦閉会式

警察が見守る中、優秀選手への表彰を行い、総括アジテーションをして、企画を終了した。帰り道も気を付けるために、固まって帰ることを徹底した。

企画者名 長江 企画名 寮食人気メニュー全部あてるとまで帰れま10 日時 11/28の予定だった 参加人数 0 当日の様子・反省 企画倒れ。名前だけのネタ企画みたいなのが6割なので許して

企画者名 小林 企画名 flump of chicken 日時 11月26日10時 参加人数 2人 当日の様子・反省 フランプールとバンプの聞き分けをする企画である。

4曲用意し、最後に引っ掛けとしてくるりの「ふたつの世界」を入れた。

バンプ好きの1名が全ての曲を当てた（くるりについては「バンプでない」）ので、バンプとフランプールのボーカルはやっぱり違う人だったんだね。聞き分けできないのは僕だけだったんだね。”

企画者名 中川雄太 企画名 桜Trickオールナイト上映会 日時 12/1 20:15-26:00 参加人数 延べ20人、最大12人、完走8人 当日の様子・反省 ”今年で4年目となった恒例企画であり、寮外生が沢山くるという特色がある。今年は最後（12/1 26:00）まで残った人が企画者含めて8人おり過去最多であった。企画者以外全員が寮外生だったと思う。4年間皆勤賞の寮外生もあり、彼は本企画に参加する以外で熊野寮には来ない人である。このように本企画は、普段は全く熊野寮に関心のない人間と熊野寮を繋げる企画なのである。桜Trickで団結。

会場設営はB3岡村が手伝ってくれた。彼は一昨年・昨年に完走したベテランである。しかし彼は4話時点で、「めっちゃくちゃ眠たい。目を閉じてても音が聞こえてきて映像が脳裏にくっきり浮かんでくる。このまま寝落ちしてしまうと気がおかしくなってしまう!」と言い残し、消えた。

鉄扉で芸大展示会が行われる都合上、企画終了後にソファ等を鉄扉から運び出す必要があったが、残った参加者全員が片付けを手伝ってくれた。我々はもはや同志なのである。”

企画者名 中川雄太

企画名 AB棟間万人橋

日時 不開催

参加人数 0

当日の様子・反省 ”全く同じ時間に企画者の別企画「ファイナルファンタジー7アドベントチルドレン上映会」があったため出来なかった。そもそも本企画は、AB棟間綱引きには当局から告示とかメール出るけど、万人橋ならどうなるのか?というトリビアの種から生まれた企画であった。

こうしてこの世界にまた一つ新たなトリビアが生まれた。「AB棟間万人橋に告示は出ない」”

企画者名 滝敬登

企画名 ファミマと連帯

日時 12/2 22:30~

参加人数 150人くらい

当日の様子・反省 ”今年もやりました、恒例企画「ファミマと連帯」。今年は良くも悪くもすごかったですね。寮祭実としては去年のカンパ額15万円(?)には絶対負けないぞ!というまあ当然湧いてくるであろうマインドでカンパを集めていたが、結果集まった額はレシート合計だけで、258990円。びっくり。なんでこんなにカンパが集まったのでしょうか。第一に、時間が良かった。元々もっと前の時間にやる予定だったが、寮生でファミマバイトの子から仕入れの時間的に22:30以降がベストと言われたのでその時間に移動した。これくらいの時間になると、一通り目玉企画が終わりみんな手持ち無沙汰になっていて、いいタイミングだったと思う。第二に、寮祭実が呼び込みを頑張った。僕はシャンパンをがぶ飲みして酔っていたので、気の赴くままにカンパをひたすら集めるマシーンと化した。放送もかけた。3分ぐらい喋り続けて鬼放送し。あと法学部4回生の人が土下座をして顔を踏まれながらカンパを集めてくれた。なんでそこまでしてくれるのだろうか。これが愛なんなんだなあと感じた。第三に、ファミマへの愛がすごかった。これは我々寮祭実もそうだし、上回生の方々にとってもそうだと思う。日が変わる前に閉まってしまうどっかのセブンや微妙に遠い

ローソンと違い、いつでも空いていて僕たちの一番近くで待ってくれているファミマに、日頃の感謝を伝えたい。そういう思いが今回のあり得ないカンパ額を生み出したのだと思う。とまあここまで書き連ねたわけだが、勢いで突っ走りすぎた感は否めない。途中の集計ではもうすぐ10万超えるぞ！って感じだったけどそこから気づいたら26万集まっていた。上回生の人も勢いでだいぶカンパを出したと思うし、1回生でも5000、1万円出してるやつがザラにいた。そこまでやる必要はなかったかなあ。カンパを出したい人が出せる分だけ出せばいい。熊野寮はホストクラブじゃない。というスタンスを貫かないといけない。今回は結構もっと出そうぜ！みたいな雰囲気は自分含め全体に漂っていた。熊野寮は福利厚生施設であり、月4300円払えば済むことができ、下宿では高くても通うことができない人の受け皿になっているということを名乗っている以上、こういう金が飛び交うような事態はあんまりよろしくないかもしれない。あと「今払えないから肩代わりしてもらおう」みたいなのはやめた方がいい。後々トラブルの原因になりうる。以上、楽しかったけどだいぶ物議を醸すカンパ集めフェーズを終え、いよいよファミマへの行進が始まった。自分を先頭にしてシュプレヒコールをしながら進んだわけだけど、気持ちが高揚しすぎて後続を置いてきぼりにしてしまった。その結果ファミマにみんなでなだれ込む構図が上手くできず、パラパラと入っていく感じになった。反省点ですね。企画者として、カンパを集めることに焦点を当てすぎて、メインはファミマと連帯すること、つまりみんなでファミマに行って商品を買うことであることを見失っていた。結局、自分と寮まで戻って人を呼んだので途中からはたくさん人が入っていったのでそれはまあ良かった。外でファミマのEDM流し部隊がいたけど、いいよね。自分は基本外にいたので中の買い物の様子は詳しくわからなかったが、カンパを分別しながらうまく回ってた。一般人も買い物しにきていたが、優先的に買ってもらったり、道を開けたりできていて問題なかったと思う。権力の介入はなかった。買い物は順調にできていたのだが、カンパ額が沢山だったために買い物がだいぶ長引き、先に商品を持って帰っていた人たちが若干グダリ始めていた。ので、カンパは余っていたものの、258990円分購入した時点で切り上げて、江坂を殿に最後のファミマ組も帰宅した。やっぱりこんなにカンパ集める必要はなかったと改めて思う。

というわけでようやく食堂に全員集合し、購入した商品をみんなで囲って、合図と共に商品の取り合いが始まったわけだが、あまりにも治安が悪すぎた。ダイブしたり商品に覆いかぶさったり。シュークリームとか潰れちゃった。みんなたくさんカンパを出した分獰猛になってしまったのかも。食べ物は大切にしよう。その後コンパは色々ありつつ盛り上がったが、ファミマの商品>人間という構図ができていた。ダンボール一個強ぐらい余っちゃった。もったいないけど、こんなに買う必要はなかった。

来年のファミマと連帯の担当者には、こんなにカンパを集める必要はないよと伝えたい。15万もあれば全然十分。どうせ集めれないと思うけど…笑笑。もしたくさん集まりすぎることがあったら、寮祭実カンパに回しましょう。あと、今回は色々あつてできなかったけど同寮会でもやろう。”

企画者名 宇野沢七夏

企画名 虹になろう！

日時 11月26日 12時～15時

参加人数 20名弱

当日の様子・反省

”◎当日の様子

- ・9:30～11:30ごろ、2人でレインボーパンケーキの制作。
- ・12時、予定通りの開始。ヘアモンスター7色、フェイスペイント、その他衣装を用意。
- ・13時前、人が集まった段階でレインボーパンケーキの提供。
- ・15時、企画終了。

## ◎反省、感想

- ・14時までの時間帯は常に人が絶えず、企画力と十分な周知が功を奏したと思われる。
- ・髪染め、フェイスペイント共に皆が和気あいあいと楽しんでいた良かった。
- ・混雑時には待ち時間もあったので、卓をもう少し増やしても良かった。
- ・最も重要な反省点は、用意不足により当日寮生から借りた私物の鏡を、紛失してしまったこと。借りなくていいように用意を徹底することと、次の企画があったとしても最後まで企画社が責任を持ち、管理と片付けをすることが改善策である。”

企画者名 飯田

企画名 闘争動画上映会

日時 11/30 21:30-翌2:00

参加人数 平均7-8、最大40

当日の様子・反省 “反ワクチンVS京大生が終わる頃を見計らって、21:30から食北で上映会を行い、24時から劇団未必の故意の公演がある関係で22:30には移動してSC室前のスペースで上映会を行った。タイムスケジュールは以下の通りである。

革命戦士になった俺(呼び込みとして)

戦後革命期の労働運動

移動

三里塚闘争不屈の50年

「B」 外伝

1930年代のアメリカ階級闘争

革命戦士になった俺(締めとして)

反ワクVS京大生の影響もあり、呼び込みとして流していた「革命戦士になった俺」には40人以上の参加者が集まった。2015年、安保法案の国会審議が問題になり、約10万人もの民衆が国会に押し寄せる中で、革命運動に命をかけた若者――吉田悠について密着取材を行ったドキュメンタリー番組である(テレ東)。反原発運動をしていた父親や卒業して新自由主義社会の中で死を考えるまで苦しんでいる大学同期、多くの人間との関わりの中で彼がなぜ「過激派」を選んだのか....この映像にハートを掴まれる参加者が続出した。ちなみに企画者は映像流しながらスクリーンの前で作業していると参加者に「どいてください」と言われた。それだけみんな夢中になっていたということである。

続いて、「戦後革命期の労働運動(作成者不明、元動画NHK)」を放映した。

1945年8月15日、日本は敗戦した。戦前には日本でも激しい闘いが社会主義者と国家の間で繰り広げられ、敗北した結果として国家総動員体制が敷かれる。鉄道を初めとした運輸業や工業、医療などは全て軍事の為に再編させられ、当時存在した労働組合は全て解散、代わりに全日本産業報国会ができ、全ての産業労働者はその下で従事することになった。また、これは工業だけでなく芸術にも及ぶことになる(文学報国会、言論報国会の結成、演劇や音楽も)

このような国家による戦争のための産業の再編が、逆に戦後は体制に対して猛逆襲をかける礎になった。戦時下において「贅沢は敵」「欲しがりません勝つまでは」などと言って資本・国家に貧窮した生活を強いられていた人民の怒りが爆発し、電気、鉄道、教育、演劇、公務員などなど文字通り日本の全産業の労働者がまとまってあわや革命というところまで登り詰め、これが戦後階級闘争の基礎となって運動は続いていく....(ちなみに当時の左翼活



動家はほぼ全員日本共産黨員。その後5、60年代にかけて各党派が分裂し、中核派は60年代中頃に組織として確立していくことになる。)

こうした戦後革命期の労働者階級の登り詰めていく様子や、革命の敗北、労働運動のその後....このリアルな状況に参加者は食い入るように見つめた。矛盾を深める新自由主義政策、戦争に突進していく政府...現代社会に絶望していた参加者の多くが目にも光を取り戻し、階級闘争への情熱に高揚した。きっと、闘争動画上映会を見て総長室突入に参加しようと思った参加者も多かったに違いない。

22:30に食北は撤収することになっていたのですが、ここまで見て吉田悠の挨拶で一旦〆て移動した。

その後は極右VS極左などもあったが数名で三里塚闘争についての動画や「B」外伝(法大闘争に参加した京大生のドキュメンタリー、関西大の学生が制作)、1930年代の世界恐慌後のアメリカでどのような階級闘争が行われていたのかを見て、最後にリクエストのあった「革命戦士になった俺」を見て、終了した。

活動家や市民、熊野寮生、労働者が一同に介して真に血湧き肉踊るような闘争の動画を見る機会は、実はこの社会においては少ないのではないだろうか(こうした闘争を過去のもの、あるいは遠い出来事として描くような作品は数あれど)。来年もよりアップグレードした闘争動画を上映し、全労働者人民に空気を入れ、寮闘争、世界の階級闘争を前進させる一助として企画していきたい。

”

企画者名 塩崎翔大  
企画名 鴨川等間隔を救いたい  
日時 11/27 18時ごろ  
参加人数 10名程度

当日の様子・反省 “鴨川等間隔をちゃんと等間隔に並べるという趣旨の企画である。四条大運動会の後くらいの時間に設定されていたので、四条大運動会が終わるのを待ってから開催した。

対岸からトラメガで呼びかける部隊と直接声をかけて回る部隊とバッファーとなって自らが等間隔の一部になる部隊の計3部隊に分かれ、まず対岸から大まかな指示を出して直接声をかけていくという戦略を取った。しかしながら、四条大運動会が終わるころには日が落ちており、等間隔も少なくなっており、また鴨川等間隔に指示を出すのが非常に困難であった。また、我々が声をかけていくと否定的な意見をもらうことはなかったが、指示通りに動いてくれる等間隔は少なく、ほとんどが立ち去ってしまった。当初想定していた方向ではなかったが鴨川を等間隔にするということは達成できたので企画は成功したと総括できる。”

企画者名 安波雅人  
企画名 吉熊ライブ  
日時 12/29 18:00~  
参加人数 50人

当日の様子・反省 吉田寮の厨房利用者会議と合同で吉田寮の厨房にてライブを行った。熊野寮の人間と吉田寮の人間で交流できて良かった。詳細な総括は後ほど出す予定である。横田の歌は思ったよりうまい。

企画者名 安波雅人  
企画名 寮祭ライブ  
日時 11/27 19:00~ 12/3, 4 12:00~  
参加人数 50人  
当日の様子・反省 死ぬほど盛り上がった。詳細な総括は別のブロック会議議案を参照。

企画者名 安波雅人  
企画名 この一吸いに命をかけろ！ききタバコ！  
日時 12/2 21:00~  
参加人数 15人  
当日の様子・反省 喫煙所にてききたばこを行った。まず驚いたのがみんなタバコのことを思ったより知っているということである。正答率は8割をこえ、企画者の私が恥をかくことになってしまった。あともともと月曜日にやる予定だったが、企画者多忙により全寮コンパ中におこなった。

企画者名 安波雅人  
企画名 テキーラで遊ば  
日時 11/26 21:00~  
参加人数 15人程度  
当日の様子・反省 テキーラであそんだ。たのしかった。

企画者名 三島隆太郎  
企画名 YAMAGAMIチャレンジ  
日時 木曜日夕方  
参加人数 5人  
当日の様子・反省 主催者の友人が数人来た。告知等を一切していなかったのもそんなもんだと思う。

企画者名 齋田  
企画名 さいだのサイダー  
日時 12/2  
参加人数 たくさん  
当日の様子・反省 昨年に引き続きいろんな種類のサイダーを振る舞った。食堂の一角で企画を行ったが、たくさんの人がサイダーを飲みに来てくれて企画射的にはとても嬉しかった。今年はサイダーだけでなくコーラやラムネも少しだけ用意した。本当は自作のサイダーも作ってみたいと思っていたが、企画者が時間がなくなかなかった。

企画者名 安波雅人  
企画名 二回生コンパ  
日時 11/28 21:00~  
参加人数 20人  
当日の様子・反省 二回生で集まってコンパを行った。後輩のせいで生クリームまみれになった。途中からカラオケに行く人たちがでて、シャバいなと思ったが、そもそも企画自体シャバいのかもしれない。要検証である。

企画者名 安波雅人  
企画名 ショット麻雀  
日時 11/30 7:00~

参加人数 8人

当日の様子・反省 朝っぱらからショット麻雀を行った。朝なのに思ったより人が集まった。みんなそんなにショットしたいかね。友達に倍満を直撃させ、6ショット飲ませたときは脳汁が出た。

企画者名 塩崎翔大

企画名 宇都宮高校の素晴らしき伝統

日時 12月3日12:30～

参加人数 5人程度

当日の様子・反省 “当初の計画では11/27(日)に行う予定であったが、同時開催企画の『北野高校の悪しき伝統』の企画者が体調不良で延期となったため、鴨川イカダレースのあとに鴨川河川敷で行った。

宇都宮高校において体育の授業で準備体操として行われている「高校生体操」や宇都宮高校の応援団の演舞を行う企画であったが、企画者が「高校生体操」の手順を忘れてしまっていたので高校の部活の顧問の先生に頼み、pdf版の手順書を取り寄せた。

「高校生体操」はラジオ体操よりも体を動かして温まるので今後も広めていきたい。”

企画者名 安波雅人

企画名 ワインオセロ

日時 11/26 21:00～

参加人数 10人

当日の様子・反省 ワインでオセロを行った。テキーラで遊ぼと違い、かなり予算をもらえたので、泥酔者用の水をきちんと買うことができた。この企画による泥酔者は出なかった。みんなワインオセロを楽しんでもらえて幸いである。

企画者名 安波雅人

企画名 セッション!!!

日時 11/28

参加人数 0人

当日の様子・反省 企画を行っていない。

企画者名 安波雅人

企画名 作曲

日時 11/28

参加人数 0人

当日の様子・反省 企画を行っていない。

企画者名 安波雅人

企画名 かくれんぼ

日時 11/28

参加人数 0人

当日の様子・反省 企画を行っていない

企画者名 安東

企画名 口噛み酒

日時 11/25

参加人数 20

当日の様子・反省 予想に反して多くの巫女が集まった。最初にみんなでウイスキーで乾杯した後、前々前世を流しながら米を噛み続け、吐き出して酒を作ろうとした。結果はほとんどが黒カビが生えてしまい、飲めるものではなかったのも、寮祭最終日のキャンプファイヤーで燃やした。一つだけ成功したので有志で集まって飲んだ。美味しかったです。

企画者名 安波雅人

企画名 あたたまりや

日時 常設

参加人数 いっぱい

当日の様子・反省 ロビーで日替わり居酒屋を行った。11月に出店者を集めてタイムテーブルをきめた。寮祭期間中のロビーは毎日あたたかかった。

企画者名 横田蛍佑

企画名 横田、横たわる

日時 ゲリラ

参加人数 1

当日の様子・反省 寮祭期間中、横田は普段の2倍くらい横たわっていたが、240時間には遠く及ばなかった。

企画者名 石川

企画名 劇団未必の故意旗揚げ公演『斜陽』

日時 11/30 14:00～、18:00～、24:00～、12/1 14:00～、18:00～

参加人数 30席×5ステージ

当日の様子・反省 “今回はアウトドアサークル「ボヘミアン」とともに23日から舞台を設営し、寮祭期間中の演劇に挑戦した。まずは、食堂北部の長期間の占有であったにも関わらず、ご協力いただいた寮生の皆さんにこの場を借りて感謝申し上げたい。ありがとうございました。

28日から30日にかけて稽古を行い、本番は2日間で5ステージとかなりボリュームな日程であったが、席は8割程埋まり大盛況であった。寮生も多数出演し、寮生の友人やふらっと見に来た人が感想を言ってくれたのはよかった点である。出演してくださった方、見に来てくださった方、ありがとうございました。途中入退場可能にしていたためほかの企画に参加している人でも部分的に観劇することができたのも、盛況に一役買っていただろう。また、アンケート用紙に集会や総長室突入のビラを挟みこみ、寮としてのイベントの宣伝も同時に行った。

熊野寮を文化拠点にしていく一歩となったと同時に、舞台づくり、作品づくりの共同作業によって寮外生や他サークルとの団結形成ができた点が重要である。企画者は今後も熊野寮で演劇を上演したいと思っているので、もし意見や感想などあれば忌憚なく寄せていただきたい。”

企画者名 横田蛍佑

企画名 横田、横たわらない

日時 ゲリラ

参加人数 1

当日の様子・反省 横田は、横たわってしまった。10徹ならず。

企画者名 西尾

企画名 「ゼロの使い魔」上映会

日時 11/29(火) 1:00～ 30(水) 1:00

参加人数 3,4人 当日の様子・反省 “何人か覗く人はいたがSC室に入って観る人はあまりいなかった。SC室という寮内には珍しく暗くできる部屋だったので部屋を暗くして画面に近づいて観ていたため、入りづらかったのかもしれない。せっかくの良祭企画なのでもっと入りやすいようにしたかったが、企画者に余裕が無かった。  
食堂北部での開催を予定していたが、直前になって演劇サークルから場所を譲ってほしいと言われたため、やむなくSC室での開催となった。このブッキングは演劇サークル側がリハーサルで食堂北部を使う時間を寮祭実伝に伝え忘れていたことが原因とのこと。食堂北部で上映することによる受動喫煙的布教効果を狙った企画だったので非常に残念である。”

企画者名 中川雄太  
企画名 ファイナルファンタジー7アドベントチルドレン  
日時 12/2 14:30-16:50  
参加人数 7人くらい

当日の様子・反省 “場所は食堂北部。企画者が直前の〇〇室〇〇に参加していたので開始が30分遅れた。そもそも誰も来なかったら止めようと思ってたが、奇跡的にff7超好きな寮外生が参加しに来た。上映していると人は徐々に増えた。翌日の寮祭ライブの準備のために16:30までに場所移動する必要があると上映中にMUCの人に言われたので、途中で食堂テレビに移動した。ラストシーン（クラウドvsセフィロス）のときに、上映会に参加していた寮外井上アツミという奴とMUCが揉めだした。MUCは、食堂北部にステージを組むのに机を使うから、アツミに机上の荷物どけろと言った。アツミはあと10分で終わるから待てとゴネてた。そしてMUC複数人が食堂北部付近からアツミに向かって「邪魔なんだよ!!」と大声で叫んだ。流石にまずいということで上映を一旦止めてアツミに荷物を片付けさせた。その後の上映会は空気が最悪なものになったと感じている。別の寮外参加者は「邪魔なんだよ!!」と叫ばれて、上映会自体が邪魔と言われてると思って萎縮したかもしれない。あとアツミがゴネてる姿に不快感を抱いた人もいるだろう。

この件で最も悪いのはすぐに荷物をどけずにゴネた寮外井上アツミである。また、アツミがゴネた時点ですぐに上映会を止める判断が出来なかった企画者も悪い。しかし、（アツミの擁護はするつもりは全くないが）井上アツミ（こいつもMUCメンバー）に対するMUCの態度にも問題があると思う。

まあ何にせよ後味の悪い上映会となってしまった。”

企画者名 飯田  
企画名 SLAMDANK上映会  
日時 12/5 0:00-  
参加人数 最大15名ほど

当日の様子・反省 “企画者の都合により、寮祭最終日後の上映となった。その前日に寮祭ライブにてスラムダンクバンドが出演したが、このモチーフとなった三井編を主に上映した。その場の参加者は多くが固唾を飲みながら見守っていたが、最後三井のあのシーンまでには選ばれし参加者のみが残し、三井と共に崩れ落ちていた。一企画者としては、三井と木暮の関係性に寮自治を重ね合わせてしまい、思わず感嘆の声を上げてしまった。映画も公開された中で、良い宣伝になったと思う。ありがとうございました。”

企画者名 大野かりん  
企画名 猫になりたい  
日時 12/1  
参加人数 7人

当日の様子・反省 “11時ごろに始める予定だったが、最終的に 15時ごろから猫耳を作り始めた。食堂で作っていたところ、手伝ってくれる人が少しずつ現れてうれしかった。まなびストレート上映会を見ながら端のほうで作っていたため、放送はかけたものの場所は少しわかりにくかったかもしれない。作っている途中で何やってるの？と聞いて参加してくれた人もいた。参加者はほぼ知り合いにはなってしまったが、たまたま来た寮外の人も参加してくれたのはよかった。

猫耳は買うことも考えたが、売っている場所がよくわからなかったのと予算と数を考えて、百均で買ったカチューシャと針金とふわふわの毛糸で作った。色は黒、茶、白。ビブレの中の百均で買ったが、売り場が以前より縮小されていた。来年も売っているかどうかはわからない。手触りが最高なのと形に個性が出た点がよかった。本当にふもふだった。作るのはそれほど難しくはなく基本的に誰でもできるくらいだったが、作り方の説明が難しいのと1つ作るのに時間がまあまあかかってしまうのが難点だった。そのこともあって、最終的に参加者が基本的に一人一個猫耳を作り、それを付けて楽しんだ。当初は尻尾も作る予定だったが、安全ピンなどを買い忘れたこともあって耳だけとなった。自発的に耳にアレンジを加えたり、尻尾もつてくれた人もいてうれしかった。作っている間にいろいろ会話するのも楽しかった。

16:30ごろにほぼ作り終わり、ごろごろする時間に入った。当初の予定では屋上か食堂に畳を敷こうと考えていたが意外と天気が悪く寒かったため、C12談話室のこたつでごろごろすることにした。参加者の一人が何かゲームをしたいといったため、その場にいた人たちで、

「人生ゲーム」 ” 極辛 “” ーストレス社会ー” をプレイした。猫になった状態であえて”人” 生ゲームをする、しかもストレス社会という猫になることで逃避してきた現実のようなものに敢えて対峙するという倒錯感を帯びたおもしろさ、いやしかしむしろ猫になっていることで中和されているからこそ普段はなかなかプレイしたくないゲームもできるのではという意見など大変意味深い状況だった。ゲーム中も借金をじゃんじゃん借りても「いや一猫だしなあ。まあいっか」と思えるなど、普段よりも幸せにストレス社会を生き抜くことができた。皆なかなか波乱万丈な人生だったが、猫になっていることによってなのか全員幸せそうだったと思う。人生ゲームが終わると何となく解散したと思う。作った猫耳は持ち帰ってもらったり、談話室に置いたり、企画者が回収したりした。

7人ほどの人間が一同に猫耳を付けている状況はとても平和であったので企画の趣旨はたぶん達成された。7人ほどの猫が人生ゲームをやっている様子もなかなか趣深いものだった。猫耳は世界を平和にする。参加してくれた方々本当にありがとう。きっと私が一番幸せだった。”

企画者名 西尾

企画名 「バーフバリ」 上映会

日時 12/2(金) 0:00~6:00

参加人数 5~20人

当日の様子・反省 総長室突入の事前意思一致終了を見届けてから食堂中央のモニターを使用して上映を始めた。上映開始すぐの頃は20人ほどがいたが、W杯の日本対スペインが盛り上がるにつれてだんだんと人がそちらに移動していった。バーフバリの勇姿を最後まで見届けた人が少ないのは寂しくもあるが、しかし彼らを責めることはできまい。我々はマヒシュマティ王国民であると同時に日本人でもあるのだから。それによくよく考えてみると、マヒシュマティの民がバーフバリを称え応援する気持ちと日本人が代表チームを応援し称える気持ちに違いはないのではないだろうか。つまり彼らもバーフバリ上映会の参加者と言っても過言ではある。さすがに過言です。まあでもサッカーが始まるまでは20人からの人々がバーフバリを観てくれていたわけだし、2年前からの常連や今年初めての人などいろんな人がバーフバリに興味を持ってくれているようで企画者としては嬉しい限りです。来年こそは

「マサラ上映」形式でやりたいね。というかマサラやれる情勢になるまで毎年企画するからみんなよろしく！

企画者名 飯田

企画名 前進を読む

日時 11/30 19:00-20:00

参加人数 当初20人 反ワクチンVS京大生の開始後10人ほど 当日の様子・反省 “闘う労働者、学生、農民、市民のための新聞『前進』を用いて、毎週水曜19:00から熊野寮食堂にて行われている「前進を読む会」を寮祭企画として断固貫徹し、大勝利を収めた。

熊野寮食堂において、労働者学生人民の約20人の結集で「前進を読む会」は行われた。マルクス主義学生同盟、革命的共産主義者同盟の学生をはじめ、労働者、中国人留学生も含めた京大内外の学生、さらには右翼(往々にして革命的情勢においてはこうした勢力の一部が革命に加わるものである)など、国内のあらゆる政治勢力の結集によって貫徹されたのである。多くの参加者から質問、意見が出され、米日帝国主義の台湾有事をめぐる侵略性、スターリン主義の本質、中国侵略戦争とは何か、が解き明かされた。

また、その後熊野寮玄関へとへ移動し、三里塚闘争への結集を呼びかけながら、日本で白紙革命を闘っている中国人留学生はじめ多くの闘う学生人民と固く交流、団結した。

京大で闘う学生が処分され、三里塚では51年ぶりの強制執行が狙われる今日の現状は、まさに日本の支配階級がもうこれ以上人民に対する支配を続けられないと悲鳴を上げていることの証左である。そして中国では人民の大反乱が起き、アメリカでは次々と労働組合が結成され、軍事研究反対で大学でストライキが起こっている。これは資本主義が今まさに大崩壊を迎えていることを端的に示すものだ。寮生の皆さん。全労働者階級の力によって、資本主義を終わらせ、共産主義社会を建設しよう。三里塚闘争、京大処分闘争に決起しよう。

三里塚へ

※重要

三里塚情勢がやばい！今の三里塚を闘っている土地の半分以上が強制執行されるピンチ！全学生は三里塚に行って市東さんの農地を守ろう！！（ちなみに12月の9日から12日ごろが一番危ないと言われており、11日にh緊急で全国集会もあるのでみんなで集まろう！）

”

企画者名 江原

企画名 署名集めバトル

日時 11/25 0:00~

参加人数 0人

当日の様子・反省 寮祭期間中に実施することはできなかった。処分撤回集会が行われる12/9(金)に寮祭後企画として実施する可能性がある。

企画者名 北村

企画名 総長室突入

日時 12月2日12時

参加人数 300人 (W杯日本戦がなければ間違いなく1,000人は来ていた)

当日の様子・反省 “12時からクスノキ前で集会を行いその後集まった300人の学生教員で本部棟へ向けて進撃した。

当初本部棟入口には「熊野寮生のみなさんへ 教育推進・学生支援部厚生課へ行ってください」との張り紙があり、近寄ると警備員に内側から鍵を閉められ一切中に入れない状況だった。そんな中、4人の本部棟職員がなぜか抗議する学生に対し事情を説明するため一度閉めたはずの入口から出てきた。出てきたところで目の前には300人の学生がずらりと並んでいる。ある程度説明し寮生から弾劾されたところで、本部棟内に入るため警備員に入口を開けてもらい入っていった。その隙を熊野寮生が見逃すはずがない。すかさず開いたドアに手をかけ身体を潜り込ませドアの施錠を防いだ。その後は数分間の押し合いを経て本部棟内に学生が充満することに成功した。余談だが、センサー式自動ドアは内側の上部分に電源スイッチがありそれをオンにすることで作動させることができる。某学生がそのスイッチをオンにして滅多に開くことのない正面自動ドアが開いて多くの学生が本部棟一階ロビーに入った。2012年総長室突入でも使われた手法がいまだに通用することに企画責任者は感慨深い思いであった。

第一関門を突破したものの次なる自動ドアで阻まれ、その間に警察を呼ばれた。西側通用門から警察が来るという知らせを受けて学生全体としてもまとまって警察の入構を阻止するために一旦本部棟から出て西側通用門をスクラムで塞いだ。

警察は50人くらい来ただろうか。真っ先に衝突した警察が学生を一人引っこ抜こうとするも、総長室突入に集まった戦闘的学生の組む硬いスクラム団結最強パワーの前ではなす術もなかったようで諦めたらしい。ザマアミロ。

その後警察の部隊は半分に分かれた。一方はそのまま学生と対峙し続け、もう一方はルネの向かいにあるスロープから学内に侵入した。北からの警察侵攻に備え、学生部隊は通用門だけでなく、周囲全体をスクラムで囲んだ。北から来た警察部隊は学生と衝突することはなく一目散に本部棟へと向かって入口を固め、学生の侵入を断固阻止する構えを取った。その後はこう着状態となり、学生側からの警察・大学当局に対する弾劾のアジテーションが続いた。

最後にまとめのアジテーションを終え、学生部隊は警察の弾圧に備えてスクラムを堅持しつつゆっくりとクスノキ前へ向かった。クスノキ前で再度まとめのアジテーションを行い、警戒しつつも圧倒的な勝利の余韻に浸りつつ自治の砦たる熊野寮へと帰還した。食堂で全体集約を行い今回の総長室突入の大成功を全体で確認した。

最後になるが、10月からの寮内議論に参加し賛成意見や反対意見、時には厳しい意見をしてくれた寮生、当日参加しこの企画の成功に尽力してくれた寮生・寮外生・教授の皆さんに感謝の意を述べたい。最高でした！本当にありがとうございました！！！”

企画者名 大野かりん

企画名 利き茶利き水利きジュース

日時 12/3

参加人数 約6人

当日の様子・反省 当初の予定だった日の前日にライフとユタカに買い出しに行った。液体は意外と重いということをもっと知った。カートを使おう。乳酸菌飲料系と水系とカルピス系の物を買った。利き茶とあるが結局お茶は買わなかった。日程は延期し、ピザ窯コンパの時に飲み物が焼いている側に少なかったのそこでやることにした。しかし机が少なく机となりそうなところもぐらぐらしていて紙コップを置けなさそうだったので結局ほぼ利き要素のないコンパにしては珍しいソフドリがたくさんある会になってしまった。また企画者が途中で帰ってしまったため、片付けなどもピザ窯コンパまたはライブの人にやってもらってしまって申し訳なかった。

企画者名 渡辺理香



企画名 熊辞雲

日時 11/26(土)8:00~14:00

参加人数 3

当日の様子・反省 ”『熊辞雲』とは、熊野寮の独特の言葉を収録した辞書である。2年前に発行した第二版においては、「寮内の言葉を鏡のように映しとる」という方針をある程度達成することができた。よって第三版は、今年4月からだいたい月に1回編集作業を行い、「ユーザー目線の辞書作り」を目指した。熊野寮祭における編集作業では、「採決」～「仕事」あたりの項目を書き直した。また、寮祭裏企画「熊野寮文学フリマ」において第二版を配布し、カンパ4050円を集めることができた。このカンパは、第三版に掲載する画像のスキャン代や、第三版完成披露パーティにおいて使う予定である。

第二版の表紙の題字を書いちゃった寮外生の方と再会し、第三版の題字を新しく書いていただいた。寮祭期間中、折に触れて『熊辞雲』の宣伝をしたことで、熊野寮が出展する今年の冬のコミケにおいて配布していただけたことになったのは、望外の喜びであった。多くの人に「熊辞雲は完成した？」とお声をかけていただき、寮内での知名度が随分上がったことを実感してうれしかった。”

企画者名 渡辺理香 企画名 アルゴリズム行進 日時 11/28(月)14:30~15:00

参加人数 十数人 当日の様子・反省 ”食堂のテレビでアルゴリズム行進の映像を流して、参加者とともに練習した。大体流れがわかったところで、本番を撮影した。参加者とともに曲の始まる前には「アルゴリズム行進！ 熊野寮の皆さんと一緒に！」、曲の最後には片足を上げたポーズで静止したまま、「寮祭貫徹！ 自治寮防衛！」と叫んだ。企画者を含めて練習が足りず、振り付けが曖昧なまま本番に臨んでしまう参加者が複数いた。また企画者は当日まで、アルゴリズム行進とアルゴリズム体操の区別がついていなかった。”

企画者名 渡辺理香

企画名 放課後ファンタジー

日時 11/26(土)16:00~18:00 参加人数 20人くらい 当日の様子・反省 ”三条のラウンドワンでプリを撮ったあと、四条河原町でタピった。

放課後感を演出するために、夕暮れの鴨川沿いを歩いて三条へ向かった。企画者が予想していた以上に参加者が楽しんでくれたようだったのでうれしかった。企画者の事前調べが不徹底だったせいで危うくタピることに失敗するところだったが、参加者がよいタピオカ店へと導いてくれたおかげでことなきを得た。

全員の集まっているところで印刷したプリを配ることができなかったので、プリをもらえない参加者がいた。また、連絡のミスでタピオカ店へ行けなかった参加者が1名いた。

「タピオカを飲むのはもう古いのでは？」という声が二三あったが、企画者が一度タピオカを飲んでみたかったのでタピることを断行した。”

企画者名 水口 企画名 CtoB青空談話室 日時 行わなかった 参加人数 行わなかった 当日の様子・反省 寮祭中に主催者の多忙が予想されたので予算なし・ゲリラにしていたが、案の定する時間を確保できなかった。渡り廊下の屋上は使用可能にしたので、寮祭関係なく今後掃除を進めていきたい。

企画者名 江原

企画名 五山の送り火

日時 3:00~

参加人数 15人程度

当日の様子・反省

”○企画概要

五山の送り火の要領で、トーチ棒に火をつけ十数人でそれを持ちその火を並べて文字を作った。

#### ○実施方法

食堂から見て民青池の奥にある広くなっている場所で送り火を行った。トーチ棒は60cm程度の長さの木材に、短辺を三つ折りにした吸水性の高い30cm×40cm程度の布を巻き付け、布の上下に針金を巻いて布を固定して作った。その布に灯油を染み込ませ、ライターで点火した。1人2本トーチを持ってもらい、トーチは熱された灯油が自分の体に垂れてこないように斜めに持ってもらった。文字は寮の略字を選んだ。1人に高いところに行ってもらい、人が立つ位置を指示してもらうとともに写真を撮ってもらった。使い終わったトーチは一旦民青池に投げ入れて消火し、後で回収した。

#### ○周知

- ・人権擁護部に火を使用することを報告した。会議で許可を取る必要はなかった。
- ・灯油は灯油缶の管理者に許可をとり使用した。
- ・トーチは燃えにくいので消防署には連絡しなくてよいと判断した。
- ・煙が洗濯物にあたり洗濯物ににおいが付着する恐れがあるので洗濯物を事前に取り込んでおくことを推奨すると寮全体に伝えた。

#### ○企画の様子

寮の字とわかる程度のものは作ることができた。火は5分程度持続した。参加者は火をもっだけでも興奮し、文字が作れたことで大変盛り上がっていた。

#### ○反省

- ・材料の買い出しと灯油の使用許可を取るのが遅れたこと、当初予定していた時間帯がD棟コンパの準備と時間が重なり準備に人員が割けなかったことで、当初より開始時間が2時間ほど遅れてしまった。
- ・灯油が余ってしまった。それを灯油缶に戻すわけにはいかず、今回はBAR KUMAのストーブに使ってもらうことで事なきを得た。
- ・字がやや崩れた。人の位置を修正仕切れないうちに火が消えそうになりやむなく終了することになった。事前に人が立つ位置に印をつけておくなどの工夫を図りたい。
- ・灯油が柄についていて怖かったという意見を参加者から頂いた。トーチどうしが接触したことが主な要因と思われる。そのため灯油をつけるための容器を大きくする、または数を増やすなどの対策を図りたい。

#### ○今後に向けて

木材は数回再利用できそう。今回は一度しか文字を作らなかったが、何度も文字を作る場合、木材を再利用すれば購入する木材を減らせると思う。

”

企画者名 江原 悠  
企画名 カラオケ75点チャレンジ  
日時 25日 1:00～  
参加人数 0人  
当日の様子・反省 頓挫

企画者名 江原  
企画名 直径3mのピザを作ろう  
日時 25日 12:00～  
参加人数 0人  
当日の様子・反省 頓挫。

企画者名 桑原拓也  
企画名 麻将皇帝戦  
日時 11/25  
参加人数 105  
当日の様子・反省 文化部企画のためすでにブロック会議の議案にあげました。

企画者名 桑原拓也  
企画名 ゲテモノコンパ  
日時 11/30 21:00～  
参加人数 10人 当日の様子・反省 B402角田が体調不良のため桑原とB409村上が代行。隣でやっていた白川脱毛を肴にワニ肉をつまむ会となった。ワニ肉はとても美味しかったが、最初から付いていた香辛料のためというのもある気がする。

企画者名 寺岡佑樹  
企画名 時計○占拠  
日時 11/25 12時～  
参加人数 0  
当日の様子・反省 “桂キャンパスの時計塔でピクニックする企画だが今年も当局くんはびっくりしちゃったみたいである。  
昨年度と比較してより企画画像の桂キャンパス感を強めた。  
また、本企画を無限に延期すれば当局くんがビックリして毎日時計台占拠をしてくれるのでは？と思い企画アカウントでその旨を告知するつもりだったが、企画者の多忙によりできなかった。”

企画者名 江原  
企画名 耐久クラブクマノ  
日時 26日  
参加人数 寮外生:172人 寮生:20人 計192人  
当日の様子・反省 “1. 企画概要  
通常のクラブクマノと同じように鉄扉でクラブイベントを行った。  
サブ企画として以下の2つの企画を行う予定であったが、参加者がいなかったので行わなかった。  
①DJ講習会  
寮生にDJのやり方を教え実際にDJをやってもらう。  
②クラブクマノvs睡眠  
クラブクマノが開催されている鉄扉の横で寝られるか挑戦する。

## 2. 実施方法

### ●スモーク

スモークマシーンから霧状のエチレングリコールを噴射した。濃度が高くなりすぎないように気をつけた。

●映像

天井にも映像を移した。

●開催基準

寮祭実と寮祭企画全体の様式に従った。

●騒音対策

鉄線で通路を指定し、人が出入り口付近に溜まらないように工夫した。  
ドライスペースの上を塞いで音が漏れないようにした。

●周知

CLUB KUMANO チャリティーパーティ、そして寮祭企画として事前に大々的に周知し、カンパのシステムについて事前に寮外生に知らせた。

●ビラ配布

寮敷地内での振る舞い方、自治寮の存在意義、処分者へのカンパを集めている理由などを記したビラを、エントランスで配布し読んでもらった。

●ハラスメント対策

熊野寮自治会はハラスメント行為を許さないという旨を、事前に大々的に来客に周知した。

●21:00～5:00を開催時間とした

●来客の地下スペース、食堂、ロビーを除く寮建物内への立入りを禁止した

●来客にリストバンドを配布した

●セキュリティスタッフにより駐輪場・喫煙所・寮内・門前を定期的に見回った。

●受付に常時2名配置し、臨時喫煙所と周辺を管理した。

●23人のスタッフが当日の対応に臨んだ。スタッフとして動く人間は赤の腕章をつけてトラブルの対処にあたった。

●受付の設置（ドライスペース付近）

招待状の確認、検温、カンパ集めを実施する。スタッフを常時配置する。招待者には氏名等を提示してもらった。マスクを配布した。

●仮設トイレを設置した（ドライスペース付近）

●臨時喫煙所を設置した（ドライスペース付近）

●外部来客からひとり500円のカンパを募る

→うち100円/人を無期停学処分者の学費カンパとして処分局に拠出する。自治寮が大学側から攻撃を受けていることを、前回と同様の方法で来客に宣伝した。

●ドリンクの配布

寮生に対しては、エントランスで1人あたり5枚程度のドリンクチケットを配布した。寮外生からは、1ドリンクにつき200円のカンパを受け取った。

●イベント開催時の事務当番

当日の担当ブロックと相談し、泊まり事務当番を国際交流局で受け持つことにした。

●参加者が寮の仲間になるよう繋がりを作る自治寮を共に防衛する仲間としてこれから関わることや、寮祭の応援をお願いするなど、来客のお客様根性を粉砕するよう働きかける。

※11/20のブロック会議での周知からの変更・追加点

- ・「出入り口付近でスプリンクラーを回して雨を降らせ、外に人が集まって近隣への騒音が発生することを防止する。」と周知したが、結局これは行わなかった。
- ・「来客の地下スペースを除く寮建物内への立入りを禁止する」と周知したが、寮祭が行われているのでこの対策に効果はあまりないと考え、食堂やロビーへの立ち入りは許可した。
- ・出入り口は当初食堂裏階段に限定する予定だったが、上と同様の理由からB棟西階段も出入り口として使用することを許可した。
- ・スモークを噴射した
- ・天井にも映像を映した

### 3. 当日の様子

○参加人数

寮外生：172名

寮生：20名

通常よりもかなり多くの参加者を獲得できた。初めての参加者も多かった模様。

○過去最高に治安が良かった

○苦情が数件入り、警察から連絡が来た

### 4. 反省

- ・全体的に準備が遅れた。
- ・準備が遅れたため宣伝も遅くなった。
- ・当初予定していた日時にウイスキー同好会も鉄扉を例会で使用するようになっていたことが後に発覚し、日時を変更することになった。これが準備が遅れる原因ともなった。このようなことを防ぐため、今後はクラブクマノを開催する際はそのことをウイスキー同好会に連絡することにした。
- ・企画名に「耐久」とあるのに耐久の要素がなかった。当初何時間クラブで踊り続けられるか挑戦するという内容を検討していたが、それを開催の10日前になって変更した。
- ・サブ企画の参加者がおらず企画が頓挫した。前述の通り開催直前に内容を変更したため、サブ企画の周知がうまくいっていなかったのが原因かと思われる。
- ・新しい客を獲得したことでこれからも客が今までより増えることが予想される。そのため今後は騒音対策をさらに徹底しなければならない。今回は食堂に人を流すこと、受け付けを入り口側に移し地下のスペースを増やすことによりある程度は騒音を回避できた。食堂に人を流す方法は次回以降使えないので、新たに有効な対策を練る必要がある。”

企画者名 寺岡佑樹

企画名 流刑

日時 11/3 15時頃より（鴨川いかだレース後）

参加人数 0

当日の様子・反省 “鴨川いかだレースのいかだを用いて大阪湾まで行くという企画であったが、企画者が作ったいかだが崩壊してしまったこと、企画者の身体が冷え切ってしまったことより、貫徹されなかった。

ホントは任意の参加者にいかだに乗ってもらい、私が鴨川沿いで水没しないか監視しつつ大阪湾まで進んでいく予定であった。

もっと暖かい季節にやるべきであった”

企画者名 寺岡佑樹

企画名 視力低下出前館

日時 11/3 夜

参加人数 0(5)

当日の様子・反省 “この時間に開催予定だったが、色々あって貫徹できなかった。カッコ内の参加人数は参加するぞ～って言ってくれてた人々の和  
せっかくなのでやり方だけ書いておく。ぜひみなさんもやってみてほしい。

【用意物】

PC、遠隔操作できるマウス、2000円くらいのお金(PayPayだと支払いが楽)

【やり方】

1. まず視力検査の一番上がギリわからないくらいまでPCの画面を離す
2. マウスのサイズと色を目立つようにする。「マウスがあるなあ」くらいにしよう。
3. 誰か別の人が出前館のサイトを開いてあげて、適当な食のジャンルを指定してあげる（牛丼、ハンバーガーなど）
4. プレイヤーはその商品を選ぶよう頑張る。プレイヤーが『前の画面に戻る』などの操作が難しいため、観戦者がそのへんをしてあげると良い。
5. 選び終わったら注文も観戦者がしてあげよう。高すぎる場合は大丈夫かどうかよ確認も取ってあげよう
6. ドキドキしながら注文を待つ。
7. 皆で頼み合うと楽しいよ！

ぜひみなさんもやってみよう！

”

企画者名 寺岡佑樹

企画名 シャトルラン対局

日時 12/4

参加人数 4

当日の様子・反省 “ホントは色々ボドゲをやるつもりだったがマージャンのみになった。卓を食堂西に用意し東風戦をおこなった。

プレイヤーはシャトルラン（一定距離移動）したら一つ牌をツモることができる。

ポンやチーは相手の最新牌であれば可能ということにしたため、ポンを2連続で行うなど不思議な行為も可能であった。

また、リーチもリーチ後に打牌がない限り無限に一発がつくので、リーチ者はリーチ後に走らないことでツモらず、他人のハイを見つけて一発ロン狙いというヤバ戦法も多発した。

参加者からは『早く終わってくれ』『親流れて嬉しい麻雀、これだけ』『お茶買ってきてよかった』『足が死ぬ』などの喜びの声を頂いた。

参加者の一人は総括記入時点（11/8深夜）でも、未だに足を痛めているらしい。

企画者も先日の健康麻雀のせいで足を痛めていたのにさらに悪化させてしまった。

寮祭期間中は脚をしっかりと労ってあげないといけない。”

企画者名 寺岡佑樹

企画名 耐久ドミノオン

日時 11/2夜～11/3昼

参加人数 0

当日の様子・反省 “企画者が爆睡していたため貫徹されず。

ドミノオンの良さを伝えきれなかった…”

企画者名 寺岡佑樹

企画名 闇鍋vs光鍋

日時 12/1夜

参加人数 30人ほど

当日の様子・反省 “企画者が鍋と温めた水だけを用意して、参加者にすべてを基本的に委ねた。

闇鍋は何でもあり（カビの生えたものとかは弾いた）、光鍋は鍋に入れて美味しいと思うもののみを可能とした。

以下に入った食材を羅列する。

【光鍋】

舞茸

玉ねぎ

割り下

みそ（少量）

とうふ

ネギ

豚肉

鶏肉

【闇鍋】

レッドブル

じゃがりこ

スライスチーズ

カップヌードル

チョコ

野沢菜わさび漬

ピーナッツペースト

トマトペースト（大量）

臭豆腐←コレやばい

そば

レモン

柿（渋、甘）

野菜炒めミックス野菜

干しゴーヤ

参加者には対戦企画なので両方の鍋を食べてもらい、美味しい方を判定してもらった。

闇鍋からは異臭がしたが、参加者の一人がごま油を持ってきたことにより、ごま油をかける  
とめちやくちやうまくなる（喉を通るようになる）ということが発覚し、人々が異臭物質を  
おいしいおいしいと言いつつ食べる異常な空間が発生した。

まあ、食べられる食材だけではあるし、トマトペーストを大量に入れたことで味自体はかな  
りトマト鍋なのでそんなにヤバくはないのだが、元々喉を通らない（飲み込みたくない）も  
のが、飲み込めるようになるというのは不思議なものであった。味覚と嗅覚の不思議であ  
る。

いずれも、最後にうどんと米を投下してシメにした。

最終結果としては13vs0で光鍋が勝利した。勝因としては、意欲的な寮外の参加者の方が初  
動で持ってきた割下（だしとしょうゆなどを私的に混ぜて持ってきてくれた！）を投下し  
て、各参加者が互いを尊重しその味をベースとして進めていったためであると考えられる。  
人々の団結を見られる良い企画であった。

なお、最後に鍋を洗った際に闇鍋の底が多分チョコのせいでめちやくちやこびりついてい  
たので、こびりつく食材はめんどくさいなあとなった。”

企画者名 寺岡佑樹

企画名 Kumano Advent Calendar 2022

日時 常設

参加人数 30名程度

当日の様子・反省 ”人々が雑記帳のように思い思いに日記を投稿してくれた。

早速遅延していたり、昨年度の記事が寮祭開催数日前に投稿されるなどもあったりしたが、きっとこのまま進んでいくであろう。

また、今年度はOPの方がOP用のものを作ってくれたり、エクストリーム帰寮の方々もそれ専用のものを作ってくれた。楽しいね。

まだまだ募集中なのでぜひみなさんもどうぞ！！

<https://adventar.org/calendars/7553>

企画者名 江原

企画名 NYからエクストリーム帰寮

日時 11/17~

参加人数 0人

当日の様子・反省 頓挫

企画者名 江原

企画名 鴨川綱渡り

日時 27日 14:00~

参加人数 0人

当日の様子・反省 頓挫

企画者名 江原

企画名 エクストリーム鴨川レース

日時 27日 6:00~

参加人数 0人

当日の様子・反省 頓挫

企画者名 江原

企画名 逆大喜利

日時 27日 8:30~

参加人数 0人

当日の様子・反省 頓挫

企画者名 江原

企画名 落ち葉掃除バトル

日時 27日 9:00~

参加人数 0人

当日の様子・反省 寮祭期間中には実現できなかった。年末の大掃除のときに寮祭後企画として実施するかもしれない。

企画者名 寺岡佑樹

企画名 闇のワクワクさん

日時 11/4夜（ほんとは11/3昼予定であった）

参加人数 30名程度

当日の様子・反省 ”光のワクワクさんと団結し、以下の実験を行った。



### 【実験内容】

- ・レンチン系実験（卵爆発、ぶどうプラズマ化、アルミ包装紙発火、豆電球点灯）
- ・吹き出る泡（クエン酸と重曹の混合による二酸化炭素ガスの発生）
- ・混ぜるな危険を混ぜる（塩素ガスの発生、花卉の漂白）
- ・粉塵爆発
- ・マグネシウム花火
- ・亜麻仁油自然発火（未実施）
- ・リチウムイオン電池発火（未実施）

### 【詳細な流れ】

事前にゴミ捨て場でレンジを拾ってきたことにより、無限にヤバイレンジ系実験が可能となった。

しかし、レンジ系実験は火力が低く卵は爆発せず温泉卵になったり、ぶどうはプラズマ化せず温まるだけだったり少しがっかりではあった。

『噴き出る泡』もモコモコと出る泡を眺める会と化した。

『混ぜるな危険を混ぜる』はいい感じに塩素ガスが発生したため、花をペットボトルに入れると10分程度で花が真っ白になり実際に密閉空間で混ぜると危険でいることご確認された。

ただ、塩素ガスは十分異臭がするため、異臭を感じたら皆は逃げてほしい。

『粉塵爆発』は初動はあまりうまく行かなかったが、参加者の協力（ろうそくから火炎瓶へグレードアップ、ろうとの増設など）により、ミスが多発していたがなんとかうまく行った。最後にはBIGな炎が見れたので満足である。

『マグネシウム花火』は適宜キャンプファイヤーにぶち込むことで良い光を発していた。

『亜麻仁油自然発火』は油を放置することの危険性を寮生に啓蒙することを目的としていたが、時間がかかる（10時間くらい）ことから断念した。

また『リチウムイオン電池発火』は本当に危ないので企画者判断により諦めた。

いずれもワクワクするような実験が行われ、大変良かった。

寮生が起こし得る状態での事故（ガス漏洩爆発、タコ足配線発火など）も今後は行っていきたい。”

企画者名 江原

企画名 n段アイス

日時 28日 1:00~

参加人数 20人程度

当日の様子・反省

”○企画概要

アイスクリームをどれだけ積み上げられるかに挑戦した。

### ○実施方法

＜必要なもの＞

- ・アイス:4L
- ・アイスディッシャー
- ・コーンに近い形の器
- ・スプーンいくつか

＜手順＞

机をいくつか繋げて大きな机を作った。机はある程度アルコールで消毒した。その上に器を置き、そこに1人ずつアイスディッシャーですくいとったアイスの玉を積んでいった。アイ

スを倒したら罰ゲームとしてその人が落ちたアイスを食べる。そこにまたアイスを積んでいく。これを繰り返す。

#### ○当日の様子・反省

アイスが倒れる瞬間が大変盛り上がった。アイスが美味しいと好評で、倒しても美味しいアイスを楽しめる反面、罰ゲームとしての側面は薄れてしまった。アイスが一行に並ばず、段数を数えられなくなってしまった。最後の方は飽きてしまった人が多かったしアイスが溶けてしまったのを考えるとアイスの量は多すぎたと思う。

”

企画者名 河野尚貴

企画名 アマチュア無線体験

日時 12/4 16:00～

参加人数 5

当日の様子・反省 最初は人がいなかったが、放送をかけたなら数人来てくれた。アマチュア無線という馴染みのないものを紹介できてよかったと思う。日程変更を直前に行ったのでもしかしたら参加し損ねた人もいたかもしれない。

企画者名 江原

企画名 24時間連続即興演奏

日時 28日14:00～

参加人数 1人

当日の様子・反省

”○企画概要

24時間連続キーボードで即興演奏をした。

#### ○実施方法

〈ルール〉

次の2つを満たせば成功。アンコールされたらもう24時間弾く。

①24(or48)時間ずっとどちらかの手が鍵盤に触れている

排泄、食事、入浴のための休憩も禁止。

②以下に示す例外を除き既存曲を弾かない

例外：・既存曲の即興アレンジ

・寮祭ライブで弾く椎名林檎の曲の練習

〈場所〉

寮の左の方の入口、建物内側。

自販機業者の邪魔にならないようキーボードをうまく配置した。

建物外側の案もあったが火曜日に雨が降る予報だったのでやめた。

〈用意したもの〉

- ・キーボード
- ・ペダル
- ・スタンド
- ・アンプ

- ・シールド

- ・電気

ロビーから引いた。5mの延長コードを使用。

- ・椅子

食堂のものを使った。

- ・食料

栄養補給用ゼリー。ウィダーinゼリーのような片手で食べやすい形状のものを選んだ。48時間弾くことを考慮し3000kcalは超えるようにした。できるだけ多くの種類のゼリーを用意し、栄養が偏らないようにした。大が出ないように固形物は避けた。

- ・眠気覚まし

MONSTER10本。

- ・オムツ

13kg~28kg用。4枚重ねた。

- ・防寒対策

上3枚着た。指がかじかまないように穴あき手袋を使用。友人が28日深夜に足にカイロを貼ってくれた。

- ・テント

建物外側に移る可能性もあったので、雨よけに念のため用意。同時に観客が立つ場所にもした。キーボードを弾いていることを目立たせる効果もあったと思う。

- ・看板

ダンボールで作成。雨で濡れないようテント内に入れた。風で飛ばないように石でおもしをした。

- ・スマホ

連絡用。またTwitterのスペースで配信するのにも使った。

- ・スマホの充電器

#### 〈注意点〉

- ・音量を状況に応じて調整。夜はアンプを寮内に向けた。

- ・既に食べたゼリーとまだ食べていないゼリーを別の袋に入れた。

- ・ゼリーは片手で開けられるよう先にふたを緩めておいた。

- ・ズボンは尿で汚れる可能性があるので色が濃く最悪捨てることになってもよいものを履いた。

#### ○周知等

##### 〈周知〉

寮生には、全寮LINEで該当場所で弾いても問題ないか2回ほど確認の上、場所を決定したことを周知。音量調節の旨も伝える。

##### 〈宣伝〉

宣伝したところは以下の通り。

- ・吉田音楽製作所のライブ(6日前)

- ・全寮LINE(以下2日前)

- ・物理工学科1回生LINE

- ・京大VJサークルLINE

- ・吉田音楽製作所Discord

- ・自分のDiscordサーバー(作曲つながりがほとんど)

- ・Twitterの大学用鍵アカウント

・Twitterの音楽活動用アカウントのTwitterサークル(吉田音楽製作所のメンバーのみが入っている)

住所特定を避けるため不特定多数に公開される場所では宣伝しなかった。

場所は暫定ということを伝えた。寮祭パンフと場所が変わることを強調。

#### 〈配信、記録〉

拡散力が低く個人情報漏洩の恐れが少ないTwitterのスペースで配信・録音を行った。映像は記録簿が残した、演奏の一部を切り取ったものしか残っていない。

#### 〈経過報告〉

全寮LINEで1~2時間おきに〇〇時間経過と報告した。

#### ○企画の様子・反省

##### 〈結果〉

24時間は弾き切ったがそこで終了した。24時間で終了した最大の原因は、尿がオムツから漏れ出ておりこれ以上漏らすと垂れ流し状態になるほどだったことである。また、同じようなフレーズしか弾けなくなっていて即興演奏に飽きてしまっていた。体感では体力的にはまだ余裕がある状態ではあった。

##### 〈準備〉

6日前: 吉田音楽製作所のライブで周知

4日前: 穴あき手袋を購入

3日前: アンプを借りる

2日前: ネットで周知

1日前: 食料、オムツ、延長コードを購入し、シールドを借り、スタンドを入手し、場所を確定

当日: 設営、MONSTERを購入、オムツを履く

当日は寝坊した。また、主にテントの使用許可を取っていなかったことにより、設営に案外時間がかかった。そのため開始が2時間遅れた。

##### 〈演奏〉

概ね問題なかった。聞いていた人からも「一人で部屋で聞いていても寂しくなかった」「横を通るとききれいな音楽が聞こえてきた」など好意的な反応は返ってきている。

だが改善できる点はある。それを以下に挙げる。

- ・脳が疲れるにつれまとまりのない曲になっていった気がする
- ・最後の方になるにつれネタ切れになり既に弾いたようなフレーズを繰り返すだけの単調な演奏になってしまった。これに関しては曲調の手数を増やすことで対応したい。
- ・用を足すときは和音を長く伸ばすだけの演奏になってしまった。

バンドの練習は人が少ない3~6時頃に行った。

吉田音楽製作所の仲間が来てくれたときはその人が好きなコード進行や吉田音楽製作所の曲の即興アレンジを弾いた。

飛び入りでベースや太鼓で即興セッションをしてくれる人がいた。ボーカルの人と既存曲でセッションをすることもあった。

喋りながらも鍵盤を押さえることはできた。

片手で作業しながらでもきちんとした音楽を奏でるのはわりと容易にできた。

##### 〈観客〉

寮生や寮祭に来ている寮外の人、吉田音楽製作所の人を観客になった。多くは声をかけて10秒程度聞くくらいだったが中には1時間くらい目の前で聞き続けてくれた人もいた。特に吉田音楽製作所の友人は長時間聞いてくれた。

英語で話しかけられたことがあった。キーボードを弾きながら英語で会話をするのは難しかった。

リクエストを受けることもたまにあった。その場合もコピーはせず即興アレンジをした。年配の方にラテン音楽を求められ困惑したこともある。

投げ銭をしてくれる人がとても多かった。全部で4100円集まった。途中でカンパ箱を用意したが最初から用意しておくべきだった。

Twitterのスペースにも多いときで3人くらい観客はいた。スペースの方には観客はあまり集まらなかった。

#### <騒音>

適宜調節したのであまり問題にはならなかった。上記の年配の方が太鼓でセッションしてくれたときに近隣住民から苦情が入った程度。おそらくそれもどちらかと言えば太鼓が原因だと思われる。そのとき一応キーボードの音量も下げた。

#### <排泄>

まずオムツのサイズが小さすぎた。薬局に売っていたいちばん大きいサイズのものを買ったがそれでも28kgの子どもまでしか対応していなかった。ネットで老人用のオムツを購入すべきであった。

サイズが小さいのもあり一気に尿を出すとオムツが尿を吸収し切れないので小分けにして出さなければならなかった。尿を途中で止めるので毎回その後もどかしい感覚になり体をジタバタさせた。尿を出してから1分くらいはまともに弾ける状態ではなかった。次第にオムツから尿が漏れ出してズボンがびしょ濡れになった。

終了後はオムツをトイレのゴミ箱に捨てた。ズボンは2回洗濯したがにおいが取れなかったので捨てることになるかもしれない。またズボンのポケットに入っていた財布に尿が染み込んでにおいが取れなくなったので財布も捨てることにした。

MONSTERに大量に含まれるカフェインは利尿作用があることを思い出し、飲むのをやめた。

大は漏れそうになったらその時点で演奏を終了しようと思っていたが、24時間出そうな気配は全くなかった。

#### <食事>

弾いている最中は空腹を忘れていてあまり食べていなかった。24時間でゼリー5袋しか食べていない。しかし弾き終わった後急激に強い空腹感を覚えエネルギー欠乏状態となった。

#### <睡眠>

弾いている最中は眠気を覚えず、結局MONSTERは飲まなかった。しかし最後の1,2時間は弾きながら目を閉じていることがしばしばあった。終わった後12時間くらい寝た。

#### <宣伝効果>

VJサークル、吉田音楽製作所、自分のDiscordサーバー、Twitter大学垢では好意的な反応が返ってきた。吉田音楽製作所の人現地には6人ほど来てくれた。Twitterのスペースは途中で何回か途切れたが、単純に来た人数を合計すると40人くらいである。ただしこれは重複を含む。企画広告が拡散されていないし一般公開のアカウントで宣伝していないので大きな宣伝効果はなかった。

<配信>

Twitterのスペースは音質が悪いのでできればYoutubeで配信したい。その場合熊野寮との関係があるとうわからないようにし、映像で個人を特定されないように着ぐるみなどを着て弾くことになる。

<場所の変更について>

パンフレットと開催場所を変えてしまったのは観客のために良くなかった。クスノキで弾いても音量を極限まで小さくすれば当局の弾圧は受けないだろうと思っていたが、寮の運営にそれでも弾圧を受ける可能性があると言われたのでやむなく変更した。

”

企画者名 江原

企画名 人間チョコフォンデュ

日時 3日1:00~

参加人数 10人

当日の様子・反省 ドラム缶に入った35Lのチョコフォンデュに企画者が入り、さらに頭からチョコフォンデュをかけて全身をチョコまみれにした。ドラム缶の周りにこぼれた液状のチョコで滑って転んだ人がいたので、ドラム缶に近寄らないよう周知すべきだった。チョコはその後捨てたが、大量の食べ物を無駄にしたのは良くなかった。

企画者名 江原

企画名 極右と極左を足して2で割ってみる

日時 30日23:00~

参加人数 40人

当日の様子・反省 極右と極左を議論させ一致点がどうなるのかを検証したかったが、両者がそれぞれの意見を述べるだけで一致点が生まれず終わった。飛び入り参加を容認してしまい極右、極左側として参加する人が増えすぎてしまったのがよくなかった。

企画者名 江原

企画名 カンパバトル

日時 常設

参加人数 10人

当日の様子・反省 “途中でルールを変更した。

集まったカンパのうち半分はカンパ額1位のの人に還元される予定だったが、1位の人の意向で処分者カンパに使われることになった。”

企画者名 江原

企画名 クラブクスノキ

日時 2日16:00~

参加人数 25名ほど

当日の様子・反省 ”

4時前から設営、5時前から音出し

5時過ぎ被弾圧、授業中は音を出さないことで同意

5限終了後企画本格開始

- ・ちらほら主に留学生が足を止めててくれる
- ・日本人学生も数名参加してくれる
- ・企画主催寮生4名、協力寮外生dj含め4名、他聴衆合計15名程？
- ・音出してからの弾圧は一切なし

- ・10時に終了、10:30撤収完了
- ・警備員が何も言ってこなかったので苦情もなかったと思われる”

企画者名 江原  
 企画名 利き熊野水  
 日時 2日21時～  
 参加人数 8人  
 当日の様子・反省 簡単すぎた

企画者名 江原  
 企画名 取得単位数ブラックジャック  
 日時 2日20:30～  
 参加人数 15人程度  
 当日の様子・反省 3グループしか参加しなかったのももう少し参加者を増やしたかった。また1グループだけ1人になってしまった。

企画者名 脇山  
 企画名 プロジェクトアジリ  
 日時 12/3 13:25～14:05  
 参加人数 10人以上  
 当日の様子・反省 “寮祭ライブ2日目の「バーチャルシンガー親衛隊」の演奏にて、熊野あじりがライブに初出演した。あじりのダンスとバンドの演奏に観客は大いに盛り上がった。  
 反省点はあじり自身が歌うことができなかった点(口を動かすことができなかった)とあじりを画面外に出してあげることが出来なかった点である。  
 CGモデルを作るのにかなり時間を費やしたので、別の機会にまた利用していきたい。”

企画者名 大野かりん  
 企画名 三河弁 I A (文法・演習)  
 日時 11/30  
 参加人数 約10人  
 当日の様子・反省 “もともとの開催時間が四条大運動会と被っており、企画者が完全に忘れていたため延期し、三遠南信コンパの隣でやることにした。結果的に三河に興味のある人、コンパの五平餅などを見て来てくれた人などもいて、とてもよかった。15時ごろから始まったと思う。三遠南信コンパの企画者の方が作ってくれた五平餅や豊橋カレーうどんを食べてもらいながら事前に作った小テストを基に進めた。ちょっとぐだっとなってしまう途中でほかの用事に行ってしまった参加者もいて申し訳なかったが、おおむね三河弁について教授することができたと思う。17時ごろには終わったはず。最後に参加者に単位として豊橋が誇るブラックサンダーを配った。三河弁について、三河についてまたほかの地域との違いについて話すことができたいい会だった。  
 ”

企画者名 藤吉  
 企画名 編み込み  
 日時 11/26 12:30～  
 参加人数 10人程度  
 当日の様子・反省 “25(金)に実施する予定だったが、別企画「虹になろう！」と是非一緒に開催したいという話になり、日程変更した。

当日はエクステを地毛とあわせて三つ編みし、髪にアクセントを加えることができた。  
また、細く三つ編みしたのでそのまま髪を洗うことが可能で、寮祭期間中三つ編みをそのまま残してくれていた参加者も多かった。”

企画者名 藤吉

企画名 数独

日時 11/29 23時～

参加人数 40人程度

当日の様子・反省 “下記無料サイトから選んだ16マス×16マスの問題を印刷し、筆記用具と併せて配布した。

食堂では深夜遅くから翌日まで、黙々と(人によっては発狂しながら)数独に取り組む姿が見られた。

反省点は、初級編のはずが難易度が高すぎたことである。

解けた参加者2人は全寮コンパで表彰し、中級編の問題を贈呈した。

[https://www.free-sudoku-puzzle.com/puzzle\\_fours](https://www.free-sudoku-puzzle.com/puzzle_fours)

”

企画者名 藤吉

企画名 クマノヅカ歌劇団

日時 11/27 20:30～

参加人数 15人程度

当日の様子・反省 “宝塚メイクをした参加者で、バラ(造花)を持ったり宝塚恒例のポーズを決めて写真撮影を行った。

各々がなりきって撮影に挑むことができた。

宝塚らしいポーズの見本をもっと用意できたら良かった。”

企画者名 長谷川

企画名 藍染め

日時 12月4日23:30-27:00

参加人数 10人程度

当日の様子・反省 “藍染、ターメリック染め、茜染の三種を用意した。

常連だけでなく、初心者も多く参加してくれてよかった。

夜中の寒い時間帯であったこともあり、染料が尽きるほどの参加がなかった。染料は後日なにかで有効利用したい。”

企画者名 脇山

企画名 音楽室ペイント

日時 12/4 0:00～

参加人数 5人弱

当日の様子・反省 「B地下グラフィティ」と同時並行で開催した。音楽室の背面の壁に巨大な絵を描いた。次のライブが楽しみである。まだ未完成なので、継続して描き続けたい。

企画者名 脇山

企画名 B地下グラフィティ

日時 12/4 0:00～

参加人数 5人弱



当日の様子・反省 「音楽室ペイント」と同時並行で開催し、B地下の壁に絵を描いた。  
まだ未完成なので、現在して描き続けたい。

企画者名 竹内優太

企画名 光のワクワクさん

日時 12/4 22時～25時

参加人数 30人程度

当日の様子・反省 ”●様子

参加者を集めやすい点、安全対策を取りやすい点からファイヤストームと並行して開催した。

ファイヤストーム参加者にマグネシウムリボンを配布し、マグネシウムの閃光を楽しんでもらった。概ね好評であった。

また、ファイヤストームの横でテルミット反応を行ったところ、鉄が生成が確認され、そこそこ場が盛り上がった。

●反省

アルミホイルをヤスリで削ってアルミ粉末を用意する方式をとったため、テルミット反応が小規模になってしまった。来年はアルミ粉末や酸化銅(Ⅱ)を購入し、派手なテルミット反応を起こしたい。”

企画者名 中村眞子

企画名 職質RTA

日時 11/27 15:00-

参加人数 7

当日の様子・反省 広報が遅く、参加人数が少なかった。

企画者名 西村

企画名 エクストリーム官僚

日時 11/26~27

参加人数 8

当日の様子・反省 人事院の割り振りに従って参加者ごとに国家公務員試験を受験。1次試験申込者は30人以上居たのだが、試験に寝坊したり落ちたり、2次試験前日に風邪をひいたりして、2次試験当日には8人しか残らなかった。エクストリーム帰寮と日程が被ったのも反省点。

企画者名 村上真瑠洲

企画名 スプラ2を救う

日時 11/30 20:45~22:00ごろ

参加人数 4人

当日の様子・反省 寒かった。外でするなら季節と時間帯を考えるべき。あと、反ワクが被ったからなのか、予定時刻よりも企画者の到着が遅れたからなのか、寒かったからなのか分からないが、人が少なかった。弱小企画は、人を集める戦略を考えるべきだった。

企画者名 小澤

企画名 全寮にらめっこトーナメント

日時 28日 13:00~

参加人数 10人

当日の様子・反省 当初10:00~の予定だったが、眠かったので13:00~に変更した。放送と全寮ラインで呼びかけてもあまり人が集まらず、そのとき食堂にいた人たちに声をかけ、

参加者は企画者の他に9人集まった。みな敢闘し、白熱した良い勝負になった。反則等に関するレギュレーションがあまり定まっておらず、判定に迷う局面があったので、次回までに検討したい。

企画者名 小澤  
企画名 爪の垢を煎じて飲む  
日時 30日 19:00～  
参加人数 たくさん

当日の様子・反省 お風呂入らない人コンパ、部屋汚い人コンパの横で開催。相乗効果でより不潔な雰囲気食堂の一角を支配することができたと思う。爪の垢は提供者の名前を名簿に並べ、注文が入り次第採取して提供する方式を取った。お風呂入らない人コンパ参加者を中心に10人ほど提供者が集まった。また爪の垢を飲みに来る人がほとんどいないことを見越して、並行してスパイスチャイも煎じた。同時時間帯に開催された京大生vs反ワクチンの影響で、想定を遙かに上回る人数が訪れた。予想通りほぼ全員がチャイを注文していたが、主に京大生vs反ワクを見にきた寮外生で、僅かながら爪の垢を所望する人もいた。しかしチャイで手一杯になり爪の垢の提供に手間取ったり、近くに垢提供者がおらず思うように提供できない場面もあった。企画の本分を疎かにしてしまったことを反省したい。

企画者名 河合  
企画名 リアルゲーム理論  
日時 11/27 13:00～14:00  
参加人数 0人

当日の様子・反省 当日のペア決めなどに利用するため、企画広告にこの企画用のオープンチャットのQRコードを掲載した。しかし、当日までにオープンチャットの参加者はおらず、当日企画者も多忙になってしまったため企画を開催できなかった。

企画者名 河合  
企画名 GOD FIELD大会  
日時 11/29 7:00～10:00  
参加人数 1人（企画者）

当日の様子・反省 GOD FIELDとは、プレイヤー（＝預言者）が様々な神器を使って戦うカードバトルゲームである。当日7時から企画者は食堂で待機したが、朝の食堂は人がほとんどおらず、結局参加者が来ないまま10時に終了した。

企画者名 山森小夜  
企画名 オフチョベットしたテフをマブガットしてリットする  
日時 12月4日  
参加人数 50

当日の様子・反省 エチオピア料理のインジェラとドロワットを作って提供した。オフチョベットしたテフをマブガットしてリットするという相席食堂で「専門外のものにとって説明されても何ひとつわからないという」ネットミームを再現した。原材料のイネ科の穀物テフはアメリカから輸入した。ドロワットのスパイス・バルバレはエチオピアから輸入したものを使用した。インジェラは発酵が必要だったが、参加者にオフチョベットしたテフをマブガットしてリットする過程を体験したいという声があったためテフの半分だけを事前に仕込んだが、実際にはオフチョベット～から体験したい人はいなかったため、事前に全て発酵させておけばよかった。また、当日リアルタイムで仕込んだインジェラがドロワットがなくなることにより余った。次回があれば、ドロワットを十分に用意する。日曜の朝10時にもかか

わらず、この企画を楽しみにして寮外からきてくださった方がいたりアフリカ料理を実際に体験してもらえて有意義な会だった。

企画者名 河合

企画名 いらすとやタイトル当てクイズFINAL

日時 (変更前) 12月3日 17時～ →(変更後) 12月4日 10時～

参加人数 約20人

当日の様子・反省 元々は12/3の17時から食堂で行う予定だったが、その時間帯は寮祭ライブで食堂全体が使われており開催できなかった。(来年以降はタイムテーブルを決める際、寮祭ライブの時間帯には食堂では他の企画はできないことを考慮する必要があると思う。) そのため、翌日の朝10時からに変更し、当企画宣伝用のTwitterとオープンチャットで告知した。今年度はオープンチャットで寮外からも参加できるようにしたところ、オンライン参加者が2人来てくれた。また、食堂での現地参加も、ガサ対応訓練が終わった人が食堂に流れてきたため例年より多くの人に参加してくれた。この企画は各問題で面白い回答に投票して最も多く投票された人がポイントを獲得し、最終的に最も多くポイントを獲得した人が優勝というルールであるが、途中経過では程よく点数が分散した。例年は妙に強い人が点数を掻っ攫う展開が目立ったため、新鮮な展開であった。最終問題の1つ前の時点で2ポイントの人が4人いたが、最終問題でその中の1人がポイントを獲得して優勝が確定するという展開になり、非常に盛り上がった。ちなみに、その優勝者はオンラインでの参加者であった。音声をオンラインで繋いでいたわけではなく出題や指示を文字でも送信していた形なので、オンライン参加者に実際どれだけ楽しんでもらえたかは分からないが、寮外且つ遠方で気軽に来られないような人にも気軽に寮祭に参加してもらおう手段の一つとしてオンライン参加可能の企画を行うのも面白いと思った。

企画者名 河合

企画名 広告で見たことあるゲームを実況する

日時 11月30日 7:00～

参加人数 0人

当日の様子・反省 この企画は、広告でよく見かける「Merge Mansion」というゲームを実況するという企画である。スマホゲームの実況ができるMirrativというアプリを用いて実況を行う予定であり、放送や周囲の人の話し声が入って情報漏洩することを防ぐために防音設備のあるネットカフェに行き収録をするつもりであった。しかし、前日の同じ時間帯に当企画者が行ったGOD FIELD大会に全く人が来ず、同じ時間帯にわざわざネカフェまで行って収録しても誰も配信を見ないだろうと思ったため、開催しなかった。

企画者名 水林宝也

企画名 広告責お礼参り

日時 ゲリラ

参加人数 3

当日の様子・反省 早起き亭とチャンダーに行った。満足。

企画者名 横井亮太

企画名 酒カンパ麻雀

日時 12月1日 11時

参加人数 0人 当日の様子・反省 企画者体調不良のため実施できませんでした。

余った予算足りていない企画に回してあげてください。

企画者名 西山香帆

企画名 大学生ぽいエピソード  
日時 常設  
参加人数 0  
当日の様子・反省 忘れてた

企画者名 西山香帆  
企画名 ドーピングコンソメスープ  
日時 ゲリラ  
参加人数 0  
当日の様子・反省 ネウロが来ちゃうと困るので断念しました

企画者名 石川開  
企画名 ターザンロープ製作  
日時 11/26  
参加人数 5名  
当日の様子・反省 皆で協力して、想定していたよりも早く完成させることが出来た。

企画者名 安達爽太郎  
企画名 京都芸術大学「不和・軋轢」展示会  
日時 12月1～3日  
参加人数 50人程  
当日の様子・反省 来場者への注意書き等をしていなかったもので、作品に触られるということが起きてしまった。場所が鉄扉だったため、電波が伝わらずGoogleフォームやInstagramに接続できなかった。

企画者名 長谷川大海  
企画名 テラフォーミングマーズ最強決定戦  
日時 11/28 21:00  
参加人数 4  
当日の様子・反省 昨年度の開催より参加者は少なかったものの、開催に支障のない数のプレイヤーが集まり、レベルの高い大会を行うことができた。優勝者へはボードゲームを贈呈し、予算超過分は参加者のカンパによって補填した。

企画者名 佐々木駿斗(寮生責任者：B102大島、B102廣田)  
企画名 焼畑  
日時 12/2 14:30～22:00  
参加人数 10名程度  
当日の様子・反省 総長室突入があった影響で予定よりやや開始が遅れた。いっぱい燃やした。煙もそこまで出ていなかったと思う。駐車場の敷地が広がったせいで例年ほどの規模で開催できなかったのが残念。丸太はよく燃えるね。

企画者名 上柿  
企画名 卒業式のコスプレを考える会  
日時 やってない  
参加人数 0人  
当日の様子・反省 単純にタイムスケジュールが寮祭初日の朝とかいう時間にされたので、できなかった。努力不足の分は有り余る才能でカバーします。

企画者名 長谷川美夏  
企画名 マジカルミライ上映会  
日時 12/27 6:00～8:00  
参加人数 10人

当日の様子・反省 時間通り開始できた。みんなでネギを振りながら鑑賞できた。ネギは振るべきものではない。ネギの料理を作る計画であったが、早朝過ぎたため頓挫した。なぜこの時間に開催したのだ（早過ぎて参加しなかったのにできなかった）という声があったので、来年やる際は人間が正常に起きていられる時間を希望しようと思う。

企画者名 森田裕己  
企画名 Nグラムはかれ  
時 12月1日(木) 17:00～22:00  
参加人数 89人

当日の様子・反省 電子ばかりを企画者のブロックの炊事場から一つ借りて、ルールを書いた看板を食堂のごはんを盛る場所にスペースを空けてそこに置いて各自自由に測ってもらいようにした。企画者はそこで参加者の部屋番号名前と記録をメモした。反省としては電子ばかりが一つしか用意できなかったために参加者を並ばせてしまって食堂南部をやや混雑させてしまったことがあった。次の日の全寮コンパの時に成績上位者の発表を寮食クイズの結果発表とともに行った。今回は1位一名に単色券一日分セットを、同率2位四名にそれぞれ夕食の単色券一枚をプレゼントした。企画者の確認不足のために予算をオーバーさせてしまい、全寮コンパのカンパから補填してもらうという形になったことがもう一つの反省点。

企画者名 杉野僚祐  
企画名 ボヘミアン公演  
日時 11/26の14:00と16:00、11/27の16:00と18:00  
参加人数 各回30人くらい

当日の様子・反省 客入りもよくウケてはいたが、やはり寮祭期間中ということもあり完全に暗くしたり、音を無くすということが出来なかったため演劇への没入感が減ってしまった。寮祭で演劇をやる場合どうして行くかをもう少し考えていきたいと思った

企画者名 要川原野  
企画名 エクストリーム献血  
日時 11/28、12時～18時  
参加人数 3人+ドライバー1人+企画者

当日の様子・反省 参加者は3人集まり、1人をドライバーがびわ湖草津献血ルーム（A）へ、残る2人を企画者が御堂筋献血ルーム（B）と三ノ宮センタープラザ献血ルーム（C）へ連行した。Aは検査で引っかかり、献血せずに徒歩で帰寮、B・Cは無事に献血し、公共交通機関で帰寮した。反省点として、告知が遅かったので人数がさほど集まらなかった（告知が早ければ参加していた旨のツイートをいくつか見つけた）、車を使う企画なので費用が掛かり、結果として少人数で大きな予算を使う形になってしまった。

企画者名 嵯峨稔己  
企画名 A4談話室に来よう  
日時 常設  
参加人数 2人

当日の様子・反省 2人来た。毎年来ては30分で帰る寮外の方が一人、大阪の大学から来た寮外の方が一人来た。大阪の大学から来た人は夜来てそのまま泊まり、午後までずっと談話室にいたため、流石に対応しきれないということで帰ってもらった。来てもらうことは嬉

しいが、泊まるなら最初のうちに連絡する、長く談話室に残りたいなら何時までいたいかなを伝えるということをしてもらうよう、ちゃんと先に伝える必要があるなと感じた。なお、寮内からは誰も来なかった…

企画者名 インフルエンサーに俺はなる

企画名 嵯峨稔己

日時 常設

参加人数 2人

当日の様子・反省 参加者が少なかったこともあり、行いませんでした。申し訳ありません。

企画者名 角田

企画名 着ぐるみ買う

日時 25日

参加人数 頓挫の為0 当日の様子・反省 D棟コンパの後に行こうと思っていたが想定以上にごたつき、行けなかった

企画者名 角田

企画名 自転車ド派手に塗装の会

日時 25

参加人数 3

当日の様子・反省 ド派手に塗装した。主催も塗装したが、自転車のカギを無くした為未だド派手な自転車に1度も乗れていない

企画者名 角田

企画名 民青池シャトルラン

日時 25

参加人数 10人程

当日の様子・反省 とても楽しかったと個人的には思っている。着ぐるみを着ると着ぐるみはかなり水を吸い、ディスアドバンテージになる事がわかった。

企画者名 角田

企画名 ビギナーズブラック麻雀対決

日時 25

参加人数 5人いないくらいだと思う

当日の様子・反省 責任者がエクストリーム帰寮に参加した影響で立ち会えなかった。魔性皇帝戦の卓が余り次第そこを使ってやろうと思っていたが、思いのほか卓が余らなかった。もし来年やるとするなら、この企画用の卓を用意すべきだと思った

企画者名 角田

企画名 45秒でなにができる？

日時 26

参加人数 8人程

当日の様子・反省 45秒で何ができる？総括 ①行ったこと ・まず、企画者が履歴書を書くことを試みた→出身高校まで記入完了。高卒になってしまった。二浪の歴史を消せたのはむしろプラスか。 ・次に参加者Mが45秒で部屋に帰り、スマホとシャワーカードを取ってくる事を試みた →4階なのが災いし、部屋にたどり着いた所でタイムアップ。 ・その後Mが持ってきたシャワーカードを用い、45秒で寮外生にシャワーの使い方を説明した →大半は説

明できたが、シャワーを寮外生が使えるのか？シャワーカードはどこで買えるのかの説明ができなかった ・そして45秒で何ができるのかを45秒で思考した →因数分解、ごみ捨て、SDGS、演説、寮祭アピール等の案が出た ・最後に寮祭の魅力を企画者が45秒で説明し、閉幕した 番外編 企画後45秒で参加者Hが寝ることを試みた。 →45秒後Hの前でHの秘密を暴露したところ起きてしまった

企画者名 角田  
企画名 蹴り落とし合いマリオ  
日時 27  
参加人数 0と思われる  
当日の様子・反省 責任者が理農コンパで潰れた為頓挫

企画者名 角田  
企画名 本気のドッジボール  
日時 27  
参加人数 13人程  
当日の様子・反省 朝にしてはとても盛り上がった。寮外からも4人程来てくれた。優勝商品の予定だった出町ふたばの大福が、出町ふたばが混みすぎていたせいで買えなかったのが反省。代わりに適当な店の大福を買った。出町ふたばの人気度合いを舐めていた

企画者名 角田  
企画名 伝言ガンガンイヤフォンゲーム  
日時 27  
参加人数 0  
当日の様子・反省 疲労のため頓挫。理農コンパを引きずったと思われる。

企画者名 角田  
企画名 二郎系ラーメンはしごの旅  
日時 27予定から26に変更  
参加人数 0  
当日の様子・反省 参加者は1、2人集まっていたが、ドライバーがおらず断念。次回やるなら、①動画魔界等、タダ飯にありつける企画と被せない②全部自腹にしては高いので、予算を取る③ドライバーを事前に用意する の3点を心がける

企画者名 角田  
企画名 言語再履の人だけで日本語禁止コンパ  
日時 27  
参加人数 20人程  
当日の様子・反省 参加者様のお陰で盛り上がった企画だった。別企画「耳寂しくね？」を被せて頂いたのが特にファインプレーだったと感じる。しかし(これは「みみ寂しくね？」の方の反省かもしれないが)ちょっとハラスメントに近かったかもしれないと反省している。

企画者名 田中秀汰  
企画名 熊野寮Splatoon3大会 (通称：くまのスプラ )  
日時 11月29日 (火) 19:30~ (20:30~に遅延)  
参加人数 20人

当日の様子・反省 食堂の畳置場前に観戦場を用意した。トーナメントが終了した参加者や試合待ち中の参加者が見に来てくれて楽しかった。5チームしかないのでダブルエリミネーショントーナメントよりスイスドローにするべきだったかもしれない。

企画者名 角田  
企画名 クソスマ2022

日時 28

参加人数 3

当日の様子・反省 3個程クソゲーをやった。クマスマが面白すぎて人が奪われてしまった。動物タワーバトルができなかったのも残念。次回やるのであれば、①対戦できるクソゲーを選ぶ②クマスマを超える の2点を心がけようと思う

企画者名 山本杏奈  
企画名 宝塚メイク  
日時 11/27 14時～21時  
参加人数 25人

当日の様子・反省 宝塚メイクをのんびり施した。希望者が多くてお断りしてしまうこともあったので、リストとかを作るべきだと思った。

企画者名 山本杏奈  
企画名 宝塚上映会  
日時 12/1  
参加人数 7

当日の様子・反省 和気藹々と300分宝塚を見続けた。とても有意義だった。

企画者名 山本杏奈  
企画名 熊野人格付けチェック  
日時 12/3 参加人数 25

当日の様子・反省 食堂で、効きコーヒーをやった。ほとんどの人が間違えていて企画者としては面白かった。紙コップを45個購入していたのに、足りなくなってしまったので、次はもっと用意したい。

企画者名 三好  
企画名 ジブリ野外上映会  
日時 30日19時から翌朝  
参加人数 50

当日の様子・反省 設営が滞り、30分ほど遅れて開始した。プロジェクターやスクリーンの使い方を多くの人と共有するつもりだったが、結局ワンマンで回ってしまった。継承性の観点からは不甲斐ない。上映したのは「千と千尋の神隠し」「もののけ姫」「On Your Mark」「魔女の宅急便」「ハウルの動く城」「紅の豚」。2つのコタツで和気藹々と鑑賞できた。その場で集まった人たちで上映作品を決めたのは無計画だったかもしれないが、主体的参加を促す良い結果に繋がったように思う。延べ50人ほど、常時最低でも6人くらいは参加していた。夕刻の反ワク企画と被っており、駐輪場に並ぶ寮外野次馬の暇つぶしとしても機能した。また、意図したものではなかったが、食堂の喧騒とは違った雰囲気的空間を作れたことに意義を感じている。なお、玄関前の横転車の撤去にかなり気を揉んだ。喫煙所に押し込む形で解決したが、もっと早めに当人に動いてもらいたかったというのが正直なところ。



企画者名 角田

企画名 光温泉闇温泉

日時 光が28、闇が29

参加人数 10人程？

当日の様子・反省 まず参加者ほぼ全員でラ・ムーに買い出しに行った。その後給湯器とシャワーを使いお湯を貯め、開催した。光温泉は普通に気持ちよかった。闇温泉は食材を大量に入れた為、ちょっとSDGS的にどうなの？と言われると何も反論できない。次回やるとするなら、光温泉のみの開催or闇温泉は食材禁止の措置を取ろうと思う

企画者名 堀岡勇杜

企画名 1日1回大文字火床

日時 常設

参加人数 25人

当日の様子・反省 多くの人が大文字山に登り健康になったのでよかったと思う。

企画者名 角田

企画名 ハラタク秋冠公開自己採点

日時 28

参加人数 15人程？

当日の様子・反省 とても盛り上がった。予想以上に盛り上がったので来年もやりたい。次回は休日の昼に行い、大広告をもらおうと思う

企画者名 角田

企画名 京大構内でケイドロ

日時 28

参加人数 37人

当日の様子・反省 前の企画が伸びたせいで遅刻した。寮外生を待たせてしまい反省。ゲームバランスももう少し検討すべきだった。あとプンチャの通知をオンにしてくれという要請を1番最初にすべきだった。人が集まるのが予想されていたにも関わらず詰めが甘かったのは責任者の怠惰だった。深く反省する。次回やるとしたら自分には荷が重いため誰かに責任者を任せる

企画者名 角田

企画名 3回生新歓

日時 28

参加人数 20人程

当日の様子・反省 ソフドリ+酒+料理2品(鶏肉とほうれん草のしょうゆ炒め的なやつとフルーツポンチ的なやつ)+ポテチ(1回生からのカンパ)+クリーム(顔にぶつける用)。全体的に皆楽しんでくれたように感じる。特にパイをぶつけるのは新歓感あって良かったが、クリームの質をもう少し考えるべきだった(食べる用クリームでやったが、ぶつける用をちゃんと買うべきだった)。あともっと前から手伝い要員を用意すべきだった。開催が遅れた上角田が疲れた

企画者名 野坂

企画名 バークマ

日時 常設

参加人数 のべ約50人

当日の様子・反省 寮祭期間中毎日22時ごろからバークマをやった。毎日それなりに人が来て、それぞれお酒を楽しんでもらった。

企画者名 藤田昂太郎

企画名 第六夜

日時 11/30 13:00～

参加人数 0人

当日の様子・反省 場所と内容があやふや過ぎたためか誰も来なかった。彫刻刀も使わずに返した。板代として1000円もらっていたのでカンパ箱に1000円入れた。

企画者名 藤田昂太郎

企画名 魔法陣を描く

日時 12/1 21:00～

参加人数 4

当日の様子・反省 1人時間通りに来てくれて人と協力して道具を調達、加えてきた2人と魔法陣を描くことに成功した。1人も来てくれなかったら破綻する企画をする時は1人必ず来てくれる人を探しておくべきかもしれない。

企画者名 伊藤

企画名 W杯を観よう

日時 ゲリラ

参加人数 約20名(12/2 日本-スペイン戦)

当日の様子・反省 寮祭期間中に周知をした上で企画を実施したのは日本-スペイン戦のみだった上、これも自然発生的に人が集まったものだった。その他の試合については、企画者が他の企画に参加していたり、アルコールによる身体へのダメージにより疲れていたりしたため行わなかった。反省としては、日本代表戦がある時間は食堂の大モニターを使えるようにしておくべきだったことが挙げられる。

企画者名 伊藤

企画名 ゲリラ食堂

日時 ゲリラ

参加人数 調理1名(=企画者)、客多数

当日の様子・反省 寮祭期間中、計5回ほど実施した。単独で実施した場合と、あたたまりやとコラボした場合があった。提供したものは、鶏汁・味噌汁・だし巻き卵など。料金を取ったものと、カンパ制にしたものがあった。寮祭2日目に企画者がブラックアウトしたことで、想定よりも実施回数が少なくなってしまったことは痛恨であるが、寮祭に参加した人々に温もりを与えたいという企画者の意図は最低限達成できた。

企画者名 角田

企画名 風船を死ぬほど付けて空を飛ぶ

日時 29

参加人数 0

当日の様子・反省 体調不良の為頓挫

企画者名 松田

企画名 松田単独ライブ

日時 11月30日20時

参加人数 30人くらい

当日の様子・反省 音楽室で松田がライブを行った。寮生での内輪ノリを想定していたが、反ワクとかさなかったこともあり、寮生が少なかった。しかし、寮外生がたくさん来て、盛り上がった。

企画者名 加藤慧悟

企画名 ジャニーズ松田

日時 ゲリラ

参加人数 3人ほど

当日の様子・反省 この企画は松田尚樹の履歴書をジャニーズに送り松田をジャニーズJr.にして、学業優先を理由に入所を蹴るというものである。履歴書の確定事項の記入は寮祭前に行い、アピールポイントのアンケートと写真撮影を12/5午前0時ごろ松田誕生祭と同時に行った。写真については好印象を狙うため、高校時代の野球部のユニフォームで撮影した。この後はアピールポイントを文章にまとめて現像した写真と共に事務所に送る予定だが寮祭期間中に完遂できなかったため今後おこなう。

企画者名 伊藤

企画名 おそうじ

日時 常設

参加人数 企画者+心ある寮祭参加者、寮内労働者のみなさん

当日の様子・反省 本企画は寮祭中の片付けを喚起するものであると同時に、ゴミが溢れものが散らかりがちな寮祭と企画者との闘争でもあった。企画者の疲弊により実施できなかった期間もあったが、ゴミ捨て、いっぱいになったゴミ袋の交換・ゴミ捨て場への運搬、朝寮食開始前の食堂の現状復帰等を行い、企画者個人のできる範囲としては十分に企画をやり遂げることができた。寮生諸君においては、寮食がある日は食堂を片付けようと言っているにも関わらずできていない場合がほとんどだった。企画者が朝まで起きていると、朝食バイトの寮生が悲しそうな顔で机のゴミを捨て、机を拭いている様子を見て泣きそうな気分になった。あなたがゴミや私物を残すと、その負担は他の寮生にふりかかる。また食堂防衛に関しても、とりわけ食堂の片付けは重要であると考えている。食堂は自治の根幹であり、寮生の団結を生む場でもあるが、同時に厨房員さんの職場でもある。厨房との関係を考えれば、直接的なコミュニケーションをとることももちろん重要ではあるが、食堂を快適に保つか否かも厨房員さんの印象に大きく影響を与えるだろう。別に難しいことをする必要はない、自分が出したゴミはゴミ箱に捨てる、私物を放置しない。当たり前のことをしっかりやろう。

企画者名 橋本竣史

企画名 ビワマスとって食べる

日時 11/30 22:00-

参加人数 18人ほど

当日の様子・反省 玄関集合後車で琵琶湖水系安曇川(水産資源枯渇防止のためこの情報は寮外秘)に向かってビワマスを獲った。参加者が加入する寮内シェアカーのみでは運びきることができなかったため、街宣車を追加で使用して3台体制で向かった。街宣車のバッテリーが弱っていたため現地でバッテリーが上がることをやや危惧していたが、特に問題は起きなかった。ブースターケーブルくらいは積んでいった方が良かったかもしれない。到着後、安全対策としてエクストリーム帰寮で使用した余りの反射たすきを配布して参加者が目立つようにした。企画者の案内不足によって川に入るのにあまり適さない装備で来てしまった参加者がいたため、この点については事前の周知をしっかりとすべきだったように思う。川の水位は平時+10cm程度であったが、特に安全上の問題はなかった。おそらく平時+15cmくらいから中止を検討するべきであろう。水位情報はインターネット上で公開されているため事前に見ておくのが良い。現地では2時間ほど川に入ってビワマスを獲った。人によって

差はあるものの、平均1人1匹ほど捕まえることができた。帰還後、全寮コンパと同時開催でビワマスの刺身を提供した。味はそれなりに好評だったように思う。わたしの周知不足によって参加できなかった人がいたため、後日第二弾を行った。こちらについては予算は使用していない。第二弾は豊漁で、企画者1人で12匹獲ることができた。約半分を企画参加者に配布し、残りは食べたり干したり送りつけたりした。全体的にチュートリアル不足の傾向があったので、その点は反省すべきである。さて、だいたい書くべきことは書いたので、ここからは書きたいことを好きに書くコーナーとする。まずはビワマス獲りに必要な装備について。必須なのは明るいライトと網か銚である。ライトについて、企画者はLEDLENSERのH8Rというヘッドランプを使っている。そこらのモンベルのヘッドランプとかと比べると段違いで明るい。ヘッドランプの明るさは収量に直結するので、ここには金を投入すべき。良いヘッドランプは生活を豊かにする。同部屋の人が寝てて電気をつけたくないときとかにも使えるからみんな買おう。モンベル行ったら4000円くらいでヘッドランプ売っているのに対しH8Rは購入当時8000円くらいだったが、ビワマスを4匹多く見つけられればその差額は埋まると考えて良いので、H8Rのほうが安いである。耐久性も申しぶんないので実質タダともいえる。みんなモンベルに騙されず良いヘッドランプを買おう。モンベルの悪口はここまで。続いて網か銚について。第一弾ではそこらへんで売っている普通の魚とり網を使っていたが、正直これを使うのは無理がある。耐久性がカスすぎてすぐ曲がるのと、網が浅すぎてビワマスに逃げられるのが理由である。網を使う場合は強くてデカイ網を使おう。参加者の一人が三谷漁具店というところの網を推していたので今度そこを買おうと思っているが、残念ながら会社の倉庫が燃えて欠品中らしい。早く復活してほしい。また、銚を使っている人もいたので、銚も試してみたいと思っている。京都で銚売っているところ知らないので誰か知ってたら教えてください。必須装備ではないが、ウェーダー(胸くらいの高さまである長靴みたいなやつ)があるとQOLが上がる。企画者はウェーダーのことを軟弱者の甘えだと思っていたが、第二弾に向け網を買い足しに行った際に山科の道楽箱という中古釣り具屋で3500円の無保証ウェーダーを見つけてしまい、買ってしまった。かなり良いものだったので企画者のような軟弱者にはおすすめである。装備の話はここまで。続いてビワマスの美味しい食べ方について。王道は刺身であるが、ずっと刺身も飽きるので、企画者は酢めめを推している。三枚におろして皮をひいた身を昆布と酢と一緒にジップロックに入れて一晩放置するだけ。白だしを入れるのも試してみたが、白だしの味になってしまいビワマスが負けるのでおすすめしない。ジップロックから出したらペーパータオルで拭いて食べやすい大きさに切って刺身醤油で食べる。さっぱりしていて美味しいのでおすすめ。また、こういった生で食べるシリーズは日持ちしないので、一部は塩漬けにして干すのも良い。内臓を出して下処理したものを一週間くらい塩漬けにして水分を抜いてから、塩を洗い流して適当に干すだけ。「新巻鮭 作り方」とかでググれば詳細な手順は出てくる。12月くらいに干し始めれば気温が低いので基本的に無限に日持ちする。半年くらい干すと軽くなるので、企画者は登山時の塩分補給用行動食として使っている。もちろんそんな長いこと干さなくても良い。自分好みの食べ方を見つけよう。おわり。

企画者名 大塚健一

企画名 無印の不揃いバウム全部食う

日時 11/26 15:00-

参加人数 20人

当日の様子・反省 当日に御池の不揃いバウム全29種を買った。一個150¥。一つのテーブルを占領してバウムを八つ切りにして提供した。紅茶も出したが、でかいヤカンなどを最初から用意した方がよかった気がする。人入りは結構良くパンフを見て来てくれた人とたまたま通りかかった人で盛り上がったのでよかった。

企画者名 堀本

企画名 民生池ティーパーティー事件

日時 11/27

参加人数 30人くらい？

当日の様子・反省 ケーキコンパ終わりに時間がバツティングしてしまい、会場は終始満腹感に包まれていた

企画者名 大島武生

企画名 平安湯と連帯

日時 12/4 19:00

参加人数 3

当日の様子・反省 熊野寮のPRを今年も平安湯で行わせていただくために、広告費をお渡しし、広告の形態をどうしていくかを先方の若大将とお話ししました。新しい広告を平安湯に実際に貼りにいくのは、来月を予定しています。

企画者名 炊事部（多田）

企画名 ケーキコンパ

日時 11/27/13:00~

参加人数 50人ほど

当日の様子・反省 当日の様子：13:10~：食堂南部にて準備開始。購入した食材、作業スペース、包丁などの準備をした。13:30~：作業開始。冷凍のスポンジシート24枚をまな板シートの上に並べて解凍しておいたものを使ってもらい、参加者に思い思いのケーキを作ってもらった。お昼の開催、四条大運動会とブッキングということもあったのか、参加者がそれほど集まらず、スポンジケーキや材料が余ってしまった。14:30~：ケーキが完成し、参加者で実食・投票（「ビジュアル部門」、「おいしい部門」、「ゲテモノ部門」）を行った。しかし、参加者が少なかったため、ケーキの量に対して食べきるための人数が圧倒的に不足していて、ケーキが残ってしまった。18:00~：残っていたケーキをなんとか制作者に片付けてもらい、会場の片付けを完了した。反省点・予算がふんだんにあるということで、手当たり次第に材料を買ってしまったが、ほとんどが余ってしまった。意外とチョコソースとかジャムは使う量にも限りがあつて残るので、そういうものを買すぎるよりは、お菓子やフルーツなど残っても分けて食べれるものが多い方が良かったかもしれない。基本はホイップクリームなので、それさえ確保できれば他はそうたくさんは必要ない。・スポンジが見つからないと聞いていたが、丸いスポンジケーキではなく、業務スーパーの四角いスポンジシートなら店頭（山科のどこ？）で購入できた。（写真参照）・基本的に、ケーキが余ったりしたらそれは制作者に食べさせる（それか片付けさせる）べきであった。片付けをしようとなった時に制作者がすでに帰ってしまっていて、片付けようにも片付けられなくなってしまい、片付けの時間が延びた。・四条大運動会と被って人があまり来れなかった。また、ティーパーティとも被ってしまっていて、お互いにお互いの客足を引っ張ってしまった。良かった点・寮外生も多く参加してくれたこと。・参加者間で交流が盛んに行われていたこと。・食材の持ち込みを可能にしたため、様々な食材が使われていたこと。

企画者名 村上 真瑠洲

企画名 イカッチャを救う

日時 12/4 15:00~

参加人数 1

当日の様子・反省 人が来なかった。企画者がヒーローモードをプレイするだけになった。イカッチャを救えなかった。

企画者名 角田  
企画名 桑原学校へ行こう  
日時 29  
参加人数 0  
当日の様子・反省 頓挫

企画者名 角田  
企画名 逆競輪  
日時 29  
参加人数 0  
当日の様子・反省 頓挫

企画者名 角田  
企画名 夜神月  
日時 29  
参加人数 0  
当日の様子・反省 頓挫

企画者名 角田  
企画名 中古ポケモン即興バトル  
日時 29  
参加人数 0  
当日の様子・反省 頓挫

企画者名 角田  
企画名 手作りコーラでマルスを満足  
日時 29 参加人数 0  
当日の様子・反省 頓挫

企画者名 岩崎淳  
企画名 同釜会  
日時 11月26日18時(開始時刻)から翌10時(撤収完了時刻)  
参加人数 220  
当日の様子・反省 コロナ禍で3年ぶりの開催となったが、総数で約220名(卒寮生約100名、現役寮生約85名、卒寮生家族・厨房員約5名、その他寮外者30名)の参加があり盛況であった。卒寮生、現役寮生のみならず、厨房員さん、寮外生も含めて様々な形の交流が行われた。寮生によるアピールも行われて、熊野寮の近況を知る良い機会となった。一部で卒寮生と現役寮生との絡みが少ない等の声が聞かれた点が反省点である。また、参加していた卒寮生と寮生の間でトラブルがあった。関係者と協議をしており、誠意をもって対応に努める。

企画者名 角田  
企画名 ミックスジュース  
日時 30 参加人数 0  
当日の様子・反省 頓挫

企画者名 角田  
企画名 主成分で料理  
日時 30

参加人数 0  
当日の様子・反省 頓挫

企画者名 角田  
企画名 ウタカタラバイ合唱  
日時 30

参加人数 1  
当日の様子・反省 松田が1人で歌ったらしい

企画者名 角田  
企画名 ダイナモローラーを救わない  
日時 1

参加人数 0  
当日の様子・反省 頓挫

企画者名 角田  
企画名 クソデカプリンを作る会  
日時 1

参加人数 0  
当日の様子・反省 頓挫

企画者名 角田  
企画名 人生かかっている風にギャンブル  
日時 1

参加人数 0  
当日の様子・反省 頓挫

企画者名 角田  
企画名 5文字以上縛り絵しりとり  
日時 1

参加人数 0  
当日の様子・反省 頓挫

企画者名 角田  
企画名 めいぐるみ枕投げ  
日時 1

参加人数 0  
当日の様子・反省 頓挫

企画者名 角田  
企画名 恋バナ人狼  
日時 2

参加人数 0  
当日の様子・反省 頓挫

企画者名 角田  
企画名 お湯なしカップ麺早食い対決  
日時 2

参加人数 0  
当日の様子・反省 頓挫

企画者名 角田  
企画名 混沌チーズフォンデュ  
日時 2  
参加人数 0  
当日の様子・反省 頓挫

企画者名 角田  
企画名 手作り入浴剤  
日時 2  
参加人数 0  
当日の様子・反省 頓挫

企画者名 角田  
企画名 混沌アイス  
日時 3  
参加人数 0  
当日の様子・反省 頓挫

企画者名 角田  
企画名 鴨川全力砂鉄集め  
日時 3  
参加人数 0  
当日の様子・反省 頓挫

企画者名 角田  
企画名 ゲシュタルト崩壊  
日時 3  
参加人数 0  
当日の様子・反省 頓挫

企画者名 角田  
企画名 ハンディーキャップ卓球対決  
日時 3  
参加人数 0  
当日の様子・反省 頓挫

企画者名 角田  
企画名 リアルスプラ  
日時 4  
参加人数 0  
当日の様子・反省 頓挫

企画者名 角田  
企画名 焼き○○  
日時 4



参加人数 0  
当日の様子・反省 頓挫

企画者名 角田  
企画名 熊野ラーメン  
日時 常設  
参加人数 0  
当日の様子・反省 頓挫

企画者名 角田  
企画名 寮壁描画  
日時 ゲリラ  
参加人数 0  
当日の様子・反省 頓挫

企画者名 角田  
企画名 穴  
日時 ゲリラ  
参加人数 0  
当日の様子・反省 頓挫

企画者名 角田  
企画名 Twitterインスタ交換チャレンジ  
日時 ゲリラ  
参加人数 0  
当日の様子・反省 頓挫

企画者名 角田  
企画名 談話室魔改造  
日時 ゲリラ  
参加人数 0  
当日の様子・反省 頓挫

企画者名 角田  
企画名 二十日大根は本気を出せば10日で育つ  
日時 常設  
参加人数 把握不能  
当日の様子・反省 寮祭初日に鉢と看板と肥料を置いた。看板を置いた事で色んな方が二十日大根に喝を入れてくれた。寮祭終了後掘り返した所、可食部は見つからず。しかし将来可食部になると思われる白い塊の様なものを発見。あと10日程で食べられるようになると推測される。喝を入れ過ぎたせいで萎縮してしまった可能性がある。次回以降は喝だけではなく、褒めて伸ばす教育を施していきたい。

企画者名 角田  
企画名 ピタゴラスイッチ  
日時 常設  
参加人数 3人程

当日の様子・反省 初日に看板、ビー玉の設置と全寮LINEでの告知を行った。3日目くらいに有志がつくってくれたが、それで終わってしまった。常設にすると、やはり忙しい寮祭期間であるので、人が集まらないのだと感じた。次回やるのであれば、日時指定をしたい。

企画者名 角田  
企画名 廃墟脱出RTA  
日時 ゲリラ  
参加人数 1

当日の様子・反省 理農コンパの後、酔いつぶれた人を廃墟に連れていくという企画。企画者が連れていかれた。廃老人ホームのような場所に連れていかれたが、靴もない、防寒具も無いという状態だった為冗談抜きで死にかけた。廃墟自体は面白かったので何かに活用したい。次回はもう少し参加者増やしたいですね

企画者名 中川雄太  
企画名 弾圧警備員と遊ぼう!!  
日時 11/25 12:00-13:00  
参加人数 20人くらい?

当日の様子・反省 元弾圧警備員のYさんが音信不通になったのでこの企画は現職弾圧警備員と「遊ぶ」という企画となった。D棟コンパに弾圧に来てた警備員と「遊ぶ」ことができたと思う。あと、学歴の暴力のメンバーが本企画が面白いとしてツイッターに載せてくれた。

企画者名 小澤  
企画名 小野の眼鏡を買う  
日時 ゲリラ  
参加人数 0  
当日の様子・反省 実施できず。後日OBのカンパにより実施

企画者名 小澤  
企画名 誰にも伝わらないモノマネ供養  
日時 常設  
参加人数 0  
当日の様子・反省 実施できず

企画者名 小林  
企画名 談話室漫画頂上決戦  
日時 11月27日19時  
参加人数 20人  
当日の様子・反省 “談話室及び鉄扉にある漫画の中で最も面白い漫画を決める企画である。

日時が決定した時点で談話室回りをして各談話室の参加を呼びかけた。

各談話室及び鉄扉の代表漫画各1～3作品を5分ほどで紹介してもらい、その後討論を行った。討論は白熱してしまい、終わりそうになかったので徹底討論の原則を曲げ、投票によって1位を決した。1位は

『ナスレディン・ホジャ』（書誌情報不明）B3談話室

『放浪息子』（志村貴子、エンターブレイン、全15巻）C34談話室

で共に3票だった。

上位の漫画に限らず各談話室の選りすぐりの漫画が集ったことで新しい漫画に出会えたり、他ブロックの談話室との交流に資したと思う。来年もやりましょう。

#### 反省

徹底討論の原則を曲げたこと。やっぱりこの原則は大事。”

企画者名 小林

企画名 ローリング畳

日時 貫徹できず

参加人数 貫徹できず

当日の様子・反省 貫徹できませんでした。企画時間の変更を申し出たつもりだったが、夜のままだったので貫徹できませんでした。来年昼にやりたいですね。

企画者名 小林

企画名 SDGs対偶

日時 11月16日7時

参加人数 6名

当日の様子・反省 “某氏のツイートによるバズったのであるが、いかんせん朝6時からの予定であったので、エクストリーム帰寮出発待ちの人や食堂で潰れていた人間だけしか来なかった。この企画は対偶を取ることによってSDGsを達成しようという趣旨のもとで行われた。参加者の多くは「貧乏ならば人間ではない」など安易なSDGs対偶を発表して来たので、企画者が「本気で言っているのか、どうやって人でなくすのですか」とちゃんと詰めておきました。

#### 反省

一つも達成できなかった。6時に起きられなかった。”

企画者名 小林

企画名 お風呂入らない人コンパ

日時 11月30日19時

参加人数 10人

当日の様子・反省 “ お風呂に毎日入る人は、お腹が空いていないのにご飯を無理やり食べているようなものだ——今回のコンパでの一致した意見である。ご飯を無理に腹に詰め込むことが苦しいのと同じで、お風呂に毎日入っている人々は、お風呂の本当の素晴らしさを知らない悲しい人々なのだ。コンパ中に「お風呂に入れ、お風呂に入らないやつは食堂防衛意識が足りない自治破壊者だ」などと罵声を浴びせかけられたが、我々は全然動じなかった。何故なら彼らはお風呂に入らない側（入浴の真の快樂を知る者の側）に来たいと思っているのにその気持を素直に表現できない幼い人々だからだ。

とは言え、我々もやはりお風呂に毎日入りたいと、心のどこかで思っているということもまた確認された。「普通」になりたいのに、「普通」になれない。毎日お風呂に入りたいという気持ちがあるけれど、でも入りたくない。結局のところ我々はこうした複雑な感情を持ったままでしか生きて行けないのかも知れない。だからこそ、年に一度お互いの悩みや喜びを語り合う場が必要であると感じた。勝利的総括をしたい。”

企画者名 小林

企画名 今年こそチャンダーランチで得するまでナン食べる

日時 11月26日11時30分

参加人数 4名

当日の様子・反省 ”企画の趣旨は企画名の通りである。

結果としては4名ともナン3枚食べて終了した。

隣でチャンダー逆張りをやっていたが、チャンダーのサイドメニューを大量に頼んでおり、たいへん美味しそうだった。本来はそちらに参加すべきである。

反省

実はナンを3枚以上食べるとラッシーのサービスが無くなってしまうので、ナンは3枚までにすべきである。”

企画者名 小林

企画名 幼児期学歴選手権大会

日時 12月1日9時

参加人数 6人

当日の様子・反省 本当かは分からないけれど、年長の時に宇宙際タイヒミューラー（IUT）理論を習ったという人がいて、その人を取りあえず優勝にしておいた。どうせ大学院で習うのに幼稚園で習う必要ないよね。

企画者名 小林

企画名 寮葬

日時 12月4日20時20分

参加人数 50人

当日の様子・反省 ”我々熊野寮生は敬愛する偉大な指導者で元大総統のA氏の生前葬を、寮生全体の総意として執り行うべきであると考え、その実行に邁進してきました。残念ながらごくごく一部の不屈き寮生が「弔慰の押し付け」であるとして反対運動を食堂前廊下で行いしましたが、弔慰の強制には当たりませんので安心してください。また自治会憲章に規定がないという意見については、追いコンだって規定はない。ふざけるな。

友人代表のIさんの言葉は、電●に文面の検討を依頼しただけあって多くの人々の涙を誘い、A氏の偉大さを全寮生に知らしめることができました。

なお、寮葬に集まった重要な役職に就いている寮生や他の学寮の寮生などと現総統が会談を行うなど、弔問外交の成果も十分に上がっており、自治会費の無駄遣いとは言わせないぞ。

反省点

遺影印刷代の領収書をもらうのを忘れていた。電●に架空の請求書を書いてもらえばいい。”

企画者部屋番号 C403

企画者名 小林

企画名 寮葬反対

日時 12月4日20時

参加人数 主催者発表 1000人（警察発表20人）

当日の様子・反省 ”人民の声が寮葬を粉碎

デモ隊寮葬会場に踏込み「寮葬粉碎」の大合唱

12月4日の夜8時、熊野寮の食堂は寮葬反対デモ隊の怒号が飛び交っていた。デモ隊が寮葬会場である熊野寮食堂への突入に成功したのだ。「寮葬は16円もの巨額の予算を使い、A氏の神格化を狙って行われる資本の策動である。自治会憲章にも規定がなく、ブロック会議が承

認したわけでもない」。デモ隊はそう叫び、賓客の挨拶や弔辞の声を圧倒した。司会はその声にまごついていたほどだ。寮葬を実力で粉砕したのだ。

## 反省

反対派のリーダーN氏が指名され弔辞を述べたこと。資本の手先になったことを反省して欲しい。”

企画者部屋番号 A206

企画者名 延山

企画名 道上と飲もう

日時 12/2, 12/3

参加人数 多数

当日の様子・反省 “本企画は近年溝が深まりつつある大学と熊野寮の間の対話の糸口となることを目指して行われた。厚生課長道上氏を全寮コンパに呼ぶことを目的とした。2010年代前半は厚生課職員がこっそりと全寮コンパに参加するなど、学生と大学当局との対話のチャンネルは開かれており、これの復活をもくろむ企画であった。

協力者数名に道上氏とのコンタクトをお願いすると共に(結構規則正しく変えるので百万遍で待ち伏せすることが出来るらしい)、内容が内容なので11月に事前にBL会議に議案を出し全寮から意見を募った。「企画名に個人名を無断で出すのはよろしくない(仰る通りです)」「道上氏はお酒を飲みたいのか」「寮に入れず寮の前でテントを張ってそこで飲むべき(喫煙所は気が緩みやすく、全寮コンパや同釜会では不用意な発言が出やすい。また、実力闘争の直後集約が行われる場に権力がいるのはまずい)」という指摘がでた。

これらの指摘を元に準備を進めていたが、熊野寮D棟コンパで道上氏から「のみに行きたくない」という旨の発言がでた。実際問題道上氏にとってこの飲み会に出るメリットはない。本人の意思を尊重し、当日は企画者本人が仮想的な道上氏となり寮生と問答を行うこととした。

12/2の全寮コンパ、12/3の学寮コンパの場で仮想道上(以後、単に道上と表記)となり問答を行った。注意すべき点として、京大生以外は厚生課長の顔を知らないのも、私を本物の厚生課長だと思い込んでいる人が何名かいた。誤解は解けたのでよかったが、自分たちの常識が他人に通じると安易に思い込んではいけないと思った。

問答の内容を覚えている限り書くと以下の通りである。

## 問答 1

道上「なんで自治をするんや」

学生「いや基礎研究が」

道上「基礎研究が大事なら工学部はどうなるんだ！応用研究をしようとしないう工学部に意味はあるのか」

学生「いや工学部も基礎研究を」

道上「理学部でええやないか」

総評：学生側が自治のエートスを内面化できていない証拠である。基礎研究であれ応用研究であれ、遂行するのは現場の学生である。講義を聞いて問答するのも、いい会社に就職して大学の評判を高めるのも、論文の著者になるのもみな学生である。すなわち、大学の屋台骨を支えるのは学生であり、大学は学生の成果をアピールしてお金(交付金・助成金・大型予算・授業料など)をとっているのである。ゆえに、最大のリソース提供先である学生が大学の意思決定の主体たるべきという理論が自然と成り立つのである。

## 問答 2

(効きコーヒー企画にて)

学生「AとBどちらが高級コーヒーか当てられるか」

道上「これは熊野水を使っているのか」

学生「煮沸して使っている」

道上「厚生課は熊野寮の施設管理権をもっている。熊野水は大学が管理している。すなわち熊野水を使って得られたコーヒーは大学の物である。答えられないわけがない」

この後、道上は誤答する。

道上「よく考えたらコーヒーの内、豆由来の成分は厚生課の管轄外である」

総評：大学当局は微妙に正しそうなことをうまく拡大解釈して告示をだしたり論戦を挑んでくることが多い。今回は寮生が事実(Aが高級コーヒー)を提示し道上を引き揚げさせることに成功した。事実に基づくポジキャンが権力と対峙する上では重要である。

”

企画者部屋番号 A101

企画者名 中川雄太

企画名 反ワクチンvs京大生

日時 11/30 20:20-21:20

参加人数 500-600くらい?

当日の様子・反省 ”企画概要：「反ワクチンの方達をガチで招待し、京大生とバトルさせる。京大生の勝利→反ワクの人はワクチン接種する。反ワクの勝利→京大生は反ワクチンを信じる。」

あらかじめ決めていたこと：司会はA1中野、京大生側でスライド発表する人B2阿津、反ワクチン側でスライド発表する人寮外松本。スライド発表で論点（主に反ワクチン側の）を明らかにしてから自由に討論をしよう。人を馬鹿にせずにあくまで自分の信念に基づいてガチでやろう。1時間弱議論した後はスマブラで決着付ける（理由は後述）。京大生側はドクターマリオを使う。勝敗後の罰ゲームは強制ではない。

決めてないこと：スライド以外、当日誰が何喋るかなどは一切決めていない。B2阿津、寮外松本以外の発言者は知らん人ばかり。反ワクチンスライドの概略は企画者には共有されていたが、京大生側のスライドは共有されておらずぶっつけ本番でスライドが出てきた。スマブラやった2名も知らん人たち。当然勝敗が予め決まっていたということは一切ない。

反省点：

・500~700人ほどの人が来るとは全く予想外だったので、その対応が後手後手になってしまった。今後はこのような事が起こりうるということを認識し、起こりそうな場合は、人数制限、整理券配布、企画時間を工夫する等の対策を取りたい。

- ・自作同人誌（性的内容を含む）の宣伝をマイクでし始めた人がいたがその場で直接止めることが出来なかった。マイクの音量をゼロにすることで運営側で強制的に発言を止めさせることができるということを後で教えてもらった。
- ・寮祭実とあまり連携が取れていなかった。せっかく人が大量に来たのに活かせてない感がある。寮祭実はこの件を引き継いでもらうことになった。
- ・ほぼ台本を作ってなかったが、ある程度台本があった方がいい気がする。次回類似の企画をするのなら台本を作りたい。

以下、企画に関して概略を述べる。詳細は後日ブロック会議に提出予定。

## 1. 企画前

京大職員同好会のツイッターアカウントで12万いいねを超える反響があり、100人くらい来ると想定していたので、事前に立入禁止区域には張り紙をし、運営を手伝ってくれそうな寮生たちに声をかけていた。

11/30(水)20時に開始を予定していた本企画に、想定を大きく超える500~700人ほどの人が押し寄せ、20時時点で、食堂全体、食堂北部の通路、食堂西のバイク置き場付近が占有され始めた。20時頃には寮外の歩道上（正門から東方向）にも数十メートルの列が出来ていたが、寮生有志達によって寮敷地内のC棟横の道に誘導された。寮生有志達が寮祭パンフを配ったり、別企画「総長室突入」のビラを増刷して配りまくった。最後尾付近の約100人には、もう食堂に入れないということで企画者が謝罪し、帰るか「ジブリ上映会」に行くか「松田単独ライブ」に行くように言った。また、食堂西のバイク置き場付近から音漏れを聞いてもらおうという案が現場で出て、そちらに100人程度寮生有志達によって誘導された。

20時20分時点で、列はほぼ解消し、食堂全体、食堂北部の通路、食堂西のバイク置き場付近が占有された状態になった。それにより、残置していた人たちに関して、企画中は食べられない、ロビーで食べざるを得ないという問題が生じた。なお寮食は企画開始時点では売り切れてたらしい。また、食堂で行われていた他の寮祭企画が食堂の端で開催せざるを得なくなった。さらに、クスノキ前開催から食堂開催に場所変更をしようとしていた寮祭企画「スプラ2を救う」が、クスノキ前開催に再変更になった。

## 2. 企画中

企画は20時20分頃から21時30分頃まで行われた。マイクがうるさいと近隣から苦情が来たので少し音を下げた。「京大生側の方手を挙げてください」と言ったところ4人しかいなかった。「県外から来た人手を挙げてください」と言ったところ100人くらいが手を挙げた。

企画者が用意しておいた反ワクチン側の人と京大生側の人が冒頭でスライド発表した後は、基本的に発言したい人が自由に挙手して発言するという形式を取った。1人目の発言者が最後に自作の同人誌（性的内容を含む）を配布するという事件が起こり、人権擁護部員らによって排除・弾劾された。それ以外は普通に進行したと思う。また、間で1回、寮祭実の人が熊野寮や寮祭について5分ほどアジェンダをした。

企画終盤で、適当に挙手してもらった2人にスマブラをやってもらい形式上の勝敗を決めた。スマブラで勝敗を決めた理由は、「1時間弱の討論で安易に討論の『勝敗』を決めるのはナンセンス。それこそ議論の否定である。だからといって、『継続討論です。解散。』とするのも違う。色々発言してくれた両陣営の人たちの顔に泥を塗らない形で勝敗を決めるにはスマブラをするしかない」というものであった。しかし、企画者は500人の前で喋るのに緊張してしまい、「ここまでの議論は意味なかったということで。1時間程度の議論に意味なんてねーんだよ。これから皆さんには殴り合いをしてもらいます。」などと雑な発言をしてしまった。これにより、ネット上の反応として「議論は無意味。暴力は全てを解決する。」という主旨の企画であったという意見が多数みられた。

### 3. 企画後

企画終了後は比較的速やかに多くの参加者が帰っていった。玄関付近で溜まって騒ぐ危険性があったが、コロナビールを販売していた寮生有志の方達が見張ってくれていたこともあり、大きな問題は起こっていない。また、食堂横廊下から民青池方向に向かう人たちが10人ほど確認されたが、企画者が声を掛けて速やかに帰ってもらった。企画終了後は寮外生が変な場所にいないかを見回った。食堂西のバイク置き場で談笑する2人組がいたのですぐに帰らせた。また、食堂西バイク置き場付近は、企画中から寮生有志が監視してくれていたのだが、ずっと撮影している人がいたので企画終了後に声を掛けて全て削除させてくれた。”

企画者部屋番号 B404

企画者名 四十坊

企画名 鴨川イカダレース2022

日時 12/3 11:00~15:00

参加人数 レース参加者8名、観客25名

当日の様子・反省 ”企画準備：

寮祭2週間前から2Lや1.5Lのペットボトルごみを収集し、袋に入れてイカダの材料として中庭に集めた。寮祭期間中にイカダの材料を買い出しに行き、50mダクトテープを5個、ガムテープ2個、テープ紐1個、カイロ、軍手などを購入した（合計7000円程度）。また、賞品として2000円のAmazonギフトカードと500円の図書カードを4枚用意した。

イカダの作成は企画者が11/30に食堂で開始し、出走者多くが前日の全寮新歓後に作成していた。材料はペットボトルに限らず、段ボールや畳、ビニール袋、発泡スチロールなど各自が様々な素材を使って自分のイカダを作成した。

当日の様子：

当日は11時寮出発の予定だったが、出走者と観客が全員起床するのを待って出発したため11時30分頃になった。寮のリヤカーに大きなイカダを三つ積み込み、小さなイカダなどは参加者が手に持って、熊野寮から三条大橋南の広場まで歩いた。出走者の一人が車で渋滞に巻き込まれたため、少し到着をまって12時10分に開会式を行なった。レースの出走者は企画者を含めて8名であり、そのうち7名はイカダを作成しての参加であった。ただし、1名は水泳にきたようであった。企画者の個人的主観では、イカダのクオリティがここ数年で最も高く、企画名通りイカダを使ったレースができそうであった。昨年まではイカダを使わずに歩いた人も含めて優勝者を決定していたが、今年は歩いた人は失格とした。イカダの講評としては、企画者号は畳をベースとしてペットボトルを板状に配置させたものであり、ヤドン号はコンパネをベースにペットボトルを板状に配置させたもの、物実号は畳をベースとしてプラスチックタンクや発泡スチロールなどで浮力を確保して丈夫には椅子のような備品も備わっているもの、ダンボール号は段ボールで船状の形状を作って外部をダクトテープで防水加工したもの、サンタ号は金網を骨組みとしてペットボトルを板状に配置しつつ上部にはトナカイなどの風船でデコレーションしてミニスカサンタが乗船するもの、急造号はペットボトルをガムテープでまとめて当日朝に急造されたもの、ビニール袋号はビニール袋に空気を入れて浮力を確保したものであった。

レーススタートは12時20分頃だった。スタート後は急造号がスムーズなスタートを切った。その後ビニールシート号以外は順調に鴨川を下っていった。途中でダンボール号が浸水を始め沈没した。レースは物実号が優勝、サンタ号が準優勝、急造号とヤドン号が同着3位という結果だった。企画者はスーツで乗船し、畳の上で優雅なひと時を過ごし、他の参加者の撮影をしたり、ダンボール号の沈没を見届けたりした。途中で寝転がってくつろいだり、企画者自身が最も企画を楽しんだ。レース後は、ゴール地点である四条大橋下で閉会式を行う予定だったが、警察の観客の方（1名）が居たため、その場で簡単に順位の確認だけを行い、



解散とした。この時点で13時頃であった。イカダやゴミなどをリヤカーに積み込んで寮に帰った。

反省点：

反省点としては、一回生の参加者が少なかったことである。例年寮祭後半の土曜日に開催しているこの企画であるが、近年悪名高きTOEFLのテストがこの企画とかぶってしまうということが発生している。今年は一回生の多くがTOEFLに行ったためか一回生の参加者・観客がとて少なかった。来年以降はTOEFLの日程を考慮して企画の日時を決めるのが良いと思われる。また、今年は企画者がイカダを作り始めるのがレース日の直前になってしまったことも反省点である。毎年、イカダを作っているのを見て参加しようとする人が一定数いるので、寮祭期間の始めから作り始めることで、この企画の参加者も増えるだろうしイカダのクオリティも高くなるだろうと思う。また、今年は警察の観客の方が来たことも注意しておく必要がある。企画者の知る限りではこの企画に警察が来たのは非常に珍しく、たまたま今回通報があっただけかもしれないが、来年以降の企画開催時には警察対応についても十分考慮しておく必要がある。”

企画者部屋番号 B404

企画者名 四十坊

企画名 ファイヤーストーム

日時 12/4 21:00~12/5 6:00

参加人数 総数60名程度

当日の様子・反省 “企画準備：

ファイヤーストームの準備は、キャンプファイヤーのための薪を用意するところが最も重要である。近年は山仕事サークル杉良太郎との関係があって毎年多くの薪を用意してもらっている。今回も杉良太郎に1万円分の薪を依頼した。杉良太郎のメンバーである寮生と連絡をとり、薪を寮に運搬してもらった。お酒・ソフトドリンクの買い出しでは、ビール2ケースをAmazonで購入して運搬の手間を省き、チューハイ24缶程度とソフトドリンクは企画者が直接買い出しに行った。当日の午後に岡崎消防署に事務室から電話をして焚火届を行なった。

当日の様子

18時頃からBC棟間駐車場に置いてあった薪を寮前の駐輪場へ運び出す作業を始めた。リヤカーを使ったため非常にスムーズであった。その後、駐輪場に鉄板（粗大ゴミ置き場から拾ってきて例年使っているもの）をしき、アスファルトが傷まないようにした。寮祭ライブの後片付けを行っている人たちに頼んで、食堂から机を一つ駐輪場に出し、お酒類用のポリバケツも運び出した。20時50頃から薪を組み始めて着火の準備を行なった。

その後食堂で寮祭企画「寮葬」が開催されていたため、企画の最後の黙祷に合わせて点火した。このとき放送で点火を周知した。その後食堂から畳を3畳運び出して火を囲んで座れるようにし、企画者と大勢の寮生が火を楽しんだ。寮生・寮外生を含めた大勢の人が入れ代わり立ち代わり火の回りで交流し、寮祭の終わりを惜しんだ。寮葬されたAさんを惜しんだ人もいたと思われる。今回は例年より薪の量が多かったため、継続的に薪を投入でき、大きな火を夜更けまで維持できた。最終的に7時頃まで薪を追加し続けて、その後は鎮火を見守った。8時頃に水をかけて完全に鎮火させ、鉄製のバケツに残った炭を全て入れて水没させ、完全に温度が下がるのを待った。今年は最後まで参加している寮生が10名以上いたため片付けが非常にスムーズだった。

反省点：

人権擁護部の焚火申請フォームの申請締め切りが一週間前であることを忘れていたため、人権擁護部への焚火申請ができなかった。焚き火を行うことが明らか恒例企画で、人権擁護部を含めて多くの寮生が既知であるとはいえ、人権擁護部に焚火申請を行うべきであった。この点は大きな反省点である。”

企画者部屋番号 B404

企画者名 四十坊

企画名 お茶会

日時 12/2 20:00~21:00

参加人数 10名程度

当日の様子・反省 ”企画準備:

企画のために柳桜園で薄茶用の抹茶(松の白)を購入した。茶筌・茶杓は企画者の私物を用意し、談話室の茶碗などを準備した。

当日の様子:

この企画は全寮コンパ中に開催した。食堂のテレビ前の一等地の畳の上でお茶会を開催した。企画者を含め参加者は皆、お酒に酔っていたため、ノンアルコールの抹茶が体に染み渡った。抹茶を点てたことがない人が抹茶を好きな量だけすくって、茶筌でかき混ぜていたのが印象的だった。自由に点てられるようにして企画者は他の場所に行ってしまったのでその後の様子は不明であるが、皆で楽しく抹茶を飲んでくれたようである。

”

企画者部屋番号 B404

企画者名 四十坊

企画名 プログラミング言語布教大会

日時 11/28 23:00~24:00

参加人数 0

当日の様子・反省 ”反省点:

この企画は完徹できませんでした。企画者がOCamlを布教しようと思ったのですが、他の寮祭企画を楽しんでいるうちに開催時刻を過ぎていました。今後は気をつけます。”

企画者部屋番号 B404

企画者名 四十坊

企画名 アクセンチュアに内定しよう

日時 常設企画

参加人数 不明

当日の様子・反省 この企画は各寮生がアクセンチュアにエントリーし、内定をゲットする企画であった。去年就活を行なった企画者は、寮祭期間中にアクセンチュアのグループディスカッションの日程が組まれていたため、アクセンチュアへの応募を丁重にお断りさしあげた。本当にアクセンチュアに内定したいとおもって就活してる寮生はおそらく内定をゲットしていることであろう。運悪く内定をゲットできなかった寮生も来年もう一度アクセンチュアを受けるためにアク浪(アクセンチュア浪人)しよう

# 第115期方針案

## 常任委員会

### 【目次】

- A. 総論
  - 寮生はみんな仲間
  - 情勢認識
  - 自治論
- B. 各論
  - 115期の方向性
  - 寮内に向けて
    - 1. 部会委員会
    - 2. 引き継ぎ
    - 3. 「全員自治」宣言
    - 4. 厨房問題
    - 5. 反差別
    - 6. 新歓
  - 対寮外
    - 1. イベント（熊野寮コンパ、情宣）
    - 2. くまのまつり
    - 3. 学寮交流
    - 4. KUMAN
    - 5. 寮外連携局の新設
  - 全学的な問題について
    - 1. 処分問題
    - 2. 全学自治会再建
- C. 予算

### A. 総論

#### ○寮生はみんな仲間

寮生はみんな仲間である。人によって思想や立場が違って、意見が合わなかったり考え方が対立したりして、嫌いな人もできるかもしれない。でも寮生は皆、寮を良くし寮を守ることにおいて同じ立場であり団結して行動する仲間である。どんなに議論で意見が合わなくても、価値観が違って、わかり合えなくても、遠い存在に思えても、嫌いになっても、寮生は全員一緒に寮を守っていく存在であるということを常に心の中に留めておいて欲しい。「寮をみんなで守っていこう」これを1番強調したい。

どうしたら寮をより良くしていけるのか、どうしたら寮を潰そうとしてくる当局や政府から寮を守れるのか、一緒に考えて一緒に行動していきましょう。

#### ○情勢認識

学生自治寮を巡る情勢は激化している。

吉田寮生に対して起こされた裁判の判決が近づいている。これは日本に残るひとつの自治寮の未来を左右する重大なものである上、熊野寮にとっても他人事ではない。

京大では部活やサークルの活動がコロナが始まって以来規制され続けており、タテカンも立てられない、保健診療所は廃止される、学生の活動に対する警察導入が頻発するという現状

がある。当局は企業と連携した研究などの利益になることばかり進め、赤字になる自治寮や保険診療所といった福利厚生は切り捨てる。当局はすぐに学生を処分し、分断攻撃のために権力を行使している。

このような弾圧の流れは京大に限った話ではない。全国の大学で同じような構図の規制や管理が行われている。例えば、金沢大学では自治寮である泉学寮に対して廃寮化攻撃がなされ、寮から出て行かないと処分するという告示を当局が出している。これは京大で起きている問題と構図は同一である。このような動きが全国で生じているのはなぜか、政府が国策として国民の規制や管理を推し進めているからである。その国策の中、政府は学生自治寮を紛争の根源だと位置づけ、新々寮四条件に則った、食堂も談話室もない、一緒に住んでいる人の名前も分からないような寮を次々建設しているのである。

大学を自由に学問を探究する場ではなく、堅実に働く社会人になるためのレールにしようとしている。豊かさが奪われつつある。

政府や当局が学生を黙らせようとしてきている中、学生がそれに屈して黙れば更に不自由な状況に追い込まれてしまう。その例として中国やロシアの状況がある。中国ではコロナを封じ込める政策として濃厚接触者を建物に封じ込め、火事になっても逃げられないようにしていたりする。ロシアでは戦争が起きている中、国外に出ることが禁じられ、デモの参加者は逮捕され、拘留中も虐待をうけている。戦争のために全てをつぎ込み国民の命や生活は切り捨てられる。政府はやりたい放題やり、抗うことは難しく、抗えば命の保証もないような状況にある。これらの構造は京大で起きている問題と似ていると思う。当局に、更に言えば政府に対して従順になったらいつか日本もここまでの状況になってしまうかもしれない。

ここまで情勢について悲観的なことを述べたが、熊野寮に焦点を当てると、厳しい情勢を押し返して様々な活動が活発に行われている。総長室突入の盛り上がりに見れていたような熊野寮を中心としたエネルギーをもとにこの情勢を動かしていくことは十分に可能である。

寮を守る、そのためには絶えず情勢を見据えながら方針を定めていかなければならない。そのため、以上のように情勢を規定し、以下方針を述べていく。

## ○自治論

熊野寮はたくさんの人と出会い、関わるができる。熊野寮に入らなかったら出会わなかった人はそれぞれたくさんいるのではないだろうか。でも、こんなにも多くの人と出会えて関われるのは熊野寮が自治寮であるからに他ならない。自治寮であるから人と人の関わりが盛んだし、自分たちで寮を運営していく中で様々な交流の形が生まれる。それが熊野寮の大きな魅力の一つだと思う。

そして熊野寮の中では決して動かせない規程はない。自分たちで自分たちのあり方を規定し、そのあり方を自分たちの議論や経験によっていくらでも塗り替えられる。根拠なく規定されることがないから自由である。何かをやりたいと思ったらそれを応援して手を貸してくれる人がいて、大学などの力のある相手に対してもみんなで立ち向かえる。いろんなことができる。いくらでも発展できる可能性を秘めていると思う。それは自治をやっているからであり、寮について考えたり話したり仕事をしたりということをしているからである。

私たちはなぜ自治をするのか、それはこれだけ自由で寛容でいろんな寮生の関わり合いの中でいろんなものが生み出される熊野寮という場を守り発展させ、多くの寮生が熊野寮という場で輝くためである。

## B. 各論

### ○115期の方向性

寮内の自治の基盤強化に取り組み、熊野寮を元気にする。SC会議、部会委員会、ブロック会議、コンパ等々で能動的に行動する寮生が一人でも多くなるようSC一人一人が各々のコミュニティで働きかけを行っていき、寮生それぞれが自分の好きなことや得意なことを中心に寮の活動を盛り上げ寮防衛に貢献する形を目指す。また、寮への愛や寮の活動の意義などをSCや上回生が下回生に伝えていくことを進め、寮を潰そうとしてくる政府や当局からみんなで寮を守っていくという意識を全寮的に形成する。

また、そのようにして寮内で作り上げた自治の基盤を元に全学的な自治の再生に取り組み、当局に対峙できる全学自治会の再建を目指す。今までの処分運動を振り返ると、処分という問題を当事者だけの問題ではなく大学全体の問題として寮外生や地域の方々、教員の方々なども巻き込んでみんなで当事者として考えて取り組むことで全学的な運動を作り出し、当局に対する力関係を作ってきた。そして実際に処分の重さが軽くなるなど明らかな成果を生んできた。このことからわかるように、熊野寮の問題を含む京大の問題は京大生みんなで当事者として取り組んで行く必要があり、全学自治会の再建が必要とされている。熊野寮を中心に全学自治会再建に向けて全学的な動きを作り出していきたい。

## ○寮内に向けて

### 1. 部会委員会

部会や委員会を活性化させる。現状、SCが扱っている領域のうち、部会や委員会でも扱えるものは多くある。部会や委員会で、自治への意義や楽しさを見出して参加してもらう人を増やし、SCではなく専門性の高い部会や委員会でできる範囲は扱ってもらうことで、多くの人に主体的に自治に関わってもらいたいと考えている。

そのために、まずは部長や委員長にSCの一員として寮自治の中核に関わってもらい、そこから部会委員会の会議や新歓の場を通して、寮自治にとってのそれぞれの存在の位置づけをひろく浸透させていくことを目指す。しかしそれは理想の姿である。現状そうになっていないところへのアプローチとして、部長や委員長に対して、密に関わりサポートしていける上回生を設置する。それはSCの内部の寮生ではなくとも、部長委員長が安心して関わって、安心して頼れるような体制をSCとして整えるよう尽力する。

### 2. 引き継ぎ

熊野寮において、口伝で伝えられる知識、経験が非常に多くを占めている現状がある。暗黙の内に前提とされていることをもっと文章化し、口伝で伝えながら文面としても残していくという継承方法をとることで、部会や委員会を活性化の一助としたい。

また、ブロックや部会委員会の有力者、主に歴戦の自治寮防衛戦士たる上回生たちを覚醒させ、SCの中核・現役バリバリの寮生の層とは異なる「中間層」を再興させる。この「中間層」とは、単に回生や役職のことを指すのではない。

たとえば、部会や委員会で意義を伝えることができたり、ブロック内で信用されていたりしてコミュニティを強く持っている人で、SCや寮自治の中核部分に強くコミットしているわけではない人などである。つまり、SCの中核部分に常にいるわけではなくとも、多くの人と関わり寮自治の中で重要な位置を占める人格を指す。

彼らに、若手や各コミュニティの自治意識を耕し、会議やコンパの場に連れてくる組織者としての役割を担ってもらいたいと考えている。

さらに談話室での会話や、一緒に寮食を食べているときなど、何気ない日常のワンシーンに自治の意識を浸透させる人が必要である。若手や現役の寮生に信頼される力ある中間層の再興は、寮内の知識や経験、ノウハウのみならず、寮への愛や自治寮防衛の思いへと直結する。そこから、SCとSCでない寮生の乖離、中枢と周縁の乖離を減らし、寮自治への参画の仕方を多様化させる。

### 3. 「全員自治」宣言

115期では、「全員自治」宣言を掲げる。

114期ではひとりひとりの平SCを位置づけ、定期的にコンパやヒアリングを行うことでSC内での団結を深化させることを目指したが、平SCとの連絡や意識性の醸成がうまくいかず、難しいものがあつた。115期では、平SCを名実ともに寮の中枢と位置づけ、副委員長と同等の役職として配置したいと考えている。

そうすると平SCの人数は少なくなる。SCが寮内のあらゆる問題を把握し多くの事柄を扱う形だったここしばらくのSCは、SCにアイデンティティを持たない寮生の寮自治からの疎外を生んでいた部分があつたためその構造を脱却し、SCでない寮生でも寮内の事柄について問題意識を持って関われる形を追及していく。SC会議やSCの担う業務を、SCだけのものではなく全寮のものとしたい。

SC会議は誰でも参加できる会議である。しかし最近では、平SCの寮生でも参加できていない現状がある。SC会議を寮生なら誰でも参加できて意見を述べられる空間にすることが、115期の目標である。

そのために議題の配置を工夫してスムーズな議事進行を心がけたり、食べ物を用意したり、SCの寮生がSCでない寮生を呼んだり、開かれた会議体としてSC会議を設計する。

熊野寮に住んでいることや毎日を「普通に」過ごしていること自体が自治であり熊野寮を守る闘いの一つであるし、何気ない日常の一コマや寮内のあらゆる交流に自治寮防衛の思想が宿っている。そのことをより多くの寮生が実感できるようにしていく。そのためにも、正副常任委員長をはじめとするSCなどの寮生の、日常的なコミュニケーションのあり方から見直しつつ、周知さんに頼りすぎず普段の会話やSC通信の定期的な発行、ボテッカーなどの顔の見える関係に基づいた情報伝達を重視していく。

全寮生がそれぞれのやり方で日常を過ごすことで自治に参加してほしい。いろんな意見や立場を持つ寮生全員がそれぞれのやり方で寮自治に取り組むことで寮を守ること、これが先述の「全員自治」宣言である。

システムや構造は可能な限り変化させるが、最終的には人間同士の関わり合いや対話、各寮生の寮への思いや行動によってのみ、自治も、自治への獲得も行われる。個人個人との徹底討論と、SCの日常的な実践によって寮内の自治の基盤を再生させたいと考えている。SCのあり方として、他の寮生と対話し一緒に実践することで多

くの寮生を取り込む、そして問題意識を持ち寮を良くしよう寮を守ろうとする寮生とともに行動していく、そのようなあり方を目指す。

#### 4. 厨房問題

現在熊野寮食堂・厨房を巡る状況は危機的なものにある。栄養士Sによるハラスメントは続き、新しく入り、かつ当局雇いになった厨房員さんは12月いっぱいで退職することになった上で、12月頭から出勤しなくなってしまった。欠員が1人出ているうえで、さらに欠員が生じている状況である。また、前任栄養士H氏時代の厨房のことをよく知る厨房員I氏は勤務時間を減らされたままになっている。こうした危機的状況を瞬時に打破することは難しい。だからこそ115期では、そうした状況打破のために、炊事部と最大限強調しながら寮生が厨房バイトによる厨房業務の把握・改善への指導ができる環境の構築、それと同時に並行した欠員補充の要求、コンパに呼ぶ等での厨房員との人間関係の構築等を執り行っていきたいと考える。

#### 5. 反差別

寮生は皆平等でなければならない。寮内に差別があってはいけない。なぜなら差別的発言や行為は団結破壊、自治破壊だからである。寮内の団結を破壊するものとして差別がある以上、SCとして反差別に取り組むことは必要なことである。人権擁護部や国際交流局とも連携しながら、寮内の差別意識に立ち向かっていくことを目指す。この社会に差別はあふれている。熊野寮も社会に規定される部分は大きい以上、差別において全く無謬の存在ではいられない。内面化された差別意識についてみんなで考える、立ち向かうということを目指して対策していきたい。学習会などに関心のある人しか参加しないという問題点があり、ある意味で暴力的なアプローチが必要であると考え。つまり、否応なしに耳に入る、否応なしに目に入るというやり方である。例えばコンパの場での定期的なアナウンス、目につく場所に大きく貼り出すポスターなど、関心のない層にもアプローチできるやり方を模索していきたい。

#### 6. 新歓

115期中の4月には新入生が入ってくる。100名近く入ってくる新入寮生がどうなっていくかというのは非常に重要な要素である。そのため、新歓政策を方針の中に据えたい。まず行いたいのは、在寮生の意識層に対して「新歓講習会」を行ってみたい。未知の取り組みなので上手くいくかわからないが、SCとして、部会委員会として、個人として、どういったところに重きを置いて新歓を行うことが寮の盛り上がりにつながっていくかという観点で新歓を行って欲しいと考えている。そのうえで、新歓をする中で大事にしていきたいのは日常的な人間関係を構築する中で真面目な話・ゴリっとした話をし、その人間関係を伝播していくことである。勿論初対面から真面目な話・ゴリっとした話をするのも重要である。そのうえで、SCや意識的な寮生からコンパの場だけでなく、日常的な場から新入生に能動的に声かけを行い、そしてその人間関係を他の意識層に伝播させていくことを目指したい。

#### ○対寮外

##### 1. イベント（熊野寮コンパ、情宣）

114期では、熊野寮コンパなどのイベントを通じて寮外生と関わり、学部自治会や全学自治会についての内容を打ち出すことで、寮外生に自治への参画のしかたを提示

してきました。115期ではこれをさらに発展させ、寮生が意識的に参加して自治を伝え、寮生自身が組織者になって全学自治会建設を進めていくことに重きを置きたい。多くの学生と全学自治会建設で一致し、寮外生が自治の主体となって行動できるようにしていく。

また、10月31日に行ったハロウィンコンパでは、夜間とはいえクスノキ前でのコンパを貫徹した。115期では昼休みにクスノキ前でのコンパを行い、学生が自由に炊き出し・集会などを行えるキャンパスを取り戻すことに挑戦したいと考えている。寮生の創造力を多方面に爆発させてより自由で楽しい大学を作っていく。

## 2. くまのまつり

これも113期、114期から引き続き、地域連帯の一環として取り組む。これまでは少数の意識的な寮生が実行主体を担う形になっていたが、ブロック出店などを通じてまつりに楽しく関われる人、また地域のお店巡りなどを通じて、まつりの運営を中心に動かせる寮生や地域の方との人脈を持つ寮生を増やしていく。

また、自治発信企画の形態についてもまだまだ改善していく必要がある。特にこの2年間の自治発信に関わった若手を中心に、よりよい形態を模索していきたいと考えている。

## 3. 学寮交流

寮潰しが国の大学政策の一環として行われている以上、全国の学寮が熊野寮と同じ問題を抱えていることは明白だ。逆に言えば、熊野寮自治会は熊野寮だけでなく、他の学寮についても当事者性を持つ存在である。廃寮化攻撃（ナンセンス！）真っ只中の泉学寮で行われる（予定の）春の学寮交流会に熊野寮から多数の寮生を派遣し、泉学寮生と自治寮防衛で団結することで、泉学寮への廃寮化攻撃を食い止め、熊野寮の「廃寮化」Xデーについて熊野寮生も考えるきっかけとしたいと考えている。また、それだけでなく、寮生自身が他の寮の実情を知ること、差別、コミュニケーション、議論についてなど今の寮のあり方を見つめ直す良い契機になるだろう。

## 4. KUMAN

熊野寮と地域の方との橋渡しの手段の一つとしてKUMANを位置づける。KUMANを活性化して地域に根付かせることで、寮に対する得体の知れなさを払拭してもらい、寮生が地域の子供たちやその親御さんと親睦を深め、将来的には熊野寮が困ったときには手を伸ばしてもらえるような関係作りにつなげていく。

114期でもKUMANを位置づけ、新しく寮生を取り込んだり、KUMANとしてくまのまつりへの出店や夏祭りなどの新規の企画を打ったり小学生の投稿時間にビラ撒きを行ったりしてKUMANの規模の拡大を図り一定の成果を見せた。115期ではさらに規模の拡大を図るとともに、質の向上と企画のさらなる多様化を進め、顔の見える関係作りを行っていく。

## 5. 寮外連携局（仮）の新設

熊野寮の寮自治防衛において、寮外生との連帯は必要不可欠である。11/20に熊野寮食堂で行われた京大ダークのjazzライブによって、寮外生との連帯におけるイベン



ト開催が有効であると示された。熊野寮と寮外の学生の交流を促進するため、寮外連携局を立ち上げる。  
詳しくは別議案寮外連携局方針案を参照。

## ○全学的な問題について

### 1. 処分問題

現状、大学での自由な活動は処分によって制限されている。当局は一方的に規制を敷き、それに逆らった学生を処分することによって規制に逆らったら処分するぞという脅しを学生に示している。そして弾圧する行為としない行為の境目で学生を分断して、その境目を次第に厳しい方へ動かしてきている。それによって大学で当たり前に立てられていたタテカンほとんどなくなり、サークルの活動時間は短縮され、学内での自由な活動は減ってきた。

処分問題をみんなが当事者として考えて取り組んで、京大全体の問題として捉えて行動することが大切。学生側が当局に対抗するためにはその間にある権力差から考えて数の力しかない。大人数で集会をやる、大人数でキャンパス情宣をする、大人数で窓口交渉に行く、大人数で当局に圧力をかける。それが今の処分撤回集会やキャンパス情宣、ハロウィンコンパ、熊野寮の窓口交渉、そして寮祭での実力行動。だからこそ、まずは窓口交渉、キャンパス情宣、熊野寮コンパなどをさらに盛り上げて、その盛り上がりを処分運動につなげ、ポップでクールな処分運動を作っていきたい。

### 2. 全学自治会再建

熊野寮に対する当局からの弾圧は年々強まっている。そんな中で熊野寮は当局からの圧力に対して寮内で議論を続けながらも毅然と対応し跳ね返してきたし、跳ね返すだけでなく圧力に対してむしろ押し返しを見せている。

しかし、どちらにせよ熊野寮のあり方は社会や時代の動きとは逆行しており、熊野寮を守ることは年々難しくなっていると言える。そんな中で熊野寮を守っていくには熊野寮生だけの力では不十分である。だから熊野寮生から寮外へ寮の文化の素晴らしさ、それを守るために屈せず前向きに戦い続けている姿勢、そういう寮のあり方を含めて応援してもらえ、そして一緒に闘える。そんな関係性を寮外の人とも築いていかなければならない。

そしてこれは大学自治関連の事項全てについて言える。それぞれの問題について深く関わっている人だけで当局やその背後にいる国に立ち向かおうとしても解決は不可能であり、みんなで自分事として取り組み学生の権利を守る学生団体が必要である。それが全学自治会だと思う。このような理由から当局や国に対してきちんと向き合える全学自治会の再建を目指す。

114期でも方針として全学自治会再建を掲げ、熊野寮コンパなどで寮外生が主体的に自治に関わる足がかりを作ろうとしてきた。半年かけて取り組んできたことで少しずつではあるが全学自治の復活に近づいている。寮祭企画「総長室突入」を寮生だけでなく多くの京大生を取り込んだ行動にすることができたことがその成果と言えるであろう。115期はこの進展を次のステップへと進める期とする。

全学自治会を再建するためには寮生と寮外生ともにたくさんの人を巻き込む必要がある。そこで具体的な行動としては、熊野寮コンパなどを通じて築き上げてきた各学部自治会とのつながりをより強固なものにすること、サークル規制などの問題を巡りサークルとも連帯すること、再建準備会の会議にもっと人を呼び活発化を図ること等を行っていく。

また全学自治会再建にあたり、学生の権利を守り大学の中で学生が自分たちのことは自分たちで決定権を持って進められるような当局や国（政府）との関係性を作っていく組織として再建していきたい。

### C. 予算

項目	収入	支出	備考
自治会会計より	¥2,334,000		
SC新歓		¥100,000	
ブロック新歓補助費		¥180,000	
寮生大会差入れ		¥10,000	
物品購入		¥200,000	USB、筆記用具、養生テープ、模造紙など
コロナ対応		¥80,000	抗原検査など
緊急時対応		¥80,000	
寮外交流		¥320,000	熊野寮コンパ、キャンパス情宣などキャンパス生との交流
学寮交流		¥250,000	日就寮パンフ撒き100,000+春の学寮交流会100,000+50,000
会議運営		¥50,000	
学習会コンパ運営		¥150,000	
PT予算		¥20,000	
地域連帯局		¥300,000	各局方針を参照
国際交流局		¥50,000	各局方針を参照
増築建設局		¥50,000	各局方針を参照
処分局		¥100,000	各局方針を参照
広報局		¥190,000	各局方針を参照
備蓄局		¥114,000	各局方針を参照
寮外連携局		¥90,000	各局方針を参照
合計		¥2,334,000	

## 広報局

### 目次

0. はじめに
1. 総論
2. 各論
3. 予算

#### 0. はじめに

「この方針案は長い。」という書き出しで昨期の広報局方針案は始まったが、今期の方針案も同様に非常に長いものとなっている。これは広報局長という役職が新たに引き継がれるにあたって、広報局のスタンスを明らかにするとともに、この寮における広報の必要性・意義について改めて明記せんとしたためである。この方針を読んだ意志ある寮生が広報について今一度真剣に考える機会となってくれる事を切に願う。

まず、「この現代に、この熊野寮という特殊な環境を残していく、守っていくということを真剣に考えるにあたって、我々が取るべき戦略は何か？いったい何を真剣に考えなければならぬか？」という議論は寮内で度々行われているものである。その答えは当然、人によって千差万別であり、また、そのようであるべきだとも思うが、その回答の一つとして「広報」があると考え。勿論、実力闘争であったり窓口交渉であったりという手段も重要であるという認識は大前提ではあるのだが、我々はこの一つ一つの闘争の効果を広報によって何倍にも高めることが出来、またそのような我々の行動が届かない層にまで熊野寮という存在を届けることが出来るのである。そのような広報の重要性を認識していただいた上で、以下の広報局方針へと移りたい。

#### 1. 総論

熊野寮広報局は2019年12月（109期）に創設された比較的新しい局である。その目的は「熊野寮の知名度・イメージ向上、及び有事の際に熊野寮へ協力しうる学生・教員・市民を増やすこと」である。115期ではこの方針に加えて「寮内広報を積極的に行っていく」という事を方針に加えて活動していきたい。2. 各論にて詳しく述べるが、我々は自らが熊野寮という非常に特殊な環境に住んでいるということに無自覚である傾向がある。このことについて我々が自覚的になり、寮生個人個人が広報主体となることも新たに広報局の目標として設定したい。

また、広報局は（現在推し進めているプロジェクトに留まらず）やりたいことを何でも自由にでき、寮外へと活動を広げていくプラットフォーム的な場として、直接的な闘争に限らない、もっと自由な形の自治の拡大を行っていく部局としていきたいと考える。

115期ではこの方針のもとで、新しいアイデアや意欲を持った寮生を積極的に呼び込み、支援していきたい。

会議体は現時点で毎週水曜20時～、対面・ZOOMのハイブリッド形式で行っていく予定である。

\*興味のある人はとりあえず広報局discord↓に入ろう！

<https://discord.gg/FJKPQCKEed>

#### 2-1. 基本方針

広報という言葉は非常に曖昧である。何を目的として行えば良いのか、何をもちて成功とすればよいのか、広報というものは熊野寮が理解される為の手段として適切であるのか。私

個人も、様々な場で広報局について、ひいては広報活動そのものについて疑問を呈される機会があった。

そこで、広報局長を引き継ぐにあたって、115期での広報局の基本的方針をここに明記したいと思う。

大前提として広報活動はすなわち「知ってもらう」活動である。我々の住む熊野寮は良くも悪くも色眼鏡で見られやすい寮である。そのような環境に住んでいる我々について、彼らの色眼鏡を取っ払って熊野寮の魅力を知ってもらう事が広報の本質である。したがって、この活動を行うにあたって我々は自らの情報を届けたいターゲットについて知らなければならないし、我々自身が胸を張って「何も恥じるものはない。我々の事を見てもらって構わない」と言えるだけの自信と魅力を養わなければならない。

このような活動こそが現代において熊野寮が生き残っていく道であり、また、その窓口として寮外と寮内をつなげる役割が広報局に求められている仕事であると確信するものである。

## 2-2. 中長期的方針

まず、熊野寮広報局について論じるにあたって、その業務内容を大別した上で、「各論」という形で方針を述べていきたいと思う。

まず、広報局の役割を大きく以下の4つに分けたいと思う。すなわち「寮外広報」「寮内広報」「広報素材の作成、発見」「寮内記録」である。

### 2-2-1. 「寮外広報」

広報と聞いて最初に想起されるような内容はここに分類される。寮の外に向けて寮の事を発信する活動を指す。

この業務では、熊野寮について世間に受け入れやすい形で広く発信するということを重視したい。我々の理念や思想を直接的に訴える事によって深い理解を得るという方針と、よりポップで分かりやすく魅力的な側面（ユニークな寮祭企画やコンパ）を切り取って発信するという方針を両立させたいと考えている。

### 2-2-2. 「寮内広報」

今回の方針で新しく提起したい考えである。1で述べた通り我々は熊野寮に住むということの特別性について余りに無自覚である。そのため、寮生へ向けて「今の寮で何が行われているのか」「寮の外部の人間が寮にどのような目線を向けているのか」といった事を広報し、寮生としての自覚を養う事を目指したい。そして最終的には個々の寮生が各々の所属している寮外コミュニティにおいて広報活動を行うことが目標である。

### 2-2-3. 「広報素材の作成、発見」

前述の「寮内広報」「寮外広報」を行うにあたって、広報素材が存在しないとそもそも何も始まらない。そこで、広報局の新たな仕事として「広報素材の作成、発見」というものを提起したい。これは端的に言うところ「寮のいいところ作り・いいところ探し」である。熊野寮の魅力を向上させ、明確にさせることは広報のしやすさに直結し、また熊野寮生として寮について胸を張って語れるということ自体も寮として望ましいものである。

### 2-2-4. 「寮内記録」

熊野寮では様々なイベントが開催されており、その各々で賑わいを見せているが、それらのイベントを記録し、振り返るだけの体勢が整っていない。これらを記録し体系的にまとめることで、寮のこれまでを容易に手軽に振り返ることが出来るシステムを構築したい。

## 2-3. 具体的な活動内容

### 2-3-1. 不特定多数に向けたアプローチ

#### ○Vtuber「熊野あじり」戦略

熊野あじりの動画作成を一手に担っていた寮生が今期で退寮するという状況をうけて、今期を「あじり変革期」としたいと考える。

具体的には、作り手の変更に伴う動画形式の見直し、これまで培われてきた動画作成方法のノウハウの引継ぎ、熊野あじり自体の売り出し方の再検討、一人に労力が集中しない動画作成体制の確立と、これまでのあじりの形にとらわれない新しいあじりを求めている。

また、114期で方針として掲げられていた「熊野あじりの人格の確立」が達成されなかったため、今期では「あじり変革期」の一環として取り組んでいきたい。

#### ○SNS戦略

##### 【Twitter】

現在熊野寮が保有するTwitterアカウントは以下の4つである。

熊野寮公式、熊野あじり、熊野寮祭、熊野寮生2021

- ・熊野寮公式アカウント：基本的に声明文、入寮募集といった公的な文書を掲載するアカウントとなっている。引き続きこういった公的使用を中心として運用していく。

- ・熊野寮祭アカウント：広報局が管理しているアカウントの中で最もフォロワーが多い（2022.12.6時点で2,720人）。できるだけ多くの人に広めたいことはここに投下する。

- ・熊野あじりアカウント：寮食やイベント等の紹介や動画の宣伝がメインである。熊野寮の日常を熊野あじりの目線からポップに紹介している。今後あじりの設定を詰めた上で、個性を出したツイートもしていきたい。

- ・熊野寮生2021アカウント：現状あまり動いていない。寮生の日常をつぶやくという方針であったが、投稿する内容によっては広報局やSCに確認を取る必要がありなかなか運用しづらい。熊野寮HPのコラムや千万遍石垣的な、寮生を身近に感じてもらえるような場にしていきたい。

##### 【Instagram】

- ・熊野寮広報局アカウント：現在2名で運営している。意欲ある新入寮生の働きのおかげでフォロワーが短期間で飛躍的に伸びた（2022.6.7時点で269人）。ストーリー機能を用いて日常生活やイベントの実況をメインで行うようにしたことで、より興味を引きやすいコンテンツになったことが要因であると考えられる。今後は広報局公式LINEを用いて寮生から写真を集め、さらに内容を充実させていく。

#### ○広報局ウェブページ

現在のWebページについて新たに作り直そうという機運が114期で生まれ、現在有志の寮生を中心にWebページの作成に取り掛かっており、115期でもこの熊野寮公式Webページの作成に引き続き取り組んでいく。

#### ○熊野寮通信

熊野寮通信とは、113期において熊野寮・京大周辺の人々により深く熊野寮を知ってもらうことを目指し創設した定期通信である。113期内で第3号まで作成したものの、寮内外への頒布を怠っていた。115期でも寮内や地域店、全国の学寮に頒布し、知名度を上げていく。

い。また部局の活動紹介や寮が直面している問題などについても積極的に取り上げる。広報局ウェブサイトとの差別化を図りつつ、寮生・寮外生・地域の人々が熊野寮の「今」を知り、愛着を持てるような広報物にしていくことを目指す。

#### ○対外向けイベント

114期では数回にわたって行われた熊野寮コンパ、オープンドミトリー、体験入寮などの対外イベントを積極的に開催・協力してきた。115期ではこのような対外イベントを主体的に行っていく事に加えて、より熊野寮の存在を広く知らせ、熊野寮の実態を知ってもらう事に努めていきたい。

#### ○Wikipedia

Wikipedia「京都大学熊野寮」の項は2005年に生まれてすぐに「京都大学」に統合されたまま長らく不遇を託ってきた。広報局ではWikipedia記事を作る計画を温めていたが実行に移せずにいた。こんな中、誰かが記事を加筆し、2021年に独立を果たした (<https://w.wiki/57.jx>)。しかし、現在Wikipedia内に存在する熊野寮のページもネットの住民の手によって悪意の感じられる編集がされている。そこで、広報局では1から掲載内容を精査し、ケチをつけられない完成度の記事を作成することを計画している。

#### ○グッズ

114期では、113期の総括を踏まえて単食券Tシャツを始めとする熊野寮由来のグッズの作成を行った。また113期より開始したガチャガチャの運営に関しても、順調に行うことができた。115期では、より充実したガチャガチャ運営とグッズ作成を行う。

#### ○ラジオ

114期より開始されたプロジェクトである。内容としては、広報局内の有志が寮生と話している内容を編集して、YouTubeにアップロードするというもの。寮外生に対して、寮の魅力を発信するとともに、高校生等の入寮希望者が入寮にあたって情報を収集できるようにする目的がある。115期では、このラジオの更新頻度を上げるとともに、切り抜き動画・short動画の投稿をすることで情報への手軽なアクセスが可能となるようにする。

#### ○写真部

現在、熊野寮の広報活動において広報素材となる魅力的な写真素材が不足しているという現状がある。この現状を打破すべく、115期では新たに広報局において「写真部」を設立する。この「写真部」では熊野寮の日常を切り取る部門と対権力闘争の記録を行う部門の2つを設置する予定である。また、写真部主導でカメラの使い方講習会の開催も検討している。

#### ○その他

上記に述べた各プロジェクト以外でも広報局は各局員・各寮生のアイデアを歓迎し、全力で支援していく。

### 2-3-2. 特定少数に向けたアプローチ

#### ○熊野寮見学会・熊野寮コンパ・京大裏ツアー

熊野寮に興味があるという寮外生は多いものの、一人でふらっと訪れるにはハードルが高い場所である。そのような層を獲得するため、熊野寮祭にて寮外生歓迎コンパ、新歓期には熊野寮新歓を開催したが、予想以上に多くの寮外生が参加してくれた。寮生・寮外生が共に交流を楽しみつつ、熊野寮のありのままの姿を伝え、広報活動のフィードバックを受ける場

として生きていたと思う。115期でもこのような寮外生と積極的に交流する企画を定期的に打ち出していきたい。

#### ○女子受験生・学生向け広報

寮に住んでいると意識しづらいが、熊野寮に女子が入寮可能であることを知らない人は意外と多い。また熊野寮のような「過激」な場所に住む女子学生に偏見を持つ人も一定数いる。（例えば女子寮生が熊野寮に住んでいると告げると「あそこ女子住めるの？よく住めるね」と言われる、入試の際、女子受験生にパンフを渡そうとしても保護者に「学生寮はちょっと……」と断られる）

これは多分に現代社会における「女子」に対する固定観念が根底にあるだろうが、一方で広報不足ゆえに実際の生活が想像しづらく、入寮を躊躇する女子学生も存在していると考えられる。この問題を解決するため、114期では女子寮生座談会企画者らと連携しつつ女子受験生・学生向け広報を充実させていきたい。

なお、この広報戦略は性別を男女で二分し片方を優遇することを目的とするものではなく、経済的・環境的要因から寮に魅力を感じているにもかかわらず情報不足のために入寮をやめてしまったり、そもそも選択肢に入っていなかったりする女子学生が多いという現状への問題意識から出発するものである。性差別他あらゆる差別に反対する・ハラスメントを容認しないといった寮の方針を含め、学生、受験生、保護者に向けて広報を行っていく。

#### ○学寮交流

廃寮化攻撃に対抗し学寮の魅力を多くの人に伝えていくため、現在行われている学寮交流会や学寮交流discordを基にして同人誌/zineの作成を目指したい。また学寮交流discordのリンクを以下に貼っておくので、興味がある人はぜひ参加してほしい。

<https://discord.gg/rqGYVyUwaa>

115期でも引き続き、冬コミケでの学寮交流会サークル出店を始めとする全国の学寮との連帯を形成していきたい。

#### ○サークル連帯

昨年に熊野寮食堂にて劇団愉快犯・ボヘミアンによる演劇上演が行われ、大変好評であった。半公共的な場である熊野寮のよさが存分に活かされた企画であったと思う。また、114期では京大ダークの食堂jazzライブが開催され、普段寮に来ない人々への大規模な広報が出来た場となった。今期もコロナや大学の規制強化により発表場所を探しているサークルに対し働きかけ、共に文化活動を守っていきたい。

### 3. 予算

以下の表を参照。

- ・写真部活動費—写真部の設立に伴う備品購入費の為に使用。

⇒80,000円

- ・コミックマーケット出展費—コミックマーケットへの出展における、諸経費の為に使用。

⇒15,000円

- ・新歓費—春に入る広報局員の新入寮生を歓迎する為に使用。

⇒5,000円

- ・熊野あじり活動費—熊野あじりの活動に使用。

⇒40,000円

- ・その他活動費—上記以外の新たな熊野寮の広報活動に使用。

⇒50,000円

合計190,000円

	収入	支出
自治会会計より	190,000	
写真部活動費		80,000
コミックマーケット出店費		15,000
新歓費		5,000
熊野あじり活動費		40,000
その他活動費		50,000
合計	190,000	190,000

## 対処分戦略推進局

### 総論

毎期の総括案と方針案が最も物議を醸している部局は何か？ そう問われたら、ほとんどの寮生は「SC」か「処分局」と答えるだろう。では、なぜそうなっているのか。それは、この2つの部局が最前線で常識に挑戦し続けているからではないだろうか。

ここでいう「常識」とは、例えば学生自治は「時代遅れ」であるとか、処分は「悪いこと」をした学生が受けるものだといった類の「常識」である。これらの常識は自然発生したものではなく、自治を解体しようとする政府や大学当局が意識的に醸成しているものである。告示ひとつとっても、あれは学生の世界観にあらかじめ合致する範囲内で告示を出しているのではなく、告示を流布することによって当局の世界観を学生に浸透させていこうとしているのである。あるいは、「いくら当局が不当なことをしていても学生は勝てない」という「常識」もあるかもしれない。これもまた、一方的な処分や警察導入を通して形成される「常識」だ（この意味では、弾圧は不当かつ強権的であればあるほど効果的である）。

これに対して、自治寮は自治寮である限り「常識」に挑戦する立場にある。「常識」の源は意識的なネガキャンや弾圧の蓄積なので、それを粉碎する側にも相応の意識性が求められる（それは単に「常識を疑う」ということではなく、一部を孤立させ全体を萎縮させる攻撃に対して孤立させない、萎縮しない実践が必要だということである）。そしてこの「常識」は、寮の外側にだけ存在するのではない。なんなら攻撃の最大の狙いは、寮生自身の中に眠る「常識」を呼び起こして動揺させ、闘う主体を折り原則を解体することにある（112期中の自販機撤去の際にある処分局員が言っていたのは、「自販機攻撃に闘えなかったら廃寮化にはなおさら闘えない」ということだった）。これを乗り越えることは途方もない目標のようにも見えるが、内容を提起してみないことには取れる一致も取れない。曖昧な一致は分岐を経て初めて深い一致になる。そのためには、恒常的な宣伝（少数の人に多量の情報を伝えること）・扇動（多数の人に少量の情報を伝えること）はもちろんのこと、寮を活性化させるすべての行動を処分阻止闘争によって支え成功させていく意識が必要だと考える。

最後に。処分によって学生を萎縮させる攻撃はほぼ粉碎した（総括総論・第2段落）とはいえ、処分撤回闘争は途上である。特に無期停学中の2人は学費問題も続いているし、何より無期停学中／放學→出禁の学生はクスノキ前のテントにも行けないのである。さっさと処分を撤回させたい！ もちろん、自治活動にとっての脅威も去ったわけではなく、むしろ緊張



感は高まっている。7月の同学会代議員会で方針案として提起された（採決には至っていない）「反戦自治会」とは、戦争情勢を背景にどんな踏み込みがあっても「このご時世だから仕方ない」と屈服するのではなく「社会の方を変えてやる」と言い切れる自治会のことである。

#### 各論

##### <熊野寮内での活動>

処分阻止・撤回運動の総括と路線を全寮に共有するため、新歓や学習会といった企画に精力的に取り組む。

また、熊野寮コンパなどの弾圧が来うる企画は都度、議題化して処分局として企画の貫徹を支える体制を確立したい。

##### <全学自治>

現在、保健診療所問題やNF規制から総長室突入への警察導入まで、京大の全領域に合理化と自治解体の攻撃が及んでいる（全国、全世界でも同様）。これを突破するためには起きている事態を徹底的に暴露しつつ、攻撃を強行するための切り札である処分を阻止し撤回させる団結体としての全学自治会を建設する必要がある。

2019年に始まった処分撤回12月集会（主催：12月集会実行委員会）が、現在に連なる処分粉砕・全学自治会建設運動の原点だった。2021年2月、法学部自治会処分対策小委員会の呼びかけで全学処分対策委員会が立ち上がり、熊野寮処分局はその参加団体となった（実質的には処分局が牽引してきたといっていよう）。全処対は2021年12月集会を成功させ、2022年2月には同学会再建準備会を開催するに至った。

これまでに2回、同学会代議員会の開催が目指されたが、いずれも定員に届かず再建準備会となった。次回こそ代議員会を成立させ、正式な同学会としての活動を開始させたい。なお、全学処分対策委員会は同学会の特別委員会として代議員会で承認されることを目指している。

##### <国際連帯>

処分も一部の学生を孤立させる分断攻撃であるが、この社会は国境で人々を分断する。その最たるものは戦争であるが、平時から我々は国際競争というものに駆り立てられている。その中で、日本政府は近年だけでも、コロナ給付金をめぐる留学生差別（文部科学省は「日本に将来貢献するような有為の人材に限る」と公言！）や、東京五輪に向けての入国管理強化など、国籍による差別・分断を激化させている。ウクライナ侵攻が始まって以降は、ロシア国籍を持つ人々が冷遇・排斥される傾向が社会問題となっている。一方、世界各国では学生が戦争や圧政に反対して立ち上がっており、最近では中国のゼロコロナ政策による極限的な抑圧に対する「白紙革命」が起こっている（京大でもスタンディングが行われた）。

多くの留学生を擁する京大で全学自治会を建設するには、この問題は避けて通れない。分断を乗り越える回答は戦争反対である。引き続きCLUB KUMANOなどで国際交流局と連携することに加え、長期的には有志が10月に開催したような反戦集会も視野に入れたい。

##### <財政闘争>

現在、無期停学に伴い授業を履修できないにもかかわらず学費徴収の対象となっている学生は2名いる。後期の学費は、3月までに納めなければ除籍となってしまう。引き続き、街頭宣伝を中心に、カンパを募る運動を精力的に行いたい。

また時計台呼び出し9学生についても、111期では緊急で弁護士等の費用で100万円の費用を充てた。現状この弁護士費用はまだ使われていないが、今後新たな処分が起こった際に弁護士との連携がとれるような体制を整えていきたい。

#### 予算

表の通り。

費目	収入（円）	支出（円）	備考
----	-------	-------	----

自治会会計より	100,000		
集会・交流会費用		40,000	
交通費		10,000	企画講師・ゲスト交通費など
ビラなど広報費		20,000	
弁護士費用		30,000	
計	100,000	100,000	

## 国際交流局

### 0. はじめに

現在、熊野寮には20名を超える留学生が生活している。様々な生い立ちを持つ寮生が互いの多様さを理解し合い、この多様さを寮自治会の発展に繋げたい。そこで、大まかな方針として以下の2点を掲げる。

#### ○方針1

国際交流局は、熊野寮が留学生にとっても開かれた寮であることを目指し、人種や言語、文化の壁を超えて理解し合える関係を作るために、異文化間交流および寮生活のサポートを実施する。

留学生は多くの場合投票権をもたない。留学生の処遇は、ビザの問題や居住制限の問題、入国管理局の問題で常に不十分な状況下に置かれている。また、NATO側諸国とロシアの戦争、米中対立等を震源として国際関係が激変しており、留学生を取り巻く環境は圧倒的に不安定だ。これから外国人に対する偏見や当たりの強さが助長される可能性がある。2003年からのイラク・アフガン戦争の際には、突如京大から追い出されたアフガン出身の研究者を熊野寮自治会は数年間C棟に住まわせ続けた。研究者はその後独自に研究を続け、在寮中に数本の論文を執筆した。国際交流局は、大きな国際的視野をもってこれらの問題に取り組んでいく。

#### ○方針2

交流の範囲を寮内に留めず、全世界および未来の熊野寮生に広く熊野寮の素晴らしさを発信し、左京区ひいては世界中にたくさんの熊野寮ファンを生み出すことを目指す。

自治寮の存在は文科省の公式方針として否定されている。多くの寮生は日本国家の公選挙において投票権を持つが、寮外に味方を増やさなければ多数派となることはなく、代議制国家の中で熊野寮を維持することは日に日に困難になる。大々的な広報活動が必要だ。

### 1. 具体案

#### ①言語面で留学生をサポートする。

- ・寮の国際化を図り、留学生に対して英語面接を実施し、入選をサポートする。
- ・日本語があまり喋れない留学生については、部会、委員会、ブロック会議への参加をサポートするために、局員を当該留学生と同じ部屋、それが不可能な場合は同じブロックへ配置するよう進める。
- ・熊野寮の広報資料や面接資料の外国語訳を進める。

京大に来る留学生が再び増え、熊野寮への入寮を希望する留学生が増えた場合にも対応できるよう準備する。

②国際交流局が所持しているイベント機材を寮内外に貸し出し、協力関係を築く。

③CLUB KUMANOを開催(日程、回数は未定)する。留学生や寮外生の熊野寮への興味関心を育み、これまで手が届かなかった層へのフックとして機能することを狙う。また、異文化間の理解の促進に努める。

④ミュージックPUB企画や、留学生の出身国にちなんだパーティを実施する。

項目	収入 (円)	予算 (円)	備考
自治会会計より	50,000		
食材・飲料・食器		50,000	紙皿・プラスチックカップ等
合計	50,000	50,000	

## 地域連帯局

### ・地域獲得論

熊野寮は自治寮であるからこそ安価に住むことができ、当事者である住人による意思決定権が担保され、思想信条で住民が選別されることもない。一方でこのような寮の存在は、法人化した国立大学にとっては経営上の障害でしかなく、現政権与党にとっても「紛争の根源地」とされ、排除対象であることは明白である。さらに4300円という破格の寮費だけを見ても、公共福祉を否定する受益者負担論が蔓延る日本社会では非常に稀有な存在であるが故に、今のままの熊野寮の存続を即座に支持してもらうことは容易ではないかもしれない。「過激で暴力的な学生の巣窟だ」などという無内容なネガティブキャンペーンに晒されていればなおさらである。

このような厳しい状況の中でこの10年余り、熊野寮が力を入れてきたのが地域連帯である。寮で開催されるイベントは多岐にわたるが、熊野寮の存在や自治空間ならではの楽しさを知ってもらう「つかみ」のイベントとともに、自治寮として熊野寮が存在する意義やその活動の理念まで深く知ってもらうための「獲得」のイベントを開催してきた。「つかみ」と「獲得」はどちらも同じくらい重要な取り組みである。

ステップとして「つかみ」が必須であることは当然だが、いくら「つかみ」を積み重ねても寮を一緒に守れる主体は生まれない。いくら本人が寮のことを好きになろうとも、どれだけ寮の存続を望もうとも、寮の理念を知らなければ足並みを揃えて一緒に闘うことができないのである。熊野寮を好きになってくれた人には、その思いに報いるためにも、一緒に闘うための理念を共有して「獲得」していくことが必要なのである。

その「獲得」の最たるものとして熊野寮では「くまのまつり」が開催されてきた。「社会に迎合して萎縮するのではなく、積極的に寮の魅力や意義を発信して社会を獲得していく」という姿勢で寮自治の素晴らしさを発信してきた。過激に見えるかもしれないが、私たちは学生の生活と権利を守るために闘っており、そしてこれは本来、社会全体で守るべき公共福祉の範疇なのだ、京大当局や文科省の方針が寧ろナンセンスなのだと胸を張って真摯に説明してきた。抗議の声を上げるだけで過激派だと言われるなら、私たちは過激派で構わない。「熊野寮は過激派の拠点」などという空虚で無内容なレッテル貼りには屈せず、中身で勝負してきたのである。

- ・局活動の目的意識

97期からの渉外局、それ以前の常任委員会が取り組んでいた地域（町内会から左京区規模まで）との関係づくりを継承する局である。

外部のイベントへの出店など、外に出向く形の活動も実践していきたいが、外で様々な人と関係を築いた上で、最終的にはくまのまつりに参画してもらうなどして、内に招く形の活動を目指す。

熊野寮という自治空間の中で寮生と外部の人が一緒になにかを創造すること、そしてそういった活動を通して外部の人と連帯を強めていくことを意識していきたい。例えば、熊野寮の敷地をイベント会場として貸し出すという形から、寮生と地域店主との協働の関係が確立されたのが「くまのまつり」である。

局による自主開催企画も行う予定であるが、全ての活動を熊野寮自治発信の要であるくまのまつりに繋げることを意識していく。

- ・くまのまつりを「自治発信のお祭り」としての完成形へ

コロナ情勢によるまつり自粛を経て、113期方針では「2010年から10年をかけて地域の恒例行事として根付いたまつりを立ち上げ直す」という方針を掲げていた。2019年の「くまの秋まつり」以降開催できていなかった状態からの立ち上げ直しという意味で重要な局面であったが、我々は既にコロナ以前と同等以上の盛り上がりで復活させることに成功している。

ただ、自治発信の面では3年のブランクを乗り越えるにはまだまだ時間がかかるだろう。ここからは、さらに上を目指し、自治発信体制の確立、自治への獲得をまつりの中心に据えて取り組むことが求められる。楽しいだけのイベントではなく、寮を存続させるための「自治発信のお祭り」として構想されたくまのまつりを完成形へと押し上げていく期としたい。

5月の最終週末に「くまのまつり」を開催し、内容としては学内処分撤回署名集め、停学者学費カンパを主軸とする。

- ・くまのまつりオフシーズンの取り組み

冬季はお店で買い物、飲食をして回り、お店の人たちと寮生との関係構築を図る。参加店親睦会を2月か3月頃に構想しており、その他にお店紹介記事の作成などオフシーズンを生かしてじっくり取り組める企画を検討している。

- ・ワークショップくまの

2019年から左京区の後援を得て、寮内や外部イベント、聖護院町内会の夏まつりなどで開催している子どもアートワークショップ企画である。

「子どもの主体性を重視し、創作に取り組むハードルを下げ、自己表現の楽しさを知ってもらうことを目指す」という教育的理念は事業報告会においても他の教育系団体から高評価を得た。このように企画自体を中身あるものにすることで、外部からの出展依頼も届いており、まつり拡大に繋がる成果を生んでいる。

今期は3月にある岡崎でのイベントから参加依頼が既に来ている。

- ・周辺町内会との関係構築

2021年度より熊野寮自治会として東竹屋町町内会年会費を三人分支払っており、町内会新聞の配布手伝い、川東自治連合会（川東学区の町内会連合体）の集会所を会場とする寺子屋企画「KUMAN」の共同開催を通して良好な関係が構築されている。

2019年以来、復活できていないこととして、聖護院町内会との連帯がある。熊野寮は東竹屋町と聖護院の境界に位置しているのでどちらとも連帯していきたい。コロナ禍以前のようにイベントポスター掲示やお祭りへの出店などができる関係を取り戻したい。

・予算内訳

局には会計が存在せず、経費はSC会計からの直接支出である。予算処理についてはSC方針予算表を確認するものとし、ここでは予算配分を掲載する。

まつり：支出概要は宣伝費3万、設備費4万、寮生企画補助2万、新歓・打上げ3万、出演料6万の見込みである。

ワークショップくまの：今期は2件の外部イベント参加を含め5回ほどの開催を見込んでいる。板や塗料を購入する。

KUMAN：町内会と共催している無料学習塾企画である。

項目	金額
くまのまつり	¥180,000
町内会費（3口分）	¥9,000
ワークショップくまの	¥61,000
KUMAN	¥50,000
合計	¥300,000

## 増築建設局

### 0. はじめに

第114期に引き続き、新規設置された20ft輸送用中古コンテナによるコンテナハウスを、より使いやすく改装し、メンテナンスを実施する。用途についての議論や管理方式、ノウハウの更新を進める。

既存のコンテナの運用についてはある程度安定してきたため、今期は新しい取り組みについての構想を進めたい。定期的に活動を行ない、活動実態の見えにくい本局の取り組みについて、寮生から一定の知名度を得ることを目指す。恒常的な局として、寮生のニーズにあったコンテナを定期的に建設する局の活動実態を作り上げることを目指し、寮のニーズに敏感になる。

### 1. 増築建設論

日本国内の大学生数は1950年で約32万人、2019年では約290万人で最大となっている。熊野寮が建設された1965年当時(約100万人)からいえば、大学生の数は約3倍になっており、190万人増えていることになる(進学率の上昇、特に女性の進学率が2000年以降で急増)。京都大学の学生数も新学部を設置や研究科の増設にともなって増加傾向にあり、近年では留学生の受け入れも進んでいる。一方で、熊野寮のような自治寮は減っており、吉田寮については廃寮攻撃を受けている。一方で、現在日本では貧困が深刻化していると言われている。これは経済の不況や、人口推移など多種多様な要因が絡み合っていると考えられている(総務省「就業構造基本調査」より)。相対的貧困率が経済大国の中でも特に高いとされ、2016年に発表された世界の貧困率比における日本の位置は14番目の15.7%となっている。これは先進国の中で中国やアメリカに次いで3番目の高さである。(厚生労働省公式サイト)。大学周辺に目を向ければ、2019年では平均仕送り額から家賃を除いた生活費は1日当たり730円になり、過去最低だった前年度の677円に次いで低くなった(東京地区私立大学教職員組合

連合の調査、2019)。入学関連の費用を借入金で賄った家庭は17.3%で、平均借入額は194万円だったと報告されている。このような状況においても、経済的な理由で学問に関わる機会が奪われることがあってはならず、これを防止するためにも安価に居住できる自治寮の存在意義は、あらゆる大学生にとって大きい。この様に、今こそ必要とされている熊野寮の取り組みを拡大し、選択肢を増やしていくことを目指すのが増築建設局の方針である。増設の対象は倉庫や居住キャパシティだけでなく、熊野寮の取り組みを拡大させる構築物である。

#### [自治会への施設投資というアイディア]

本局の目的は、自治会の財産を施設拡大や余剰空間として保有する事で自治会の利益を拡大しようという、施設への投資という考えに基づく。自治会の財産は人間であり、またこの人間の運動を保障する衣食住である。寮生の数と多様さ、そしてこれを活かせる設備が整うことが、自治会の大きな力になる。

昨今は長期化する不況の時代であり、金融バブルに対しての出口政策も全く進まない時代である。このような状況の中、数少なく残る自治寮の熊野寮が既得権益的であるとして攻撃されない訳が無い。建物の老朽化を含む様々な口実をきっかけにして、京大当局や文科省が熊野寮を廃寮化しようとしてくるとき、寮自治会の力となるのは人間であり、物質力である。本局は寮自治会の力の維持・拡大を目指す。

#### 2. 20ft輸送用中古コンテナの用途

新型コロナウイルス感染者隔離施設としての機能を維持しつつ、SCの管理下で、寮生の希望に応じて自由に使用できる場所として運用したい。また、今後、新規設置のコンテナハウスを未来的にキャパシティの増強の手段として採用するべきかどうかという議論を、結論は出ずともある程度進めたい。

#### 3. 使用手続き

SCに使用を申請し確認されたのちに使用が可能となる。より緊急性の高い用途が申請された場合には当事者とSCを交えた検討を経て、SCの判断で使用用途や使用者が変更される。新型コロナウイルスに対応するスペースとして維持するという方針について(いつやめるかなど)は、社会的な情勢を鑑みてSC・ブロック会議等での話し合いのもとで更新する。上記の用途としての機能が十分に維持される限りにおいて、SC等への申請のもとその他の用途に使えるものとするが、あくまでC棟に所属するスペースとする。

#### [所属棟と電気容量]

C12廊下から電線を引くと同時に、電気容量自体を増やす案および電気使用量を下げる案についても検討する。電化製品の使用については、電子レンジ・湯沸かしポット・炊飯器の使用をある程度制限する。離れているとコミュニケーションが取りにくく、住民と利用者の間のすれ違いが生まれやすい可能性があるため、近隣のブロック(C12ブロック)との相談のうえ、C12ブロックの意見を基本的に踏襲し、運営する。

#### 4. メンテナンス

SCが管轄するスペースとして維持し、増築建設局が責任を持ってメンテナンスする。

#### 5. 新規建設

新たなコンテナの設置について、その規模や形式、計画について構想を進める。

項目	収入 (円)	予算 (円)	備考
自治会会計より	50,000		

倉庫建設		50,000	鉄筋、木材、コンパネ等
合計	50,000	50,000	

## 備蓄局

### 【大綱】

備蓄局は、近いうちに日本国内でも食糧危機が起こる可能性が高まってきている今日において、寮として一定量の食糧を備蓄する必要があると感じた有志が立ち上げた局です。

設立当初に想定していた危機は、多くの国民が食料を入手することが難しい期間が1ヶ月以上続くレベルでしたが、備蓄の上限量がローリングストックで寮内で消化できる量であることと、なるべく早く全寮のコンセンサスを取る必要があることを考え、10日程度（玄米600kg、缶詰6000缶）の食糧備蓄を目指します。

しかし、厨房との話し合いがうまく行っておらず、ローリングストックが当初予定したサイクルで行えないこと、寮生に対する販売ペースの統計がまだ取れていないことから、今期は備蓄量を減らして様子を見ながら玄米や缶詰を購入していく。

### 【情勢分析】

#### ・日本国内の情勢

114期にて備蓄局を設立した際に想定した災害は、「地震等の災害」「日本円危殆化によるハイパーインフレ」の2つであった。本節では、このうち後者に関する分析を述べた後、この半年間における変化と、今後半年間の見通しを述べる。

要因は様々であるが世界ではインフレ(物価上昇)が進んでおり、日本においてもインフレが進行している。各国中央銀行は、政策金利の利上げやバランスシートの調整を通じて、インフレの制御を試みている。黒田日銀は2013年(アベノミクス開始)以降、毎年巨額の日本国債を買い入れるYCC(イールドカーブコントロール)によって悪化する政府財政を支えてきた。

しかしながら、中央銀行自身が巨額の政府国債を保有することは、中央銀行自身の政策金利の操作によって、中央銀行自身の財務体質が大きな影響を受けることを意味する。利上げによってインフレ対策すると、日銀が債務超過し、日本円の信用が失われる可能性があり、その帰結はハイパーインフレである。一方、インフレ対策せず利上げしない場合、日銀の財務体質は毀損しないかもしれないが、インフレの進行は止まらない。助かる場合は、そもそもインフレが来ない場合のみであり、現在日銀は「ほぼ詰んでいる」。

上記のような分析は、半年前と何ら変わることがない。そして、実際に日銀が国債の評価損を計上したことが日本国内で報道されたり、英文でも日銀の財務体質について特集する記事が報道されるなど、海外でも日銀に対する注目度は増している。人々が、気付き始めるのはもはや時間の問題だろう。

この問題に関連して今後半年間における最重要事項は、黒田日銀総裁の交代である。過去10年にわたって続けられてきた日本銀行の金融政策が、後任如何によっては変更を受ける可能性が否定できない。そのことに伴い、予期できない何らかの事態が生じる可能性がある。想定される最悪の事態は、日本円の無価値化・銀行預金引き出しの制限・財産に対する巨額の課税である。そうなれば、日本の国民生活は深刻な打撃を受けることになる。自分たちの生活を、自分たちで守り抜くために、今こそ備蓄が必要である。

#### ・世界情勢

今年2月から始まった戦争情勢は未だ継続しており、備蓄局の提起が始まった5月初から食糧危機の懸念は変わっていない。ウクライナ戦争の影響で肥料価格やエネルギー価格は高騰し、その余波は世界中に広がっている。また、日本を含めた世界各国は軍事費の増額や周

辺国・同盟国との軍事演習を重ねており、政府主導で戦争準備を進めている（日本だけでも、敵基地攻撃能力の保有を岸田首相が、5年後までに防衛費2倍化を浜田防衛相が明言している）。今後日本を含む周辺国の開戦に伴った貿易戦争の勃発により、食糧やエネルギー供給が断たれる可能性は否定できない。日本は食糧・エネルギー供給を海外に依存しており、その実態が改善される見込みは今のところない。何かあってからでは手遅れだ。熊野寮として万全の体制を整え寮自治を貫徹していこう。

#### 【最終的な目標】

1. 備蓄局が管理する玄米が常に600kg以上ある状態を維持する。
2. 備蓄局が管理する缶詰食品が常に6000缶程度ある状態を維持する。
3. 寮生個人による食糧備蓄を啓蒙する。
4. 大学で学んだことや寮内の議論で得た知見（食糧危機についての情勢や経済学など）を地域社会に共有する。

#### 【115期の活動内容】

1. 玄米と缶詰食品を備蓄する。保存方法については後述。
2. 事務室やカンパ冷蔵庫を通して寮生に玄米および缶詰を販売する。
3. 玄米および缶詰食品の販売実績をもとに、ローリングストックとして消化できる範囲で、最終的な目標（玄米600kg以上、缶詰6000缶程度）に近づくように食糧の備蓄量を増やす。
4. 寮生個人による食糧備蓄を啓蒙する。そのために、くまのまつりへの出店、勉強会（びちくまなびかい）などを企画する。
5. 備蓄局新歓を行う。備蓄局新歓では、玄米と缶詰食品に加え、個人による備蓄に有用な食品（干し芋、干し柿など）や自給できる食品（湧き水、野草の天ぷら、鹿肉、松葉酒など）を提供し、食糧危機対策の意識を高める。
6. 2週間に1度、木曜日の19時から会議を行う。

#### 【食品の保存方法】

当面の間、玄米と缶詰をSC室内に保管します。

害虫対策として、唐辛子をたくさん入れて、二重にした布団袋で密閉し、光が当たらないようにして置いておきます。

さらに、ネズミ対策として、木箱を設置してその中に入れておきます。

	収入	支出
自治会会計から	114,000	
玄米60kg		24,000
缶詰400個		50,000
玄米や缶詰の保存設備		30,000
備蓄局新歓		10,000
合計	114,000	114,000

## 寮外連帯局

#### 【寮外連携局とは】

熊野寮の自治を守るためには寮生だけでなく、寮外生との連帯が必要不可欠であると考え。寮外生へのアプローチをサークルなどの特定少数を対象として・ついでにサークルなど



の集客力を利用して多くの寮外生を対象として・顔の見える広報戦略で行っていくのが寮外連携局だ。

#### 【5つの指針】

この局を設立し、組織していく上で5つの指針がある。これらの姿勢は、この局の活動を全ての人にとって利益のある形にしたいという根本的な考えによる。

##### ・ビッグイベントを開催する

規模の大きいイベント開催を行うことで、寮にとっても連帯をするサークルにとっても訪れた寮外生にとっても局員にとっても利益のある活動を行う。この際、熊野寮が生活空間でもあることに留意する。寮外生と連携することで何ができるのかという好奇心や大きなイベントを楽しみたいという気持ちも大切にする。

##### ・寮外生をつかむ

この組織に関わる寮外生は連携してイベントを行うサークルなどとイベントに訪れたお客さんの二者である。前者についてはサークルの発表の場などの形で利益を、後者についてはイベントの魅力をつくることで寮外生をつかむ。

##### ・寮外生を獲得する

この局では寮外生の獲得を①寮を好きになる②寮を知る③寮と一緒に活動するの三段階で定義する。イベント開催によって寮を好きになり、その途中で寮の説明を聞いて知り、寮外連携局員として活動に参画する流れを作り出す。

##### ・持続可能な自治の模索

熊野寮では献身性や寮への思いから自己犠牲的自治が行われることが多いが、自治をやることがその人にとっての利益になるやり方を模索する。また、寮内での人材育成の弱さや、ほとんど4年で人が循環する継続性の低さが寮の問題としてあると考えている。これについても寮内でできる人材育成と人依存ではなく仕組みの強い組織づくりを模索する。

##### ・フィードバック重視

寮内では定量的データの不足から主観的な総括が行われることがある。また、会議体の性質上、指摘や批判のフィードバックが多い。適切なアンケート実施によって適切なフィードバックを局員やイベントに与える。

#### 【5つの目標】

115期と116期の1年間で達成したい中期的な目標が5つある。

##### ・1年間で1,000人呼ぶ

熊野寮が固有に持つ集客力に加え、サークルの集客力を利用することで今まで熊野寮に訪れたことのない人を1,000人呼ぶ。サークルの集客力を借りながらイベント開催を行なっていくことで熊野寮の持つ集客力も上げていきたい。主に規模が大きくなると想定する116期のイベントで集客する想定だ。

##### ・局員の比率を寮生と寮外生で1:1にする

【組織運営】にて詳細を述べているが、この局では寮外生も局員として積極的に迎え入れていく。この局の活動理念を広め、寮外生とのシナジーを生むためにこの目標を設定する。寮外生との文脈共有など想定される問題については寮外生の局員が増えるなかで対応していく。

- ・局員の満足度80%

局員として働いて楽しかったか・経験として有意義であったかなどの満足度をアンケートによって問う。良かった点・悪かった点を来期に引き継ぎ、より満足度の高い局活動を行う。

- ・新規イベント5つ開催

京大ダークJazzライブでは約200人の寮外生が寮を訪れた。これを受け、1年間で1,000人を呼ぶために5つのイベント開催を目標とする。現在予定しているイベントは出版物即売会・サークル合同説明会・音楽祭・芸術祭の4つだ。

- ・SNSフォロワー合計500人

この局ではTwitter・InstagramをSNS広報用に運用する。初年度は局で1つのアカウントを持つが、今後イベントの集客力が高まっていけば各イベントでアカウントを持つことも想定している。

### 【組織運営】

寮外連携局では持続性の高い自治を目指す。そのために、局員を対象としたアンケートや全寮からのフィードバックによって、「寮のため」かつ局員にとって「自分のため」になる活動を目指す。また、イベントごとの総括・引き継ぎを丁寧に行い、継続性の高い運営を行っていく。

具体的な組織運営について述べる。この局での活動は、窓口業務や企画立案などの恒常業務を行う寮外連携局と各イベントごとに局の下に設置されるイベントチームによって行われる。あるイベントにだけ興味がある人はまずイベントチームスタッフとして参加してもらい、この局の活動理念に共感した人には局員になってもらう。

また、この局ではイベントなどを通して寮を好きになった寮外生を局員として迎え入れ、一緒にイベント企画・運営を行うつもりだ。現在熊野寮で唱えられている「寮外生の獲得」として、「有事の際に寮を助けてくれる寮外生を増やすため」「寮を好きになってもらう・知ってもらう」活動を行っているがそのギャップを埋めることもこの局で行っていききたい。

### 【窓口業務】

局で運営するSNSを開設し、寮を利用したいサークル・学生の窓口業務を行う。窓口業務の中で寮についての説明を行い、寮を知ってもらう。

### 【115期予定企画】

115期では2つのイベントを予定している。どちらのイベントも終了後にSCと協力して熊の寮コンパを開き、寮生と寮外生のより多くの交流を狙う。

- ・出版物即売会

漫画や文芸を制作する学生を集めた出版物即売会を2月上旬ごろに行う。出店した作者とそのお客さん、寮生と寮外生の文芸を媒介としたコミュニケーションを狙っている。寮からも広報局と連携し熊野寮通信などを配布する。

- ・サークル合同説明会

熊野寮食堂でサークル合同説明会を4月上旬に開催する。サークルの新歓はビラロードやSNSでの広報の後に各サークルが企画するイベント参加という形が現状であるが、その中間となるサークル員と話す機会が存在しない。その機会を創出し、釣られて寮にやってきた人たちに寮を好きになってもらう。

項目	収入	支出
自治会会計より	¥90,000	
設立新歓費		¥20,000
春新歓費		¥10,000
出版物即売会		¥10,000
サークル合同説明会		¥10,000
備品代		¥10,000
その他企画費		¥30,000
計	¥90,000	¥90,000

## ＜専門部＞

### 文化部

#### 【文化部とは】

まず、文化部は熊野寮のような自治寮でしか存在しえないということを明記しておきたい。我々の好き勝手にイベントを企画し、食堂や中庭で好き勝手にコンパを開催する。これらは権力に管理された空間では絶対に実現できない。長年の自治活動の中で醸成された、愛すべき唯一無二の文化である。この極めて愉快で開放的な文化を主体となって継承し発展させていくなかで寮生の団結を拡大する。これが文化部の担う役割である。全寮生の想像力の爆発的開花、様々なイベントにおいての寮生の交わり、その過程で寮生同士の繋がり、団結を深め、さらに面白い寮文化を形成することを目指す、創造的で独創的な部会、それが文化部である。

#### 【部会運営】

寮内に文化部は100名ほどいるはずだが、実際に会議に参加しているのは10名にも満たないことが多い。22時からというやや遅い時間帯が問題なのか、単に文化部員のモチベーションが低いのか、極端に少ない。時間帯を変えることも検討したいところだが、部員のモチベーションについてまずは改善しようと思う。文化部はただコンパを運営するだけの部会ではない。誰もが自分の「やりたい」を実現できる部会であり、そこを最大限に尊重していきたい。会議も様々な「やりたい」を発現させる場として機能させるように工夫する。また、「熊野寮生は全員潜在的文化部員である」という伝統も最大限に尊重し、月曜22時には食堂に全寮生を結集させることを目指す。

#### 【恒例企画】

今期も下記に示したイベントは誰しものが参加したいという意欲をもつものであろうから、全身全霊をかけて貫徹する。誰しものが楽しいと思えるイベントにできるよう、文化部員が主体となって最高に楽しむ。また、準備・片付けにも様々な人が参加してくれるよう工夫する。

115期のイベント

12月：書初め

- 1月：新年会（寮祭実打ち上げ）
- 2月：追いコン
- 3月：古本市準備、オリテ発表
- 4月：花見、文化部新歓
- 5月：大文字コンパ、ピザ釜新歓、北海道コンパ
- 6月：雀皇戦

#### 【持ち込み企画について】

「誰しもの『やりたい』を実現する」と謳った以上、この持ち込み企画について今期はより一層力を入れていきたい。まず、各員の「やりたい」を共有する場を設けるなど、企画を持ち寄るハードルを下げる工夫をし、予算の割り振りに配慮して、より多くの企画を実現できるようにする。また、各企画に多くの人を動員できるようにし、企画が成功できるよう尽力する。潜在的文化部員の皆さんからもユニークで面白い企画募集してます！

#### 【文化部管理の物品について】

文化部ではスポーツ用品などの物品を管理してきたが、その実態は放置に近いものであった。今期では断捨離を行い、本当に使っている人がいるのかを再度検討しながら購入する物品を検討していく。半年に一度、文化部ロッカー文化部棚事務室など文化部の物品が置いてあるところを掃除することで物品を把握することを今後徹底させていく。文化部に物品を管理することは不可能であるが、掃除ならばできるのではないのか考えている。

#### 【コンパでのハラスメント対策について】

騒音問題やアルコールに関する問題など、コンパに伴い生じる諸問題について、人権擁護部と連携しながら、今期でも真面目に取り組んで行く。

#### 【B地下セクション】

1. B地下について問題意識のある人がいれば話し合う。
2. 今期は、B201安田、A101中川によりB地下は管理される。
3. 硬鉄庵の使用目的に関しては、政治的及びプライバシーに関する項目が優先される。
4. 私物に関しては、話し合いながら残したり減らしたりしていく。退出時にガサ物は残留させない。
5. ドライエリアは必要に応じて掃除する。
6. 廊下の防火扉は、音楽室利用時には騒音防止のため閉めるよう徹底する。

#### 【音楽室利用者会議(MUC)について】

##### 目次

1. 総論
2. 各論
  - 2-1. 会議運営
  - 2-2. ライブ
  - 2-3. 各種企画
  - 2-4. 機材について
  - 2-5. 機材等貸し出しについて
3. 予算について

1. 総論

音楽室利用者会議（以下MUC）の存在意義について述べる。MUCの存在意義は表現活動の場を提供すること、音楽の力で団結を拡大することである。前者は寮内の文化形成のために必要で、音楽室の管理やライブ運営によって達成される。特に重要なのは後者の団結の拡大であり、MUCに所属する人数を増やしその中で団結するだけでなく、ライブによって全寮生、さらには寮外とも繋がるができることがMUCの強みである。

115期では、春新入寮生をはじめとして、寮内で構成員を増やして団結を拡大していきたい。さらに、くまのまつり等、地域と連帯する行事にも機材貸し出し、ライブ出演等に参加、協力し、寮外との団結も拡大していきたい。

## 2. 各論

### 2-1. 会議運営

毎週月曜日の夜（原則21:30～22:00）に食堂およびZOOM上でMUC会議を行い、機材の購入や貸し出しの承認、ライブ運営などについて話し合う。また、会議が長引きそうな議案があるときはあらかじめ食堂北部等を利用してその議案についての会議を済ませておくなど、22:00までに会議を終わらせるようにする。

### 2-2. ライブについて

現在主催する予定のライブは追いコン(3月)、春新歓ライブ(5月)、くまのまつり(5月)である。さらに必要に応じて不定期にライブを行う。各ライブについての説明は3. 予算についてを参照。

ライブを通じて圧倒的なパフォーマンスで春新入寮生をMUCに獲得していきたい。ライブの形態についても食堂で開催する際に後ろのほうに座席を設けてモッシュに参加するのが得意ではない人なども楽しめるようなライブ環境づくりをしていく。さらにタイムキープの問題に対しては余裕を持ってタイムテーブルを組んだり時間の厳守を徹底して対処し、食堂でのライブの際は、窓に畳を立てかけるなどして防音を徹底するとともに、近隣に騒音周知のビラまきをするなど音楽活動に理解を得られるようにしていく。

ライブを成功させるには機材の知識を持った人間がいることが必要不可欠である。そのために前々期に作った機材マニュアルを活かして機材知識の普及を目指す。

また、ライブを行う場所について主な場所は、次の4つである。各場所について説明をした。各ライブで適切なものを選択していきたい。

- ・音楽室：照明を切ってミラーボールをつけるため、薄暗い独特な雰囲気でのライブになる。部屋が狭いため、人口密度が大きくなるので、モッシュが激しくなる傾向にある。地下にあるため、ほかの場所よりも遅い時間まで音を出すことができる。また、ライブの準備に機材の運び出しがなく、配線をしてその他諸々の準備をするだけでライブができるので楽である。

- ・食堂：寮生の団結の場である食堂では、多くの寮生が集まる。また、食堂は、広いので、モッシュに参加したくない人でも後ろのほうに座って音楽を聴くことができるなど、いろいろな人がライブに参加できる。

- ・民青池：民青池の上にステージを設置してライブを行う。演者と観客の距離がほかの場所よりも遠いため、モッシュには向かないが、アコースティック系の音楽はエモーショナルになる。

- ・駐輪場：主にくまのまつりのときにこの場所でライブを行う。寮の門を入ってすぐの場所にあるので、地域の方々が多く参加する。

### 2-3. 各種企画

主に新入寮生をターゲットとしてMUC構成員を増やすためにMUCで新歓を行う。またMUC内の交流や技術の向上のために楽器講習会やセッション会などを適宜行っていく。

#### 2-4. 機材について

壊れた機材についてはMUC会議にて報告をしてもらい承認をとって購入または修理する。また誤って使ったら寿命が縮まってしまう機材に関しては使い方を貼ったり機材講習会を開くことで正しい使い方を学んでもらう。またライブの際の配線技術をマニュアルによって学んでもらい機材知識の普及を目指す。

#### 2-5. 機材等貸し出しについて

外部の団体からの要望に応じて適宜機材やステージを貸し出したり、音楽室をライブハウスとして貸し出す。

### 3. 予算について

音楽室整備費は、音楽室機材の買い替え・メンテナンスなどに利用する。

音楽室機材故障対応積立金は、アンプやミキサー、ドラムなど、高額な機材が万が一故障した場合に備えて毎期定額積み立てている費用である。11月7日現在93,304円積み立てられている。

ライブ費用は、追いコンライブ、春新歓ライブについては出演者・参加者への酒類・ソフト提供及び、コロナ対策等に、くまのまつりではPAの熱中症対策用飲料に用いる。寮外生、上回生からはカンパを集め、予算超過額を補填する。予算の残額は返金し、繰り越さないが、カンパの残額は次回ライブに繰越す。基本的にライブは二日間開催を想定している。

前期まではMUC幹部が行っていたカンパの管理を文化部会計に任せ、カンパの使い道を透明化させていく。

以下各ライブの説明。

- ・追いコンライブ：退寮する寮生を音楽で盛大に追い出すライブ。
- ・新歓ライブ：新入寮生にライブの楽しさを体感させ、楽器を持たざるを得なくさせるライブ。

#### 【予算案】

以下の通りである。

持ち込み企画費について、本議案の「4. 持ち込み企画について」にて示した通り、今期は持ち込み企画を充実させるという方針であり、持ち込み企画に対してモチベーションのある寮生も多く、また、中庭にシンクの設置、食堂に新たなコンロの設置も検討されていることから、前期よりも持ち込み企画費に多くの予算を充てた。

内訳	収入(円)	予算(円)
自治会会計より	¥600,000	
114期より	¥365,356	
書初め大会		¥1,000
新年会		¥40,000
追いコン		¥80,000
花見		¥20,000
文化部新歓		¥20,000
ピザ窯新歓		¥30,000

大文字コンパ		¥20,000
北海道コンパ		¥85,000
持ち込み企画		¥400,000
備品修理補修費		¥25,000
スポーツ用品費		¥3,000
恒例企画・仕事問題検討費		¥5,000
音楽室整備費		¥100,000
追いコンライブ		¥30,000
新歓ライブ		¥30,000
不定期ライブ		¥20,000
くまのまつり		¥2,000
MUC新歓		¥10,000
音楽室機材故障対応積立金		¥20,000
雑費		¥24,356
総計	¥965,356	¥965,356

## 炊事部

### 目次

1. 概要
2. 各論
  - 2.1 食数の調整
  - 2.2 炊事当番制度の運用
  - 2.3 新入寮生に対して
  - 2.4 食堂環境の維持
  - 2.5 部会運営
  - 2.6 感染症関連
  - 2.7 各種企画
  - 2.8 統計局
  - 2.9 厨房に関して
3. 予算

### 1. 概要

食堂は、寮生寮外生の交流や日々の会議、勉強、作業等が可能となる重要な場であり、寮食は安さと栄養バランスから寮生の生活をささえ、福利厚生施設としての熊野寮の存在意義を示している。

炊事部は自治の根幹である食堂・寮食を守り、発展させていくため以下の方針をとる。

特に、寮食は厨房と共に存在する。厨房内の業務や労働状況を栄養士や厚生課にゆだねるのではなく、SCと共に寮として積極的に介入することで厨房が熊野寮食堂としての役割を果たすよう努める。

## 2. 各論

### 2.1 食数の調整

寮食の喫食状況に応じて食数の調整を行う。昼・夜の114期から好調な売れ行きを継続、さらには向上させていく。一方朝の喫食数は伸び悩んでいるため、朝食ダービーの結果を踏まえつつ、利用拡大を目的とした企画を行う予定である。

### 2.2 炊事当番制度の運用

炊事当番は寮食運営の一部であり、寮生の義務である。寮生が寮食を提供する厨房員側に立つことで、寮食をお金で買うという消費者的側面によって軽視されている、食堂は寮生と栄養士、厨房員の協力の下に存在するという側面を認識するきっかけになる。

部会での当番日程確認、下膳口横へのシフト表の張り出し、各ブロックでの炊事部員による周知などを通して確実に当番の仕事がなされるよう努める。また、新型コロナウイルスの感染状況によってはブロック同士が協力して炊事当番を行う。

### 2.3 新入寮生に対して

春に多く入ると予想させる新入寮生に食堂・寮食の魅力、意義を伝え、恒常的な利用を促す。また、食堂利用のルールについて各上回生が教えるように周知する。

### 2.4 食堂環境の維持

厨房と協力し食堂で虫や鼠が発生しないように対策をとる。目撃された際には、駆除グッズを購入する、厨房に連絡して駆除業者を呼んでもらうなどの対処を取る。ハエトリ紙は時期を考慮し、臨機応変に変えていく。また、食堂のヒーター及び扇風機を管理する。

### 2.5 部会運営

毎週火曜日の21:30から食堂及びZoom上で会議を行う。

### 2.6 感染症関連

食前の手洗い、マスクの着用を励行する。新型コロナウイルスなどの感染症の陽性者や濃厚接触者の食堂利用は禁止し、各ブロックの炊事部員と有志で寮食運搬などの措置を取る。また、厚生部やコロナ対策グループと連携して対応する。

### 2.7 各種企画

寮食と食堂の利用拡大を目的に、部会新歓、全寮新歓などの企画を行う予定である。

### 2.8 統計局

寮食のメニュー、売り切れ時間などの集計を行う局であり、それらを基に食数を決定したり、厨房に提言を行ったりする。統計局の他にも、必要性が生じる、あるいは部員からの提案があれば随時新たな局を設置する。

### 2.9 厨房に関して

厨房の業務が栄養士の決定に左右され、上下関係が強まる中で労働環境・条件が悪化し、厨房員が頻繁に辞めると厨房の存続に影響が出る。また、業務が省略された結果、寮食の質が下がったり、喫食時間・期間が短くなったりすると食堂機能が低下する。その対策とし



て、炊事部として厨房との意思疎通を積極的に行うとともに、コンパ・企画などに厨房員を誘うなどして寮生と厨房との連帯の機会を増やし、仕事にやりがいを持ってもらう。また、SCと協力し、厚生課と交渉して良好な労働環境の提供に努める。

退職したF氏の代わりの厨房員が来るまでの間、厨房バイトを復活させ、恒久的に寮食提供ができる環境を維持する。この際厨房バイトを通して、厨房と寮生の意思疎通を深め、厨房員が仕事にやりがいを持ってもらえる機会をつくる。

### 3. 予算

下の予算表を参照。

項目	収入	支出	
第114期からの繰越	23,444		
自治会会計より	180,000		
新入寮生歓迎企画		10,000	
部会新歓		15,000	
朝食ダービー		15,000	主に景品代として
全寮新歓		150,000	
雑費		13,444	
合計	203,444	203,444	

## 庶務部

### 1. 業務について

#### 1.1. 全体にかかわるもの

##### ・在寮証明書の発行

寮生の要請に応じて在寮証明書を発行する。基本的には発行希望日の一週間以上前に庶務部会に来て申請していただく。

#### 1.2. 事務室関係のもの

##### ・荷物管理

毎週の部会の際に荷物アプリ、掛札、荷物現物を照合し、誤記がないかチェックする。

##### ・備品管理

事務室内にある庶務部管轄の備品について毎週の部会の際に確認し、適宜補充していく。

##### ・荷物アプリの管理

情報部と連携して荷物アプリの管理を行う。庶務部としては主に定期的なデータのバックアップと名簿の更新を行う。

##### ・ノート管理

事務室内にあるノート管理、保管、補充を行う。事務当番日誌にも目を通し、業務が適切に行われているかどうかを確認する。

- ・事務当番決め

ブロックを単位として事務当番のシフトを作成、周知する。スーパー事務当番、ハイパー事務当番についても同様にシフトの作成、周知を行う。

- ・事務当番指導

春の新入寮生を対象に、各ブロックで事務当番マニュアルに基づいて事務当番業務の指導を行う。

- ・購読雑誌の選定

事務室に置く雑誌を選定、定期購読する。それとは別に、月に一冊別の雑誌を購入する。

- ・その他

事務室の利便性や機能性、快適性を高める取り組みを必要に応じて庶務部が主体的に検討、実行する。事務当の質の低下を防ぐため、事務当の仕事及び事務室維持の仕組みについて寮生の更なる理解を深めていく。

### 1. 3. 駐輪場及び駐車場関係のもの

- ・駐輪場整備

毎週部会後に駐輪場の整備を行い、自転車を駐輪場の線の内側に全て収める。これは自転車が駐輪場の線の内側に止められていないと、食堂に荷物を搬入する車やゴミ収集車が入れなくなるなど寮業務の妨げになるためである。

ロードバイクのスタンドを設置し、駐輪場の更なる整備を試みる。

- ・放置自転車、バイク、原付の撤去

車両の数が増え、駐輪場のキャパシティが少なくなった際に行う。所有者不明かつ直近での使用の形跡が無い自転車、バイク、原付を紐づけによってあぶり出し、撤去する。

放置自転車については数が多く対応に苦勞するので、各自でリユースや処分をするようにビラなどで促す。

- ・短期駐車

事務室で短期駐車に登録が行えるように登録用紙の補充をする。事務室にて徴収した短期駐車料金を庶務部会計が一時管理し、自治会会計に渡す。

### 2. 新歓について

春の新入寮生との親睦を深めるために4月ごろに実施する。

情勢に配慮しつつ、コロナ対策(検温、手洗い、アルコール消毒、名簿作成など)をしっかりとした上で実施する。

### 3. 予算について

以下の表を参照。

- ・事務室用品費一事務室の機能向上並びに備品補充の為に使用。

⇒30,805円

椅子の買い替えにお金を使うと予想されるので金額を増やした。

- ・駐輪場整備費―駐輪場の機能向上並びに備品補充の為に使用。

⇒35,000円

ロードバイクのスタンド設置(手作り、1台につき2,000円程かかる)に伴い、金額を増やした。

- ・新歓費―春に入る庶務部員の新入寮生を歓迎する為に使用。

⇒18,000円

- ・書籍費―事務室に置く雑誌を購入するために使用。

⇒15,000円

合計98,805円

	収入	支出
第114期からの繰越金	37,805	
自治会会計より	61,000	
事務室用品費		30,805
駐輪場整備費		35,000
新歓費		18,000
書籍費		15,000
合計	98,805	98,805

## 厚生部

### 【本文】

#### 1. 全体方針

前期の総括をふまえて、寮内の住環境の整備・改善を推進する。ブロックの清掃活動の補助・促進を行う。シャワー部門、物品補充部門、衛生部門の3部門に分かれて業務を行う。

#### 2. 各部門方針

##### 2.1. シャワー部門方針

- ・全ての寮生が当たり前に！気持ちよく！シャワー室を利用できるようにしていくことを基本理念とする。
- ・シャワー室備品の故障・消耗に対し可及的速やかな対応をする。また、古くなった物品の更新も行う。
- ・プリペイドカードに関する機器や金銭の運用、管理を行う。
- ・退寮者へのカード返却の周知を徹底する。
- ・総括にシャワー局の口座（※）の最終残高と自治会会計の収入として渡した金額を記載する。
- ・厚生部員の主導のもと、有志をつのりシャワー室清掃を2,3ヶ月に一回行う。・女子シャワー室の増設を目指す。
- ・男子シャワー室のドアがついていない個室に対するドアの設置について議論する。
- ・水シャワーの増設についても検討する。

※注)シャワー局の口座:チャージ代金とデポジット代金を一時保管している銀行口座のこと。

## 2.2. 物品補充部門方針

- ・大型物品の希望調査が大学からあるはずなので、ブロック会議などで調査を行う。
- ・グロー球、蛍光灯、事務室の医薬品などの補充を行う。
- ・使用済みの蛍光灯、電池の整理、回収を行う。
- ・大学から支給された物品の修理などの寮生の要望を、各ブロック厚生部員を通じて集約し、教育推進・学生支援部厚生課に連絡するなど対応をする。前期に引き続き、ドア・洗濯機・乾燥機などの交換を依頼していく。

## 2.3. 衛生部門方針

- ・ゴミの分別、出し方について呼びかける。
- ・寮内の衛生状態について注意喚起する。
- ・自主清掃費を各ブロックに配布する。
- ・粗大ゴミ回収バイトを募集し、粗大ゴミ回収を行う。
- ・粗大ごみの分別を行い、鉄製品の買い取り業者や家電店のリサイクルを利用するなど費用削減のための対策を行う。また、一般ごみとして廃棄可能な比較的小さなゴミが粗大ごみとして処分されないように周知と管理を徹底する。
- ・粗大ごみに関する諸問題(不法投棄、分別方法、ゴミを減らす工夫)について議論する。
- ・各ブロックの厚生部員は自分のブロックの大掃除等の企画・指揮を行い、自ブロックの美化に努める。
- ・前期に引き続いて保健係制度の周知・維持に努め寮内の新型コロナウイルス情勢を把握し、必要に応じてSCや人権擁護部と連携をとって対応する。
- ・シャワー室隔離時間の適切な設定のため利用者アンケートを実施する。
- ・陽性者の居室隔離について、換気を徹底することを条件に自室生活も選択肢に入れる。
- ・屋上清掃(期に一度)を貫徹する。

## 3. 予算

項目	収入 (円)	支出 (円)	
自治会会計より	640,000		
114期からの繰越	310,794		
自主清掃費		65,000	C12、C34は10,000円、B12は15,000円、その他各ブロック5,000円
粗大ゴミ回収		400,000	
ゴミ袋購入		400,000	
シャワー室備品購入費		30,000	
医薬品等購入費		20,000	
吐瀉物処理備品購入費		5,000	
新歓費		15,000	

雑費		15,794	
	950,794	950,794	

## 人権擁護部

### 0. 目次

1. 総論
2. 弾圧対策
3. 防犯、防災
4. ハラ対、トラブル仲裁
5. 予算

### 1. 総論

人権擁護部は、特に弱い立場にある人に寄り添うことで「全ての寮生が不快な思いをせず生活できるように」という理念を実現するために活動する専門部である。

対応領域は基本的に以下の3つである。

- ・弾圧対策
- ・防犯、防災
- ・ハラ対、トラブル仲裁

今期も「弾圧対策局」「防犯防災局」「ハラスメント対策局」と局長を設置し、上記3領域にまたがる業務を分担して行うことを通じ、業務内容に習熟した部員を育成する。

主に部長経験者からなる「人権擁護部幹部会」を設置し、部長及び上記3局での対応が難しい問題について対応を協議する。

毎週火曜日の22時より、食堂及びzoom上で会議を行う。

人権擁護部として「喫煙所利用者会議」「女子寮生向けハラスメント相談窓口」を設置する。

寮内で起こったトラブル、その他自治会への改善要求をする場として、事務室内に目安箱を設置し、相談アドレス(kumano.jinken@gmail.com)を管理し寮生からの相談や意見を受け付ける。

部長・局長・幹部会メンバー・相談アドレス担当者・女子寮生向けハラスメント相談窓口セクション長の部屋番号・氏名を、第115期開始後にブロック会議議案で周知する。

業務が多岐に渡るため、マニュアルを作成し「資料置き場」に掲載することに努める。

学習会などで使用した資料を「資料置き場」等で閲覧できるようにする。

各ブロックの部員数を部長が把握し、極端に部員数が少ないブロックに対しては、部員数を増やすように働きかける。

訓練として「消防訓練」「避難訓練」「ガサ対訓練」を期に1回は行うことを定着させる。訓練や点検立ち合いの大まかなスケジュールを12月に作成して把握し、期を通して実行する。

114期で入寮オリエンテーションの内容に一部重複が見られたことを踏まえ、その内容を精査する。

## 2. 弾圧対策

### 2-1. 家宅捜索(ガサ)への対応

- ・マスク、サングラスの管理
- ・「ガサ対訓練」の実施、総括
- ・ガサノウハウの継承を目的とする学習会の開催

### 2-2. 逮捕弾圧への対応

- ・不当な逮捕・勾留に対する「救援対策会議」の設置、救援活動
- ・常任委員会と連携して抗議文案の作成
- ・逮捕者が出た際の対応・救援活動に関する学習会の開催

### 2-3. 警察・大学当局への対応

- ・寮内への警察立ち入りへの対応
- ・寮内への大学職員立ち入りへの対応
- ・学内集会での弾圧対策
- ・平時における警察、大学職員対応に関する学習会の開催

## 3. 防犯、防災

### 3-1. 不審者・特別来寮者対応

### 3-2. 各種防犯

- ・居室の合鍵の把握や事務室にある原キーの管理
- ・防犯器具の管理
- ・防犯ブザーの貸し出し
- ・合鍵作成費補助及びその周知
- ・部長が東門の鍵、事務室で食堂横ポンプ室の鍵を管理
- ・各棟東側の非常口の施錠
- ・防犯マニュアルの頒布、防犯意識の向上を目的とする学習会の開催

### 3-3. 避難訓練・消防訓練

- ・左京消防署の協力のもと、避難訓練・消防訓練を実施し、総括する。
- ・ただし、消防は警察と密に連携する行政機関であることも意識して、情報の保守など対権力的な原則を重視し連携は常任委員会と相談しつつ進める。

### 3-4. 日常点検

- ・毎月最初の部会後に、各ブロック毎に分かれ避難経路の確保や消防設備の点検を行い、Googleフォームで報告してもらい活動を今期も継続する。担当者を設定し、点検で見つかった問題点を改善する。
- ・消火器ポンプ(年2回)・関西電気保安協会点検(月1回)の立ち合いを、ブロック持ち回りで行う。

### 3-5. 救護活動

- ・寮内で事故が発生したり体調不良者が生じたりした場合の対応を行う。
- ・学習会を開催する。

### 3-6. お掃除デー開催

・庶務部・厚生部と合同でお掃除デーを行い、廊下の物品の削減に努める。緊急時避難経路の確保のため、居室前廊下に出されている荷物を減らす目的で行う。当日は、寮生に広く参加してもらえよう炊き出しを行う。

### 3-7. 喫煙所

喫煙所利用者からの求めに応じて、喫煙所で日常的に使用する物品等の予算の支出を人権擁護部として行う。また、喫煙所の改築など、喫煙所に関する重大な案件のある時は、人権擁護部として喫煙所利用者会議を主催し、議論に基づいて方針を決定する。

115期においては、114期に喫煙所利用者会議を開き決定された方針に基づいて、喫煙所の改築を行う。詳細に関しては、以下の「第114期喫煙所利用者会議総括」を参照して欲しい。

#### 「第114期喫煙所利用者会議総括」

114期中に、人権擁護部が主催する喫煙所利用者会議を3回行った。

日時については、周知さんや喫煙所オープンチャット等で周知し、毎週火曜日22時からの部会の時間を一部使うなどして行った。なお、8/23(火)は周知したにも関わらず参加者がいなかったため実質的に開かれなかった。10/21(金)に行われた喫煙所利用者会議は喫煙所利用者によって自発的に行われ、人権擁護部として確認できる議事録等が存在していないため、総括に内容を含めることができなかった。

日時：8/23(火)、10/11(火)、11/8(火)

今期の喫煙所利用者会議で検討された事項は、以下の通りである。

喫煙所整備費の予算が計上されている主な理由は、喫煙所の老朽化による改築のためである。従って、現状の喫煙所がどの程度老朽化していて、それによってどのような弊害が生じているのか、若しくは将来生じ得るのかを検討する。

改築する場合、

- ・現状の喫煙所をどうするか
- ・新しい喫煙所はいつ頃設置するか
- ・具体的な予算額

について、可能な限り検討する。

上記事項について検討した結果、以下の事項が決定された。

- ・柱の木が外れていて危険であるので、喫煙所を一度解体して組み立て直す。
- ・喫煙所の改修は、12月23日～25日にかけて作業を行う。
- ・釘や板の購入に予算を使用する。

### 3-8. 焚き火の立ち合い

・資料システム内「焚火マニュアル」に基づき、寮生より焚き火の申請があった場合に、人権擁護部として立ち会う。

## 4. ハラ対、トラブル仲裁

### 4-1. 啓発活動及び事後対応

- ・入寮オリエンテーションや学習会を通して、新入寮生・在寮生双方にハラスメント防止や飲酒に関する注意喚起を行う。
- ・ハラスメントによって寮生活が続けることが困難になった寮生が出る場合や、法的措置が必要となる場合に備え、ハラスメント対応費を設ける。

#### 4-2. 新歓期の相談受付およびハラスメント対策

- ・新歓期には、各種新歓などのコンパや寮生同士の飲み会などが多く開催され、アルハラ・セクハラが起こる可能性も高まる。また入寮したばかりの新入寮生がそうした被害に遭った際、誰に相談したらよいか分からない、ということも十分考えられる。このため新歓期には人権擁護部員を中心に、有志によるハラスメント対策グループを組織し、腕章を付けるなどして誰に相談すればよいのか分かりやすく示した上で、迅速な対応ができるよう準備する。
- ・特に春新歓において、談話室新歓が行われる場合の注意点の周知

#### 4-3. 女子寮生向けハラスメント相談窓口の設置

以下、「第115期女子寮生向けハラスメント相談窓口方針案」

○当セクションは112期末に設置された。115期では前期に引き続き以下の点を念頭において、組織としての基礎作りを行う。

##### 1. 理念および目的意識の引き継ぎ

構成員全員が理念や目的意識を共有し、引き継いでいけるような体制をつくる。女子寮生向けハラスメント相談窓口は、ハラスメントの被害者になりがちな女子寮生が安心して相談できる媒体を用意すべく半独立の会議体として設置された。上部組織の人権擁護部から半独立した形態をとるのは、問題意識のある人員を集めやすくすること、「相談のみ」に特化する事によって相談のハードルを下げる、といった目的がある。後述のとおり、対応については人権擁護部と共同で行う。なお、現状の「女子寮生だけ」を対象とした在り方では、女子が苦手な女子寮生や男性被害者をいったん捨象してしまっていることには自覚的でないといけない。

##### 2. 構成員の拡充、学習

学年やブロック、学部などについて様々なコミュニティに属する相談員がいることで、相談者の選択肢が広がり、相談を持ちかける負担が軽減できる。加えて、相談員自身の負担の軽減のためにも構成員の拡大が重要である。周知と勧誘を怠らないようにする。また、相談者の安心のためには構成員がハラスメントおよびその対応に関する知見を深めることも不可欠である。構成員むけの学習会をしっかりと行っていく。

##### 3. 人権擁護部および寮全体との連携

寮内のハラスメントに対して責任を持てる自治会の形成には、女子寮生向けハラスメント相談窓口のみの活動では不十分であり、上部組織である人権擁護部については全寮での取り組みが必須である。相談窓口は「相談」のみを扱う組織であるため、実際の対応や総括、さらにハラスメント学習については人権擁護部と連携・協力して行う。また、学習会は全寮に向けて行い、参加しやすいものや外部講師を招いた専門性のあるものなど幅広く実りのあるものにすべく努力する。

#### ○主な活動内容

##### 1. ハラスメントに関する相談の受付

女子寮生を対象にハラスメントに関する相談を受ける窓口の運営をする。構成員は女子寮生のみで、活動としては相談を受けるのみとする。何らかの対応が必要な際は、人権擁護部が主体となって連携して行う。



## 2. 女子寮生新歓の開催

111期から113期までの間、女子寮生新歓は有志による文化部持ち込み企画として行われてきた。115期では、114期と同様に、この企画の理念を継承していくため、女子寮生向けハラスメント相談窓口主催の新歓企画として行う。女子寮生新歓が開催されることになった経緯および意義・目的については以下に詳述する。

### ・企画背景

寮生活において、女子寮生が女性であることや「女性とみなされる」ことによって起こる問題にはさまざまなものがあります。トイレなどの共用スペースが、生理のある人が使用することを想定されていない場合があること(①)、性役割を押し付けられることによって、寮自治に積極的に参加する機会や意志を失ってしまうこと(②)などです。こうした問題は、女子寮生がこの熊野寮においてマイノリティであるということに起因したり、それによって深刻化したりします。先に挙げた2つの例をもとに説明します。

①について…多目的トイレには、かつてサンタリーボックスが置かれていませんでした。生理のある人(女性の大半には生理があります)は寮内に少数であるため、想定されていなかったのでしょう。また、男性が多数を占める寮内では、生理などのタブー視されがちな事柄について話されにくいことも問題です。

②について…ブロック会議で新入寮生が所属する部会を決める際に、「(仕事の内容)とかもあるし、1回生の女子が入るような部会じゃないよ」といったブロック内の先輩の発言を受け、その部会に入ることをやめたという例があります。このような発言は、性役割についての固定的な観念に基づくものと考えられますが、この事例は、女子寮生の人数が少ないことによって深刻化している問題でもあると言えるのではないのでしょうか。男子寮生であれば、各ブロックの各部会に1人以上同性がいることはほぼ確実であり、特定の部会や男性に対する誤った認識による発言があったとしても、その発言の不当性を確認したり、同性の先輩がいるという事実で安心感を覚えたりすることができるでしょう。またこのような事例は、そのブロック内でのジェンダーステレオタイプの再生産を促してしまいます。

上記のような問題には、女子寮生同士が広くつながることで、繰り返されたり、より深刻になったりすることを防げる面もあります。堂々と口にしづらいと感じている悩みも、自分だけの問題ではないと感じられれば他の人と共有することができます。一人では声を上げられなかったことでも、賛同する人が多ければ訴える勇気が生まれるでしょう。早い時期からブロック外に女性の知り合いが(それもたくさん)いれば、女子寮生の中にもさまざまな人がいること、他者や社会に規定された「女らしさ」の範囲内で寮生活を送る必要がないことに、気づくことができたかもしれません。

それでは根本的な解決になっていない、と思われるでしょう。まったくその通りです。しかし、今すぐ寮生の男女比を1:1にする、または大幅に近づけることはできませんし、ジェンダーに基づく偏見や不平等は社会全体に深く根ざし、熊野寮という限られた範囲においてさえも、完全になくすことは容易ではないのです。差別的な価値観や、非対称性をはらむ構造を是正する取り組みが必要であることは言うまでもありません。しかしまた同時に、それらが実際に存在することを認め、その中で生まれ続ける問題のひとつひとつに対処していくために、手を取り合おうとすることには大きな意義があるのではないのでしょうか。女子寮生新歓は、その一歩です。

### ・目的

当企画は、女子寮生がブロックの垣根を越えて知り合い、自由に交流し、情報交換を行える場を設けることによって、実際の悩みを共有し相談できる人間関係を築くきっかけを作ることをめざします。

熊野寮という新しい環境に身を投じたばかりの新入寮生は、生活上の不安を抱えやすく、またそれを相談できる人間関係も希薄です。特に女子寮生は、寮内において少数派であることにより、先に示したような問題と向き合わざるを得ない立場であると考えます。

また、コロナ禍で減少しているとはいえ、新歓期には普段よりも頻繁に寮内でのコンパや寮生同士の飲み会が催されます。そうした場でセクシャルハラスメントなどのハラスメント被害を受けることは性別問わず起こりうるということ、そして誰に対する人権侵害も起こらないよう全寮で取り組まねばならないことはここで確認しておきますが、弱い立場と見なされがちである(特に下回生の)女性がそうした嫌がらせの対象となりやすいこともまた事実です。

企画背景の中で述べたような、自身が「女性とみなされる」ことに何らかの理由がある問題に直面したときや、ハラスメント被害に苦しんでいるなどのデリケートな悩みを抱えたときには、同性の相談相手を必要とする場合があります(主な理由については議事録への返答を参照して下さい)。人権擁護部の相談窓口を利用することもできますが、入寮したばかりで誰が部員なのかわからない、部員に声をかける/メールを送ることに心理的に高いハードルを感じる、などの理由で利用しにくいこともあるでしょう。

安心して相談できる人間関係を築くには、まず女子寮生同士がより広く知り合うきっかけが必要不可欠であり、そのための場を設けることは積極的に行われるべきです。また、寮生が個人の問題と捉えていることの中には構造上避けられないものが存在すること、そしてその現状を変えようとする動きが寮内に生まれていることを知る機会があれば、違和感や悩みを人と共有することへの抵抗感を軽減することにも繋がるものと考えます。

#### ・よくある質問

##### ①なぜ勉強会などではなく「コンパ」なのか？

→この企画がコンパである必要性は、同性の相談相手を見つける機会の提供という目的意識から生じるものです。コンパという「参加しやすい形」で「ブロックの垣根を越えて」行われる必要があるのです。なぜなら問題意識を持たない新入寮生(寮社会の実態を把握していないので、問題意識を持ちようがない)が、せいぜい12人前後しかいない同ブロックの女子の他にも頼れる同性の友人を見つけることこそが重要だからです。最初のブロック会議の前に全寮的な女子の顔合わせの機会を設けることで、寮という社会の中に、信頼できるかもしれない同性の知り合いを見つける機会を提供したいと考えています。

同性の相談相手がどうしても必要なのかというと、強固な男女二元論の上で成り立っている社会の中で(性別に限って言えば)同じ立場の人間にしか相談しえないこと、わかりえないことがあるからなのです。例えば生理周辺の話、下着の話、ライフプランの話は、異性に相談するにあたっては「前提の共有」から始めねばならない、あるいは話すことそのものすらタブーにされている現状があります。

##### ②男性を排除しているのではないか？

→参加資格を男子寮生を含む全寮生に開放した時、熊野寮の圧倒的な男女比から考えると、少数の女子寮生が参加する「男子寮生コンパ」になってしまうため、制限を設けることはやむを得ないと考えています。

また過去には(111期以前に行われていた女子寮生新歓において)、「コンパの開催時間を区切り、途中から男子寮生含む全寮生に開放する」といった方式を取っていたことがある

ようです。その頃の実情について、事実確認を行うことができていないため詳細は控えますが、キャバクラ的なノリが発生していた、いわゆる“女好き”の男子寮生しか参加して来ず不安を感じた、などの声が寄せられていました。我々がめざす女子寮生新歓とは、女子寮生同士が人間関係を築くきっかけを作るための企画です。新入寮生が少しでも「自分はこの寮でやっていけそうだ」と思えるような場を作らなければなりません。参加者同士が安心して交流できるよう、前述のようなノリ・雰囲気を作り出さない工夫が、運営側にも参加する側にも必要です。

#### 4-4. トラブル仲裁

多様な価値観を持った寮生が密接して暮らす熊野寮において、時には寮生間でトラブルが生じることもある。このような場合に、当事者間や所属ブロック内で解決を促し、当事者同士の話し合いが難しい場合には人権擁護部が代理で話し合いに出向く。そうした方法でも解決が難しいと考えられる場合には、常任委員会に協力を要請し、常任委員会による権力的な裁定を求める。また、以後同様の事例が生じたときのため、取った対応を総括・議論する。

#### 5. 予算

学習会費…外部講師を招く場合の交通費と若干額の謝礼を想定。

弾圧対策費…人権擁護部として保有しているビデオカメラが寮祭期間中に壊れたため、買い替えのための費用を計上している。

防犯費…防犯カメラ及び各棟東側に設置するキーボックスの購入を想定。

ハラスメント対応費…ウィークリーマンション2ヶ月分程度を目安とした。

喫煙所整備費を廃止して、喫煙所改修費と喫煙所備品費を新設する。当初は喫煙所の全面的建て替えが想定されていたが、解体して組み立て直すという方針になったため、その費用を喫煙所改修費として計上する。114期において、喫煙所で使用する日常的備品の費用の必要性が明らかとなり、喫煙所整備費から支出したが、115期では喫煙所備品費として計上する。

喫煙所整備費…壊れたヒーターの更新を想定

114期に引き続き、女子寮生新歓の開催のため人権擁護部の予算として1.5万円支出する。

項目	収入(円)	支出(円)	第113期予算(円)
114期より繰り越し	413,424		
自治会会計に返還		45,000	
学習会費		25,000	25,000
弾圧対策費		60,000	10,000
防犯費		20,000	0
合鍵作成補助費		10,000	10,000
耐震対策費		15,000	15,000
お掃除デー昼食代		10,000	10,000
ハラスメント対応費		100,000	100,000
喫煙所整備費		0	225,000

喫煙所改修費		50,000	0
喫煙所備品費		50,000	0
新歓費		10,000	10,000
女子寮生新歓費		15,000	0
雑費		3,424	4,589
合計	413,424	413,424	409,589

## 情報部

部長から

第115期情報部の方針は、仕事の管理、分担、共有の徹底である。そのためにタスク管理ツールGithub issueによる仕事の管理、分担や、部会LINEを用いた仕事の共有を行っていく。また、部会・委員会の区分に囚われず既存のシステムの保守及び寮内の業務の効率化に横断的に取り組む。

発信セクション

方針

- ・外部に提供する情報量を増やす。
- ・熊野寮のイメージアップを目的とする。
- ・熊野寮ホームページを改良する。
- ・コロナ関連の正確な情報を可及的速やかに外部に発信する。

方法

- ・Facebook、Twitter、ブログ、Instagramを通じて各種イベントの報告や宣伝及び声明などを熊野寮として外部に発信する。
- ・外部向けホームページの管理・更新を行う。また、ホームページに改善を加えるべく検討を続ける。特にパソコンだけでなく、スマホなどの携帯端末などでも見やすいように、コンテンツのサイズ比が端末によって変化するようにするなど。
- ・広報局と連携しながら、発信方法の模索及び効率化を図る。広報局にTwitter等管理権を譲渡することも考慮する

監督セクション

恒常業務として以下を行う。

情報機器の管理

- ・プロジェクター、スクリーンの貸し出し
- ・ビデオカメラの貸し出し
- ・食堂ワイヤレスマイクセットの電池補充
- ・種々のコード類やPC周辺機器の管理
- ・上記の機器及び食堂PC、SCPC故障時の対応

寮生大会、寮生集会の準備

寮生大会、寮生集会の実施にあたり、各種準備を行う。内容は以下の通り。

- ・寮生大会の書記の募集

- ・ 書記用PCの準備
- ・ プロジェクターの準備
- ・ ビデオカメラの準備及び撮影
- ・ 撮影映像の保存

SC主催イベントの撮影

- ・ 代議員会の撮影
- ・ 入寮オリエンテーションの撮影

## 技術セクション 方針案

### アプリケーションの保守管理

情報部で作成したアプリケーションの不具合に対応する。

### 新たなアプリケーションの開発

寮生の仕事を軽減するべく、新たなアプリケーションの必要性を議論し、必要に応じて開発する。

### 技術セクションのアピール

今後、資料システム等の寮内ITシステムを開発・運用していく人材を技術セクションに引き込むために、入寮オリテでのアピールを行ったり、勉強会・技術談話会を開催したりするなど積極的に活動を行っていく。

名目	収入	予算
114期より繰り越し	12,696	
自治会会計より	108,000	
Dropbox		15,000
Kuma LAN		5,000
証明書		20,000
ワイヤレスマイク		30,000
修理消耗品費		50,696
合計	120,696	120,696

## <特別委員会>

### 入退寮選考委員会

1. 入寮選考
  - 1-1. 方針

例年通り3月に入寮選考を行う。入寮面接は全寮を挙げて取り組むことになるが、当委員会  
は各段階において流れを把握し、準備・運営などを担当する。

#### 1-2. 入寮選考の流れ

2月上旬～下旬 空きキャパシティ調査

随時 パンフレット配布など宣伝活動

2月中旬～3月上旬 面接官講習会・入寮面接・部屋決め会議

#### 1-3. 空きキャパ調査

114期の部屋決め会議で、事前の空きキャパ調査が不正確であることが判明した。より正確な調査を行うため、各ブロックの空きキャパの状況をよく分かっていそうな人と連絡をとる、調査担当者から提出された名簿を副委員長他数名で確認する等の対策を講じる。

#### 1-4. 宣伝活動

来年度の入寮パンフレットは現在、記事及び編集メンバーを募集している。記事が集まり次第、作成を開始し、2月上旬の完成を目指す。完成したパンフレットは学部一般入試の日に配布するほか、熊野寮ホームページに掲載したり、吉田寮をはじめとする他寮においてもらったりするなど他寮との連携も図るとともに、その他にも様々な広報の手段を考えたい。寮を必要とする人のできるだけ多くに情報を行き渡らせられるよう努力したい。

#### 1-5. 面接

面接は2月25日(土)、26日(日)、3月10日(金)、11日(土)、12日(日)に行う。主に初めて面接をする人や講習会を受けたことがない人向けに面接官講習会を実施する。面接官講習会では、面接官マニュアルに沿って面接の流れや面接時の注意点を確認する。

入寮面接は入選だけでなく全寮生に積極的に参加してもらえるように呼びかける。115期では114期に引き続き対面で入寮面接を行う予定である。もし入寮希望者からの要望があれば一部オンラインでの対応を行うことも考えている。

見学可能部屋をブロック会議等であらかじめ募集し、当日手間取らないようにしたい。入寮面接の具体的な事項については今後も話し合いを続け改善を目指す。入寮希望者数が空きキャパシティ数を上回る場合には、一人でも多く入寮できるように部屋移動なども検討する。

#### 1-6. 面接後の日程

3月13日 キャパ調整会議

3月14日 当落連絡、部屋決め会議

#### 1-7. 男子・女子部屋化、+α部屋化

入寮希望者数が多く落選者が出そうな場合は、落選者を減らすために男子女子部屋化・+α部屋化を行うことも視野に入れている。男子・女子部屋化、+α部屋化が必要であると判断され、それが実行された場合、「女子部屋化・男子部屋化補助制度」に基づいて補助金を支払う。

### 2. 在寮選考方針

維持費滞納による在選対象になった者、および仕事大選システムを導入しているブロックにおいて仕事回数不足により在選対象になった者がいる場合は、熊野システムに則って在寮選考を行う。その際、常任委員会並びに監察委員会と連携し、滞りなく処理が行われるようにする。

### 3. 日本語能力基準

撤廃はしないが希望する全ての人が入寮できるように、できる限りサポート体制を整える。その整備は今期も国際交流局が主となるが、入選も引き続き協力して行っていく。

### 4. その他

入選公式LINEを作り、寮に興味を持っている人や入寮を希望する人からの質問等を受け付けることを検討している。2月ごろには体制を整え、受験生に対応したい。

### 5. 予算

表を参照。

項目	収入	支出
114期からの繰越金	114,544	
自治会会計より	0	
文房具代		2,044
入寮募集宣伝費		16,000
電話代		5,000
面接官用差し入れ		1,500
女子部屋・男子部屋化助成金		40,000
+ α 部屋化助成金		50,000
合計	114,544	114,544

## 選挙管理委員会

### 1. 第115期選挙管理委員会として以下を行う

- \*正副常任委員長選挙の周知・運営
- \*寮生大会の周知・運営
- \*その他選挙管理委員会に委託された投票や集会等の周知・運営
- \*選挙管理委員会に関する議論

### 2. 正副常任委員長選挙

正副常任委員長選挙においては、立会演説会・選挙の周知・運営・投票の呼びかけなどを行う。特に運営においては監察委員会から最新の名簿を借り、それに基づいて行う。

今期も引き続き無効票を減らすために、投票の例を投票所に掲示する、記入欄を明確にするなどの対策を行う。

また、第114期に投票の部屋周りや代理投票の呼びかけを各ブロックや個人に委ねる形となってしまった反省を踏まえて、第115期はこれらの業務に委員会として組織的に取り組んでいく。

### 3. 寮生大会

寮生大会においては、周知・出欠調査・運営などを行う。この際にも監察委員会から借りた最新の名簿を基に行う。また、円滑に議論を進めるために、自由討論の議題の募集を寮生大会に先立って行う。

また、次の寮生大会の欠席・遅刻・早退理由書の承認条件は以下のようにする。

- ・就職活動
- ・研究活動（指導教官の印鑑が必要）
- ・冠婚葬祭
- ・留学生のバイト
- ・課外活動（部活の重要な大会など）
- ・入院
- ・単位の出る授業
- ・当人の人生に関わるその他の事由

その他選挙管理委員会の過半数がやむを得ないと判断したこと。詳しくは欠席理由書の注意事項を参照。

上記の理由で寮生大会の欠席・遅刻・早退を申請する場合、それらが寮生大会の開催時間（開催時間から20時間）以内に行われることを証明する書類を必要とする。必要書類が用意できない場合、選挙管理委員が代替書類の提案、または具体的な聞き取りを行うので、本人が月曜日の選挙管理委員会に出席することが望ましい。

#### 4. その他選挙管理委員会に委託された投票や集会等

第102期では居住理由判定制度改正案の投票の運営を委託されて行ったように、今後もそのような委託があれば、選挙管理委員会として周知・運営を行う。

#### 5. 選挙管理委員会に関する議論

選挙管理委員会では、正副常任委員長選挙、寮生大会、ひいては選挙管理委員会そのものの改善や見直しの議論を行う。第115期では以下に挙げる議論を中心的に行っていく。

- ・寮生大会日程の一本化

寮生大会の日程を金曜日夜または土曜日昼の2通りを提示し、両日空けさせるのは非効率であるという問題がある。この問題の解決策として、寮生大会の日程を一本化するという案を検討する。

- ・オンライン参加について

寮生大会への対面参加を重視するスタンスを明確にした上で、コロナ収束が見えている中、オンライン参加をどこまで認めるのか、そして、コロナ収束後はオンライン参加を認めるのかについての議論を第114期に引き続き行っていく。

- ・自治会印の電子化

投票用紙の捺印業務の簡易化のために、SCや庶務部と連携して自治会印の電子印章の作成をしていくことを検討する。

- ・投票用紙の公平性確保

第114期に、公平性の観点から投票用紙の候補者の配置を不規則にすべきという案が出たので、これについて検討する。

#### 6. 予算案について

MUCと合同で新歓を行うための予算1万円に加えて、新たに立会演説会の書記への差し入れの食べ物や飲み物の費用として予算3,000円を請求する。

来期も選挙・寮生大会等の円滑な運営のためのご協力をお願いします。



項目	収入（円）	支出（円）
自治会会計より	13,000	
新歓費		10,000
立会演説会差し入れ		3,000
合計	13,000	13,000

## 監察委員会

### 1. 通常業務

- ・毎月の維持費支払いチェック
- ・維持費滞納者に対する督促及び橙食券販売の制限
- ・高額維持費滞納者に対する在寮選考の告知、橙食券販売の制限
- ・休寮願の審査及び結果の通知
- ・自治会予算、食堂関係費の寮生大会前の会計監査

### 2. 維持費在選システムの運営とシステム周知の徹底

- ・入退寮選考委員会への維持費滞納者情報提供等の業務提携
- ・生活マニュアルへの当該システム及び関連諸制度を周知する項の記載

### 3. 全寮寮生名簿の管理

- ・全寮寮生名簿を随時更新
- ・関係諸部局への名簿の提供
- ・京大新聞への入退寮者名簿掲載

### 4. 維持費滞納者に関する対応

- ・維持費のまとめ払いを強く推奨
- ・積極的に支払いを督促

### 5. 振り込みシステム

- ・維持費振込システムの運用を継続

### 6. 休寮審査について

- ・生活マニュアルにおける周知

### 7. 維持費免除制度について

- ・周知、運用をしていく

### 8. その他

- ・自治会財政収支の推移を4月中のブロック会議に提出する
- ・予算は請求しないので予算表はない

# 資料委員会

## 1. 総論

### 1-1. 115期の姿勢

115期では、資料委員会を、BL会議を中心に寮内の熟議を支援する組織として位置づけ(※1)、従来、議論改善PT(※2)が担ってきた検討会の運営を資料委員会の仕事とする。この実現のため、委員会内に議事運営セクションを設け、恒常業務を追加することとした。

なお、前々回のBL会議で提起した設立議案で、議論改善PTを資料委員会内のセクション化するという誤解を与えた可能性があるが、資料委員会内のセクションにするのは検討会の業務のみであり、議論改善PTは別団体として存続する。

### 1-2. 検討会とは

検討会は、2019年以降導入され、BL会議の議論を補完する形で、寮内で慣習化している会議体である。BL会議では文章のみで議論が行われるため、議論に時間がかかり、議論の食い違いや誤解が生まれやすい。こうしたBL会議の性質を踏まえ、提起者出席のもと関心のある意見者を集め、対面の議論の場を提供するのが検討会の役割である。現状、検討会は、BL会議のみでは寮の一致が困難と思われる議案や、寮生大会での議論の紛糾が予想されるような議案について開催されている。

## 2. 恒常業務

資料委員会の構成員により、以下の業務を行う。

- ・ブロック会議資料のチェック、編集、印刷
- ・ブロック会議議事録の校正、保存
- ・自治会業務に用いるための印刷用紙やインクの補充、並びに印刷機(オルフィス)の管理
- ・ブロック会議資料システム関連のバグやトラブルがあったときの情報部への対応の依頼
- ・資料委員会が補充、管理する物品を自治会用途以外で使用しない旨の注意喚起
- ・ブロック会議の議案投稿についての注意喚起
- ・検討会の日程周知、ポテッカー作り
- ・寮生大会前のブロック会議に総括方針案が3回以上提起されているかの確認および各部局委員会への呼びかけ

## 3. 議事運営セクション

### 3-1. セクションの仕事内容

・①検討会の運営、②検討会での議論の寮全体への共有、の2つを議事運営セクションの最低限の仕事内容とする。これらの仕事については、意見や意見者に対し中立的な立場を堅持して職務を行う。

- ・①について、議場の承認を受ければ検討会の議事進行も務める

### 3-2. 議事運営方針

以下の点を守りながら議事を進行する

・それぞれの意見や意見者を公平に扱う。これは、意見の内容それ自体や意見者が誰であるかを理由に議事進行上の差別をしないということである。(今までも、限られた検討会の時間の中で論点の優先順位づけなどを行い、議場の納得のもとではあるが発言を遠慮してもらう場面はあった。しかし、これはあくまで優先順位の高そうな論点を先に扱いたいという理由からであり、意見の内容それ自体を理由に差別しているわけではない)

・提起者意見者問わず、より多くの寮生が発言しやすい議場づくりを目指す。恫喝や人格攻撃、嘲笑など、他者の言論を弾圧的に萎縮させるようなハラスメントは容認しない。

### 3-3. 検討会でのお菓子代

総長室突入の是非に関する検討会の後、複数の寮生からコンパなどの方が議論しやすいのではないかという意見をもらった。コンパでの議論のみで寮の一致を作ることは困難であり検

討会の意義はあると考えるが、検討会を少しでも多くの寮生が楽しみながら議論できるものにするため、来期の検討会では、お菓子や飲料の提供を行いたい。そのための予算として5000円を請求する。

#### 4. 予算

下記参照。予算は全て消費税込み。

※1…B4:100,000枚、B5:10,000枚、A3:5,000枚、A4:10,000枚を購入予定。見積もりの根拠は以下の通り。

【B4】 在庫8,000枚。寮祭パンフレットで大幅に枚数を使用し、今後の入寮パンフレットの印刷に備えるため。

【B5】 在庫0枚。B5ビラなどに利用するため。

【A4】 在庫2,500枚未満。要求書提出等に使用するため。

【A3】 在庫0枚。A4四つ折りビラに使用するため。

※2…黒インクは寮祭パンフレットで大幅に使用したため購入予定。

※3…114期に予算超過金額120,000円を印刷機積立金から補填したため、例年の積立金額200,000円に補填分120,000円を上乗せして請求した。

	収入(円)	支出(円)	備考
第114期から繰越	372		
自治会会計より	610,000		
コピー用紙代		134,640	*1
インク代		147,400	*2
印刷費積立金		320,000	*3
検討会運営費		5,000	
雑費		3,332	
合計	610,372	610,372	

(以下、本文の注釈)

※1 資料委員会がなぜ寮内の熟議を支援する組織となるのか。資料委員会はもともと、76期SCが寮生各人の提起によって寮生が主体的に自治に取り組める環境をつくるという方針のもとBL会議を議決機関として定例化させた流れの中で、誕生した(熊野寮50年史下巻P283,284参照)。また、設立当時の資料委員会は、BLの代表者や意見者が提起者と議論を行う「BL会議報告会」(※1-2)の運営を担っていた。設立経緯や当時の業務内容から考えると、資料委員会は、BL会議での個人提起が活発化する中で寮内の熟議を支援する組織だったといえる。しかし、BL会議報告会が2018年6月の寮生大会で休止となり、デジタル化で紙資料の必要性も低減したことで、資料委員会は寮内の熟議を支援する組織としての性格が薄まった。今期は、検討会の運営を資料委員会の仕事とすることで、(過去の資料委員と仕事の内容は異なるものの)熟議を支援する組織としての性格を取り戻したいと考えている。

※1-2 BL会議報告会は、議案提起者全員とBL担当者全員に出席義務を課し、意見者やBL担当者が議案提起者と議論する場を提供するという機能と、BLの意見が議案に反映されているかを各BLが確認できる場を提供するという機能を持っていた。しかし、早くは94期方針でその形骸化が指摘されており、2018年に休止となった(BL会議報告会取りやめについての特別決議案を参照)。BL会議報告会は全ての議案の提起者に出席義務を課しており、過剰に寮生

に負担を強いていた。その結果、寮生のモチベーションがついてこず、形骸化してしまった。これに対し、検討会は、議論の紛糾が予想される議案についてのみ提起者の協力を得ながら開催し、提起者が参加できる日時のもと意見者については任意参加としている。このため、検討会の仕組みはBL会議報告会よりも形骸化しにくい仕組みになっていると考える。

※2議論改善PTは、寮議論に問題関心をもつ寮生が集まっている有志団体である。2019年に発足し、現在も、各々が寮議論に関して持つ問題意識の共有や議論、提起活動を行っている。今まで、検討会の提唱・運営、議事運営セクションの設置、入寮オリテでの寮議論に関する周知、寮生大会での議事進行など、各々の問題関心に合わせて様々な活動を行ってきた。寮議論に関して問題関心がある方は議論改善PTの面々(C305筒井、B402福井、A108横田、図書室西村、B403寺岡など)に声をかけてほしい。

## 居住理由判定委員会

私たち熊野寮生は、それぞれの目的を果たすため、熊野寮に住むことを決め、かつ、許された。そして、寮生それぞれの自由を独断から守り、寮生同士の自由の調和を図り、また、生活環境を向上させるため。自らルールを作り、そのルールに沿って物事を進め、問題が起きたときにはできる限り自ら解決することを選んだ。

居住理由判定制度とは、各寮生の寮に居住する自由が一方的に奪われることを阻むため、ここに居住する権利についてルールを定めたものである。権利の濫用は許されず、本制度は、各寮生の尊重と平等を第一として、解釈及び運用されなければならないものである（制度前文、第1条、第2条及び第3条より）。

第115期居住理由判定委員会は、制度に則り以下の業務を行う予定である。

- ・来年度4月時点で寮に在籍する者のうち、休寮者と2023年度の新入寮生を除いた者の学籍確認書類を収集すること。
- ・在学証明書を提出できない者に対して各棟委員会ないしは全寮委員会を開催し、その者の居住理由を審査すること。

以上

## 自治会会計

### 第114期自治会会計決算

1. 一般会計			
1.1. 収入の部	摘要	114期決算	114期予算

	6月分自治会費※1	¥326,400	¥360,000
	7月分自治会費※1	¥326,700	¥360,000
	8・9月分自治会費※1, ※2	¥279,600	
	8月分自治会費		¥360,000
	9月分自治会費		¥360,000
	10月分自治会費※1	¥444,800	¥360,000
	11月分自治会費※1	¥445,500	¥360,000
	入寮予備金（決算内訳：¥700/人×32人）	¥22,400	¥14,000
	受取利子	¥25	¥30
	シャワー収入	¥480,000	¥700,000
	短期駐車料金	¥7,000	¥10,000
	常任委員会から返還	¥1,162,120	
	選挙管理委員会から返還	¥43	
	駐車場利用者会議から繰入金#1	¥59,715	
	事務繰入金※3	¥1,300	
	合計	¥3,555,603	¥2,884,030
1.2. 支出の部	摘要	114期決算	114期予算
	常任委員会	¥2,245,000	¥2,245,000
	文化部	¥625,000	¥625,000
	炊事部	¥120,000	¥120,000
	厚生部	¥670,000	¥670,000
	庶務部	¥15,000	¥15,000
	人権擁護部※4	¥60,000	¥40,000
	情報部	¥35,000	¥35,000
	入退寮選考委員会	¥40,000	¥40,000
	資料委員会	¥250,000	¥250,000
	選挙管理委員会	¥10,000	¥10,000
	新聞	¥81,600	¥81,600
	常任委員会追加予算（物品購入費（発電機））	¥110,000	
	常任委員会追加予算（物品購入費（棚））	¥70,000	
	常任委員会追加予算（備蓄局設立）※5	¥880,000	
	常任委員会追加予算（Diploma Kyoto協賛金）#2	¥5,000	
	情報部追加予算（消耗品購入費）	¥35,500	
	情報部追加予算（POKKE）	¥24,960	

	追加予算（分子生物学会広告）※6	¥110,440	
	自治会会計損金※7	¥10,000	
	事務損金※3	¥310	
	合計	¥5,397,810	¥4,131,600
1.3 差引残高	摘要	114期決算	114期予算
	差引残高（収入合計-支出合計）	¥-1,842,207	¥-1,247,570
2. 繰越金	摘要	114期決算	114期予算
	累積繰越金	¥9,816,302	¥9,816,302
	差引残高	¥-1,842,207	¥-1,247,570
	合計	¥7,974,095	¥8,568,732
3. 明細			
3.1. 6月分自治会費	摘要	114期決算	114期予算
	6月分自治会費		¥360,000
	3月以前の自治会費（¥700/人×12人）	¥8,400	
	4月以降の自治会費（¥900/人×352人）	¥316,800	
	4月以降先払いの差額調整（¥200/人×6人）※8	¥1,200	
	合計	¥326,400	¥360,000
3.2. 7月分自治会費	摘要	114期決算	114期予算
	7月分自治会費		¥360,000
	自治会費（¥900/人×367人）	¥330,300	
	自治会費払戻し（-¥900/人×4）	¥-3,600	
	合計	¥326,700	¥360,000
3.3. 8・9月分自治会費	摘要	114期決算	114期予算
	8月分自治会費		¥360,000
	9月分自治会費		¥360,000
	自治会費（¥900/人×310人）	¥279,000	
	4月以降の自治会費先払いの差額（¥200/人×3人）※8	¥600	
	合計	¥279,600	¥720,000
3.4. 10月分自治会費	摘要	114期決算	114期予算
	10月分自治会費		¥360,000

	3月以前の自治会費 (¥700/人×10人)	¥7,000	
	4月以降の自治会費 (¥900/人×486人)	¥437,400	
	4月以降先払いの差額調整 (¥200/人×2人)※8	¥400	
	合計	¥444,800	¥360,000
3.5. 11月分自治会費	摘要	114期決算	114期予算
	11月自治会費		¥360,000
	自治会費 (¥900/人×500人)	¥450,000	
	自治会費払戻し (-¥900/人×5)	¥-4,500	
	合計	¥445,500	¥360,000
3.6. 新聞	摘要※10	114期決算	114期予算
	日経新聞	¥29,400	¥29,400
	毎日新聞	¥25,800	¥25,800
	京都新聞	¥26,400	¥26,400
	合計	¥81,600	¥81,600

※1 2022年4月の自治会費増額に伴い、内訳が複雑になったため、3. 明細に別記した。

※2 事務からの8月、9月の自治会費受取を9月にまとめて行った。

※3 113期寮生大会で可決した人権擁護部方針での予算額は¥60,000円であったが、そのことが未反映のまま114期自治会会計予算が可決されてしまったため、予算としては¥40,000となっている。

※4 備蓄局の予算は、局新設の承認が113期寮生大会後になされたため、追加予算とみなした。

※5 分子生物学会は、追加予算請求の際、振込手数料を想定していなかったため、440円超過している。また、カンパ等の精算は115期で行う。詳細は提起者による説明を参照されたい。

※6 自治会会計の出納ミスによるもの。予算を渡す際やレシート精算の際に、1万円多く渡した可能性が高いと考えられる。

※7 2022年3月までに2022年4月以降分の自治会費を先払いしてもらった場合、2022年4月の自治会費増額に伴い、差額分を追加で支払ってもらう必要があった。

※8 繰入金・損金は木村さんの帳簿内にてやりくりするお金である。

## 第115期自治会会計予算

1. 一般会計						
1.1 収入の部						
	摘要	単価		数量	115期予算	113期決算

	自治会費12月分	¥900	×	400	=	¥360,000	¥122,500
	自治会費1月分	¥900	×	400	=	¥360,000	¥296,300
	自治会費2月分	¥900	×	400	=	¥360,000	¥308,300
	自治会費3月分	¥900	×	400	=	¥360,000	¥806,500
	自治会費4月分	¥900	×	400	=	¥360,000	¥421,000
	自治会費5月分	¥900	×	400	=	¥360,000	¥424,200
	入寮予備金	¥700	×	100	=	¥70,000	¥64,400
	繰入金 ※1						¥1,000
	人権擁護部から返金 ※2					¥45,000	
	シャワー収入					¥750,000	¥955,000
	短期駐車料金					¥10,000	¥17,700
	金利					¥25	¥33
	カンパ						¥6,261
	合計					¥3,035,025	¥3,423,194
1.2 支出の部							
	摘要					115期予算	113期決算
	常任委員会					¥2,334,000	¥1,068,800
	文化部					¥600,000	¥396,000
	炊事部					¥180,000	¥150,000
	人権擁護部※2					¥0	¥145,000
	庶務部					¥61,000	¥26,000
	厚生部					¥640,000	¥775,000
	情報部					¥108,000	¥110,000
	入退寮選考委員会※3					¥0	¥59,000
	選挙管理委員会					¥13,000	¥20,083
	資料委員会					¥610,000	¥54,000
	追加予算（資料委員会/ 紙代）						¥76,153
	追加予算（常任委員会/ 寮外交流費）						¥150,000
	追加予算（常任委員会/ 新歓補助金）						¥18,000
	追加予算（常任委員会/ 物品購入費）						¥80,000
	追加予算（文化部/持ち 込み企画）						¥100,000
	追加予算（庶務部/荷物 アプリ）						¥106,965



	新聞					¥81,600	¥81,600
	合計					¥4,627,600	¥3,416,601
1.3 差引残高	摘要					115期予算	113期決算
	収入合計					¥3,035,025	¥3,423,194
	支出合計					¥4,627,600	¥3,416,601
	差引残高（収入合計-支出合計）					¥-1,592,575	¥6,593
2. 繰越金	摘要					115期予算	113期決算
	累積繰越金					¥7,974,095	¥9,809,109
	差引残高					¥-1,592,575	¥6,593
	合計					¥6,381,520	¥9,815,702
3. 明細							
3.1. 新聞	摘要 ※4					115期予算	113期決算
	日経新聞					¥29,400	¥29,400
	毎日新聞					¥25,800	¥25,800
	京都新聞					¥26,400	¥26,400
	合計					¥81,600	¥81,600

※1 繰入金の1,000円は自治会費の木村さんの帳簿内にてやりくりするお金である。

※2 人権擁護部は多額の繰越金があるため、その一部を自治会会計に返還し、自治会会計に予算請求をしない。

※3 入退寮選考委員会は多額の繰越金があるため、自治会会計に予算請求をしない。

※4 朝日新聞、読売新聞は大学支給。

## 特別決議案

自治会憲章の改正（寮生大会9、常任委員会19、特別委員会26）

※代議員会にあたって加筆。変更の意図はそれぞれ、3名以上の議長団を合法にする、常任委員に情報部長を加える、特別委員会に居住理由判定委員会を加える、です。

### 【要旨】

自治会憲章の文言のうち、明らかに現状に即していないものについて、現状に合わせる変更を提起したいと考えています。

【変更したい条項】（自治会憲章はこちらから→<https://docs.kumano-ryo.com/docs/download/30>）

### 第三章 組織

#### 寮生大会

#### 第九項

「議長団は議長・副議長の二名から成り、寮生大会中に有志が立候補する。」

#### 常任委員

#### 第十九項

「常任委員は次の役職の者を指す。また定員は無制限である。

一、委員長 一、副委員長 一、会計 一、文化部長 一、炊事部長 一、人権擁護部長 一、庶務部長 一、厚生部長

上記以外の常任委員は、寮生の有志が立候補し、次の期の選出が決まった上記の常任委員の合意を得て、さらに寮生大会での承認を受けなければならない。なお、次の期の常任委員の承認は特に異議がなければ寮生大会会場での参加者の多数の拍手によって行われる。」

#### 特別委員会

#### 第二十六項

「特別委員会は監察委員会・入退寮選考委員会・選挙管理委員会・資料委員会の四つから成る。全寮生は最低一つの特別委員会に所属し、その任務を行わなければならない。また、各ブロックはどの特別委員会にも仕事に支障をきたさない人員を振り分けなければならない。」

### 【変更後の文言の提案と、その理由】

### 第三章 組織

#### 寮生大会

#### 第九項

変更前：「議長団は議長・副議長の二名から成り」

9/20変更案：「議長団は議長・副議長の二名を含む数名から成り」

10/5変更案：「議長団は議長と副議長数名から成り」

10/20変更案：「議長団は議長と副議長若干名から成り」

理由：現状の寮生大会においては議長団が議長・副議長の二名であることは少なく、副議長を数名置いていることが通例であり、二人目以降の副議長の立場を正式なものとして位置付ける必要があると考えたため。なお、この問題意識は2022年7月5日のブロック会議に提出された議案「第113期寮生大会総括（議長団）」においても言及されていた。※10/20追記：

「数名」とすると「2人以上でなければならない」ため「1人」の場合も含む表現である「若干名」に変更した。

#### 常任委員

#### 第十九項

変更前：「一、委員長 一、副委員長 一、会計 一、文化部長 一、炊事部長 一、人権擁護部長 一、庶務部長 一、厚生部長」

変更案：「一、委員長 一、副委員長 一、会計 一、文化部長 一、炊事部長 一、人権擁護部長 一、庶務部長 一、厚生部長 一、情報部長」

理由：情報部長の記載が何故か無いため。なお、自治会憲章の専門部に関する項、第十三項には情報部に関する記述がきちんとされている。

#### 特別委員会

##### 第二十六項

変更前：「特別委員会は監察委員会・入退寮選考委員会・選挙管理委員会・資料委員会の四つから成る。」

変更案：「特別委員会は監察委員会・入退寮選考委員会・選挙管理委員会・資料委員会・居住理由判定委員会の五つから成る。」

理由：居理判が含まれていないため。なお、監察委員会は第二十九項と第三十項、というように特別委員会にはそれぞれの委員会を定義する条文が存在するが、居住理由判定委員会に関する条文は現在のところ存在しない。しかし、まずは特別委員会第二十六項の改正のみを、この特別決議案では提起することとする。

## 自治会憲章の改正（「居住理由判定委員会」の追加）

### 【要旨】

現行の自治会憲章には、居住理由判定委員会についての記述がありません。現在の寮内において確固とした制度として存在する居住理由判定委員会に関する記述を自治会憲章に組み込むことが目的です。

【追加したい条項】（自治会憲章はこちらから→<https://docs.kumano-ryo.com/docs/download/30>）

### 第三章 組織

第三十六項と第三十七項の間に、「居住理由判定委員会」の項を追加し、以下の2つの条文を記載する。その際、現在の第三十七項から第五十四項までの条文は、第三十九項から第五十六項に番号を振り直す。

第三十七項：居住理由判定委員会は、寮生から在学証明書等を受領・集計し、学籍を失った寮生について、別に定める「居住理由判定制度」に基づき寮籍を失うか否かを判定し、寮籍を失った者に対する手続きを行う。

第三十八項：その他、細則については「居住理由判定制度」による。

## 自治会憲章の改正（寮生の権利及び義務4、代議員会38・40、ブロック会議43、仕事1）

※代議員会にあたって加筆。変更の意図はそれぞれ、食器洗い当番→炊事当番に変えるものが2つ、ブロックの表記をアラビア数字に変えるものが2つ、寮生大会前日以外に開かれる代議員会を合法にする、です。

### 【要旨】

自治会憲章の文言について、明らかに現状に即していないものを、現状に合わせる変更を提起したいと考えています。

【変更したい条項】（自治会憲章はこちらから→<https://docs.kumano-ryo.com/docs/download/30>）

## 第二章 寮生の権利及び義務

### 第四項

寮生は寮生大会や寮生集会、ブロック会議への参加、また専門部や特別委員会の活動、さらに食器洗い当番や事務室当番の仕事を行うといった義務を有する。

## 第三章 組織

### 代議員会

#### 第三十八項

代議員会は各ブロックの代議員によって構成される。各ブロックの代議員の数は、AI・AII・AIII・AIV・BIII・BIV・CI・CII・CIII・CIV各四名、BI・BII六名とする。また、その期の常任委員・次の期の常任委員に立候補している者・特別委員会の委員長や事務局長は代議員になることは出来ない。

#### 第四十項

代議員会は寮生大会前日に行う。

### ブロック会議

#### 第四十三項

ブロックとはAI・AII・AIII・AIV・BI・BII・BIII・BIV・CI・CII・CIII・CIVそれぞれの住人で構成される単位であり、ブロック会議は各ブロックにおいて全寮共通の議題や、ブロック内での議題を議論する会議である。

## 第四章 仕事

### 第一項

寮運営に必要な仕事として第三章までに定めた仕事とは別に、食器洗い当番と事務室当番がある。この詳しい仕事内容については、それぞれ炊事部及び庶務部が定める。

## 【変更後の文言の提案と、その理由】

## 第二章 寮生の権利及び義務

### 第四項

変更前：「食器洗い当番」

変更案：「炊事当番」

理由：食器洗い当番よりも炊事当番という呼称の方が、現在寮内において一般的であるため。

## 第三章 組織

### 代議員会

#### 第三十八項

変更前：「AI・AII・AIII・AIV・BIII・BIV・CIII・CIIII各四名、BIII六名」

変更案：「A1・A2・A3・A4・B3・B4・C12・C34各四名、B12六名」

理由：BIII（B12）とBIII（B3）を読み分けられない。また、寮内においても通常ブロックのナンバーはギリシャ数字ではなく、アラビア数字が使用されているため。

#### 第四十項

変更前：「代議員会は寮生大会前日に行う。」

10/5変更案：「代議員会は寮生大会開催日の数日前に行う。」

10/20変更案：「代議員会は寮生大会開催日の数日前から前日までに行う。」

11/5変更案：「代議員会は寮生大会前最後のブロック会議以降、寮生大会開催日の前日までに行う。」

理由：2022年6月の代議員会は2日前、2021年12月の代議員会は3日前、2021年6月の代議員会は3日前…に行われている。「数日前」とすると「2日以上前」を意味し「前日」に行うことができないため、10/20変更案に変更した。10/20ブロック会議での指摘を受けて、11/5変更案に変更した。

#### ブロック会議

##### 第四十三項

変更前：「AI・AII・AIII・AIV・BI II・BIII・BIV・CI II・CIII IV」

変更案：「A1・A2・A3・A4・B12・B3・B4・C12・C34」

理由：BIII（B12）とBIII（B3）を読み分けられない。また、寮内においても通常ブロックのナンバーはギリシャ数字ではなく、アラビア数字が使用されているため。

#### 第四章 仕事

##### 第一項

変更前：「食器洗い当番」

変更案：「炊事当番」

理由：食器洗い当番よりも炊事当番という呼称の方が、現在寮内において一般的であるため。

#### 【参照】

熊野システム：<https://docs.kumano-ryo.com/docs/download/30>